


Arcserve® アプライアンス ユーザガイド

バージョン 9.0

arcserve®

Arcserve® アプライアンス オンライン ヘルプ

バージョン 9.0

コンテンツのリストが左側のペインに表示されます。すべてのトピックを表示するには、上部の  TOC アイコンをクリックします。

arcserve®

リーガル ノーティス

組み込みのヘルプシステムおよび電子的に配布される資料も含めたこのドキュメント(以下「本書」)はお客様への情報提供のみを目的としたもので、Arcserve により随時、変更または撤回されることがあります。このドキュメントは、Arcserve の専有情報であり、Arcserve の事前の書面による承諾なしに、全部または一部をコピー、譲渡、複製、開示、変更、複写することを禁止します。

本ドキュメントで言及されているソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし、Arcserve のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本書を印刷するかまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザは Arcserve に本書の全部または一部を複製したコピーを Arcserve に返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、ARCserve は本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本システムの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等、いかなる損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、ARCserve はお客様または第三者に対し責任を負いません。ARCserve がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、当該ライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は Arcserve です。

「制限された権利」のもとでの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Section 12.212、52.227-14、52.227-19(c)(1) - (2)、DFARS Section 252.227-7014(b)(3)、またはこれらの後継の条項で規定されている該当する制限に従うものとします。

© 2023 Arcserve (その関連会社および子会社を含む) All rights reserved. サードパーティの商標または著作権は各所有者に帰属します。

Arcserve サポートへのお問い合わせ

Arcserve サポート

[テクニカルサポートへのお問い合わせ](#)

Arcserve サポートをご利用いただくと次のことができます。

- Arcserve サポートの専門家が社内で共有しているのと同じ情報ライブラリに直接アクセスできます。このサイトから、弊社のナレッジベース(KB)ドキュメントにアクセスできます。ここから、重要な問題やよくあるトラブルについて、製品関連 KB 技術情報を簡単に検索し、検証済みのソリューションを見つけることができます。
- ライブチャットリンクを使用して、Arcserve サポートチームと瞬時にリアルタイムで会話を始めることができます。ライブチャットでは、製品にアクセスしたまま、懸念事項や質問に対する回答を即座に得ることができます。
- Arcserve グローバルユーザコミュニティでは、質疑応答、ヒントの共有、ベストプラクティスに関する議論、他のユーザとの対話に参加できます。
- サポートチケットを開くことができます。オンラインでサポートチケットを開くと、質問の対象製品を専門とする担当者から直接、コールバックを受けられます。
- また、使用している Arcserve 製品に適したその他の有用なリソースにアクセスできます。

Arcserve アプライアンスの返品ポリシー

有効な RMA (返品認定) 番号は、製品を Arcserve に返却するために必要です。RMA 番号を取得するには、Arcserve テクニカルサポート部門にお問い合わせください。お客様の担当者の連絡先情報については、arcserve.com/support を参照してください。サポート チームから RMA データの送信先が通知される場合があります。

返品には、10% の返品手数料がかかります。以下は例外となります。1) 注文が間違っ て履行された場合、Arcserve は RMA を受け入れ、全額を返金します。2) 欠陥のあるアイテムが 30 日以内に返品された場合、Arcserve は RMA を受け入れ、全額を返金します。3) ハードウェアに技術的な問題がある場合、解決のための適切な期間を経過した後もサポートによって解決できなければ、Arcserve は RMA を受け入れ、同等の価値のあるハードウェアの交換を提供します。

RMA リクエストに必要な情報:

- 製品のシリアル番号(アプライアンスの背面に記載があります)
- Arcserve 注文番号
- パートナーの連絡先名
- パートナーの電話番号
- パートナーの電子メールアドレス
- お客様の連絡先名(可能な場合)
- 電話番号(可能な場合)
- 電子メールアドレス(可能な場合)
- 問題の説明とすでに実行されたトラブルシューティングの説明。
- 要求された配送サービスおよび出荷先住所。

RMA 番号は、パッケージの外側に明確に記されている必要があります。すべての RMA は、適切な梱包で出荷される必要があります。すべての RMA は、荷物のトラックングおよび保証を提供する信頼できる運送業者を使用して出荷する必要があります。出荷時の破損または RMA の損失はお客様の責任になります。

コンテンツ

第1章: Arcserve アプライアンス のドキュメントについて	1
言語サポート	2
製品ドキュメント	3
第2章: Arcserve アプライアンス の紹介	5
概要	6
Arcserve Unified Data Protection	7
Arcserve Unified Data Protection Agent for Linux	8
Arcserve Backup	9
Arcserve Continuous Availability	10
安全に関する注意事項	11
同梱されている内容	12
アプライアンス 8000 シリーズのボックスに同梱されている内容	13
アプライアンス 9000 シリーズのボックスに同梱されている内容	14
アプライアンス X シリーズのボックスに同梱されている内容	15
箱に含まれていない項目	17
利用可能なモデル	18
モデル 7100 - 7300v	19
モデル 7400 - 7600v	21
モデル 8100-8400	23
モデル 9012 - 9504DR	24
モデル X シリーズ	26
コントロールおよびインジケータ	28
前面パネル 7100-7300v	29
前面パネル 7400-7600v	32
前面パネル 8100-8200	34
前面パネル 8300-8400	37
前面パネル 9012-9048	39
前面パネル 9072DR - 9504DR	40
前面パネル X シリーズ	41
背面パネル 7100-7300v	42
背面パネル 7400-7600v	44
背面パネル 8100-8200	46
背面パネル 8300-8400	48

背面パネル 9012-9048	49
背面パネル 9072DR-9504DR	51
背面パネル X シリーズ	52
アプライアンスが使用するポート	53
Arcserve UDP	54
Microsoft Windows にインストールされるコンポーネント	55
Linux にインストールされているコンポーネント	61
リモートで UDP Linux により保護されているノード	62
Arcserve Backup	63
Linux 用アプライアンスのサポート	64
第3章: Arcserve アプライアンスのインストール	65
Arcserve Backup 19.0 をインストールする方法	66
8100-8200 シリーズ アプライアンスの設置方法	74
8300-8400 シリーズ アプライアンスの設置方法	75
9012-9048 シリーズ アプライアンスの設置方法	75
9072-9504DR シリーズ アプライアンスの設置方法	75
X シリーズ アプライアンスの設置方法	75
第4章: アプライアンス上の Arcserve UDP のアップグレード	76
Arcserve ソフトウェアのアップグレード後にライセンスを適用する方法	77
Arcserve アプライアンスでのアップグレード シーケンス	78
Arcserve アプライアンスを Arcserve UDP コンソールおよび RPS として使用した場合の アップグレード	79
Arcserve アプライアンスを Arcserve UDP RPS として使用した場合のアップグレード	80
複数の Arcserve アプライアンスが環境で使用されている場合のアップグレード手順	81
Arcserve アプライアンス上の Arcserve UDP Linux エージェントのアップグレード	82
Arcserve アプライアンスに搭載された Arcserve Backup のアップグレード	83
UDP コンソール、RPS、エージェントのアップグレード シーケンス	84
第5章: Arcserve アプライアンスの設定	85
Arcserve アプライアンス向けのネットワーク設定を構成する方法	86
Arcserve アプライアンスを設定する方法	90
Arcserve アプライアンスをゲートウェイとして設定する方法	99
第6章: Arcserve アプライアンスでの操作	100
アプライアンス上の Arcserve 製品のアクティブ化	101
Arcserve アプライアンスウィザードを使用したプランの作成	102
プランへのノードの追加	103
ホスト名/IP アドレスによるノードの追加	104
Active Directory によるノードの追加	106

vCenter/ESX ノードの追加	108
Hyper-V ノードの追加	111
Linux ノード用のバックアッププランの作成	113
テープ デバイスへのバックアッププランの作成	114
アプライアンス上 仮想スタンバイプランの作成	115
Linux バックアップ サーバのバックアッププランの作成	116
ローカル アプライアンス Hyper-V に対して Linux インスタント VM ジョブを実行する ための設定	120
ConsoleMigration.exe を使用した Arcserve UDP コンソールの移行	121
Arcserve アプライアンス間の移行	123
解決策 1	124
解決策 2	129
プレインストールされた Linux バックアップ サーバの入カソースの変更	132
第7章: アプライアンス サーバのリモート モニタリング	136
IPMI での作業	137
IPMI パスワードを変更する方法	138
IPMI ファームウェアをアップグレードする方法	141
iDRAC (Integrated Dell Remote Access Controller) での操作	142
iDRAC (Integrated Dell Remote Access Controller) のモニタと管理	143
iDRAC (Integrated Dell Remote Access Controller 9000 シリーズ) の IP アドレスの検出	145
iDRAC (Integrated Dell Remote Access Controller、X シリーズ) の IP アドレスの検出	147
iDRAC の DHCP または静的 IP アドレスの設定	149
第8章: Arcserve アプライアンス のリストアまたは修復	156
ファクトリリセットのデバッグ	157
7000-8000 シリーズ アプライアンスのブート オプションを使用した Arcserve UDP ファ クトリリセットの適用	159
9012 - 9504 DR シリーズ アプライアンスのブート オプションを使用した Arcserve UDP ファクトリリセットの適用	162
X シリーズ アプライアンスのブート オプションを使用した Arcserve UDP ファクトリリ セットの適用	165
環境設定の消去およびアプライアンスファクトリリセットの適用	168
アプライアンス イメージ設定ユーティリティを使用したファクトリリセット イメージの置 換	171
ハードドライブの取り外しおよび交換	174
データを保持しないベアメタル復旧 (BMR) の実行	176
ベアメタル復旧 (BMR) とデータ保存の実行	191
第9章: アプライアンスの容量拡張	199
Arcserve アプライアンス拡張キットの操作 - X シリーズ モデル	199

Arcserve X シリーズ アプライアンスの SSD フラッシュ拡張キットの操作	204
Arcserve アプライアンス 9072-9504DR モデルの拡張キットでの操作	213
Arcserve アプライアンス 9072-9504 DR モデルの SSD フラッシュ拡張キットの操作	218
アプライアンス サーバ(8000) へのアプライアンス拡張シェルフの接続	224
すべての利用可能なモデルのためのアプライアンス インフィールド 拡張	225
同梱されている内容	234
アプライアンス サーバへのアプライアンス拡張シェルフの接続方法	237
Arcserve UDP データストアの変更方法	245
Arcserve UDP データストアへの拡張シェルフ データパスの追加	246
新しい SSD へのハッシュ デスティネーションの移行	247
Arcserve UDP コンソールでのデータストアの全体容量の確認	248
Arcserve UDP コンソールからのすべてのプランの再開	249
第 10 章: ネットワーク設定の操作	251
ネットワーク設定の詳細	252
DHCP サーバを無効化する方法	257
プリインストールされた Linux バックアップ サーバの IP アドレスを設定する方法	258
負荷分散のために DNS サーバ上でラウンド ロビンを有効にする方法	260
アプライアンスのネットワークステータスを確認する方法	261
第 11 章: 安全に関する注意事項についての理解	262
一般的な安全に関する注意事項	263
電気に関する安全のための注意事項	265
FCC コンプライアンス	266
静電気放電(ESD) に関する注意事項	267
第 12 章: Arcserve アプライアンス 9000 シリーズ上の Sophos のアクティブ化	268
方法 1: 電子メールを使用した Arcserve アプライアンス上の Sophos のアクティブ化	269
方法 2: スクリプトを使用した Arcserve アプライアンス上の Sophos のアクティブ化	270
Arcserve UDP 用 Sophos Intercept X Advanced for Server を手動でインストールする	272
第 12 章: Arcserve アプライアンス X シリーズ上の Sophos のアクティブ化	277
Arcserve UDP 用 Sophos Intercept X Advanced for Server を手動でインストールする	277
第 12 章: Arcserve アプライアンス 9000 シリーズのファームウェアのアップグレード	282
Arcserve アプライアンス 9000 シリーズの BIOS ファームウェアのアップグレード	282
BIOS ファームウェア バージョンの表示	282
方法 1: iDRAC Web インターフェースから BIOS ファームウェアのバージョンを表示する	282

方法 2: BIOS Arcserve Appliance 9000 シリーズから BIOS ファームウェア バージョンを表示する	283
BIOS の更新されたパッケージのダウンロード	284
BIOS のアップグレード	284
更新された BIOS の確認	285
システム ログを使用して更新された BIOS を確認する	285
iDRAC Web インターフェースまたは BIOS から更新された BIOS を確認する	286
Arcserve アプライアンス 9000 シリーズの iDRAC ファームウェアのアップグレード	286
iDRAC ファームウェア バージョンの表示	286
iDRAC Web インターフェースから iDRAC ファームウェアのバージョンを表示する	287
方法 2: BIOS Arcserve Appliance 9000 シリーズから iDRAC ファームウェア バージョンを表示する	288
iDRAC の更新されたパッケージのダウンロード	289
iDRAC のアップグレード	289
更新された iDRAC の確認	290
システム ログを使用して更新された iDRAC を確認する	290
iDRAC Web インターフェースまたは iDRAC から更新された BIOS を確認する	291
Arcserve アプライアンス X シリーズのファームウェアのアップグレード	292
Arcserve アプライアンス X シリーズの BIOS ファームウェアのアップグレード	292
BIOS ファームウェア バージョンの表示	292
方法 1: iDRAC Web インターフェースから BIOS ファームウェアのバージョンを表示する	292
方法 2: BIOS Arcserve アプライアンス X シリーズから BIOS ファームウェア バージョンを表示する	293
BIOS の更新されたパッケージのダウンロード	294
BIOS のアップグレード	294
更新された BIOS の確認	295
Arcserve アプライアンス X シリーズの iDRAC ファームウェアのアップグレード	295
iDRAC ファームウェア バージョンの表示	296
方法 1: iDRAC Web インターフェースから iDRAC ファームウェアのバージョンを表示する	296
方法 2: BIOS Arcserve アプライアンス X シリーズから iDRAC ファームウェア バージョンを表示する	297
iDRAC の更新されたパッケージのダウンロード	298
iDRAC のアップグレード	298
更新された iDRAC の確認	299
第 13 章: トラブルシューティング	300
Linux バックアップ サーバにコンソールから接続できない	301
別のアプライアンスから Arcserve アプライアンス のバックアップを実行すると重複ノードがレポートされる	302
Linux バックアップ サーバがネットワーク内のノードと通信できない	303

Linux バックアップ サーバがネットワーク DNS サフィックスを取得できない	305
アプライアンスのデフォルトのタイムゾーン	306
ライセンスが利用可能な場合でもライセンスエラーが発生する	307
リモート管理対象のRPS タスクでレプリケートのリモート コンソールを追加中、Arcserve UDP コンソールにエラーが表示される	308
別のアプライアンスをモニタとして使用するとVSB タスクを実行できない	310
第 14章: ベスト プラクティスの適用	312
ネットワーク構成に関する推奨事項	313
PowerShell コマンドレットによる Windows Defender のベストプラクティス	316
プリインストールされた Linux バックアップ サーバを外部ネットワークに設定する	316
Sophos によって保護されている場合にファクトリリセット イメージを置き換えるためのベスト プラクティス	317
ボリュームをまたぐデデュプリケーション データストアを作成するためのベスト プラクティス	326
第 15章: 使用条件	328
PuTTY	329

第1章: Arcserve アプライアンス のドキュメントについて

Arcserve アプライアンス ユーザ ガイド は、Arcserve アプライアンス を使用する方
法の理解に役立ちます。Arcserve アプライアンス の特長については、「概要」を参照
してください。残りのセクションでは、Arcserve アプライアンス のインストールと使用方
法について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

言語サポート	2
製品ドキュメント	3

言語サポート

翻訳済み製品 (ローカライズ済み製品とも言います) とは、製品のユーザインターフェース、オンラインヘルプ、その他のドキュメントのローカル言語サポートに加えて、日付、時刻、通貨、数値に関してローカル言語でのデフォルトの書式設定をサポートする国際化製品です。

このリリースは英語版のみです。

製品ドキュメント

Arcserve UDP 関連のすべてのドキュメントを参照するには、このリンクをクリックして [Arcserve のドキュメント](#) にアクセスしてください。

Arcserve UDP ナレッジ センターは、以下のドキュメントで構成されています。

- **Arcserve UDP ソリューションガイド**

一元管理されたコンソール環境で Arcserve UDP ソリューションを使用するための詳細情報が提供されています。このガイドには、ソリューションをインストールおよび設定する方法、データを保護およびリストアする方法、レポートを取得する方法、Arcserve High Availability を管理する方法などの情報が含まれています。手順には、コンソールの使用を中心に、さまざまな保護プランの使用方法が含まれています。

- **Arcserve UDP リリースノート**

Arcserve Unified Data Protection の主な機能、システム要件、既知の問題、ドキュメントの問題、制限事項などの概要が説明されています。

- **Arcserve UDP Agent for Windows ユーザガイド**

Windows オペレーティングシステムで Arcserve UDP Agent を使用するための詳細情報が提供されています。このガイドには、エージェントをインストールおよび設定する方法、Windows ノードを保護およびリストアする方法などの情報が含まれています。

- **Arcserve UDP Agent for Linux ユーザガイド**

Linux オペレーティングシステムで Arcserve UDP Agent を使用するための詳細情報が提供されています。このガイドには、エージェントをインストールおよび設定する方法、Linux ノードを保護およびリストアする方法などの情報が含まれています。

第2章: Arcserve アプライアンスの紹介

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

概要	6
安全に関する注意事項	11
同梱されている内容	12
箱に含まれていない項目	17
利用可能なモデル	18
コントロールおよびインジケータ	28
アプライアンスが使用するポート	53

概要

Arcserve アプライアンスは、アシュアード リカバリ™ を初めて搭載した、完成され最もコスト効率の良い保護アプライアンスです。各 Arcserve アプライアンスは、自己完結型の「set and forget (設定後は作業不要)」のバックアップ/復旧ソリューションです。クラウド ネイティブ機能によって構築されており、その極めて容易な導入とユーザビリティが、一連の幅広い機能(ソースベースのグローバルデデュープリケーション、マルチサイトレプリケーション、テープのサポート、自動化されたデータ復旧機能などの)と組み合わせられています。Arcserve アプライアンスは、運用において優れた敏捷性と効率性を実現し、障害復旧作業を大幅に簡略化します。

Arcserve アプライアンスは、最新のハードウェアにプリインストールされている主要な Arcserve Unified Data Protection ソフトウェアと完全に統合されています。アプライアンスは、すべてのユーザに対して、完全な統合データ保護ソリューションを提供し、現在の需要を満たすだけでなく、絶え間なく変化するバックアップ、アーカイブ、惨事復旧(DR)の今後の要件にも対応できます。

Arcserve アプライアンスにプリインストールされたソフトウェアは、以下のとおりです。

- Arcserve UDP
- Arcserve Unified Data Protection Agent for Linux
- Arcserve Backup

Arcserve アプライアンスにはハードウェア保証が規程されています。アプライアンスの保証の詳細については、[\[アプライアンスの保証\]](#)を参照してください。

Arcserve Unified Data Protection

Arcserve UDP ソフトウェアは、複雑な IT 環境を保護する包括的なソリューションです。このソリューションは、Windows、Linux、VMware ESX Server、Microsoft Hyper-V Server など、さまざまな種類のノードに存在するデータを保護します。ローカル マシンまたは復旧ポイント サーバのいずれかへデータをバックアップできます。復旧ポイント サーバは複数のソースからのバックアップが保存される中央サーバです。

サポートされているオペレーティング システムの詳細については、「[互換性マトリクス](#)」を参照してください。

Arcserve UDP には、以下の機能が用意されています。

- 復旧ポイント サーバ上のデデュプリケーション/非 デデュプリケーション データストアにデータをバックアップ
- Arcserve Backup (アプライアンスに含まれています) との統合を使用して、復旧ポイントをテープにバックアップ
- バックアップ データから仮想スタンバイ マシンを作成
- バックアップ データを復旧ポイント サーバおよびリモート復旧ポイント サーバにレプリケート
- バックアップ データをリストアし、ベア メタル復旧 (BMR) を実行
- 選択したデータ バックアップ ファイルをセカンダリバックアップ先へコピー
- 環境内の重要なサーバに対して Arcserve Full System High Availability (HA) を設定および管理

Arcserve UDP は、あるサーバから別の復旧ポイント サーバに復旧ポイントとして保存されるバックアップ データをレプリケートします。バックアップ データから、ソース ノードで不具合が発生したときにスタンバイ マシンとして機能できる仮想マシンを作成することもできます。スタンバイ仮想マシンを作成するには、復旧ポイントを VMware ESX または Microsoft Hyper-V 仮想マシン形式に変換します。

Arcserve UDP ソリューションは、Arcserve High Availability との統合を提供します。Arcserve High Availability でシナリオを作成した後、これらのシナリオを管理およびモニタし、デスティネーション マシンの追加 や削除のような操作を実行できます。

詳細については、「[Arcserve UDP ソリューション ガイド](#)」を参照してください。

Arcserve Unified Data Protection Agent for Linux

Arcserve Unified Data Protection Agent for Linux は、Linux オペレーティングシステム用に設計されたディスクベースのバックアップ製品です。重要なビジネス情報を保護および回復するための迅速でシンプル、信頼性の高い方法を提供します。Arcserve Unified Data Protection Agent for Linux は、ノードの変更をブロックレベルで追跡し、増分プロセスで変更されたブロックのみをバックアップします。その結果、バックアップを頻繁に実行できるため、各増分バックアップのサイズ(およびバックアップウィンドウ)が小さくなり、より多くの最新のバックアップが提供されます。Arcserve Unified Data Protection Agent for Linux には、単一のバックアップからファイルまたはフォルダをリストアし、ベアメタル復旧 (BMR) を実行する機能もあります。バックアップ情報は、バックアップソースノードで、NFS (Network File System) 共有または CIFS (Common Internet File System) 共有に保存できます。

Arcserve Unified Data Protection Agent for Linux の最新のバージョンは、アプライアンス内の仮想マシンにプリインストールされます。この仮想マシンが Linux バックアップサーバになります。Arcserve Unified Data Protection Agent for Linux は、Arcserve アプライアンスのデフォルトのインストールパスにインストールされます。

コンソールを開くと、Linux バックアップサーバはすでにコンソールに追加されています。Linux バックアップサーバのネイティブホスト名は *Linux-BackupSvr* です。ただし、コンソールでは、Linux バックアップサーバでは、ポート 8018 環境設定を使用してアプライアンスのホスト名を適用します。Linux バックアップサーバは、ポートの方向制御を通じて NAT の背後で動作します。Linux バックアップサーバでは、ポート 8018 を使用して通信を行い、Arcserve アプライアンス内のデータを転送します。

注：バックアッププランの作成および Linux マシンのリストアに関する詳細については、「[Arcserve UDP Agent for Linux ユーザガイド](#)」を参照してください。

Linux バックアップサーバでは、以下のデフォルトのログイン情報が使用されます。

- ユーザ名 - root
- パスワード - Arcserve

注：デフォルトのパスワードは変更することをお勧めします。

Arcserve Backup

Arcserve Backup は、多種多様な環境のビジネスニーズに対応する高性能なデータ保護ソリューションです。本製品は、柔軟なバックアップとリストア、容易な管理、幅広いデバイス互換性、そして信頼性を提供します。また、ストレージ要件に応じてデータ保護戦略をカスタマイズできるため、データストレージの機能を最大限に活用できます。さらに、柔軟なユーザインターフェースにより詳細な設定が可能で、あらゆるユーザがその技術的知識のレベルにかかわらず、さまざまなエージェント機能や各種オプションを展開して保守できます。

Arcserve Backup には分散環境向けの包括的なデータ保護機能があり、ウイルスフリーのバックアップおよびリストア操作を実現します。多種多様なオプションとエージェントにより、企業全体でのデータ保護機能が強化され、さまざまな拡張機能（オンラインホットバックアップや、アプリケーションおよびデータファイルのリストア、拡張デバイスおよびメディアの管理、惨事復旧など）が使用可能になります。

Arcserve アプライアンスに搭載されている Arcserve Backup との統合機能を使用すると、テープへのバックアップを実行できます。InstallASBU.iso ファイルを使用してマウントおよびインストールした後、Arcserve Backup はコンピュータの「C:\Program Files (x86)\Arcserve」の場所にインストールされます。Arcserve アプライアンスにインストールされているコンポーネントを使用して、Arcserve UDP のデスティネーションをテープにバックアップできます。サポートされているオペレーティングシステムの詳細については、「[互換性マトリクス](#)」を参照してください。

Arcserve Web サイトから Arcserve Backup のフルインストールパッケージをダウンロードして、他のコンポーネントをインストールできます。詳細については、Arcserve Backup の[ドキュメント](#)を参照してください。

Arcserve Backup サーバでは、以下のデフォルトのログイン情報が使用されます。

- ユーザ名 -- caroot
- パスワード -- Arcserve

Arcserve Continuous Availability

Arcserve Continuous Availability は、非同期リアルタイムレプリケーション、自動化されたスイッチオーバーおよびスイッチバックに基づくソリューションです。Windows サーバ上の仮想環境にコスト効率の高いビジネス継続性を提供します。サポートされているオペレーティングシステムの詳細については、「[互換性マトリクス](#)」を参照してください。

Arcserve Continuous Availability は、データをローカルサーバまたはリモートサーバにレプリケートできるため、サーバのクラッシュやサイトに惨事が発生した場合のデータの回復をサポートします。ハイアベイラビリティのライセンスを所有している場合、ユーザをレプリカサーバに手動または自動で切り替えることができます。

注： Arcserve Continuous Availability は、アプライアンスにプリインストールされていません。Arcserve Continuous Availability をインストールして設定する方法の詳細については、「[インストールガイド](#)」を参照してください

安全に関する注意事項

安全のため、Arcserve アプライアンスに対して開梱、接続、設置、電源投入などの操作を行う場合は、すべての手順を事前に確認し、指示に従ってください。安全に関する注意事項に従わないと、人身傷害、機器の破損、または誤動作などが発生する可能性があります。

安全に関する注意事項の詳細については、「[安全に関する注意事項\(付録\)](#)」を参照してください。

同梱されている内容

ここでは、以下アプライアンスシリーズのボックスに同梱されている内容について説明します。

- [8000 シリーズ](#)
- [9000 シリーズ](#)
- [X シリーズ](#)

アプライアンス 8000 シリーズのボックスに同梱されている内容

ボックスには以下の品目が同梱されています。

- Arcserve アプライアンス (シリアル番号ラベルはアプライアンスの背面にあります)
- 電源ケーブル: 1
- ネットワークケーブル: 1 赤、1 青 (それぞれ 3 フィートの長さ)
- IPMI ポート ケーブル: 1 (7 フィートの長さ)
- レール/ラック マウント キットには、以下の品目が同梱されています。
 - 2 つのクイック インストール外部レール
 - 2 つの内部レール拡張
 - 3 つのレールアダプタ(標準のレール マウントのみ)
 - 必要に応じて、関連するその他ハードウェア
- Arcserve フェースプレート
- Microsoft クライアント アクセス ライセンス

注: アプライアンスに同梱されている内容をチェックして、足りない項目がないかどうか、および破損がないことを確認します。不足品や破損品がある場合は、すべてのパッケージ資材を保持して [Arcserve サポートにご連絡ください](#)。

アプライアンス 9000 シリーズのボックスに同梱されている内容

Arcserve アプライアンス 9000 シリーズのボックスは、9012、9024、9048 用と 9072DR-9504DR 用の 2 種類あります。下記リストには、両方のボックスの内容を記載します。

9012、9024、9048 付属品ボックスに同梱されている品目は、以下のとおりです。

- ベゼル、1U ボックス、CUS 14G ベゼルアセンブリ、LCD、AR、(380-7406)
- ARCSERVE クイック スタート ガイド、ARCSERVE アプライアンス導入シート
- ARCSERVE DELL R440 ハードウェア取り付けガイド
- ケーブル、FLEXBOOT、CAT6、ネットワーク、3 FT 赤
- ケーブル、FLEXBOOT、CAT6、ネットワーク、3 FT 青
- ケーブル、FLEXBOOT、CAT6、ネットワーク、7 FT 黒
- Dell 安全環境規制ブック
- US 電源コード (2x) a

注：アプライアンスに同梱されている内容をチェックして、足りない項目がないかどうか、および破損がないことを確認します。不足品や破損品がある場合は、すべてのパッケージ資材を保持して [Arcserve サポートにご連絡ください](#)。

ラックレールキットが付属する 9072DR-9504DR ボックスに同梱される品目は、以下のとおりです。

- ベゼル、2U ボックス、CUS 14G ベゼルアセンブリ、LCD、AR、(380-7405)
- ARCSERVE クイック スタート ガイド、ARCSERVE アプライアンス導入シート
- ハードウェア インストールガイド ARCSERVE DELL R740
- ケーブル、FLEXBOOT、CAT6、ネットワーク、3 FT 赤
- ケーブル、FLEXBOOT、CAT6、ネットワーク、3 FT 青
- ケーブル、FLEXBOOT、CAT6、ネットワーク、7 FT 黒
- ケーブルアセンブリ、ミニ SAS、外部、SFF-8644 から SFF-8088 1M
- Dell 安全環境規制ブック
- US 電源コード (2x)

アプライアンス X シリーズのボックスに同梱されている内容

Arcserve アプライアンス X シリーズには、以下の項目が含まれます。

■ アプライアンス X シリーズ コンピュート ノード:

- ◆ MICROSOFT
- ◆ WIN SVR EMB STD 2019 16-CORE

コンピューター ノード アクセサリーボックス:

- ◆ Windows 4-Core 拡張ライセンス(数量 10)
- ◆ ハードウェア セットアップ ガイド、ARCSERVE R740
- ◆ Arcserve クイック スタート ガイド、UDP アプライアンス導入シート
- ◆ アセンブリ、ARCSERVE SOPHOS 2U ベゼル(2色のバブルバッジ付き)
- ◆ Dell 安全に関する情報
- ◆ 電源コード(2本)、米国または国別仕様(注文した場合)
- ◆ ラックマウント スライド レールキット
- ◆ ケーブル管理アーム
- ◆ オプションのコンポーネント(注文した場合):
 - SFP
 - SAS ケーブル
 - DAC ケーブル

注: 以下は、アレイの前面に取り付けられます。Arcserve ME4084 ペイント ベゼルとバブルバッジ アセンブリ。

■ アプライアンス X シリーズ ストレージ ノード

5U ストレージ システム ボックスには、以下のものが同梱されています。

- ◆ マニュアル
- ◆ 5U ストレージ アプライアンス エンクロージャ
- ◆ 電源ケーブル2本
- ◆ 個別パッケージのディスクドライブ(5U エンクロージャのみ)
- ◆ ファイバチャネルまたは iSCSI SFP+ トランシーバまたはケーブル(ホストポートごとに1つ)
- ◆ ホスト ケーブル(コントローラ モジュール ホスト ポートごとに1本)

- ◆ 拡張ケーブル(拡張モジュールごとに1本)
- ◆ オプションのキー付きエンクロージャベゼルセット(5Uエンクロージャごとに1つ)
- ◆ 5Uストレージシステムエンクロージャ用の適切なラックマウントキット

ME4084 アクセサリボックス:

- ◆ ハードウェアセットアップガイド、ARCSERVE ME4084
- ◆ ラックマウントスライドレールセット
- ◆ C19からC20、PDU形式、2.5M電源コード(2本)
- ◆ シリアルケーブル
- ◆ 12Gb HD-Mini ~ HD-Mini SAS Cable、2M(4本)
- ◆ ストレージアレイ規制情報ドキュメント
- ◆ ストレージアレイのセットアップドキュメント
- ◆ 安全および環境情報ドキュメント
- ◆ ベゼル取り外しレンチ
- ◆ 未使用のドライブ番号ラベル

注: ハードドライブは、アレイの下の別のボックスに入っています。

注: アプライアンスに同梱されている内容をチェックして、足りない項目がないかどうか、および破損がないことを確認します。不足品や破損品がある場合は、すべてのパッケージ資材を保持して [Arcserve サポートにご連絡ください](#)。

箱に含まれていない項目

以下の項目は、箱に含まれておらず、アプライアンスの設置および設定に必要な場合があります。

- モニタ
- キーボード
- 外部ストレージ デバイス(必要な場合)

利用可能なモデル

Arcserve アプライアンス 7000 シリーズ、8000 シリーズ、および 9000 シリーズは、お客様のさまざまなニーズを満たすように設計された多種多様なモデルで提供されています。

- [モデル 7100 - 7300v](#)
- [モデル 7400 - 7600v](#)
- [モデル 8100-8400](#)
- [モデル 9012-9504 DR](#)
- [モデル X シリーズ](#)

モデル 7100 - 7300v

Arcserve アプライアンス モデル 7100 - 7300v

Arcserve アプライアンス 7000 シリーズの仕様					
アプライアンス モデル	7100	7200	7200V	7300	7300V
バックアップストレージ容量					
Raw ストレージ容量*	3 TB	6 TB	6 TB	9 TB	9 TB
使用可能なバックアップ容量**	2.8 TB	5.8 TB	5.8 TB	8.8 TB	8.8 TB
保護されている(ソースデータ) 容量***	最大 8 TB	最大 17 TB	最大 17 TB	最大 26 TB	最大 26 TB
標準機能					
統合管理コンソール、グローバルデデュPLICATION、ブロックレベルの無限増分バックアップ、圧縮、暗号化、WAN最適化レプリケーション、拡張仮想化のサポート、エージェントレスバックアップ、リモート仮想スタンバイ、テープのサポート、アプリケーション整合性のあるバックアップ、詳細リストア、統合レポート、ダッシュボード。					
アプライアンスの仮想スタンバイ	N/A	N/A	最大 3 つの VM	N/A	最大 3 つの VM
保証および技術的仕様					
フルシステム Depot 保証	3 年間				
物理的なサイズ (H x W x D インチ)	1.7" x 17.2" x 25.6" (1U - 19" ラック マウント レールを提供)				
リモート管理およびネットワークインターフェースポート	1 x IPMI & 2 x 1 GbE (RJ45)				

ハードディスクの種類 および RAID 構成	4 x 1 TB SAS (RAID 5)	4 x 2 TB SAS (RAID 5)	4 x 2 TB SAS (RAID 5)	4 x 3 TB SAS (RAID 5)	4 x 3 TB SAS (RAID 5)
外部テープ バックアップ 接続 (SAS、 SATA、 FC)	1 x PASS				
システム RAM 合計	16 GB	16 GB	32 GB	32 GB	48 GB
SSD ドライブ (デデュプリ ケーション ハッシュテー ブル用)	120 GB SSD	120 GB SSD	120 GB SSD	240 GB SSD	240 GB SSD
最大重量 (lbs)	41 lbs				
電源 (単一また は冗長)	1 x 600W				
消費電力 (アイドル/ ロード/ス タートアップ 時のワット)	93/116/143	122/164/143	125/167/145	125/167/145	129/188/152
AC 電圧お よび周波数 範囲	100 - 240v				
アンペア定 格	7.5 アンペア(最大)				
<p>*1 TB = 1,000,000,000,000 バイト</p> <p>** "V"モデルでは、バックアップに使用可能な容量は、仮想スタンバイ VM のサイズの分だけ少なくなります。</p> <p>*** 一般的な 3:1 のデデュプリケーションおよび圧縮率を想定して容量を推定しています。バックアップの実際の容量は、データの種類、バックアップの種類、スケジュールなどに基づいて、大幅に変わる可能性があります。</p>					

モデル 7400 - 7600v

Arcserve アプライアンス モデル 7400 - 7600v

Arcserve アプライアンス 7000 シリーズの仕様						
アプライアンス モデル	7400	7400V	7500	7500V	7600	7600V
バックアップ ストレージ容量						
Raw ストレージ容量 *	16 TB	16 TB	20 TB	20 TB	30 TB	30 TB
使用可能なバックアップ容量 **	15.8 TB	15.8 TB	19.8 TB	19.8 TB	29.8 TB	29.8 TB
保護されている(ソースデータ)容量 ***	最大 46 TB	最大 46 TB	最大 58 TB	最大 58 TB	最大 90 TB	最大 90 TB
標準機能						
統合管理コンソール、グローバルデデュープリケーション、ブロックレベルの無限増分バックアップ、圧縮、暗号化、WAN最適化レプリケーション、拡張仮想化のサポート、エージェントレスバックアップ、リモート仮想スタンバイ、テープのサポート、アプリケーション整合性のあるバックアップ、詳細リストア、統合レポート、ダッシュボード。						
アプライアンスの仮想スタンバイ	N/A	最大 6 つの VM	N/A	最大 9 つの VM	N/A	最大 12 つの VM
保証および技術的仕様						
フルシステム Depot 保証	3 年間					
物理的なサイズ (H x W x D インチ)	3.5" x 17.2" x 25.6" (2U - 19" ラックマウント レールを提供)					
リモート管理およびネットワークインターフェースポート	1 x IPMI & 2 x 1 GbE (RJ45) および 4 x 1GbE (RJ45) 。 2 x 10 Gb (オプション)					

ハードディスクの種類およびRAID構成	10 x 2 TB SAS (RAID 6)	10 x 2 TB SAS (RAID 6)	12 x 2 TB SAS (RAID 6)	12 x 2 TB SAS (RAID 6)	12 x 3 TB SAS (RAID 6)	12 x 3 TB SAS (RAID 6)
外部テープバックアップ接続 (SAS、SATA、FC)	1 x PASS					
システムRAM合計	64 GB	96 GB	64 GB	96 GB	128 GB	192 GB
SSDドライブ (デデュプリケーションハッシュテーブル用)	240 GB SSD	240 GB SSD	480 GB SSD	480 GB SSD	480 GB SSD	480 GB SSD
最大重量 (lbs)	52 lbs					
電源 (単一または冗長)	2 x 920w					
消費電力 (アイドル/ロード/スタートアップ時のワット)	208/257/ 358	208/257/ 358	208/257/ 358	208/257/ 358	240/296/ 369	240/296/ 369
AC電圧および周波数範囲	100 - 240v					
アンペア定格	11 アンペア(最大)					
<p>*1 TB = 1,000,000,000,000 バイト</p> <p>** "V"モデルでは、バックアップに使用可能な容量は、仮想スタンバイVMのサイズのみで少なくなります。</p> <p>*** 一般的な 3:1 のデデュプリケーションおよび圧縮率を想定して容量を推定しています。バックアップの実際の容量は、データの種類、バックアップの種類、スケジュールなどに基づいて、大幅に変わる可能性があります。</p>						

モデル 8100-8400

Arcserve アプライアンス モデル 8100-8400

Arcserve アプライアンス 8000 シリーズの仕様				
アプライアンスモデル	UDP 8100	UDP 8200	UDP 8300	UDP 8400
ソースバックアップ*	12TB-18TB	24TB-36TB	48TB-128TB	96TB-240TB
システムRAM	32 GB	32 GB	64 GB	128 GB
最大RAM**	64GB/96GB/160GB		96GB/128GB/192GB	160GB/192GB/256GB
SSDドライブ	120 GB SSD	200 GB SSD	480 GB SSD	1.2 TB SSD
プロセッサ	E5 2609 V4、8 コア、1.7 GHZ	E5 2620 V4、8 コア、2.1 GHZ	E5 2640 V4、10 コア、2.4 GHZ	E5 2650 V4、12 コア、2.2 GHZ
RAIDカード	9361-4i		9361-8i	
RAID構成	BBU 付き Raid-5		BBU 付き Raid-6	
ドライブベイ	4		12	
ドライブ	3x 2TB SAS 12G 4x 2TB SAS 12G	3x 4TB SAS 12G 4x 4TB SAS 12G	6x 4TB SAS 12G 7x 4TB SAS 12G 8x 4TB SAS 12G 9x 4TB SAS 12G 10x 4TB SAS 12G 11x 4TB SAS 12G 12x 4TB SAS 12G	6x 8TB SAS 12G 7x 8TB SAS 12G 8x 8TB SAS 12G 9x 8TB SAS 12G 10x 8TB SAS 12G 11x 8TB SAS 12G 12x 8TB SAS 12G
DIMM/最大DIMM	4x 8GB DDR4-2400/ 8		4x 16GB DDR4-2400/ 8	4x 32GB DDR4-2400/ 8

カード	LSI SAS9200-8E	
電源	2 x ホット スワップ冗長 500W AC Platinum	2 x 920W ホット スワップ冗長 高効率 AC 電源、Platinum レベル

* 一般的な 3:1 のデデュプリケーションと圧縮率を想定して容量を推定しています。バックアップの実際の容量は、データの種類、バックアップの種類、バックアップスケジュールなどに基づいて、大幅に変わる可能性があります。

** Arcserve アプライアンスには、アプライアンス上で仮想スタンバイ/インスタント VM の復旧をホストするために、追加の RAM があります。VM のメモリ割り当ては、ゲスト OS のワークロードに基づいてサイズ設定する必要があります。Arcserve では、お客様のニーズに基づいて、標準のアプライアンス構成に RAM を追加するオプションも提供します。

モデル 9012 - 9504DR

Arcserve アプライアンス モデル 9012 - 9504DR

Arcserve アプライアンス 9000 シリーズの仕様											
アプライアンスモデル	9012	9024	9048	9072DR	9096DR	9144DR	9192DR	9240DR	9288DR	9360DR	9504DR
使用可能な容量	4 TB	8 TB	16 TB	24 TB	32 TB	48 TB	64 TB	80 TB	96 TB	120 TB	168 TB
ソースバックアップ	12 TB	24 TB	48 TB	72 TB	96 TB	144 TB	192 TB	240 TB	288 TB	360 TB	504 TB
システム RAM	6 x 8 GB (48 GB)			12 x 16 GB (192 GB)							12 x 32 GB (384 GB)
最大 RAM / DIMM	176 GB / 10 DIMMS			576 GB / 24 DIMMS							768 GB / 24 DIMMS
SSD ドライブ	480 GB SSD			2 x 1.9 TB SSD (RAID1)							
プロセッサ	Intel Xeon Silver 4108, 8 - CORE, 1.8 GHz			Intel Xeon Silver 4114, 10 - CORE, 2.2 GHz							
プロセッサ数	1			2							
RAID	PERC H730P			PERC H730P、ミニカード、2 GB NV キャッシュ							

カード	低プロファイル、アダプタ、 2 GB NV キャッシュ										
RAID 構成	RAID-5			RAID-6							
ドライブ ベイ	4			16							
拡張 キット	N/A			11	10	8	6	4	6	4	N/A
RAID 2	N/A			6							
ドライブ	3 x 2 TB	3 x 4 TB	3 x 8 TB	5 x 8 TB	6 x 8 TB	8 x 8 TB	10 x 8 TB	12 x 8 TB	10 x 12 TB	12 x 12 TB	16 x 12 TB
基本 PCIe カード	オンボード Broadcom 5720 デュアル ポート 1 Gb LOM			Broadcom 5720 QP 1 Gb ネットワークデータカード SAS 12Gbps HBA 外部コントローラ							Broadcom 5720 QP 1 Gb SAS 12Gbps HBA 外部 デュアル ポート 10 G Base-T 銅線
PCIe カード (ファクト リオプション)	SAS 12Gbps HBA 外部コ ントローラ Broadcom 5719 クアッド ポート 1 G NIC デュアルポ ート 10 G 銅線 デュアルポ ート 10 G SFP + デュアルポ ート FC 16 G HBA			デュアルポート 10 G 銅線 デュアルポート 10 G SFP + デュアルポート FC 16 G HBA							デュアル ポート 10 G SFP + デュアル ポート FC 16 G HBA
電源	デュアル、ホット			デュアル、ホット プラグ、冗長電源 (1 + 1)、750 W							

	トプラグ、冗長電源 (1 + 1)、550 W	
iDRAC Enterprise		1

モデル X シリーズ

Arcserve アプライアンス モデル X シリーズ

Arcserve アプライアンス X シリーズの仕様					
アプライアンス モデル	X1000DR	X1500DR	X2000DR	X2500DR	X3000DR
実効容量 (TB) ¹	1,056	1,584	2,112	2,640	3,168
拡張キット使用時の最大実効容量 (TB) ¹	3,168				
注: 実効容量は、グローバルソース デデュープリケーションを考慮したもので、HDD の使用可能容量の約 3 倍で、SSD は含まれません。実際のバックアップ容量は、データの種類、バックアップの種類、スケジュールなどの要因によって異なる場合があります。					
ディスクイメージングおよびディザスタリカバリソフトウェア	Arcserve UDP Premium Edition に含む				
テープ統合ソフトウェア	Arcserve Backup に含む				
サイバーセキュリティソフトウェア	Sophos Intercept X Advanced for Server に含む				
Continuous Availability と自動フェールオーバー	Arcserve Continuous Availability のオプション				
オプションのクラウド バックアップおよびディザスタリカバリアドオン	Arcserve UDP Cloud Hybrid Secured by Sophos				
コンピュータ ノード					
CPU	Dual Intel Xeon Gold 6258R 2.7G、28C/56T、10.4GT/s、38.5M キャッシュ、ターボ、HT (205W)				
デフォルト RAM	1,024 GB (16 x 64) DDR4-3200 RDIMM				
最大 RAM	2,048 GB				
DIMM スロット	24				
NVMe SSD	2 x 1.6TB (RAID-1) および 6 x 4TB (RAID-5)				
ドライブ ベイ	24x 2.5" Enterprise NVMe SSD				
SAS 12Gbps HBA 外部コントローラ	2x 付属				
Intel X550 Quad Port 10G	同梱				

Base-T アダプタ					
Broadcom 57414 デュアルポート 25Gb SFP28 アダプタ	オプション				
Intel X710 デュアルポート 10G SFP+ FC アダプタ	オプション				
QLogic 2692 デュアルポート 16Gb ファイバチャネル HBA	オプション				
リモート ハードウェア管理	iDRAC Enterprise に含む				
電源	デュアル、ホットプラグ、冗長電源 (1+1)、1100W				
放熱	4100 BTU/時間				
重さ	75 ポンド (34 kg)				
フォームファクタ	2U				
ラック内寸法 (ベゼル、前面パネル、電源ハンドルを除く)	26.7" x 17.1" x 3.4" (67.9 cm x 43.4 cm x 8.7cm)				
外形寸法 (ベゼル、前面パネル、電源ハンドルを含む)	29.6" x 19.0" x 3.4" (75.1 cm x 48.2 cm x 8.7cm)				
パッケージ寸法	38" x 26" x 12" (97cm x 66cm x 30cm)				
ストレージ ノード					
16TB SAS 12G ホットプラグ HDD	28	42	56	70	84
最小使用可能容量	352	528	704	880	1056
オプションキットによる線形拡張機能	✓	✓	✓	✓	
RAID レベル	RAID-ADAPT				
RAID コントローラ	デュアル 8-port SAS 12Gb コントローラ				
HDD のホットスペア容量	最大 64 TB				
電源	デュアル、冗長 (1+1)、2200W				
放熱	7507 BTU				
重さ	141 ポンド (64kg) から 298 ポンド (135kg)				
フォームファクタ	5U				
外形寸法 (ベゼル、前面パネル、電源ハンドルを含む)	38.31" x 19.01" x 8.75" (97.47cm x 48.30cm x 22.23cm)				

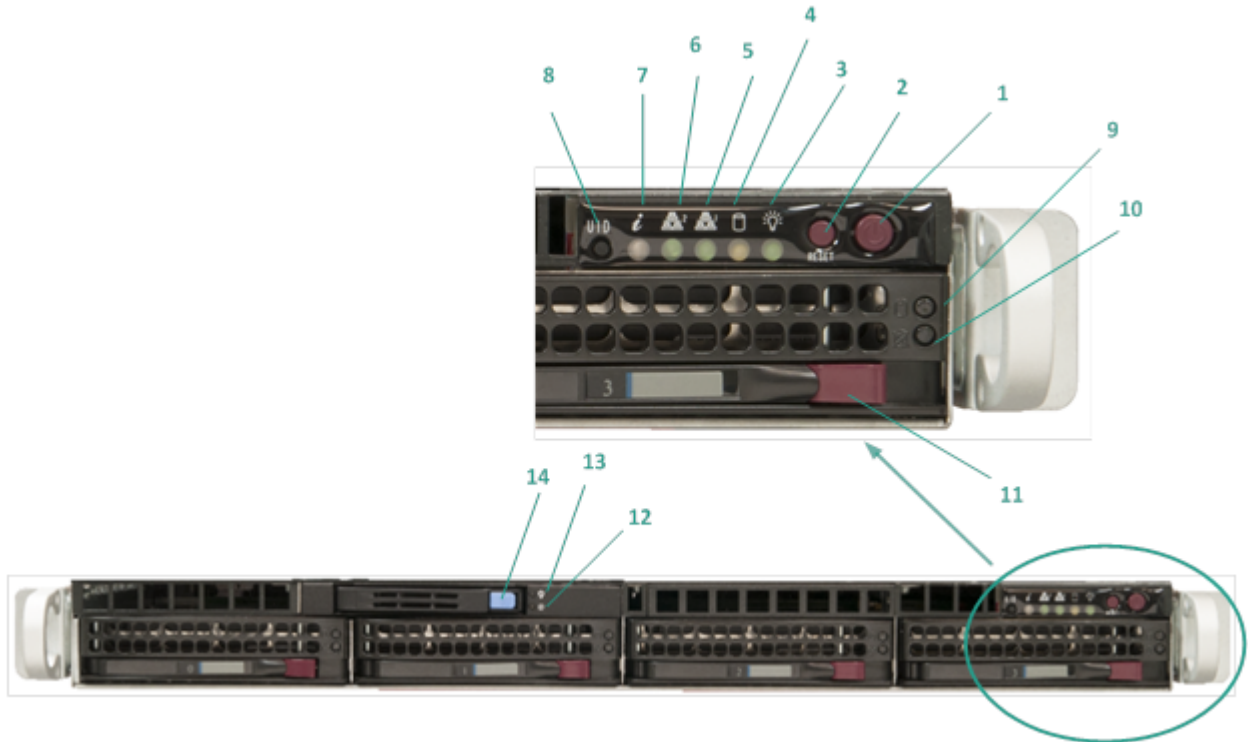
コントロールおよびインジケータ

Arcserve アプライアンスには、前面および背面のパネルと各ドライブ キャリアにいくつかのコントロールとインジケータ(LED) が備わっています。これらのコントロールおよびインジケータによって、さまざまな機能を制御でき、アプライアンスとコンポーネントのステータスをすばやく参照する機能を提供します。

- [前面 パネル 7100-7300v](#)
- [前面 パネル 7400-7600v](#)
- [前面 パネル 8100-8200](#)
- [前面 パネル 8300-8400](#)
- [前面 パネル 9012-9048](#)
- [前面 パネル 9072DR-9504DR](#)
- [背面 パネル 7100-7300v](#)
- [背面 パネル 7400-7600v](#)
- [背面 パネル 8100-8200](#)
- [背面 パネル 8300-8400](#)
- [背面 パネル 9012-9048](#)
- [背面 パネル 9072DR-9504DR](#)

前面パネル 7100-7300v

Arcserve アプライアンスの前面パネルには、コントロールパネルボタン、コントロールパネルLED、ドライブキャリアLEDが備わっています。以下の表で、これらの項目について説明します。



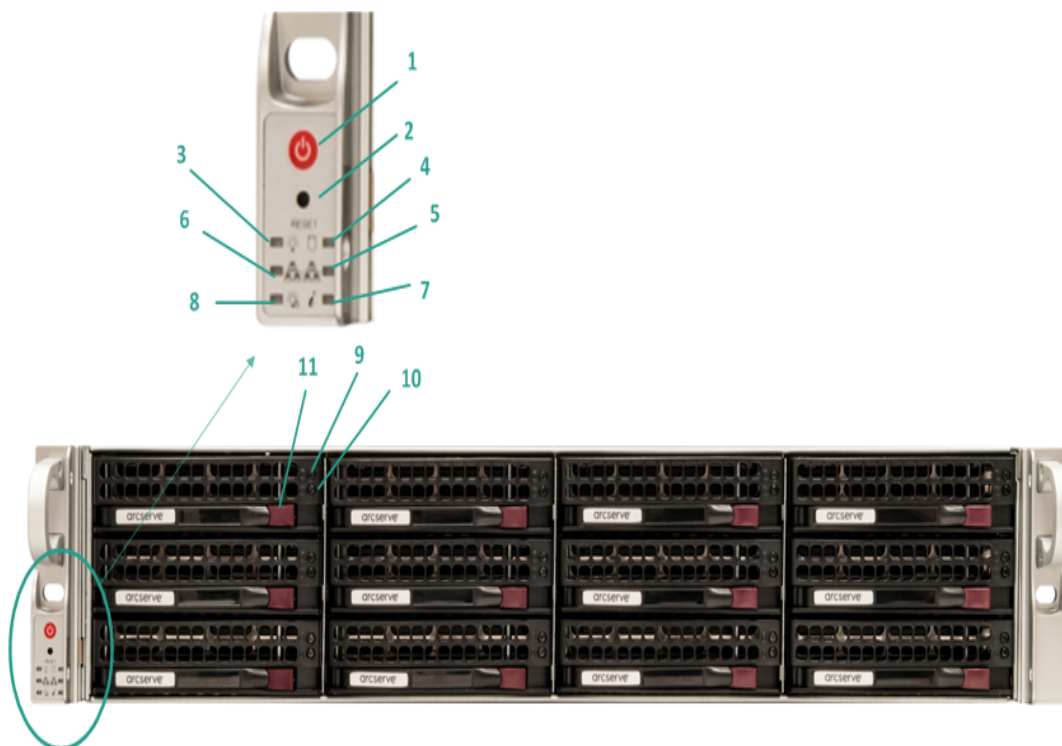
番号	コントロール/インジケータ	説明
1	電源ボタン	アプライアンスコンポーネントに対して電源をオンまたはオフにするために使用されます。電源をオフにした場合、主電源はオフになりますが、スタンバイ電源は引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全にオフにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
2	リセットボタン	アプライアンスを再起動するために使用されます。
3	電源 LED	緑色の点灯: アプライアンスの電源に電力が供給されていることを示します。 アプライアンスの稼働中は、通常このLEDが点灯しています。
4	デバイスアクティビティ LED	黄色の点滅: 少なくとも1つのハードドライブ上のアクティビティを示します。
5	ネットワークインターフェースカード (NIC1)	黄色の点滅: ネットワーク1 (ETH0ポート) 上のネットワークアクティビティを示します。

	LED	
6	ネットワークインターフェースカード(NIC2) LED	黄色の点滅: ネットワーク 2 (ETH1 ポート) 上のネットワークアクティビティを示します。
7	情報 LED	<p>赤色の常時点灯: 過熱条件が発生しました。(これはケーブル輻輳が原因で発生する可能性があります。)</p> <p>* 赤色の点滅 - 高速(1秒): ファンの障害。動作していないファンを確認します。</p> <p>* 赤色の点滅 - 低速(4秒): 電源の障害。動作していない電源を確認してください。</p> <p>青色の点灯: ローカル UID がアクティブになりました。この機能を使用して、ラック環境のサーバを特定します。</p> <p>青色の点滅: リモート UID がアクティブになりました。この機能を使用して、リモートの場所からサーバを特定します。</p>
8	ユニット 識別子 (UID) ボタン	<p>アプライアンスの前面パネルと背面パネルの両方でユニバーサル情報(青)をオンまたはオフにするために使用されます。</p> <p>青色の LED がオンである場合、アプライアンスをラック内で簡単に特定できます(前または後ろのいずれか)。</p>
9	ハードドライブ(HDD) LED	緑色の点滅: 対応するドライブ上のアクティビティを示します。
10	ハードドライブ(HDD) LED	<p>* 赤色の点灯: 対応するハードドライブの障害を示します。</p> <p>Arcserve アプライアンスを使用すると、ハードドライブの1つに障害が発生した場合、残りのドライブがすぐに起動し、データは失われずにアプライアンスが引き続き正常に動作します。そのため、複数のハードドライブの障害に関連する問題に対して防御するには、データが失われる可能性を最小限に抑えるためにできる限り早くハードドライブを置き換える必要があります。</p>
11	ハードドライブ(HDD) ラッチ	ハードドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。
12	ソリッド ステート ドライブ(SSD) LED	* 赤色の点灯: ドライブの障害を示します。
13	ソリッド ステート ドライブ(SSD) LED	<p>緑色の点灯: ドライブのアクティビティを示します。</p> <p>緑色の点滅: ドライブがアクセス中であることを示します。</p>
14	ソリッド ステート ドライブ(SSD) ラッチ	SSDドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。

*赤色が点灯または点滅している場合は、何らかの障害を示します。この問題を迅速に解決するには、[Arcserve サポート](#)にお問い合わせください。

前面パネル 7400-7600v

Arcserve アプライアンスの前面パネルには、コントロールパネルボタン、コントロールパネルLED、ドライブキャリアLEDが備わっています。以下の表で、これらの項目について説明します。



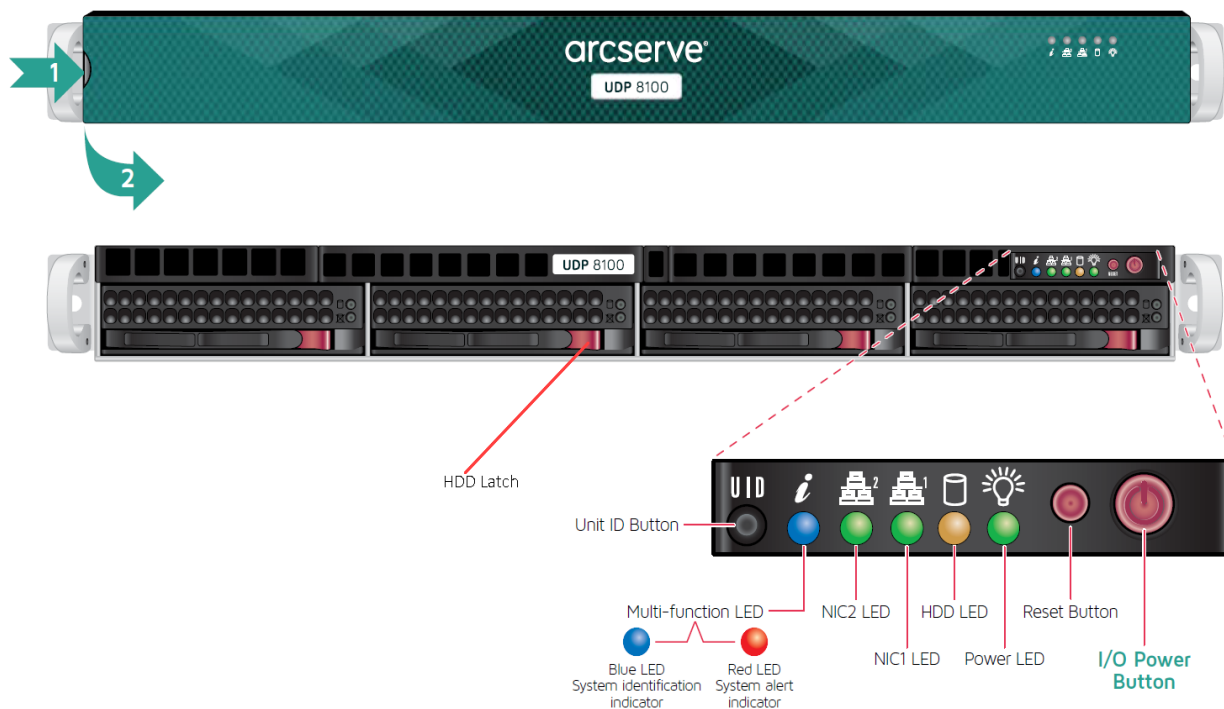
番号	コントロール/インジケータ	説明
1	電源ボタン	アプライアンスコンポーネントに対して電源をオンまたはオフにするために使用されます。電源をオフにした場合、主電源はオフになりますが、スタンバイ電源は引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全にオフにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
2	リセットボタン	アプライアンスを再起動するために使用されます。
3	電源LED	緑色の点灯: アプライアンスの電源に電力が供給されていることを示します。 アプライアンスの稼働中は、通常このLEDが点灯しています。
4	デバイスアクティビティLED	黄色の点滅: 少なくとも1つのハードドライブ上のアクティビティを示します。
5	ネットワー	黄色の点滅: ネットワーク1 (ETH0ポート) 上のネットワークアクティビティを

	クインターフェースカード (NIC1) LED	示します。
6	ネットワークインターフェースカード (NIC2) LED	黄色の点滅 : ネットワーク 2 (ETH1 ポート) 上のネットワークアクティビティを示します。
7	情報 LED	<p>赤色の常時点灯: 過熱条件が発生しました。(これはケーブル輻輳が原因で発生する可能性があります。)</p> <p>* 赤色の点滅 - 高速 (1 秒): ファンの障害。動作していないファンを確認します。</p> <p>* 赤色の点滅 - 低速 (4 秒): 電源の障害。動作していない電源を確認してください。</p> <p>青色の点灯: ローカル UID がアクティブになりました。この機能を使用して、ラック環境のサーバを特定します。</p> <p>青色の点滅: リモート UID がアクティブになりました。この機能を使用して、リモートの場所からサーバを特定します。</p>
8	電源失敗	電源モジュールが失敗したことを示します。
9	ハードドライブ (HDD) LED	緑色の点滅 : 対応するドライブ上のアクティビティを示します。
10	ハードドライブ (HDD) LED	<p>* 赤色の点灯: 対応するハードドライブの障害を示します。</p> <p>Arcserve アプライアンスを使用すると、ハードドライブの 1 つに障害が発生した場合、残りのドライブがすぐに起動し、データは失われずにアプライアンスが引き続き正常に動作します。そのため、複数のハードドライブの障害に関連する問題に対して防御するには、データが失われる可能性を最小限に抑えるためにできる限り早くハードドライブを置き換える必要があります。</p>
11	ハードドライブ (HDD) ラッチ	ハードドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。

*赤色が点灯または点滅している場合は、何らかの障害を示します。この問題を迅速に解決するには、[Arcserve サポート](#)にお問い合わせください。

前面パネル 8100-8200

Arcserve アプライアンス 8100-8200 アプライアンスの前面パネルには、コントロールパネルボタン、コントロールパネルLED、ドライブ キャリア LED が備わっています。以下の表で、これらのアイテムについて説明します。



コントロール/インジケータ	説明
I/O 電源ボタン	アプライアンスコンポーネントに対して電源をオンまたはオフにするために使用されます。電源をオフにした場合、主電源はオフになりますが、スタンバイ電源は引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全にオフにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
リセットボタン	アプライアンスを再起動するために使用されます。
電源 LED	緑色の点灯 ：アプライアンスの電源に電力が供給されていることを示します。アプライアンスの稼働中は、通常この LED が点灯しています。
HDD LED	黄色の点滅 ：少なくとも 1 つのハードドライブ上のアクティビティを示します。
ネットワークインターフェースカード (NIC1)	黄色の点滅 ：ネットワーク 1 (ETH0 ポート) 上のネットワークアクティビティを示します。

LED	
ネットワーク インター フェースカー ド(NIC2) LED	黄色の点滅 : ネットワーク 2 (ETH1 ポート) 上のネットワーク アクティビティを示します。
情報 LED	<p>赤色の常時点灯: 過熱条件が発生しました。</p> <p>注: ケーブル輻輳が原因で、この状況が発生する可能性があります。</p> <p>* 赤色の点滅 - 高速 (1 秒): ファンの障害。動作していないファンを確認します。</p> <p>* 赤色の点滅 - 低速 (4 秒): 電源の障害。動作していない電源を確認してください。</p> <p>青色の点灯: ローカル UID がアクティブです。この機能を使用して、ラック環境のサーバを特定します。</p> <p>青色の点滅: リモート UID がアクティブです。この機能を使用して、リモートの場所からサーバを特定します。</p>
ユニット識 別子 (UID) ボタン	<p>アプライアンスの前面パネルと背面パネルの両方でユニバーサル情報 (青) をオンまたはオフにするために使用されます。</p> <p>青色の LED がオンである場合、アプライアンスをラック内で簡単に特定できます (前または後ろのいずれか) 。</p>
ハードドライ ブ (HDD) LED	緑色の点滅 : 対応するドライブ上のアクティビティを示します。
ハードドライ ブ (HDD) LED	<p>* 赤色の点灯: 対応するハードドライブの障害を示します。</p> <p>Arcserve アプライアンスを使用すると、ハードドライブの 1 つに障害が発生した場合、残りのドライブがすぐに起動し、データは失われずにアプライアンスが引き続き正常に動作します。そのため、複数のハードドライブの障害に関連する問題に対して防御するには、データが失われる可能性を最小限に抑えるためにできる限り早くハードドライブを置き換える必要があります。</p>
ハードドライ ブ (HDD) ラッチ	ハードドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。
ソリッドス テートドライ ブ (SSD) LED	* 赤色の点灯 : ドライブの障害を示します。
ソリッドス テートドライ ブ (SSD) LED	<p>緑色の点灯: ドライブのアクティビティを示します。</p> <p>緑色の点滅: ドライブがアクセス中であることを示します。</p>
ソリッドス テートドライ ブ (SSD) ラッ チ	SSDドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。

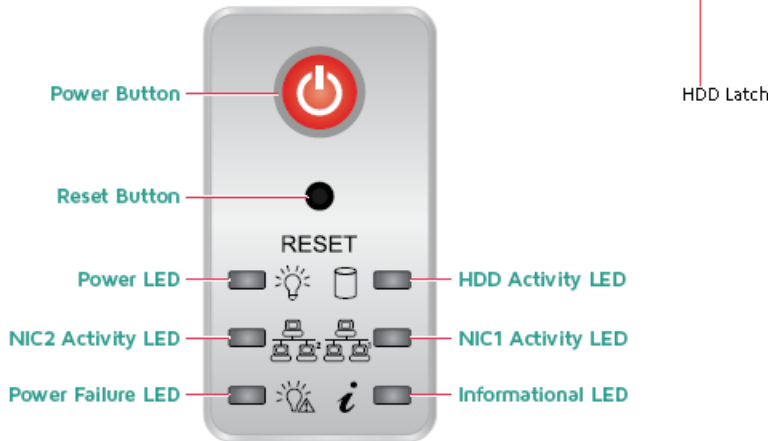
*赤色が点灯または点滅している場合は、何らかの障害を示します。この問題を迅速に解決するには、[Arcserve サポート](#)にお問い合わせください。

前面パネル 8300-8400

Arcserve アプライアンス 8300-8400 アプライアンスの前面パネルには、コントロールパネルボタン、コントロールパネルLED、ドライブキャリアLEDが備わっています。以下の表で、これらのアイテムについて説明します。



See detail illustration and chart below for front panel information



This LED alerts the operator of several states, as noted in the chart below.

Status	Description
Continuously on and red	An overheat condition has occurred.(May be due to cable congestion.)
Blinking red (1Hz)	Fan failure, check for Inoperative fan
Blinking red (0.25 Hz)	Power failure, check for a non-operational power supply
Solid Blue	Local UID has been activated. Use this function to locate the server in a rack mount environment.
Blinking Blue	Remote UID Is on. Use this function to identify the server from a remote location.

コントロールインジケータ	説明
電源ボタン	アプライアンスコンポーネントに対して電源をオンまたはオフにするために使用されます。電源をオフにした場合、主電源はオフになりますが、スタンバイ電源は引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全にオフにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
リセットボタン	アプライアンスを再起動するために使用されます。
電源LED	緑色の点灯：アプライアンスの電源に電力が供給されていることを示します。

	アプライアンスの稼働中は、通常この LED が点灯しています。
ネットワークインターフェースカード (NIC1) LED	黄色の点滅: ネットワーク 1 (ETH0 ポート) 上のネットワークアクティビティを示します。
ネットワークインターフェースカード (NIC2) LED	黄色の点滅: ネットワーク 2 (ETH1 ポート) 上のネットワークアクティビティを示します。
情報 LED	<p>赤色の常時点灯: 過熱条件が発生しました。(これはケーブル輻輳が原因で発生する可能性があります。)</p> <p>* 赤色の点滅 - 高速(1秒): ファンの障害。動作していないファンを確認します。</p> <p>* 赤色の点滅 - 低速(4秒): 電源の障害。動作していない電源を確認してください。</p> <p>青色の点灯: ローカル UID がアクティブになりました。この機能を使用して、ラック環境のサーバを特定します。</p> <p>青色の点滅: リモート UID がアクティブになりました。この機能を使用して、リモートの場所からサーバを特定します。</p>
電源異常 LED	電源モジュールが失敗したことを示します。
ハードドライブ (HDD) LED	緑色の点滅: 対応するドライブ上のアクティビティを示します。
ハードドライブ (HDD) LED	<p>* 赤色の点灯: 対応するハードドライブの障害を示します。</p> <p>Arcserve アプライアンスを使用すると、ハードドライブの 1 つに障害が発生した場合、残りのドライブがすぐに起動し、データは失われずにアプライアンスが引き続き正常に動作します。そのため、複数のハードドライブの障害に関連する問題に対して防御するには、データが失われる可能性を最小限に抑えるためにできる限り早くハードドライブを置き換える必要があります。</p>
ハードドライブ (HDD) ラッチ	ハードドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。



*赤色が点灯または点滅している場合は、何らかの障害を示します。この問題を迅速に解決するには、[Arcserve サポート](#)にお問い合わせください。

前面パネル 9012-9048

Arcserve アプライアンスの前面パネルには、コントロールパネルボタン、コントロールパネルLED、ドライブキャリアLEDが備わっています。以下の表で、これらのアイテムについて説明します。



番号	コントロール/インジケータ	アイコン	説明
1	左コントロールパネル	N/A	<p>システム健全性、システムID、ステータスLED、およびiDRAC クイック同期 2 (ワイヤレス) インジケータを搭載しています。</p> <p>注: DRAC クイック同期 2 インジケータは、特定の構成にのみ搭載されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ステータス LED: 障害の発生したハードウェアコンポーネントを識別することができます。最大 5 つステータス LED およびシステム全体の健全性 LED (シャーシの健全性とシステムID) バーを備えています。詳細については、リンクを参照してください。 • クイック同期 2 (ワイヤレス): クイック同期が有効になっているシステムを示します。クイック同期機能はオプションです。この機能を使用すると、モバイルデバイスでシステムを管理できます。この機能により、ハードウェアやファームウェア インベントリ、および各種システムレベルの診断とエラー情報が集約され、システムのトラブルシューティングで使用することができます。詳細については、リンクを参照してください。
2	ドライブスロット	N/A	システムでサポートされているドライブをインストールできます。ドライブに関する詳細については、 リンク を参照してください。
3	オプション	N/A	オプションで 1 基のスリム SATA DVD-ROM ドライブまたは DVD + RW ドライブ

	ティカルドライブ (オプション)		
4	VGAポート		表示デバイスをシステムに接続することができます。
5	USBポート (オプション)		USBポートは、USB 2.0 準拠です。
6	右コントロールパネル	N/A	電源ボタン、USBポート、iDRACダイレクト マイクロポート、およびiDRACダイレクト ステータスLEDを搭載しています。
7	情報タグ	N/A	情報タグはスライド式のラベルパネルで、サービスタグ、NIC、MACアドレスといったシステム情報が格納されています。iDRAC への安全なデフォルト アクセスを選択すると、情報タグには iDRAC の安全なデフォルト パスワードも格納されます。

前面パネル 9072DR - 9504DR

Arcserve アプライアンス の前面パネルには、コントロールパネルボタン、コントロールパネルLED、ドライブ キャリア LED を搭載しています。以下の表で、これらのアイテムについて説明します。



番号	コントロール/インジケータ	アイコン	説明
1	左コントロールパネル	N/A	システム健全性、システムID、ス

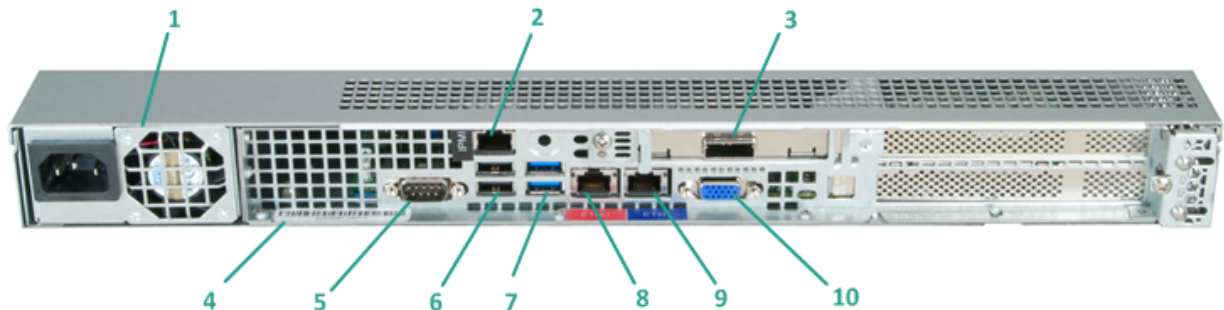
			テータス LED、オプションで iDRAC クリック同期 2 (ワイヤレス) インジケータを搭載しています。
2	ドライブ スロット	N/A	システムでサポートされているドライブをインストールできます。詳細については、 リンク を参照してください。
3	右コントロールパネル	N/A	電源ボタン、VGA ポート、iDRAC ダイレクト マイクロ USB ポート、および 2 つの USB 2.0 ポートを備えています。
4	情報タグ	N/A	情報タグはスライド式のラベルパネルで、サービスタグ、NIC、MAC アドレスといったシステム情報が格納されています。iDRAC への安全なデフォルト アクセスを選択すると、情報タグには iDRAC の安全なデフォルト パスワードも格納されます。

前面パネル X シリーズ

前面パネルの詳細については、「[X シリーズ アプライアンスの設置 - コンピュート ノード](#)」および「[X シリーズ アプライアンスの設置 - ストレージ ノード](#)」を参照してください。

背面パネル 7100-7300v

背面パネルには、アプライアンス用の電源、ケーブル接続、ポートが備わっています。

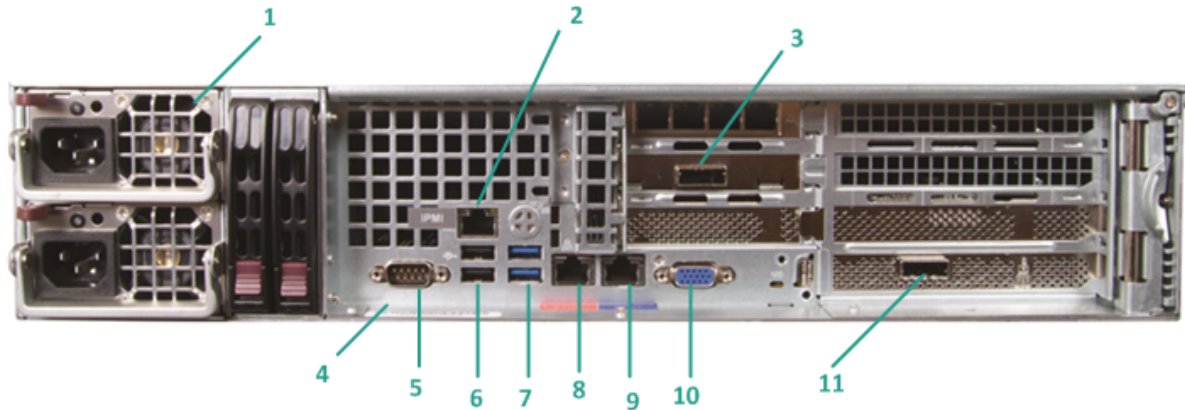


番号	コントロール/インジケータの名前	説明
1	電源	<p>高効率電源をアプライアンスに提供します。</p> <p>注: 主電源スイッチは、アプライアンスに対する電源の供給または切断に使用されます。このボタンを使用してアプライアンスの主電源をオフにした場合、スタンバイ電源が引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全にオフにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから抜いてください。</p>
2	IPMI ポート (リモート管理)	<p>IPMI (インテリジェントプラットフォーム管理インターフェース) ポートを使用すると、温度、電圧、ファン、電源、アプライアンスなどのサーバの物理状態をモニタできます。</p> <p>注: IPMI アクセス用のデフォルトのユーザ名/パスワードは ADMIN/ARCADMIN です(大文字と小文字が区別されます)。このパスワードはできる限り早く変更することをお勧めします。IPMI パスワードを変更する方法の詳細については、「IPMI パスワードを変更する方法」を参照してください。</p>
3	外部ストレージデバイスのポート (テープドライブの場合は SAS ポート)	<p>外部ストレージデバイス(ハードドライブ、テープドライブなど)をアプライアンスに接続するために使用されます。これらのポータブル外部ストレージデバイスを使用して、バックアップデータを保存して1つの場所から別の場所に簡単に移動させることができます。</p>
4	シリアル番号のラベル	<p>アプライアンスに割り当てられている一意のシリアル番号。</p>

	ベル	
5	COM1シリアルポート	シリアルデバイス(マウスなど)をアプライアンスに接続するために使用される通信ポート。
6	USB 2.0 (黒)	USB 2.0タイプのデバイスをアプライアンスに接続するために使用されます。
7	USB 3.0 (青)	USB 3.0タイプのデバイスをアプライアンスに接続するために使用されます。
8	ネットワークデータ I/O ポート 1	ネットワークデータをアプライアンスから転送するために使用されます。(ネットワーク1の場合は ETH0)
9	ネットワークデータ I/O ポート 2	ネットワークデータをアプライアンスから転送するために使用されます。(ネットワーク2の場合は ETH1)
10	VGA コネクタ	モニタをアプライアンスに接続するために使用されます(必要な場合)。

背面パネル 7400-7600v

背面パネルには、アプライアンス用の電源、ケーブル接続、ポートが備わっています。

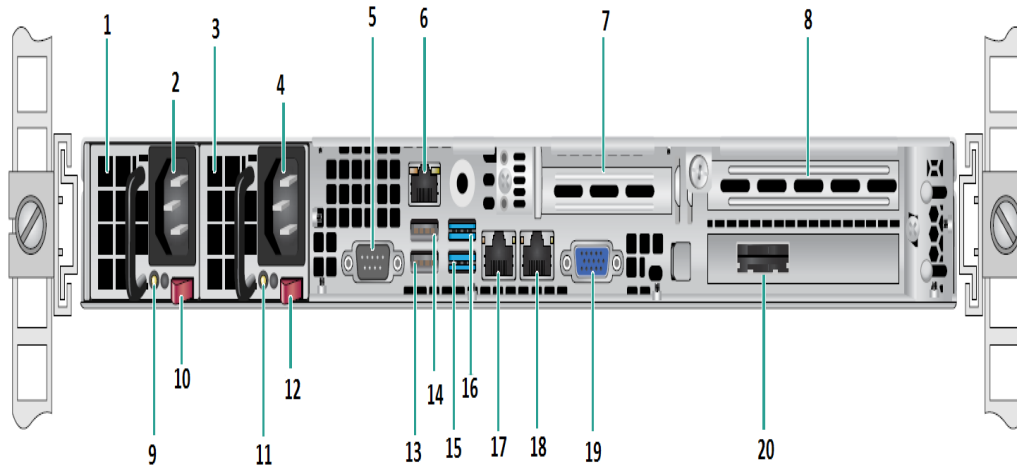


番号	コントロール/インジケータの名前	説明
1	デュアル電源	<p>高効率電源をアプライアンスに提供します。</p> <p>注: 主電源スイッチは、アプライアンスに対する電源の供給または切断に使用されます。デュアル電源の利点は、1つの電源が失敗しても、別の電源を使用できることです。</p> <p>このボタンを使用してアプライアンスの主電源をオフにした場合、スタンバイ電源が引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全にオフにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから抜いてください。</p>
2	IPMIポート(リモート管理)	<p>IPMI (インテリジェントプラットフォーム管理インターフェース) ポートを使用すると、温度、電圧、ファン、電源、アプライアンスなどのサーバの物理状態をモニタできます。</p> <p>注: IPMI アクセス用のデフォルトのユーザ名/パスワードは ADMIN/ARCAADMIN です(大文字と小文字が区別されます)。このパスワードはできる限り早く変更することをお勧めします。IPMI パスワードを変更する方法の詳細については、「IPMI パスワードを変更する方法」を参照してください。</p>
3	外部ストレージデバイスのポート(テープドライブの場合はSAS)	<p>外部ストレージデバイス(ハードドライブ、テープドライブなど)をアプライアンスに接続するために使用されます。これらのポータブル外部ストレージデバイスを使用して、バックアップデータを保存して1つの場所から別の場所に簡単に移動させることができます。</p>

	ポート)	
4	シリアル番号のラベル	アプライアンスに割り当てられている一意のシリアル番号。
5	COM1シリアルポート	シリアルデバイス(マウスなど)をアプライアンスに接続するために使用される通信ポート。
6	USB 2.0 (黒)	USB 2.0タイプのデバイスをアプライアンスに接続するために使用されます。
7	USB 3.0 (青)	USB 3.0タイプのデバイスをアプライアンスに接続するために使用されます。
8	ネットワークデータ I/O ポート 1	ネットワークデータをアプライアンスから転送するために使用されます。(ネットワーク1の場合はETH0)
9	ネットワークデータ I/O ポート 2	ネットワークデータをアプライアンスから転送するために使用されます。(ネットワーク2の場合はETH1)
10	VGAコネクタ	モニタをアプライアンスに接続するために使用されます(必要な場合)。
11	外部ストレージデバイスのポート (テープオートローダ/ライブラリ) LSI SAS 9212 - 4i4e	外部ストレージデバイス(テープオートローダ/ライブラリ)をアプライアンスに接続するために使用されます。これらのポータブル外部ストレージデバイスを使用して、バックアップデータを保存して1つの場所から別の場所に簡単に移動させることができます。 注: このポートは、オペレーティングシステムでは LSI Adapter SAS2 2008 Falcon として表示されます。

背面パネル 8100-8200

背面パネルには、アプライアンス用の電源、ケーブル接続、ポートが備わっています。

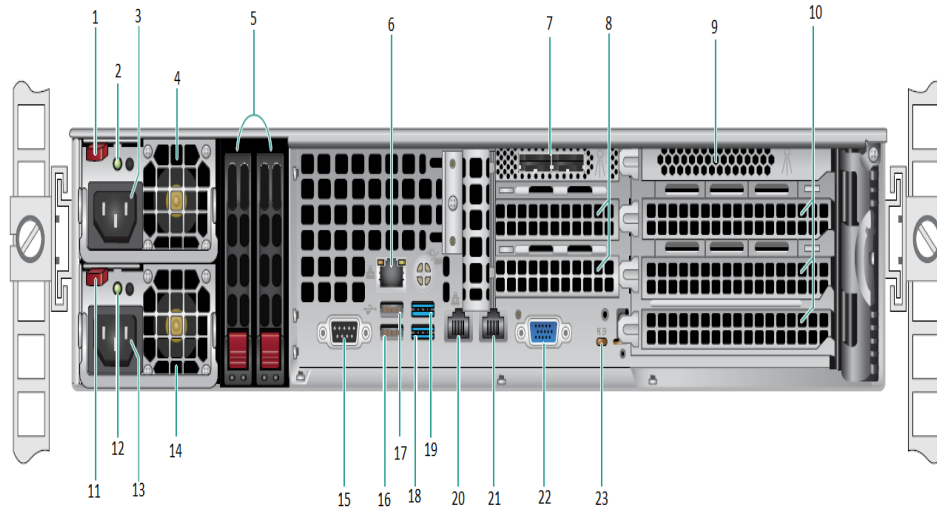


番号	コントロール/インジケータの名前
1	電源モジュール #1
2	AC 電源 インレット #1
3	電源 #2
4	AC 電源 インレット #2
5	COM ポート
6	IPMI ポート (リモート管理)
7	低プロファイル PCI 拡張スロット
8	PCI 拡張スロット
9	パワーグッド LED #1
10	電源ロック #1
11	電源正常 LED #2
12	電源ロック #2
13	USB 2.0 ポート 1 (黒)
14	USB 2.0 ポート 2 (黒)
15	USB 3.0 ポート 3 (青)
16	USB 3.0 ポート 4 (青)
17	ネットワークデータ I/O ポート 1 (ネットワーク 1 の場合は ETH0)
18	ネットワークデータ I/O ポート 2 (ネットワーク 2 の場合は ETH1)
19	VGA ポート

20	外部ストレージ デバイスのポート (テープドライブ オプションの場合は SAS ポート)
----	--

背面パネル 8300-8400

背面パネルには、アプライアンス用の電源、ケーブル接続、ポートが備わっています。



番号	コントロール/インジケータの名前
1	電源モジュール#1 ロック
2	電源モジュール#1 パワーグッド LED
3	電源モジュール#1 AC ソケット
4	電源モジュール#1 ファン
5	背面 SSD (オプション)
6	IPMI ポート (リモート管理)
7	外部 SAS HBA ポート
8	ハーフサイズ PCI 拡張スロット
9	内部 RAID コントローラ
10	フルサイズ PCI 拡張スロット
11	電源モジュール#2 ロック
12	電源モジュール#2 パワーグッド LED
13	電源モジュール#2 AC コンセント
14	電源モジュール#2 ファン
15	COM ポート
16	USB ポート 1 (第 2 世代)
17	USB ポート 2 (第 2 世代)
18	USB ポート 3 (第 3 世代)
19	USB ポート 4 (第 3 世代)

20	ETH0 (ネットワーク 1)
21	ETH1 (ネットワーク 2)
22	VGA ポート (モニタ)
23	UID LED

背面パネル 9012-9048

Arcserve アプライアンスの背面パネルには、アプライアンス用の電源、ケーブル接続、ポートが備わっています。以下の表で、これらのアイテムについて説明します。

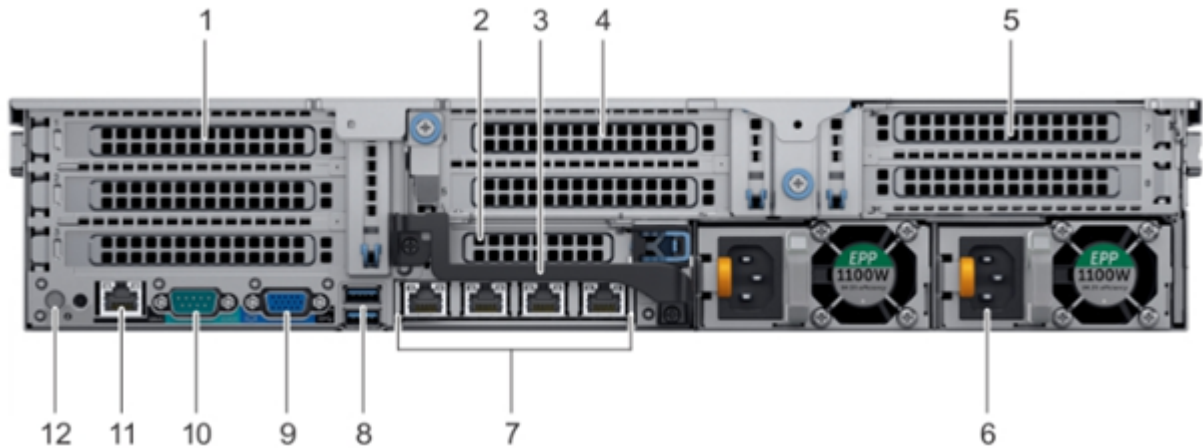



番号	コントロール /インジケータ	アイコン	説明
1	シリアルポート		システムにシリアルデバイスを接続する際にシリアルポートを使用します。詳細については、 リンク を参照してください。
2	iDRAC9 専用 ネットワーク ポート		個別の管理ネットワーク上で埋め込み型 iDRAC に安全にアクセスするには、iDRAC9 専用のネットワークポートを使用します。詳細については、 リンク を参照してください。
3	Ethernet ポート (2)		Ethernet ポートを使用して、システムをローカルエリアネットワーク(LAN)に接続します。詳細については、 リンク を参照してください。
4	フルハイト ライザー スロット		このカードスロットを使用して、フルハイト PCIe 拡張カードをフルハイトライザーに取り付めます。
5	電源装置 (PSU)		PSU 設定の詳細については、 リンク を参照してください。
6	電源装置 (PSU)		PSU 設定の詳細については、 リンク を参照してください。
7	LOM ライザー ポート (2)		PSU 設定の詳細については、 リンク を参照してください。
8	USB 3.0 ポート (2)		USB 3.0 ポートを使用して、システムに USB デバイスを接続します。USB 3.0 ポートは、4 ピン USB 3.0 に準拠しています。






9	VGA ポート	IO	VGA ポートを使用して、システムにディスプレイを接続します。
10	CMA 電源ポート		ケーブル管理 Arm (CMA) 電源ポートを使用して、CMAに接続することができます。
11	システム識別ボタン	i	<p>以下の場合に、システム ID ボタンを押します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ラック内の特定のシステムを確認する場合 • システム ID を有効または無効にする場合 <p>iDRAC をリセットするには、ボタンを 15 秒押し続けます。</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> • システム ID を使用して iDRAC をリセットする場合、iDRAC のセットアップでシステム ID ボタンが有効になっていることを確認します。 • 実行後の処理中にシステムの応答が停止した場合、システム ID ボタンを押し続け(5 秒以上)、BIOS プログレスモードに切り替えます。

背面パネル 9072DR-9504DR

Arcserve アプライアンスの背面パネルには、アプライアンス用の電源、ケーブル接続、ポートが備わっています。以下の表で、これらのアイテムについて説明します。



番号	コントロール/インジケータ	アイコン	説明
1	フルハイト PCIe 拡張カード スロット (3)	N/A	PCIe 拡張カード スロット (ライザー 1) を使用して、最大 3 つのフルハイト PCIe 拡張カードをシステムに取り付けることができます。詳細については、 リンク を参照してください。
2	ハーフレングス PCIe 拡張カード スロット	N/A	PCIe 拡張カード スロット (ライザー 2) を使用して、1 つのハーフハイト PCIe 拡張カードをシステムに取り付けることができます。詳細については、 リンク を参照してください。
3	背面ハンドル	N/A	背面ハンドルを取り外すと、PCIe カードの外部ケーブルを PCIe 拡張カード スロット 6 に取り付けることができます。
4	フルハイト PCIe 拡張カード スロット (2)	N/A	PCIe 拡張カード スロット (ライザー 2) を使用して、最大 2 つのフルハイト PCIe 拡張カードをシステムに取り付けることができます。詳細については、 リンク を参照してください。
5	フルレングス PCIe 拡張カード スロット (2)	N/A	PCIe 拡張カード スロット (ライザー 3) を使用して、最大 2 つのフルハイト PCIe 拡張カードをシステムに取り付けることができます。詳細については、 リンク を参照してください。
6	電源装置 (2)	N/A	詳細については、 リンク を参照してください。
7	NIC ポート		ネットワークドーターカード (NDC) に統合されている NIC ポートを使用すると、ネットワークに接続することができます。サポートされて

			いる構成の詳細については、 リンク を参照してください。
8	USB ポート (2)		USB ポートは、9 ピンおよび 3.0 に準拠しています。USB ポートには、USB デバイスを接続できます。
9	VGA ポート		表示 デバイスをシステムに接続できます。詳細については、 リンク を参照してください。
10	シリアルポート		シリアル デバイスをシステムに接続できます。詳細については、 リンク を参照してください。
11	iDRAC9 専用ポート		iDRAC にリモート アクセスすることができます。詳細については、 リンク を参照してください。
12	システム識別 ボタン		システム識別 (ID) ボタンは、システムの前面と背面にあります。ラック内のシステムを識別するには、システム ID ボタンを有効にしてから、このボタンを押します。また、iDRAC をリセットして、BIOS モードで手順に従う場合にも、システム ID ボタンを使用します。

背面パネル X シリーズ

背面パネルの詳細については、「[X シリーズ アプライアンスの設置 - コンピュータ ノード](#)」および「[X シリーズ アプライアンスの設置 - ストレージ ノード](#)」を参照してください。

アプライアンスが使用するポート

以下のトピックでは、Arcserve UDP、Arcserve Backup、Linux 用アプライアンスのサポートで使用されるポートに関する情報を紹介します。

- [Arcserve UDP](#)
- [Arcserve Backup](#)
- [Linux 用アプライアンスのサポート](#)

Arcserve UDP

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- [Microsoft Windows にインストールされるコンポーネント](#)
- [Linux にインストールされているコンポーネント](#)
- [リモートで UDP Linux により保護されている実稼働ノード](#)

Microsoft Windows にインストールされるコンポーネント

LAN 環境を使用している場合、バックアップなどのジョブを行うには以下のポートが必要です。

ポート #	ポートの種類	起動元	受信待機プロセス	説明
1433	TCP	リモート Java	sqlsrvr.exe	Arcserve UDP コンソールと Microsoft SQL Server データベースが異なるコンピュータに存在する場合、その間のデフォルトの通信ポートを指定します。 注：デフォルト通信ポートは、SQL Server をインストールするときに変更できます。
4090	TCP	Arcserve UDP エージェント	HATransServer.exe	プロキシモードで仮想スタンプイタスクのデータを転送します。
5000-5060	TCP	Arcserve UDP サーバ	GDDServer.exe	Arcserve UDP RPS グ

				<p>ローバルデ デュプリケ ーションデー タストア サービス (GDD) 用 に予 約され ています。1 つの Arcserve UDP GDD データスト アは、5000 以 降の3 つの空き ポートを使 用します。 GDD データ ストアに対 するバック アップが有 効化されて いる場合、 またはリス トアタスク を使用して いる場合に はこれが必 要です。</p>
6052	TCP	Arcserv- e Backup GDB	CA.ARCserve.CommunicationFoundation. WindowsService.exe	<p>Arcserve UDP コン ソールと Arcserve Backup グ ローバル ダッシュボー ドプライマリ サーバで データを同 期するため の通信。</p>
6054	TCP	Arcserv- e Backup	CA.ARCserve.CommunicationFoundation.WindowsService.exe	<p>Arcserve UDP コン ソールと Arcserve</p>

				Backup プライマリサーバでデータを同期するための通信。
8006				Arcserve UDP コンソールによって使用される Tomcat をシャットダウンします。
8014	TCP	Arcserve UDP コンソール	Tomcat7.exe	<p>リモート管理コンソールと Arcserve UDP サーバの間のデフォルトの HTTP/HTTPS 通信ポートを指定します。</p> <p>リモート管理コンソールと Arcserve UDP エージェントの間のデフォルトの HTTP/HTTPS 通信ポートを指定します。</p> <p>注: デフォルトの通信ポートは、Arcserve UDP コンポーネントをインストールする</p>

				ときに変更 できます。
8014	TCP	Arcserve- e UDP サーバ	httpd.exe	<p>Arcserve UDP サーバ と Arcserve UDP コン ソールの間 のデフォル トの HTTP/HTTP- S 通信ポ ートを指定し ます。</p> <p>*デフォル トの共有 ポートであ り、 Arcserve UDP サーバ をレプリ ケーション デスティ ネーションと して使用す る場合に 開く必要の ある唯一 のポートを 指定しま す。ポート 5000 ~ 5060 は、グ ローバルデ デュプリケ ーションが有 効化されて いるときに データスタ アによって 使用される ため開かな いでくださ い。</p> <p>注: デフォ ルトの通信</p>

				ポートは、Arcserve UDP コンポーネントをインストールするときに変更できます。
8015	TCP	Arcserve UDP コンソール	Tomcat7.exe	<p>リモート管理コンソールと Arcserve UDP サーバの間のデフォルトの HTTP/HTTPS 通信ポートを指定します。</p> <p>リモート管理コンソールと Arcserve UDP エージェントの間のデフォルトの HTTP/HTTPS 通信ポートを指定します。</p> <p>注: デフォルトの通信ポートは、Arcserve UDP コンポーネントをインストールするときに変更できます。</p>
8016	TCP	Arcserve UDP サーバ	Tomcat7.exe	同じサーバ上の Arcserve

				<p>UDP RPS ポート共有 サービスと 通信する Arcserve UDP サーバ Web サービス 用に予 約済みで す。</p> <p>注: ポート はカスタマ イズできま せん。ファイ アウォール 設定では 無視できま す。</p>
1800- 5			<p>CA.ARCserve.CommunicationFoundation. WindowsService.exe</p>	<p>Arcserve UDP サーバ またはエー ジェントに よって使用 される Tomcat を シャットダウ ンします。</p>

Linux にインストールされているコンポーネント

LAN 環境を使用している場合、バックアップなどのジョブを行うには以下のポートが必要です。

ポート #	ポートの種類	起動元	受信待機プロセス	説明
22	TCP	SSH サービス		Arcserve UDP Linux サードパーティ依存性。SSH サービスのデフォルトを指定しますが、このポートは変更できます。このポートは受信および送信通信の両方に必要です。
67	UDP	Arcserve UDP Linux	bootpd	PXE ブート サーバで使用されます。PXE ブート機能の使用を必要としている場合のみ必須です。このポートは受信通信に必要です。 注：ポート番号はカスタマイズできません。
69	UDP	Arcserve UDP Linux	tftpd	PXE ブート サーバで使用されます。PXE ブート機能の使用を必要としている場合のみ必須です。このポートは受信通信に必要です。 注：ポート番号はカスタマイズできません。
8014	TCP	Arcserve UDP Linux	Java	リモート コンソールと Linux 用 Arcserve UDP エージェントの間のデフォルトの HTTP/HTTPS 通信ポートを指定します。このポートは受信および送信通信の両方に必要です。
18005	TCP	Arcserve UDP Linux	Java	Tomcat で使用され、ファイアウォールを不許可に設定できます。

リモートで UDP Linux により保護されているノード

LAN 環境を使用している場合、バックアップなどのジョブを行うには以下のポートが必要です。

ポート #	ポートの種類	起動元	受信待機プロセス	説明
22		SSH サービス		Arcserve UDP Linux サードパーティ依存性。SSH サービスのデフォルトを指定しますが、このポートは変更できます。このポートは受信および送信通信の両方に必要です。

* ポート共有はレプリケーションジョブのためにサポートされています。異なるポート上のデータはすべてポート 8014 (Arcserve UDP サーバ用のデフォルトポート。インストール時に変更可能) に転送できます。WAN 上にある 2 つの復旧サーバポイント間でレプリケーションジョブを実行する時には、ポート 8014 のみが開いている必要があります。

同様に、リモートレプリケーションの場合、リモート管理者はポート 8014 (データレプリケーション用) とポート 8015 (Arcserve UDP コンソール用のデフォルトポート。インストール時に変更可能) を開くか転送して、割り当てられたレプリケーションプランをローカル復旧ポイントサーバが取得できるようにする必要があります。

Arcserve Backup

LAN 環境を使用している場合、バックアップなどのジョブを行うには以下のポートが必要です。

ポート #	ポートの種類	起動元	受信待機プロセス	説明
135	TCP			Microsoft ポート マッパー
445	TCP		名前付きパイプ上の MSRPC	
6050	TCP/UDP	CASUniversalAgent	Univagent.exe	Arcserve Universal Agent
6502	TCP	Arcserve Communication Foundation	CA.ARCserve.CommunicationFoundation.WindowsService.exe	Arcserve Communication Foundation
6502	TCP	CASBEngine	Tapeng.exe	Arcserve Tape Engine
6503	TCP	CASJobEngine	Jobengine.exe	Arcserve Job Engine
6504	TCP	CASDBEngine	DBEng.exe	Arcserve Database Engine
7854	TCP	CASportmapper	Catirpc.exe	Arcserve PortMapper
4152-3	TCP	CASDiscovery	casdscsvc.exe	Arcserve Discovery Service
4152-4	UDP	CASDiscovery	casdscsvc.exe	Arcserve Discovery Service
9000-9500	TCP		動的ポートを使用する他の Arcserve MS RPC サービス用	

Linux 用アプライアンスのサポート

LAN 環境を使用している場合、バックアップなどのジョブを行うには以下のポートが必要です。

ポート #	ポートの種類	起動元	受信機プロセス	説明
8017	TCP			NAT ポート リダイレクション。他の Linux ノードを Amazon S3 にバックアップするため、アプライアンス上の 8017 を Linux バックアップ サーバにリダイレクトします。
8018	TCP			NAT ポート リダイレクション。アプライアンス上の 8018 を Linux バックアップ サーバエージェントのポート 8014 にリダイレクトします。
8019	TCP			NAT ポート リダイレクション。アプライアンス上の 8019 を Linux バックアップ サーバの SSH ポート 22 にリダイレクトします。
8021	TCP			NAT ポート リダイレクション。8021 ポートを使用して他の Linux ノードをバックアップするため、アプライアンス上の 8021 を Linux バックアップ サーバにリダイレクトします。
8036	TCP			NAT ポート リダイレクション。アプライアンス上の 8036 を Linux バックアップ サーバのポート 8036 にリダイレクトします。
50000	TCP			NAT ポート リダイレクション。50000 ポートを使用して他の Linux ノードをクラウドにバックアップするため、アプライアンス上の 50000 を Linux バックアップ サーバにリダイレクトします。
50001	TCP			NAT ポート リダイレクション。50001 ポートを使用して他の Linux ノードをクラウドにバックアップするため、アプライアンス上の 50001 を Linux バックアップ サーバにリダイレクトします。
50002	TCP			NAT ポート リダイレクション。50002 ポートを使用して他の Linux ノードをクラウドにバックアップするため、アプライアンス上の 50002 を Linux バックアップ サーバにリダイレクトします。
50003	TCP			NAT ポート リダイレクション。50003 ポートを使用して他の Linux ノードをクラウドにバックアップするため、アプライアンス上の 50003 を Linux バックアップ サーバにリダイレクトします。
50004	TCP			NAT ポート リダイレクション。50004 ポートを使用して他の Linux ノードをクラウドにバックアップするため、アプライアンス上の 50004 を Linux バックアップ サーバにリダイレクトします。

第3章: Arcserve アプライアンス のインストール

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Arcserve Backup 19.0 をインストールする方法	66
8100-8200 シリーズ アプライアンスの設置方法	74
8300-8400 シリーズ アプライアンスの設置方法	75
9012-9048 シリーズ アプライアンスの設置方法	75
9072-9504DR シリーズ アプライアンスの設置方法	75
X シリーズ アプライアンスの設置方法	75

Arcserve Backup 19.0 をインストールする方法

Arcserve Backup 19.0 は、アプライアンスに事前インストールされていません。Arcserve Backup 19.0 をインストールするには、デスクトップにある InstallASBU.iso ファイルをマウントします。

以下の手順に従います。

1. デスクトップで InstallASBU.iso ファイルを見つけてマウントし、アプリケーションのセットアップに移動して、管理者としてセットアップを実行します。
製品 のインストール]ブラウザの右側の列で、[Arcserve Backup for Windows のインストール]をクリックします。
前提条件コンポーネント]ダイアログボックスが表示されます。
2. [インストール]をクリックして、前提条件コンポーネントをインストールします。
前提条件コンポーネント]ダイアログボックスは、ターゲットコンピュータにインストールされている Arcserve Backup 前提条件コンポーネントが検出されなかった場合にのみ表示されます。
注: クラスタ対応環境内のアクティブノードに Arcserve Backup をインストールする場合は、アクティブノードが再起動する間に、アクティブノードからパッシブノードにクラスタリソースが移動されます。アクティブノードが再起動したら、元のアクティブノードにクラスタリソースを移動する必要があります。
3. [使用許諾契約]ダイアログボックスで、使用許諾契約の条件に同意して[次へ]をクリックします。
4. 表示されるプロンプトに従って、ダイアログボックスに必要なすべての情報を記入します。

以下のリストは、Arcserve Backup のインストールに関するダイアログボックス固有の情報について説明しています。

インストール/アップグレードの種類を選択ダイアログボックス

リモートインストールオプションを選択すると、Arcserve Backup を複数のシステムにインストールできます。

リモートインストールでは、ターゲットのリモートシステムを異なる Arcserve サーバタイプ、異なる Arcserve Backup エージェントとオプション、またはその両方で構成することができます。

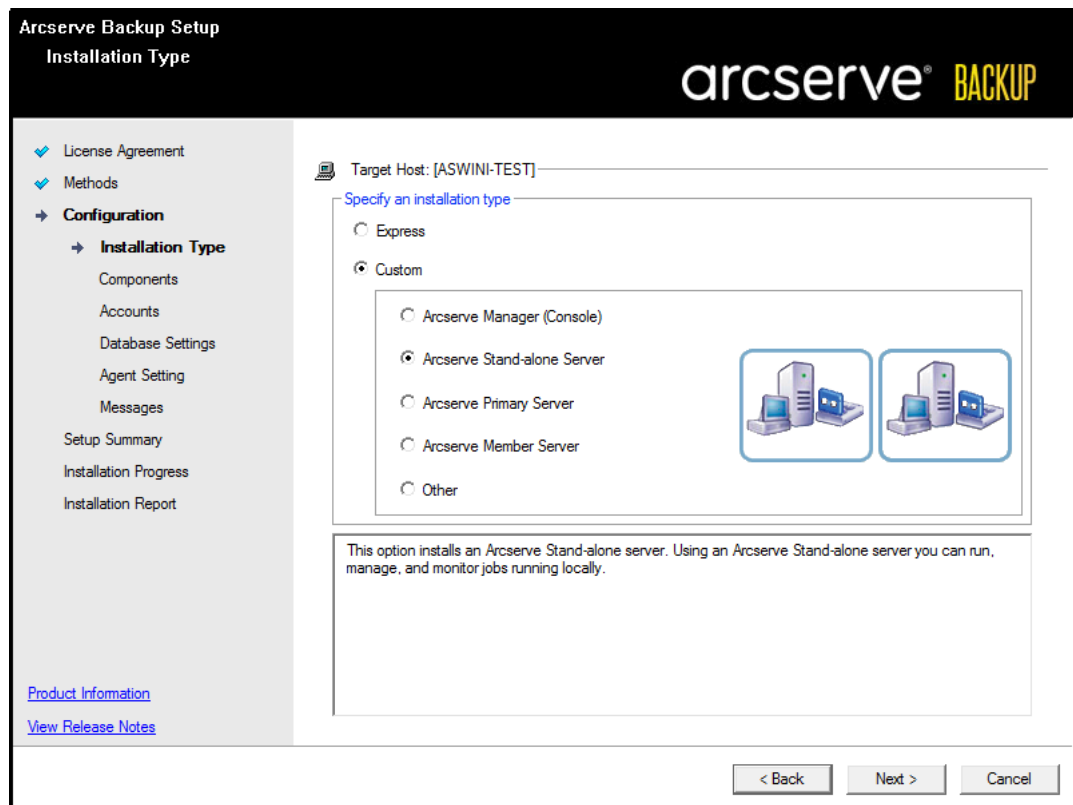
注: クラスタマシンのセットアッププログラムは Arcserve Backup ベース製品または Arcserve Backup エージェントのリモートインストールはサポートしていません。Arcserve Backup エージェント(たとえば Agent for Microsoft SQL Server または Agent for Microsoft Exchange Server) に関するこのリ

モート インストールの制限は、仮想ホストを使用している場合のみ当てはまります。クラスタの物理ホストを使用した Arcserve Backup エージェントのリモート インストールはサポートされています。

[インストールの種類]ダイアログ ボックス

インストールの種類として [高速] または [カスタム] を選択することによって、インストールする Arcserve Backup コンポーネントの種類を指定できます。

注: 以前のリリースからアップグレードする場合、インストールウィザードでは、現在の Arcserve 設定を検出し、新しいインストールに適切なインストール/アップグレードの種類を選択します。詳細については、「[Arcserve Backup サーバインストールのタイプ](#)」および「[Arcserve Backup サーバオプション](#)」を参照してください。



[コンポーネント]ダイアログ ボックス

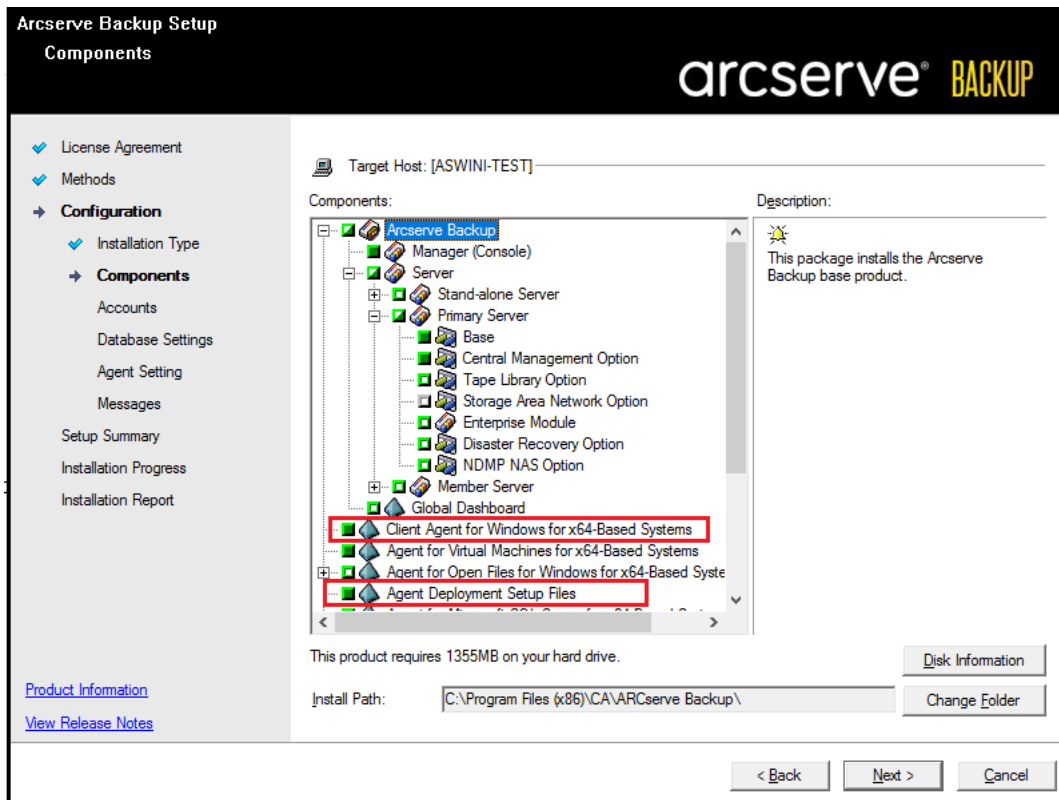
ターゲット システムにインストールする Arcserve Backup コンポーネントを指定できます。

以下の点に注意してください。

- ◆ プライマリ サーバをインストールするには、プライマリ サーバに Arcserve Backup Central Management Option をインストールする必要があります。

- ◆ メンバサーバをインストールするには、インストールウィザードがネットワーク内の Arcserve Backup ドメイン名とプライマリサーバ名を検出できる必要があります。したがって、メンバサーバインストールを実行する前に、少なくとも1つのプライマリサーバインストールを完了しておく必要があります。
- ◆ Arcserve Backup オブジェクトまたはサーバオブジェクトを **製品の種類** ダイアログボックスでクリックすると、インストールウィザードでは、**[インストール/アップグレードの種類]**ダイアログボックスで指定したインストールの種類に関係なく、デフォルトのスタンドアロンサーバインストールコンポーネントが指定されます。正しいコンポーネントをインストールするには、サーバオブジェクトを展開し、インストールする Arcserve Backup サーバのタイプのオブジェクトを展開して、インストールするコンポーネントに対応するチェックボックスをオンにします。
- ◆ Agent Deployment は、Arcserve Backup をインストールした後で、Arcserve Backup エージェントを複数のリモートシステムにインストールしてアップグレードできるウィザード形式のアプリケーションです。この機能をサポートするには、セットアッププログラムで Setup ソースファイルを Arcserve Backup サーバにコピーする必要があります。インストールメディアのコンテンツを Arcserve Backup サーバにコピーするには、**[コンポーネント]**ダイアログボックスで Agent Deployment を選択する必要があります。Agent Deployment を選択すると、Arcserve Backup のインストールまたはアップグレードに要する時間がかなり長くなります。
- ◆ リモートインストールまたはサイレントインストールを実行する場合、Arcserve Backup Client Agent for Windows を Arcserve Backup ベース製品と同じディレクトリにインストールしないでください。
- ◆ Global Dashboard はプライマリサーバ、スタンドアロンサーバおよびメンバサーバにインストールできます。ただし、メンバサーバをセントラルプライマリサーバおよびブランチプライマリサーバとして機能するように設定することはできません。セントラルプライマリサーバおよびブランチプライマリサーバの詳細については、「[Dashboard ユーザガイド](#)」を参照してください。
- ◆ Windows Server Core を実行するコンピュータでは、以下の Arcserve Backup 製品のみをインストールできます。
 - メンバサーバおよびサポートされるオプション
 - Agent for Open Files
 - Agent for Virtual Machines
 - Client Agent for Windows
 - Disaster Recovery Option

以下の図では、Client Agent for Windows のデフォルトのインストールパスが表示されていて、Agent Deployment が指定されています。



[アカウント] ダイアログ ボックス

Arcserve Backup アカウントを設定し、**[Arcserve Backup Web サービスのインストール]**を有効にするオプションを提供します。

セットアップ中に、クラスタ対応アプリケーションが環境内で実行されていることが検出された場合、Arcserve Backup をクラスタ対応環境にインストールするには、**[クラスタ環境インストール]**オプションを選択して Arcserve Backup をインストールする共有ディスクのパスを指定します。

注: Arcserve Backup サーバ名と Arcserve Backup ドメイン名は、15 バイト以内である必要があります。合計 15 バイトの名前は、およそ 7 ~ 15 文字に相当します。

Arcserve Backup Setup
Accounts
Specify the Arcserve Backup Domain you want to setup.

arcserve® BACKUP

Target Host: [ASWINI-TEST]

Specify a Windows administrative account

Microsoft Windows Domain: TEST

Microsoft Windows User Name: Administrator

Password:

Specify a Arcserve Backup domain account

Arcserve Backup Domain: TEST

Arcserve Backup Server: TEST

User Name: caroot

Password:

Confirm Password:

Remember password

Install Arcserve Backup Web Service

Web Service Settings

Port: 8020

< Back Next > Cancel

Arcserve Backup Web サービスは、UDP テープへのコピー タスクと Arcserve Backup の間のブリッジとして機能します。デフォルトでは、Arcserve Backup をインストールすると、**[Arcserve Backup Web サービスのインストール]**が有効になります。Web サービス設定のデフォルトのポート番号は 8020 です。このポート番号は変更できます。

[Arcserve Backup Web サービスのインストール]チェック ボックスをオフにして、Arcserve Backup Web サービスを無効にします。

Arcserve Backup のインストール後に **[Arcserve Backup Web サービスのインストール]**を有効化/変更できます。

注: Arcserve Backup Web サービスを Arcserve Backup ドメインのすべてのサーバにインストールする場合は、同じポート番号を指定します。Arcserve UDP は、同じポート番号を使用して、Arcserve Backup ドメインの Arcserve Backup プライマリサーバとメンバサーバの両方に接続します。

以下の手順に従います。

1. コマンドラインから Arcserve Backup ベース インストールパスに移動します。

2. コマンド プロンプトで、以下のコマンドを入力します。

Bconfig -c

[Arcserve Backup> アカウント]ダイアログ ボックスが表示されます。

3. Web サービスを設定または更新します。

データベースの設定]ダイアログ ボックス

Arcserve Backup データベースを設定できます。

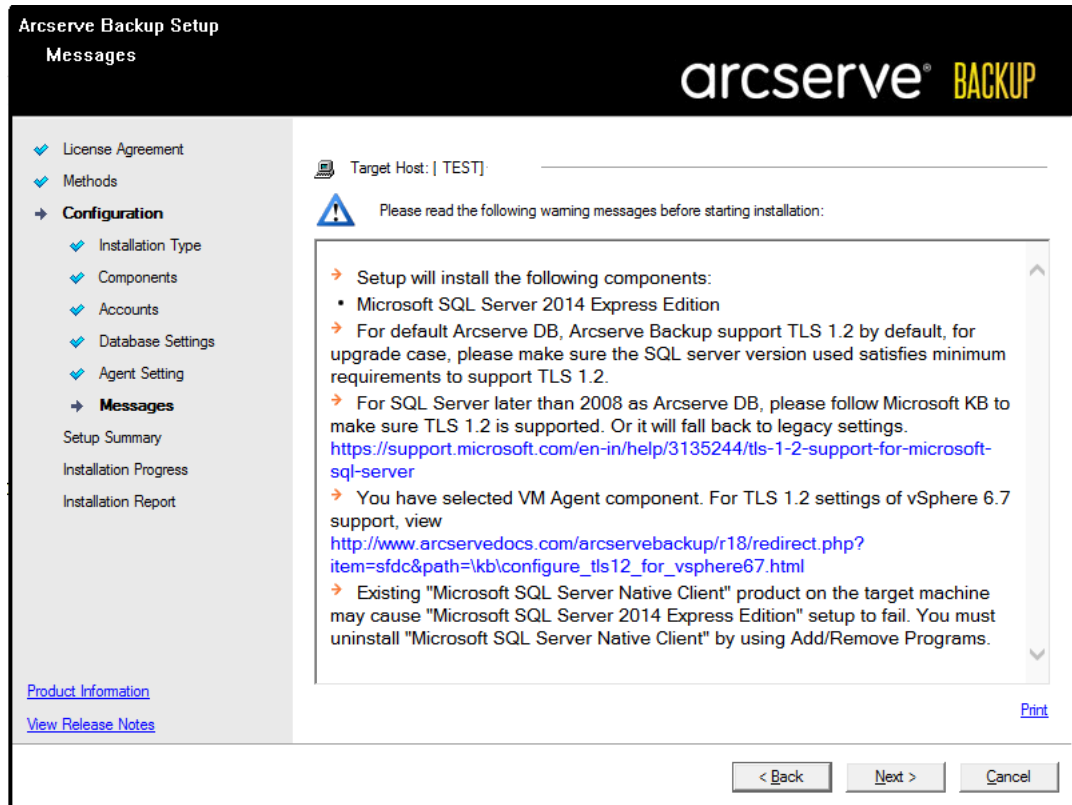
このダイアログ ボックスで、データベース アプリケーション(Arcserve Backup のデフォルト のデータベースまたは Microsoft SQL Server) を指定するか、必須フィールドの入力を完了した後、 [次へ] をクリックします。

注: Unicode ベースの東アジア言語文字 (JIS2004 など) を含むデータを保護する必要がある場合は、Arcserve Backup のデータ検索および並べ替えを可能にするために SQL 照合順序を有効にする必要があります。これを行うには、 [東アジア言語の照合順序] をクリックしてドロップダウン リストから言語を選択します。

[メッセージ]ダイアログ ボックス

[メッセージ]ダイアログ ボックスでメッセージを確認し、この時点で問題の解決を試みる必要があります。

以下は、[重要な警告メッセージ]ダイアログ ボックスを示しています。



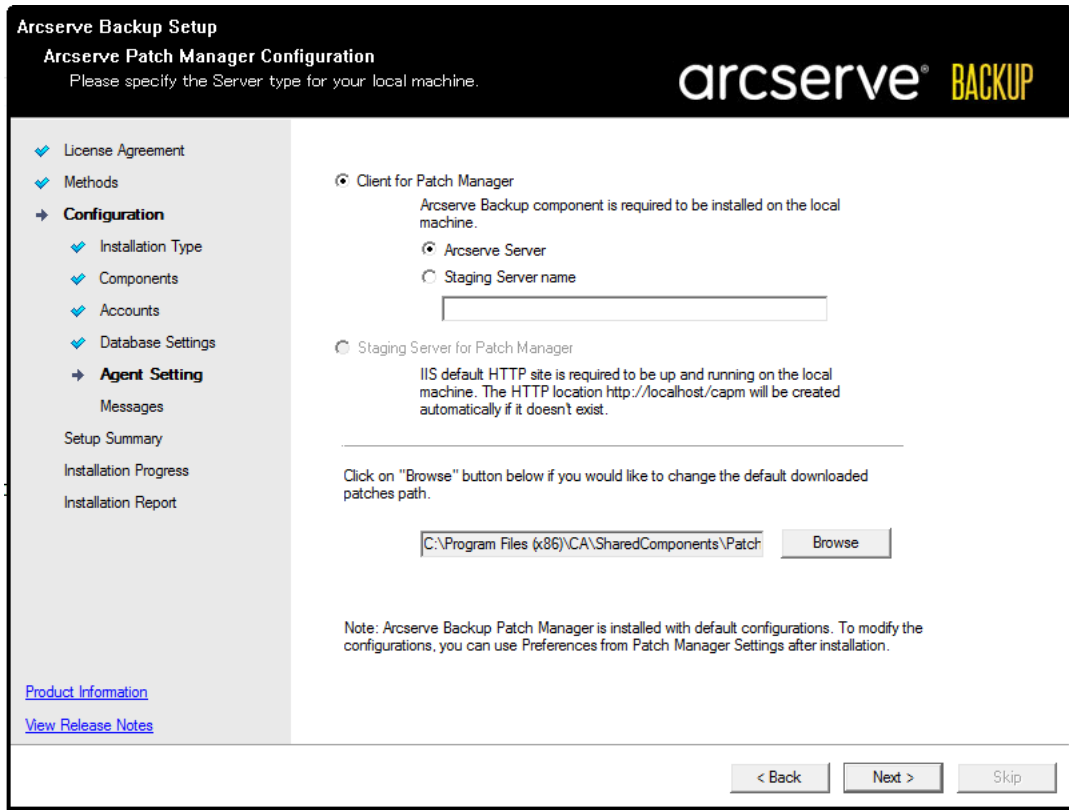
[セットアップ サマリ]ダイアログ ボックス

インストールするコンポーネントを変更するには、変更するインストールオプションが表示されているダイアログ ボックスに戻るまで [戻る] ボタンをクリックしてください。

[インストールレポート]ダイアログ ボックス

選択したコンポーネントで設定が必要な場合は、インストールの最後に設定ダイアログ ボックスが表示されます。すぐにコンポーネントを設定することも、後から [デバイス環境設定] または [Enterprise Module 環境設定] を使用して設定することもできます。たとえば、単一ドライブのオートローダを使用している場合は、セットアップで [インストール サマリ] ダイアログ ボックスでメッセージをダブルクリックすることで、該当する [デバイス環境設定] を起動するように指定することができます。

以下に、[インストールレポート]ダイアログ ボックスを示します。
Agent for Microsoft SQL Server で環境設定が必要とされています。



注： Arcserve Backup のインストール時に、サーバの再起動が必要になる場合があります。これは、すべてのファイル、サービス、およびレジストリの設定がオペレーティング システム レベルで更新されたかどうかによって決まります。

[インストール サマリ]ダイアログ ボックス

選択したコンポーネントで設定が必要な場合は、インストールの最後に設定ダイアログ ボックスが表示されます。すぐにコンポーネントを設定することも、後から [デバイス環境設定] または [Enterprise Module 環境設定] を使用して設定することもできます。たとえば、単一ドライブのオートローダを使用している場合は、セットアップで [インストール サマリ] ダイアログ ボックスでメッセージをダブルクリックすることで、該当する [デバイス環境設定] を起動するように指定することができます。

5. [インストール サマリ]ダイアログ ボックスで [完了] をクリックしてインストールを完了します。

8100-8200 シリーズ アプライアンスの設置方法

アプライアンスは、限られた領域のみに設置することを目的としています。初期設定およびメンテナンスは、専門の担当者が実行する必要があります。

完全な設置プロセスについては、「[8100-8200 のアプライアンスの設置](#)」を参照してください。

8300-8400 シリーズ アプライアンスの設置方法

アプライアンスは、限られた領域のみに設置することを目的としています。初期設定およびメンテナンスは、専門の担当者が実行する必要があります。

完全な設置プロセスについては、「[8300-8400 のアプライアンスの設置](#)」を参照してください。

9012-9048 シリーズ アプライアンスの設置方法

アプライアンスは、限られた領域のみに設置することを目的としています。初期設定およびメンテナンスは、専門の担当者が実行する必要があります。

完全な設置プロセスについては、「[9012-9048 のアプライアンスの設置](#)」を参照してください。

9072-9504DR シリーズ アプライアンスの設置方法

アプライアンスは、限られた領域のみに設置することを目的としています。初期設定およびメンテナンスは、専門の担当者が実行する必要があります。

完全な設置プロセスについては、「[9072-9504DR のアプライアンスの設置](#)」を参照してください。

X シリーズ アプライアンスの設置方法

アプライアンスは、限られた領域のみに設置することを目的としています。初期設定およびメンテナンスは、専門の担当者が実行する必要があります。

完全な設置プロセスについては、「[X シリーズ アプライアンスの設置 - コンピュート ノード](#)」および「[X シリーズ アプライアンスの設置 - ストレージ ノード](#)」を参照してください。

第4章: アプライアンス上の Arcserve UDP のアップグレード

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Arcserve ソフトウェアのアップグレード後にライセンスを適用する方法	77
Arcserve アプライアンスでのアップグレード シーケンス	78
UDP コンソール、RPS、エージェントのアップグレード シーケンス	84

Arcserve ソフトウェアのアップグレード後にライセンスを適用する方法

Arcserve UDP を 9.0 にアップグレードした後、または Arcserve Backup を 19.0 にアップグレードした後は、Arcserve アプライアンス アプライアンス上の元のライセンスキーは機能しません。Arcserve UDP 9.0 および Arcserve Backup 19.0 用の新しいライセンスキーを取得するには、営業担当者までお問い合わせください。

Arcserve UDP にライセンスキーを追加する方法の詳細については、「[Arcserve 製品ライセンスオンラインヘルプ](#)」を参照してください

Arcserve アプライアンス でのアップグレード シーケンス

Arcserve アプライアンス v8.1 から Arcserve UDP 9.0 へのアップグレードでは、以下のいずれかのシーケンスを伴う場合があります。

- Arcserve UDP のアップグレード
 - ◆ [Arcserve アプライアンスを Arcserve コンソールおよび RPS として使用する場合のアップグレード](#)
 - ◆ [Arcserve アプライアンスを Arcserve UDP RPS として使用する場合のアップグレード](#)
 - ◆ [複数の Arcserve アプライアンスが環境で使用されている場合のアップグレード手順](#)
- [Arcserve アプライアンスでの Arcserve UDP Linux エージェントのアップグレード](#)
- [Arcserve アプライアンス上の Arcserve Backup のアップグレード](#)
- [UDP コンソール、RPS、エージェントのアップグレード シーケンス](#)

Arcserve アプライアンスを Arcserve UDP コンソールおよび RPS として使用した場合のアップグレード

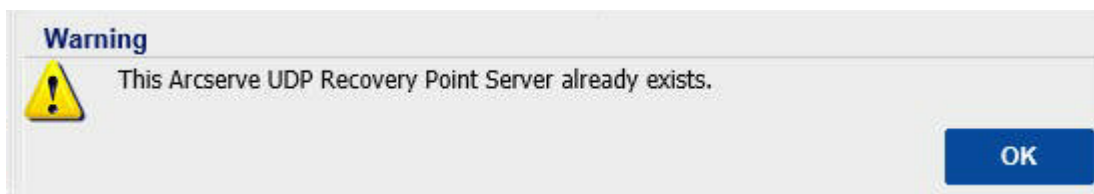
Arcserve アプライアンスをアップグレードした後、「[アップグレード シーケンス](#)」に説明されている手順に従って環境をアップグレードします。

Arcserve アプライアンス を Arcserve UDP RPS として使用した場合のアップグレード

実稼働環境全体をアップグレードします。詳細については、「[アップグレード シーケンス](#)」を参照してください。

複数の Arcserve アプライアンスが環境で使用されている場合のアップグレード手順

- 実稼働環境全体をアップグレードします。詳細については、「[アップグレード シーケンス](#)」を参照してください。
- アップグレード後、Arcserve UDP コンソールからアプライアンスを RPS として追加するときに以下のような警告が表示される場合は、「[トラブルシューティング](#)」の「[別のアプライアンスから Arcserve アプライアンスをバックアップすると重複ノードが報告される](#)」トピックを参照してください。



Arcserve アプライアンス 上の Arcserve UDP Linux エージェントのアップグレード

以下の手順に従います。

1. Linux バックアップ サーバ環境を管理する Arcserve UDP コンソールをアップグレードします。
2. Arcserve アプライアンス 上の Linux バックアップ サーバをアップグレードします。

詳細については、「[Arcserve Unified Data Protection Agent: for Linux オンライン ヘルプ](#)」を参照してください。

Arcserve アプライアンスに搭載された Arcserve Backup のアップグレード

Arcserve アプライアンスでアップグレードを実行するには、「[Arcserve Backup 実装ガイド](#)」を参照してください。

UDP コンソール、RPS、エージェントのアップグレード シーケンス

後方互換性サポート ポリシーに基づいて、以下の順序でアップグレードを計画し、アップグレードが円滑に行われるようにします。

1. Arcserve UDP コンソールをアップグレードします。
2. Arcserve UDP RPS (DR サイト) をアップグレードします。
3. Arcserve UDP RPS (データ センター) をアップグレードします。
4. Arcserve UDP エージェントレス プロキシ、データ センター内の一部エージェントをアップグレードします。
5. Arcserve UDP RPS (リモート サイト) をアップグレードします。
6. Arcserve UDP エージェントレス プロキシ、リモート サイトの一部エージェントをアップグレードします。

注: リモート サイトごとに、手順 5 と 6 を繰り返します。

7. Arcserve UDP 仮想スタンバイ モニタをアップグレードします。

注: レプリケーションの後方互換性サポート ポリシーに従って、常にソース RPS の前にターゲット RPS をアップグレードしてください。

第5章: Arcserve アプライアンス の設定

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Arcserve アプライアンス 向けのネットワーク設定を構成する方法	86
Arcserve アプライアンス を設定する方法	90
Arcserve アプライアンス をゲートウェイとして設定する方法	99

Arcserve アプライアンス 向けのネットワーク設定を構成する方法

Arcserve アプライアンスを管理するには、まずアプライアンスをネットワーク内に含めます。そのためには、ホスト名をアプライアンスに割り当て、ネットワークポートを設定する必要があります。

以下の手順に従います。

1. アプライアンスの電源をオンにした後、Microsoft ライセンス条項に対する設定画面が表示されます。条件を確認して、同意します。

UDP の [エンド ユーザ使用許諾契約] ダイアログ ボックスが表示されます。

2. 使用許諾契約の内容を確認して同意し、[次へ]をクリックします。

[Arcserve アプライアンス 環境設定 ツールへようこそ]画面が表示されます。

3. 以下の詳細を入力します。

ホスト名

アプライアンスのホスト名を入力します。名前を割り当てると、ネットワーク上でアプライアンスを識別するのに役立ちます。


この Arcserve アプライアンス をドメインに追加します。

アプライアンスをネットワーク内のドメインメンバにするには、チェックボックスをオンにします。このオプションを選択すると表示される [ドメイン]、[ユーザ名]、および [パスワード] フィールドに値を指定します。

Welcome to the Arcserve® Appliance Configuration Tool

This tool will allow you to connect your Arcserve Appliance to the LAN so that further configuration can be performed on the web-based console UI.

Assign a hostname to the Appliance. This will be used to identify the Appliance on your local network. Optionally, you may add the Appliance to a Domain.

 A new hostname will require a reboot to take effect. You may configure the other settings on the configuration screen before rebooting the Appliance.

Hostname

Add this Arcserve Appliance to a domain

Save

注: 新しいホスト名を適用するには、アプライアンスを再起動する必要があります。アプライアンスを今すぐ再起動するか、またはネットワーク設定後に再起動するかを選択できます。アプライアンスを再起動すると、他の任意のマシンから URL - `https://<hostname>:8015` を使用して、アプライアンスにアクセスすることができます。

4. **保存** をクリックします。

以下のダイアログボックスが表示されます。デフォルトでは、Arcserve UDP はネットワーク内のすべてのネットワーク接続を検出します。一部の接続が割り当てられていない場合は、手動で編集し、接続の詳細を指定します。

Connection Name	IP Address	Description	
SLOT 3 Port 1 Not Connected	None Assigned Automatic via DHCP	Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet	Edit
SLOT 3 Port 2 Not Connected	None Assigned Automatic via DHCP	Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #2	Edit
SLOT 3 Port 3 Not Connected	None Assigned Automatic via DHCP	Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #3	Edit
SLOT 3 Port 4 Not Connected	None Assigned Automatic via DHCP	Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #4	Edit
NIC1 Connected	10.57.25.39 Automatic via DHCP	Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #5	Edit

5. ネットワーク接続を編集するには、[ネットワーク接続]ボックスで **編集** をクリックします。

[ネットワーク接続]ダイアログボックスが表示されます。

NIC1

Status ✔ Connected

Description Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #5

Connection Use DHCP to obtain IP address automatically.

IP Address . . .

Subnet Mask . . .

Default Gateway . . .

Obtain DNS server address automatically.

Preferred DNS Server . . .

Alternate DNS Server . . .

Save **Cancel**

6. IP アドレス、サブネット マスク、デフォルト ゲートウェイの値を必要に応じて変更し、**[保存]**をクリックします。

注: 必要に応じて、ホスト名、ドメイン、日付と時刻を変更することもできます。

重要: コマンド プロンプトで *acrun.bat* などのスクリプトが実行されているかどうかを確認します。再起動を行う前に、このスクリプトが完了するまで必ず待機してください。

7. 変更を適用するには、**[アプライアンスの再起動]**をクリックしてアプライアンスを再起動します。

アプライアンスが新しいホスト名で再起動されます。再起動すると、**[ログイン]**画面が表示されます。

8. ユーザ名とパスワードを入力して、**Enter** キーを押します。

[Arcserve アプライアンス 環境設定]画面が表示されます。

9. アプライアンスの環境設定画面が再度開いたら、**[ウィザードの起動]**をクリックします。

arcserve Appliance Configuration [About the Appliance](#)

Click Launch Wizard to continue configuring your appliance with the Arcserve UDP Plan Configuration Wizard.

Launch Wizard

Hostname/Domain: appliance (not assigned)

UDP Console URL: <https://appliance:8015>

Date and Time: 1/25/2019 12:04:48 AM **Edit**

Network Connections

Connection Name	IP Address	Description	
SLOT 3 Port 1 Not Connected	None Assigned Automatic via DHCP	Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet	Edit
SLOT 3 Port 2 Not Connected	None Assigned Automatic via DHCP	Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #2	Edit
SLOT 3 Port 3 Not Connected	None Assigned Automatic via DHCP	Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #3	Edit
SLOT 3 Port 4 Not Connected	None Assigned Automatic via DHCP	Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #4	Edit
NIC1 Connected	10.57.25.39 Automatic via DHCP	Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #5	Edit

Arcserve アプライアンスを設定する方法

アプライアンスが新しいホスト名で再起動されると、Unified Data Protection ウィザードが表示されます。ウィザードを使用して、バックアップをスケジュールするための基本プランを作成できます。このプランでは、保護するノードを定義し、バックアップを実行するタイミングをスケジュールできます。バックアップ先は、アプライアンスサーバです。

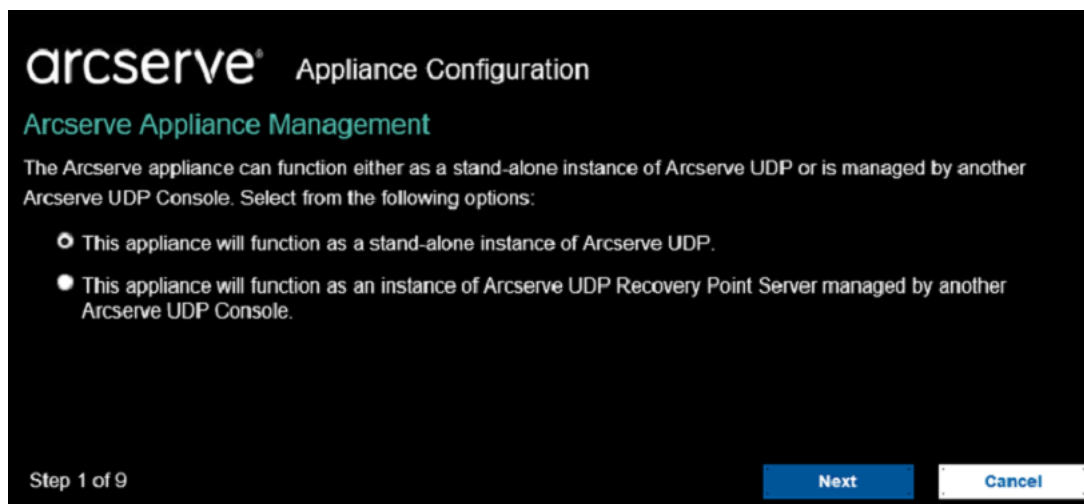
注：アプライアンスがドメインで設定されている場合、ドメインユーザはアプライアンスウィザードを設定できないため、管理者ログインを使用してアプライアンスウィザードの設定を完了します。

Arcserve アプライアンス設定ウィザードのすべての手順はオプションです。[キャンセル]をクリックしてスキップし、直接 UDP コンソールを開いてプランを作成することもできます。

以下の手順に従います。

1. Arcserve UDP コンソールにログインします。

Unified Data Protection ウィザードが最初に関き、[Arcserve アプライアンス管理]ダイアログボックスが表示されます。UDP コンソールは、スタンドアロンのインスタンスとして管理できます。または別の UDP コンソールからリモートで管理できます。リモートコンソール管理機能は、複数の UDP コンソールを管理している場合に便利です。




2. アプライアンスをローカルで管理するか(デフォルト)、別の UDP コンソールから管理するかを選択します。アプライアンスが別の UDP コンソールから管理されている場合、UDP コンソールの URL、ユーザ名、パスワードを指定します。
3. [次へ]をクリックします。

[データストア]ダイアログボックスが表示されます。データストアは、アプライアンス上の物理ストレージ領域で、バックアップ先として使用されます。

デフォルトでは、Arcserve UDP は <hostname>_data_store という名前でデータストアを作成します。このデータストアは、デデュPLICATIONおよび暗号化に対応しています。デデュPLICATIONおよび暗号化の詳細については、「Arcserve UDP ソリューションガイド」の「[データ デデュPLICATION](#)」を参照してください。

注：データストアは暗号化されるため、暗号化パスワードを指定する必要があります。

The screenshot shows the 'Data Stores' configuration window in the Arcserve Appliance Configuration tool. The window title is 'arcserve® Appliance Configuration' and the subtitle is 'Data Stores'. Below the subtitle, it states: 'Your data store configuration is shown below. More data stores can be added from the Arcserve UDP Console.' The main configuration area is titled 'appliance_data_store' and contains a table of settings:

 Total Capacity 14.33 TB	Compression	Standard
	Deduplication	Enabled
	Encryption	Enabled
	Password	<input type="password"/>
	Confirm Password	<input type="password"/>

At the bottom of the window, it says 'Step 2 of 9' and has three buttons: 'Previous', 'Next', and 'Cancel'.

4. このデータストアに対する暗号化パスワードを入力し、確認します。
5. [次へ]をクリックします。

[電子メールとアラート]ダイアログボックスが表示されます。アラートを送信するために使用される電子メールサーバと、アラートを受け取る受信者を定義できます。成功したジョブ、失敗したジョブ、またはその両方に基づいてアラートを取得するオプションを選択できます。

arcserve® Appliance Configuration

Email and Alert

Configure email notification settings and the types of alert notifications that you want to receive.

Enable email notifications.

Service: Other

Email Server: [Text Box]

Port: 25

Email service requires authentication.

Subject: Arcserve Unified Data Protection Alert

From: [Text Box]

Recipients: Separate email addresses with ;

Options:

- Use SSL
- Send STARTTLS
- Use HTML format

Connect using a proxy server

Proxy Settings

Send a Test Email

Send Alerts For: Successful Jobs

Step 3 of 9

Previous Next Cancel

6. 以下の電子メールとアラートの詳細を指定します。

サービス

Google メール、Yahoo メール、Live メール、などの電子メールサービスを指定します。

電子メールサーバ

電子メールサーバのアドレスを指定します。たとえば、Google サーバ電子メールの場合は smtp.gmail.com を指定します。

ポート

電子メールサーバのポート番号を指定します。

認証が必要

電子メールサーバに認証が必要かどうかを指定します。認証が必要な場合は、認証用のアカウント名とパスワードを指定します。

件名

受信者に送信される電子メールの件名を指定します。

送信者

送信者の電子メールIDを指定します。受信者はこの送信者からメールを受信します。

受信者

アラートを受信する受信者を指定します。複数の受信者がいる場合はセミコロン(;)で区切ることができます。

オプション

通信チャネルに使用する暗号化方式を指定します。

プロキシサーバを使用して接続する

プロキシサーバ経由で電子メールサーバに接続している場合は、プロキシサーバのユーザ名とポート番号を指定します。また、プロキシサーバで認証が必要な場合は、ユーザ名とパスワードを指定します。

テスト電子メールを送信

テストメールを受信者に送信します。テストメールを送信することによって、詳細を確認できます。

7. [次へ](#)をクリックします。

8. [リモート RPS にレプリケート] ダイアログ ボックスが表示されます。

The screenshot shows the 'Arcserve Appliance Configuration' window, specifically the 'Replication to Remote RPS' section. The title bar reads 'arcserve Appliance Configuration'. Below the title, the section is titled 'Replication to Remote RPS' in green. A subtitle states: 'Configure the settings below if you want to replicate to a remotely-managed Recovery Point Server destination.' There are two radio button options: the first is selected and reads 'This appliance will replicate to a remotely-managed RPS.', followed by three input fields for 'Arcserve UDP Console URL', 'Username', and 'Password'. Below these is a checkbox for 'Connect using a proxy server.' with a 'Proxy Settings' button next to it. The second radio button option is 'This appliance will not replicate to a remotely-managed RPS.' At the bottom left, it says 'Step 4 of 9'. At the bottom right, there are three buttons: 'Previous', 'Next', and 'Cancel'.

9. アプライアンスで、リモートで管理された復旧ポイントサーバ(RPS)にレプリケートするようにするには、以下の詳細を指定します。リモートで管理された RPS の詳細については、「Arcserve UDP ソリューションガイド」を参照してください。

Arcserve UDP コンソールの URL

リモートの Arcserve UDP コンソールの URL を指定します。

ユーザ名 およびパスワード

リモート コンソールに接続するために使用されるユーザ名とパスワードを指定します。

プロキシ サーバを使用して接続する

リモート コンソールがプロキシ サーバの背後にある場合は、プロキシ サーバの詳細を指定します。

10. アプライアンスで、リモートで管理された RPS にレプリケートしないようにするには、**[このアプライアンスはリモートで管理された RPS にレプリケートしません]** オプションを選択します。
11. **[次へ]**をクリックします。

[プランの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。基本プランを作成し、保護するノードおよびバックアップのスケジュールを指定できます。

注: ウィザードを使用して基本プランを作成しない場合は、以下の手順を実行します。

- a. [プラン作成をスキップ]をクリックします。
[次の手順]ダイアログボックスが表示されます。
 - b. [完了]をクリックし、UDP コンソールを開いてプランを作成します。
12. プランを作成するために以下の詳細を指定します。

プラン名

プランの名前を指定します。プラン名を指定しない場合は、デフォルトの名前として「保護プラン <n>」が割り当てられます。

セッションパスワード

セッションパスワードを指定します。セッションパスワードは、データのリストア時に必要となるため重要です。

ノードをプランにどのように追加しますか?

ノードをプランに追加する方法を指定します。以下の方法から1つを選択します。

◆ [ホスト名/IP アドレス](#)

ノードのホスト名またはIPアドレスを使用してノードを手動で追加する方法を示します。必要な数だけノードを追加できます。

◆ [Active Directory からのノードのディスカバリ](#)

Active Directory 内にあるノードを追加する方法を示します。Active Directory の詳細情報を使用してノードを検出してから、ノードを追加できます。

◆ [vCenter/ESX Server からインポート](#)

ESX または vCenter Server から仮想マシンノードをインポートする方法を示します。このオプションでは、指定されたホスト名または IP アドレス上で検出されたすべての仮想マシンがリスト表示されます。

◆ [Hyper-V Server からインポート](#)

Microsoft Hyper-V サーバから仮想マシンノードをインポートする方法を示します。

方法を選択したら、各ダイアログボックスで詳細を指定します。

13. ノードがプランに追加されたら、**[次へ]**をクリックします。

[バックアップスケジュール]ダイアログボックスが表示されます。

arcserve® Appliance Configuration

Backup Schedule

Enter criteria for the plan backup schedule.

Install/upgrade and reboot on at :

Run Incremental Backup daily at :

Schedule Summary (Based upon your selections)

On Friday at 9:00 PM, the latest version of the Arcserve UDP Agent will be installed on any source node that does not have the latest version already installed.
Agent installation will not occur on nodes imported from Hyper-v or vCenter/ESX.

On Friday at 10:00 PM, the first Full Backup will be performed.
On every day after the installation/upgrade is completed, at 10:00 PM an Incremental Backup will be performed.

Step 7 of 9

14. 以下のスケジュールを入力します。

- **Arcserve UDP エージェントのインストールまたはアップグレードのスケジュール:** エージェントがインストールされていないソースノードに、Arcserve UDP エージェントの最新バージョンがインストールされます。以前のエージェントのインストールは、最新のバージョンにアップグレードさ

れます。

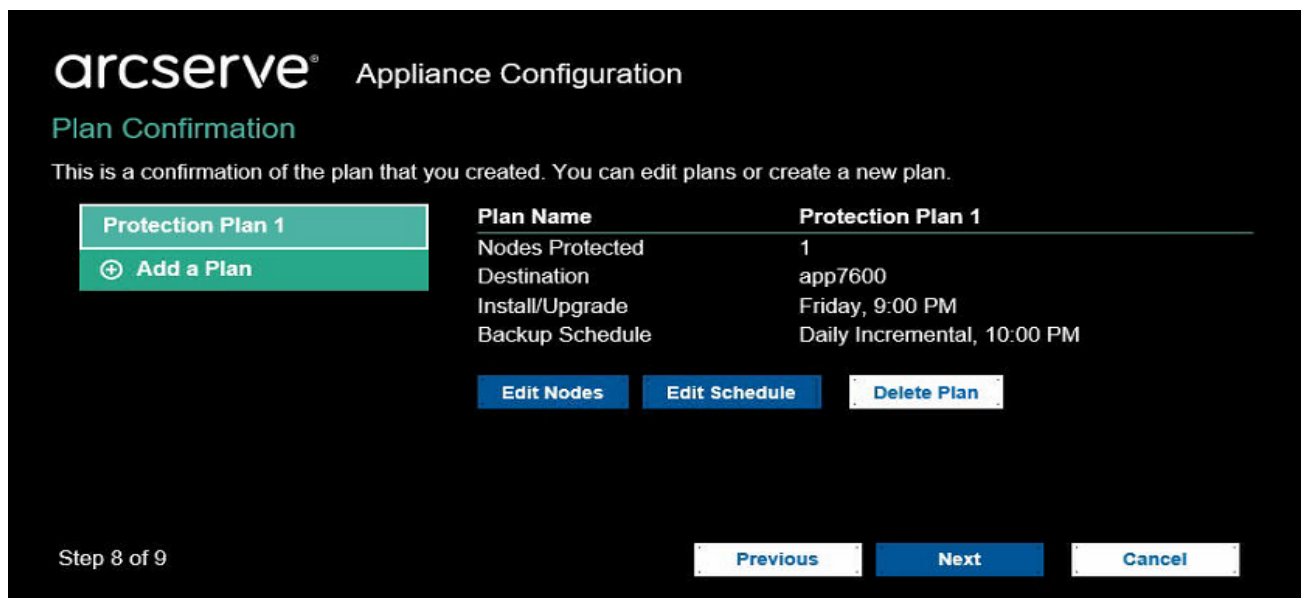
- **増分バックアップスケジュール:** 初めての場合はフルバックアップが実行され、その後は増分バックアップが実行されます。

注: インストール/アップグレードの時刻より前にバックアップの時刻がスケジュールされている場合、バックアップは自動的に次の日にスケジュールされます。たとえば、エージェントのインストールを金曜日の午後 9 時にスケジュールし、バックアップを午後 8 時にスケジュールした場合、バックアップは土曜日の午後 8 時に実行されます。

- **プランの作成をキャンセル:** 作成したプランをキャンセルするには、**[プランの作成をキャンセル]**をクリックします。

15. **[次へ]**をクリックします。

[プランの確認]ダイアログボックスが開きます。



16. ダイアログボックスで、プランの詳細を確認します。必要に応じて、**[ノードの編集]**または**[スケジュールの編集]**をクリックしてノードまたはスケジュールを編集するか、プランを追加または削除できます。

ノードの編集

保護するソースノードを変更します。

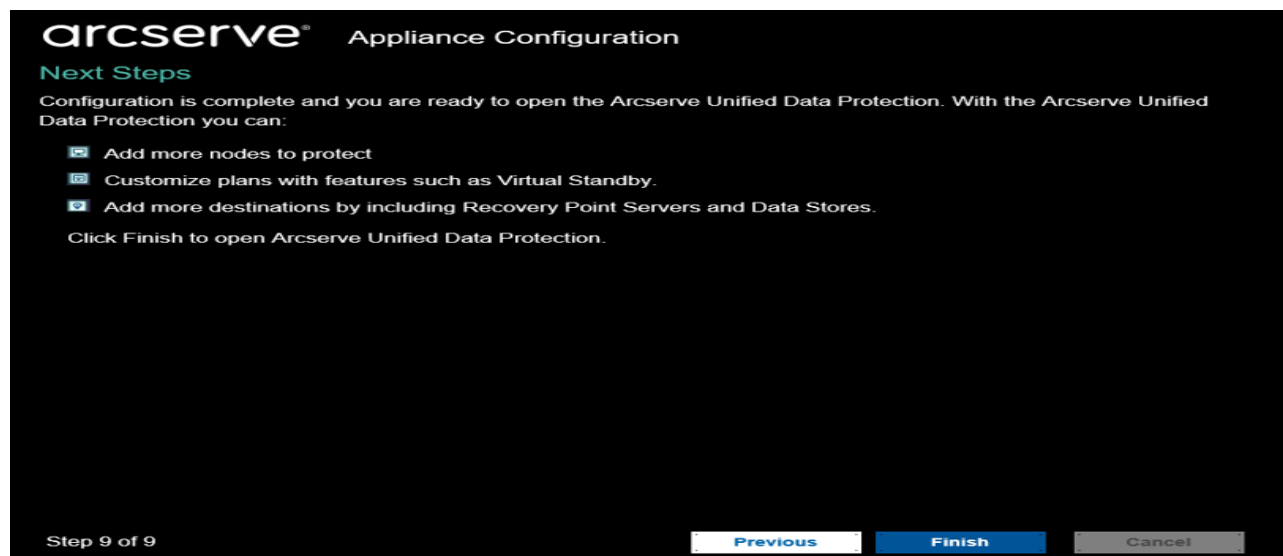
スケジュールの編集

バックアップスケジュールを変更します。

17. プランを検証したら、**[次へ]**をクリックします。

[次の手順]ダイアログボックスが表示されます。

環境設定が正常に終了し、Arcserve UDP コンソールで作業する準備が整いました。保護するノードをさらに追加し、仮想スタンバイなどの機能でプランをカスタマイズし、復旧ポイント サーバおよびデータストアを含めることによってデスティネーションを追加することができます。



18. [完了]をクリックしてウィザードを終了し、Arcserve UDP コンソールを開きます。

注：ドメインの認証情報を使用して UDP コンソールにログインするには、「[ドメインユーザへの管理者権限および役割の割り当て](#)」を参照してください。

Arcserve アプライアンスをゲートウェイとして設定する方法

Arcserve アプライアンスをゲートウェイとして設定することができます。

以下の手順に従います。

1. Arcserve アプライアンスから Arcserve UDP コンソールをアンインストールします。
2. Arcserve UDPコンソールから [リソース]タブをクリックします。
3. Arcserve UDP コンソールの左ペインで、[インフラストラクチャ]に移動して、[サイト]をクリックします。
4. [サイトの追加]をクリックします。
5. [サイトの追加]ウィザードの手順に従って、Arcserve UDP リモート管理ゲートウェイを Arcserve アプライアンスにインストールします。

注: Arcserve アプライアンスに Arcserve UDP リモート管理ゲートウェイをインストールした後に、Arcserve アプライアンスウィザードで [ウィザードの起動]をクリックしても、Arcserve UDP コンソールは起動しません。Arcserve UDP コンソールにアクセスするには、コンソールの URL を直接入力します。Arcserve UDP

第6章: Arcserve アプライアンスでの操作

Arcserve アプライアンスを使用して、Windows、Linux、および仮想マシン用のバックアッププランを作成できます。テープデバイスにデータを書き込み、仮想スタンバイマシンを作成することもできます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

アプライアンス上の Arcserve 製品 のアクティブ化	101
Arcserve アプライアンス ウィザードを使用したプランの作成	102
プランへのノードの追加	103
Linux ノード用のバックアッププランの作成	113
テープデバイスへのバックアッププランの作成	114
アプライアンス上仮想スタンバイプランの作成	115
Linux バックアップ サーバのバックアッププランの作成	116
ローカルアプライアンス Hyper-V に対して Linux インスタント VM ジョブを実行するための設定	120
ConsoleMigration.exe を使用した Arcserve UDP コンソールの移行	121
Arcserve アプライアンス間の移行	123
プレインストールされた Linux バックアップ サーバの入力ソースの変更	132

アプライアンス上の Arcserve 製品のアクティブ化

アプライアンス上で Arcserve 製品をアクティブ化する場合は、「[Arcserve 製品ライセンス オンライン ヘルプ](#)」を参照してください。

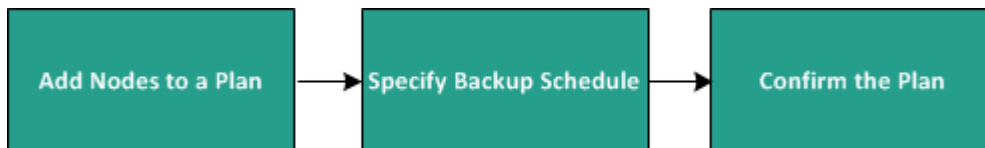
Arcserve アプライアンス ウィザードを使用したプランの作成

プランは、バックアップするノードおよびバックアップするタイミングを定義する手順の集合です。Arcserve アプライアンスでは、基本プランを作成することができます。Arcserve ウィザードを使用したプランの作成には、以下の3つのステップがあります。

1. 保護するノードを追加します。

Windows ノードまたは仮想マシンを vCenter/ESX または Hyper-V サーバから選択できます。

2. バックアップ スケジュールを定義します。
3. プランをチェックして確認します。



基本的なプランに加えて、Arcserve UDP では、UDP コンソールから複雑なプランを作成して多くのパラメータを制御することができます。UDP コンソールから複雑なプランを作成するには、「Arcserve UDP ソリューション ガイド」を参照してください。

プランへのノードの追加

さまざまなノードを保護するためのプランを作成することができます。ノードを保護するには、ノードをプランに追加する必要があります。Arcserve アプライアンスウィザードからノードを追加できます。ウィザードでは、以下の方法を使用してノードを追加できます。

- ノードの IP アドレスまたはホスト名を手動で入力
([ホスト名/IP アドレスによるノードの追加](#))
- Active Directory からのノードのディスカバリ
([Active Directory によるノードの追加](#))
- VMware ESX/vCenter Server から仮想マシンノードをインポート
([vCenter/ESX ノードの追加](#))
- Microsoft Hyper-V サーバから仮想マシンノードをインポート
([Hyper-V ノードの追加](#))

ホスト名/IP アドレスによるノードの追加

ノードをプランに追加するために IP アドレスまたはホスト名を手動で入力することができます。追加するノード数が少ない場合はこの方法を使用しますが、複数のノードを 1 つずつ追加できます。Arcserve Unified Data Protection Agent for Windows はこれらのノードにインストールされます。

以下の手順に従います。

1. [ホスト名/IP アドレスによるノードの追加] ダイアログボックスで、以下の詳細を入力します。

The screenshot shows the 'arcserve Appliance Configuration' window, specifically the 'Add Nodes by Hostname/IP address' step. The window has a dark theme. At the top left is the 'arcserve' logo and 'Appliance Configuration'. Below it is the title 'Add Nodes by Hostname/IP address' and a link 'About Adding Nodes'. The main instruction says: 'Enter the hostname/IP address information for the selected Windows nodes, to add to the plan.' There are four input fields: 'Hostname/IP Address', 'Username', 'Password', and 'Description'. Below these fields is an 'Add to List' button. On the right side, there is a 'Nodes Protected by Plan' panel with a 'Node Name' field and a 'Remove' button. At the bottom left is a 'Cancel Plan Creation' button. At the bottom right are 'Previous', 'Next', and 'Cancel' buttons. The bottom left corner indicates 'Step 6 of 9'.

ホスト名/IP アドレス

ソースノードのホスト名または IP アドレスを指定します。

ユーザ名

管理者権限を持つノードのユーザ名を指定します。

パスワード

ユーザパスワードを指定します。

説明

ノードを特定する説明を指定します。

プラン作成のキャンセル

作成したプランをキャンセルします。

2. **「リストに追加」**をクリックします。

ノードが右ペインに追加されます。さらにノードを追加するには、これらの手順を繰り返します。追加されたすべてのノードは、右ペインにリスト表示されます。

3. (オプション) 追加したノードを右ペインのリストから削除するには、目的のノードを選択して **「削除」**をクリックします。
4. **「次へ」**をクリックします。

ノードがプランに追加されます。

Active Directory によるノードの追加

Active Directory にノードを追加するには、Active Directory の詳細を指定し、ノードを検出して、プランにノードを追加します。

以下の手順に従います。

1. 「Active Directory によるノードの追加」ダイアログボックスで、以下の詳細を入力します。

ユーザ名

<ドメイン>\<ユーザ名> の形式でドメインおよびユーザ名を指定します。

パスワード

ユーザパスワードを指定します。

コンピュータ名フィルタ

ノード名のディスカバリに使用するフィルタを指定します。

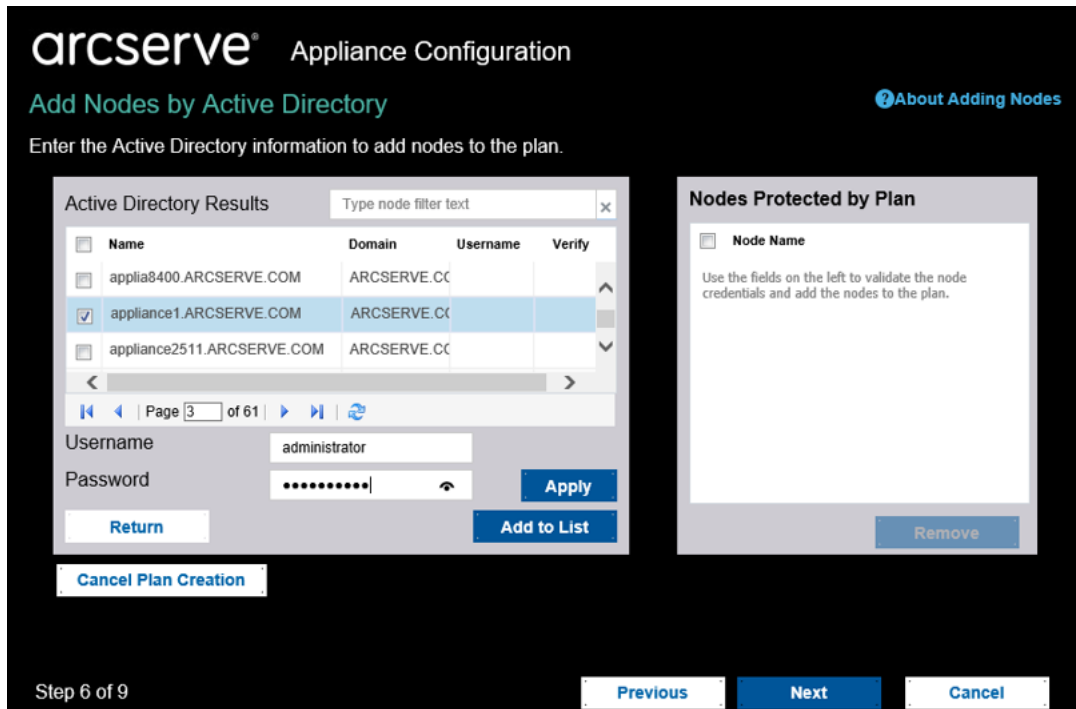
プラン作成のキャンセル

作成したプランをキャンセルします。

The screenshot shows the 'Add Nodes by Active Directory' dialog in the Arcserve Appliance Configuration tool. It includes the following elements:

- Username:** Input field with placeholder text 'domain\username'.
- Password:** Input field.
- Computer Name Filter:** Input field with an asterisk '*'.
- Browse:** Button to browse for nodes.
- Nodes Protected by Plan:** A section with a checkbox for 'Node Name' and a 'Remove' button. Below it, text reads: 'Use the fields on the left to validate the node credentials and add the nodes to the plan.'
- Cancel Plan Creation:** A button to cancel the plan creation process.
- Navigation:** 'Step 6 of 9' indicator, 'Previous', 'Next', and 'Cancel' buttons at the bottom.

2. 「参照」をクリックします。
検出されたノードが表示されます。



ノードを追加するには、ノードを選択して確認します。

3. 検証するには、ノードを選択し、ユーザ名およびパスワードを入力して **適用**]をクリックします。

認証情報が検証されました。検証済みノードには、緑色のチェックマークが付いています。ノードの検証が失敗した場合、認証情報を再入力して **適用**]を再度クリックします。

注：ノードをリストに追加する前に各ノードを検証する必要があります。

4. **リストに追加**]をクリックします。
選択したノードが右ペインに追加されます。
5. (オプション) ノードを右ペインから削除するには、ノードを選択して **削除**]をクリックします。
6. **次へ**]をクリックします。
ノードがプランに追加されます。

vCenter/ESX ノードの追加

仮想マシンノードをVMware vCenter/ESX Server に追加できます。これらのノードを追加するには、vCenter/ESX Server からのノードを検出およびインポートする必要があります。

以下の手順に従います。

1. [vCenter/ESX によるノードの追加]ダイアログボックスで、以下のvCenter/ESX Server の詳細を指定します。

ホスト名/IP アドレス

vCenter/ESX Server のホスト名または IP アドレスを指定します。

ポート

使用するポート番号を指定します。

プロトコル

使用するプロトコルを指定します。

ユーザ名

サーバのユーザ名を指定します。

パスワード

ユーザパスワードを指定します。

プラン作成のキャンセル

作成したプランをキャンセルします。

The screenshot shows the 'arcserve® Appliance Configuration' interface. The main heading is 'Add Nodes by vCenter/ESX' with a link for '? About Adding Nodes'. Below this, there is a prompt: 'Enter the vCenter/ESX information to add nodes to the plan.' The form includes fields for 'Hostname/IP Address', 'Port' (set to 443), 'Protocol' (set to HTTPS), 'Username' (set to root), and 'Password'. A 'Connect' button is positioned below the password field. To the right, a 'Nodes Protected by Plan' window is open, showing a 'Node Name' field and a 'Remove' button. At the bottom left of the main form is a 'Cancel Plan Creation' button. The bottom of the interface shows 'Step 6 of 9' and navigation buttons for 'Previous', 'Next', and 'Cancel'.

2. **接続**]をクリックします。
検出されたホスト名が表示されます。

3. ホスト名を展開してノードを参照します。

arcserve® Appliance Configuration

Add Nodes by vCenter/ESX [About Adding Nodes](#)

Enter the vCenter/ESX information to add nodes to the plan.

vCenter/ESX Results

Name	Object Type
10.57.25	Host System
IVM	Resource Pool
LinuxAgent	Resource Pool
restore	Resource Pool
Virtual Lab 1	Resource Pool
windows	Resource Pool
LicenseTesting	Resource Pool
<input checked="" type="checkbox"/> agent node	Virtual Machine

Return Add to List

Nodes Protected by Plan

- Node Name
- VM(agent node)

Remove

Cancel Plan Creation

Step 6 of 9 Previous Next Cancel

4. 追加するノードを選択してから、**[リストに追加]**をクリックします。
選択したノードが右ペインに追加されます。
5. (オプション) ノードを右ペインから削除するには、ノードを選択して **[削除]**をクリックします。
6. **[次へ]**をクリックします。
ノードがプランに追加されます。

Hyper-V ノードの追加

この方法を使用すると、Microsoft Hyper-V サーバから仮想マシンノードをインポートできます。

以下の手順に従います。

1. [Hyper-V ノードの追加] ダイアログボックスで以下の詳細を指定します。

ホスト名 /IP アドレス

Hyper-V サーバの名前または IP アドレスを指定します。Hyper-V クラスタに含まれている仮想マシンをインポートするには、クラスタノード名または Hyper-V ホスト名のいずれかを指定します。

ユーザ名

管理者権限のある Hyper-V ユーザ名を指定します。

注：Hyper-V クラスタの場合は、クラスタの管理者権限を持つドメインアカウントを使用します。スタンドアロン Hyper-V ホストの場合は、ドメインアカウントを使用することをお勧めします。

パスワード

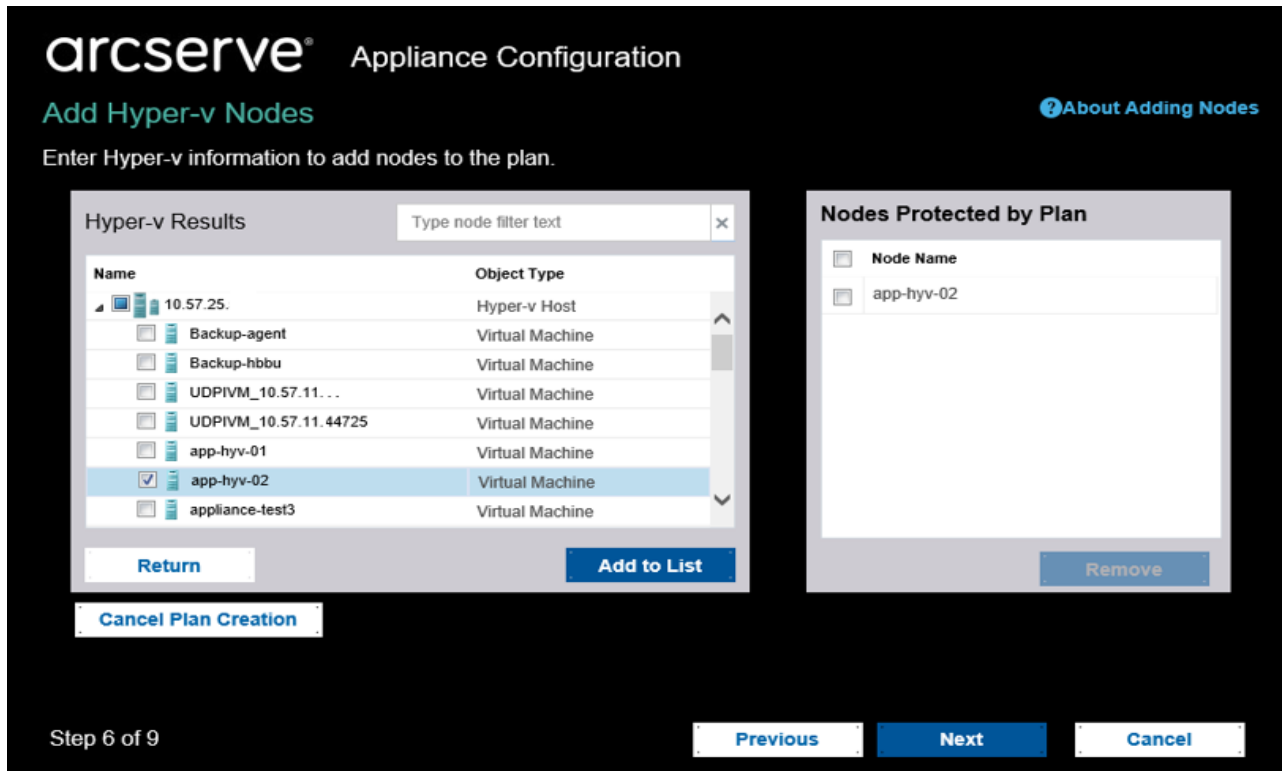
ユーザ名のパスワードを指定します。

プラン作成のキャンセル

作成したプランをキャンセルします。

2. **接続** をクリックします。

検出されたホスト名が表示されます。ホスト名を展開してノードを参照します。



3. (オプション) **フィルタ** フィールドにノード名を入力して、ツリー内のノードを検索できます。
4. ノードを選択してから、**リストに追加** をクリックします。
選択したノードが右ペインに追加されます。
5. (オプション) ノードを右ペインから削除するには、ノードを選択して **削除** をクリックします。
6. **次へ** をクリックします。
ノードがプランに追加されます。

Linux ノード用のバックアッププランの作成

Arcserve アプライアンス コンソールから Linux ノードをバックアップできます。Linux バックアップ サーバはすでにコンソールに追加されています。

以下の手順に従います。

1. Arcserve アプライアンス コンソールを開きます。
2. [ソース]- [プラン]- [すべてのプラン]をクリックします。
3. Linux バックアップ プランを作成します。
4. [ソース]、[デスティネーション]、[スケジュール]、[拡張]の設定を指定します。

注：各環境設定の詳細については、「ソリューションガイド」の「[Linux バックアッププランを作成する方法](#)」を参照してください。

5. バックアッププランを実行します。

テープデバイスへのバックアッププランの作成

Arcserve アプライアンスには、テープデバイスにデータを書き込む機能があります。通常、ソースデータは、UDP バックアッププランを使用してデータストアに保存されている復旧ポイントで、デスティネーションはテープデバイスです。Arcserve Backup マネージャを使用して、テープへのバックアップジョブを管理する必要があります。

以下のプロセスの概要は、Arcserve アプライアンスを使用してテープデバイスにデータを書き込む方法を理解するのに役立ちます。

1. テープデバイスを Arcserve アプライアンスに取り付けます

Arcserve アプライアンスには、テープデバイスを接続するためのポートが背面パネルに備わっています。テープデバイスを接続すると、Arcserve アプライアンスは自動的にテープデバイスを識別します。

2. バックアップ マネージャを使用して、テープデバイスを設定します。

バックアップ マネージャを開き、テープデバイスをバックアップ マネージャに追加します。バックアップ マネージャは、Arcserve Backup を管理するためのインターフェースです。テープデバイスをバックアップ マネージャに追加した後、デバイスを設定します。

注：デバイスの設定および管理の詳細については、「Arcserve Backup 管理者ガイド」の「[デバイスおよびメディアの管理](#)」を参照してください。

3. UDP コンソールを使用して、1 つ以上のバックアップジョブを正常に完了します。

テープデバイスに書き込み可能な正常なバックアップが少なくとも 1 つ存在している必要があります。データをバックアップするには、UDP コンソールを使用してプランを作成し、データストアにバックアップします。

注：別のノード用のバックアッププランの作成に関する詳細については、「ソリューションガイド」の「[データを保護するプランの作成](#)」を参照してください。

4. バックアップ マネージャからのテープへのバックアップジョブの開始

バックアップ マネージャを開き、テープデバイスにデータをバックアップするプランを作成します。ソースデータは UDP バックアッププランのデスティネーションで、デスティネーションはテープデバイスです。

注：テープへのバックアッププランの作成に関する詳細については、「Arcserve Backup 管理者ガイド」の「[D2D/UDP データのバックアップおよび回復](#)」を参照してください。

アプライアンス上 仮想スタンバイ プランの作成

Arcserve アプライアンスには、仮想スタンバイ マシンとして動作する機能があります。

以下の手順に従います。

1. 成功するバックアッププランであるかを検証します。
2. Arcserve アプライアンス コンソールを開きます。
3. プランに移動して、バックアッププランを変更します。
4. 仮想スタンバイ タスクを追加します。
5. ソース、デスティネーション、仮想マシンの環境設定を更新します。

注: 環境設定の詳細については、「ソリューションガイド」の「[仮想スタンバイプランを作成する方法](#) Arcserve UDP」トピックを参照してください。

6. プランを保存して実行します。

Linux バックアップ サーバのバックアッププランの作成

Arcserve アプライアンスでは、Linux バックアップ サーバのバックアップを設定することができます。

以下の手順に従います。

1. Arcserve UDP コンソールから、**[リソース]**タブをクリックします。
2. 右側のペインの**[すべてのノード]**をクリックします。
3. 中央のペインから、**[ノードの追加]**をクリックします。

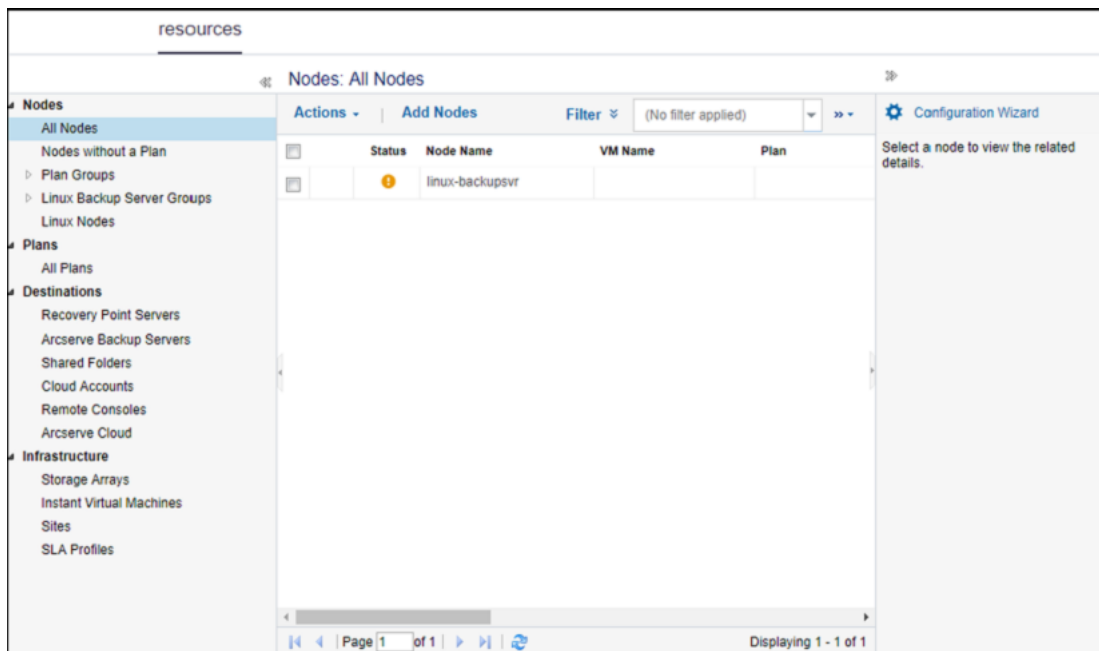
[Add Nodes to Arcserve UDP Console]ダイアログボックスが表示されます。

4. **[ノードの追加]**ドロップダウンリストから、**[Linux ノードの追加]**を選択します。
5. ノードの認証情報を入力し、**[リストに追加]**をクリックします。

Node Name	VM Name	Hypervisor
You have not added any node to the list.		

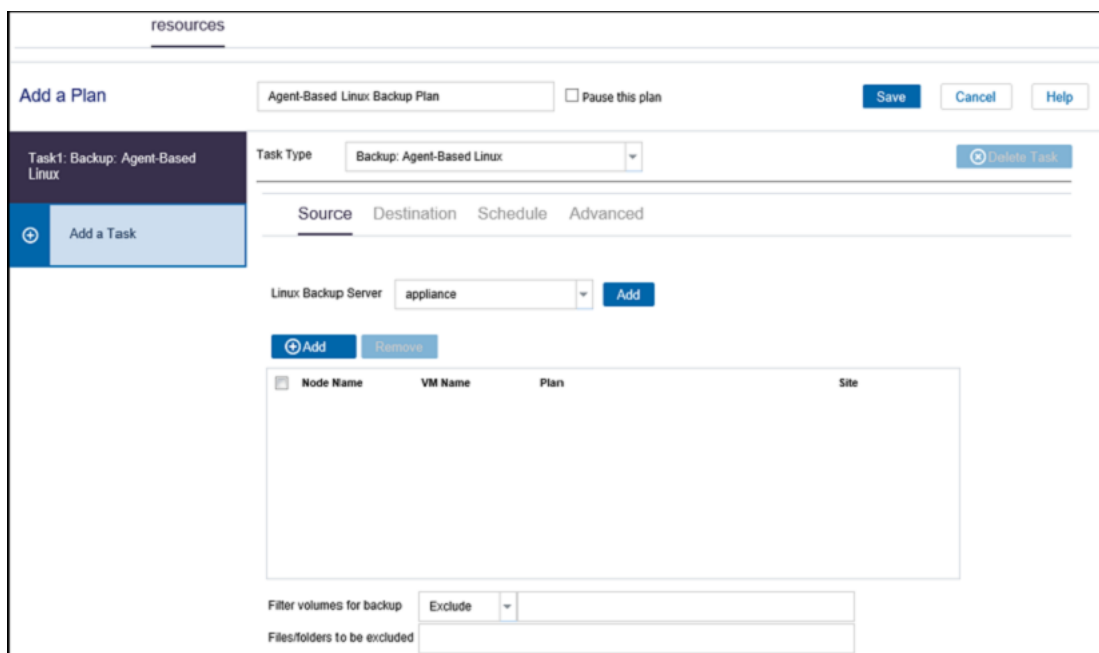
6. **[保存]**をクリックします。

追加された Linux ノードは **[すべてのノード]**リストに表示されます。

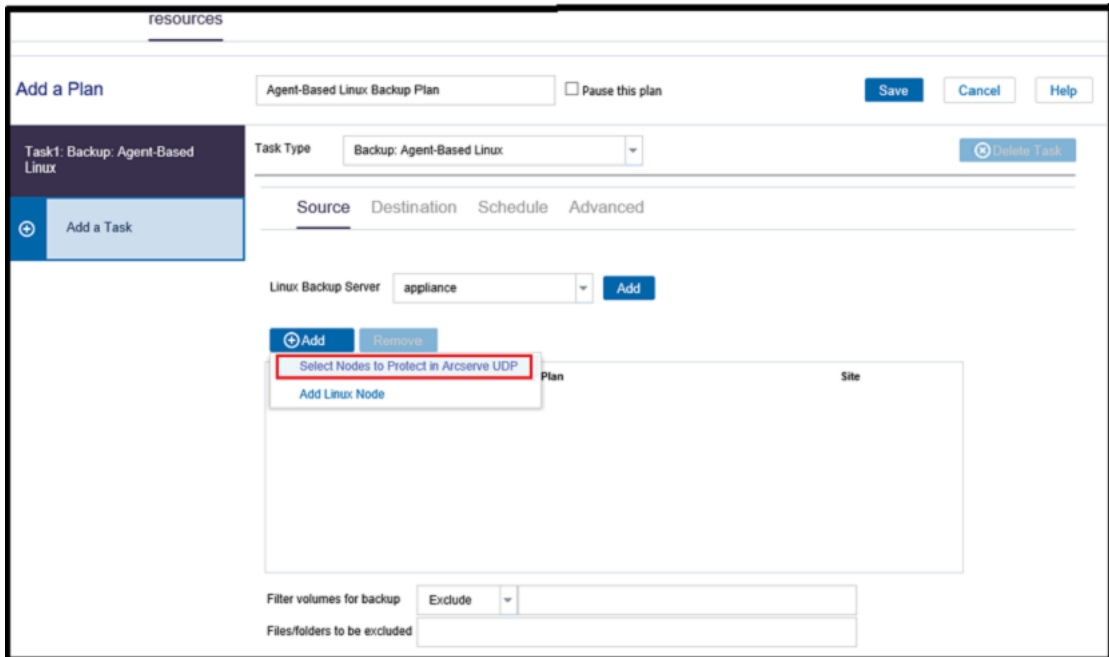


7. [すべてのプラン]に移動し、エージェント ベース Linux プランを作成します。

[ソース]タブが表示されます。

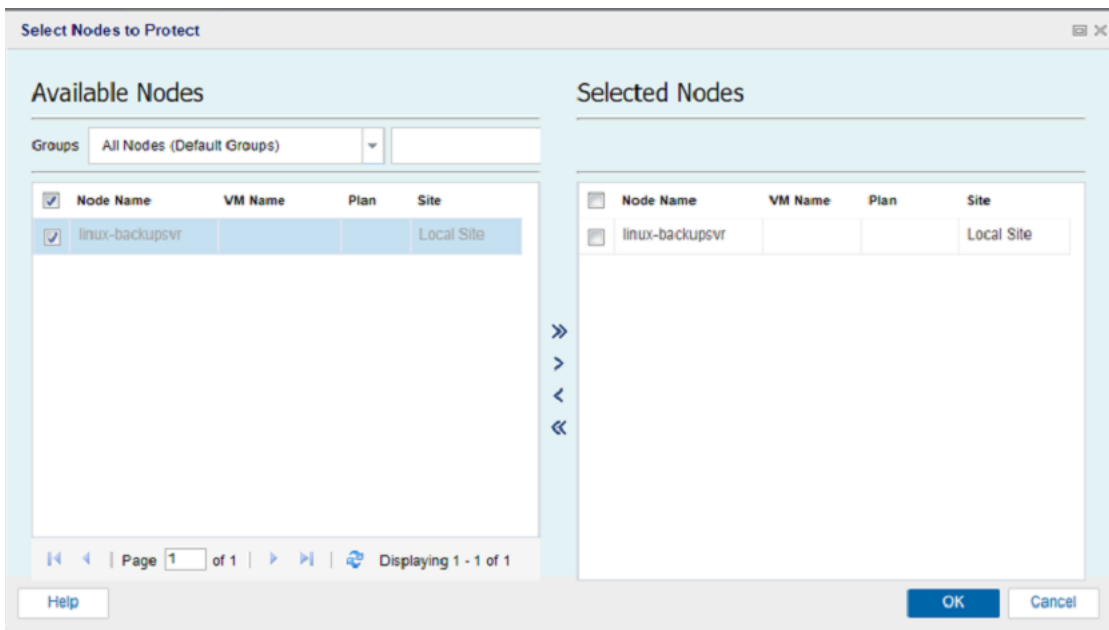


8. [追加]ドロップダウンリストから、[Arcserve UDP で保護するノードの選択]を選択します。



保護するノードの選択 ダイアログ ボックスが表示されます。

- 追加された Linux ノードを保護して、**OK** をクリックします。



デスティネーション タブが表示されます。

- 表示されるデフォルトのデスティネーションは、アプライアンス ウィザードを使用して作成されたデータストアです。必要に応じて、ノードをバックアップするローカル ディスクまたは共有フォルダを選択します。

resources

Add a Plan

Agent-Based Linux Backup Plan Pause this plan Save Cancel Help

Task: Backup: Agent-Based Linux

Task Type: Backup: Agent-Based Linux Delete Task

Source Destination Schedule Advanced

Destination Type: Local disk or shared folder Arcserve UDP Recovery Point Server

Recovery Point Server: appliance

Data Store: appliance_data_stori

Password Protection: ⓘ

Session Password:

Confirm Session Password:

11. プランに関連する設定を入力したら、[保存]をクリックします。

resources

Plans: All Plans

Nodes

- All Nodes
- Nodes without a Plan
- vCenter/ESX Groups
- Hyper-V Groups
- Linux Nodes
- Linux Backup Server Groups
- Plan Groups

Plans

- All Plans

Destinations

- Recovery Point Servers
- Arcserve Backup Servers
- Shared Folders
- Cloud Accounts
- Remote Consoles
- Arcserve Cloud

Actions - Add a Plan Configuration Wizard

Plan Name	Total	Nodes Protected			Status
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
Agent-Based Linux Backup Plan	1	0	1	0	Deployment: Successful (1)

Select a plan to view the related details.

追加された Linux バックアップ サーバに対して正常にバックアップを実行することができます。

ローカル アプライアンス Hyper-V に対して Linux インスタント VM ジョブを実行するための設定

Arcserve アプライアンスを使用すると、ローカル アプライアンス Hyper-V 上で Linux インスタント VM ジョブを実行するようにネットワークを設定することができます。

以下の手順に従います。

1. Hyper-V マネージャを開きます。
2. 新しい外部仮想ネットワークスイッチを作成します。
3. DOS コマンド ラインを使用して、PowerShell で以下のコマンドを実行し、手順 1 で新しく追加された仮想ネットワークスイッチ用に [レーティングとリモート アクセス]を再設定します。

```
C:\Program Files\Arcserve\Unified Data  
Protection\Engine\BIN\Appliance>powershell .\Rebuild-VMSwitch.ps1
```

注: Linux のバックアップ サーバ *Linux BackupSvr* は処理中に再起動します。

4. Linux インスタント VM ジョブをローカル Hyper-V に対して実行するには、新しく追加された仮想ネットワークスイッチを選択します。

Linux インスタント VM ジョブをローカル アプライアンス Hyper-V に対して正常に実行できるようになりました。

ConsoleMigration.exe を使用した Arcserve UDP コンソールの移行

Arcserve アプライアンス アプライアンスでは、*ConsoleMigration.exe* を使用して Arcserve UDP コンソールを別のアプライアンスに移行できます。Arcserve UDP v6.5 Update 2 以降では、アプライアンスに属していない場合でも、任意の2つの Arcserve UDP コンソール間で Arcserve UDP コンソールを移行できます。

BackupDB および RecoverDB 用の *ConsoleMigration.exe* を使用します。以下のスクリーンショットは、*ConsoleMigration.exe* の使用方法を示しています。

```
C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN\Appliance>ConsoleMigration.exe
Usage: ConsoleMigration.exe <-BackupDB|-RecoverDB [-Force]>
-BackupDB: Backup UDP Console database Arcserve_APP
-RecoverDB: Recover UDP Console database Arcserve_APP
-Force (optional): Force recover UDP Console database
Your input is not valid. Please follow the usage.
```

移行プロセスを完了するには、以下の手順を実行します。

1. 古い Arcserve UDP コンソールで、Arcserve UDP データベースのバックアップを実行します。

```
C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN\Appliance>ConsoleMigration.exe -backupdb
Start Backup...
Backed up DB and version files completed.
DB and version files were created at: "C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN\Appliance\DB_Migration".
```

[DB_Migration]フォルダが正常に作成します。

2. 新しい Arcserve UDP コンソールで、[DB_Migration]フォルダを次のパスにコピーします。

```
<UDP_Home> \Management\BIN\Appliance\
```

3. 新しい Arcserve UDP コンソールが Arcserve アプライアンスの場合、ホスト名を変更してシステムを再起動し、アプライアンス ウィザードを使用してアプライアンス設定を完了します。

注: Arcserve UDP コンソールが Arcserve アプライアンスではない場合、この手順をスキップします。

4. 新しい Arcserve UDP コンソールで、以下の画面に示される手順を実行して、Arcserve UDP コンソール データベースを復旧させます。データベースのリカバリプロセスが完了したら、新しい Arcserve UDP コンソールのノードが更新されます。ノードの更新に失敗した場合は、C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN\Appliance\logs パ

スの下にある *DisconnectedNodesInfo-<mm-dd-yyyy>.txt* ファイルに切断されたノードが記録されます。切断されているノードは新しい Arcserve UDP コンソールから手動で更新できます。

```
C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN\Appliance>ConsoleMigration.exe -recoverdb
Are you sure you want to recover the backup DB file? <y/n>: y
Stopping Arcserve UDP Management service, please wait...
Recovering backup DB file...
Updating nodes, please wait...
Please update nodes manually from UDP console if you still encounter disconnected nodes.
The disconnected nodes(if existing) will be saved at "C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN\Appliance\logs".
Console migration completed. Console uses DB "localhost\ARCserve_APP".
```

注： Arcserve UDP コンソールで、ローカル サイト以外のサイトが存在する場合、*NewRegistrationText.txt* ファイルに記載されている手順に従い、サイトを再登録します。

新しい Arcserve UDP コンソールへの Arcserve アプライアンス コンソールの移行が正常に完了しました。

このツールを使用して、リモート SQL データベースと接続している Arcserve UDP コンソールについて、コンソール移行を実行することができます。移行が完了すると、移行された Arcserve UDP コンソールは同じリモート SQL データベースに接続されるように設定されます。

注： Arcserve UDP v6.5 Update 4 以降、*ConsoleMigration.exe* コマンドに *-force* オプションが導入されました。このオプションを使用すると、以下の条件で、復旧用バックアップ データベース ファイルのターゲット コンソールへの移行が強制されます。

1. ソース コンソールで SQL Server Enterprise エディションを使用しており、ターゲット コンソールで SQL Server Express エディションを使用している 2 つのコンソール間で、コンソールの移行を実行する必要がある場合。この場合、ソース UDP コンソールで必要なデータベースの最小サイズは 4000 MB です。
2. SQL Server データベースの新しいバージョンを使用するコンソールから SQL Server データベースの古いバージョンを使用するコンソールへコンソールの移行を実行する必要がある場合。たとえば、SQL Server 2016 を使用するコンソールから SQL Server 2014 を使用するコンソールへの移行です。

Arcserve アプライアンス間の移行

このトピックでは、既存の Arcserve アプライアンスから別の新しい Arcserve アプライアンスへの移行を実行するユーザー用に 2 つのソリューションを提供します。

たとえば、Arcserve アプライアンス 8200 を Arcserve アプライアンス 8400 に移行することができます。前提条件は次のとおりです。

- アプライアンス 8200 とアプライアンス 8400 の両方に接続できることを確認します。
- 新しいアプライアンスの容量は、元のアプライアンス上のすべてのデータを保持するのに十分なメモリがある必要があります。
- Arcserve アプライアンス 8200 で、ジョブが実行されていないことを確認します。

コンソールの移行の詳細については、「[ConsoleMigration.exe を使用して Arcserve UDP コンソールを移行する方法](#)」のトピックを参照してください。

任意のアプライアンスから新規アプライアンスに移行するには、以下に示す 2 つのソリューションがあります。

- [解決策 1](#)
- [解決策 2](#)

解決策 1

ベアメタル復旧 (BMR) ソリューション

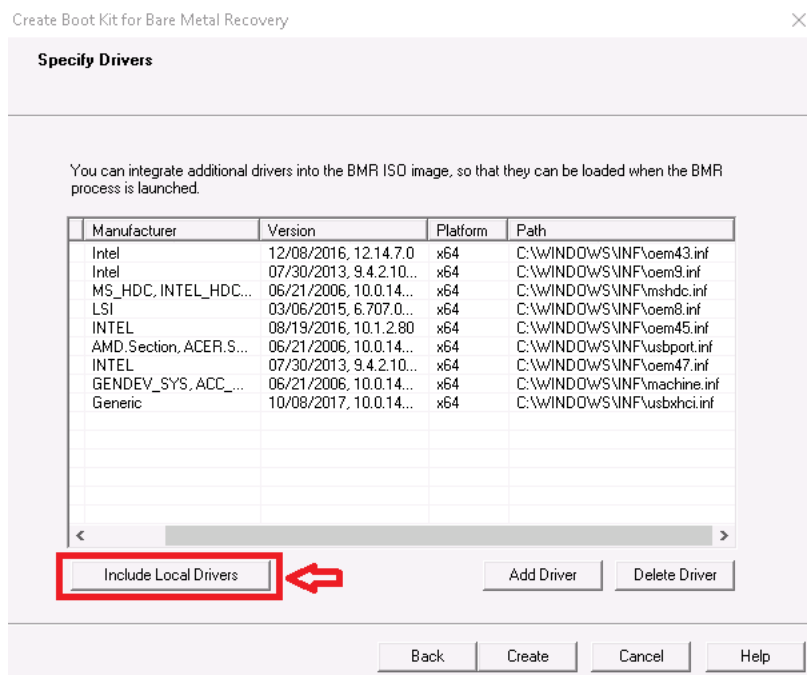
既存の Arcserve アプライアンス から別の新しい Arcserve アプライアンス に対して BMR を実行するには、以下の手順に従います。

1. 新規 Arcserve アプライアンス 8400 上にデータストアを作成し、このデータストアに Arcserve アプライアンス 8200 をバックアップします。

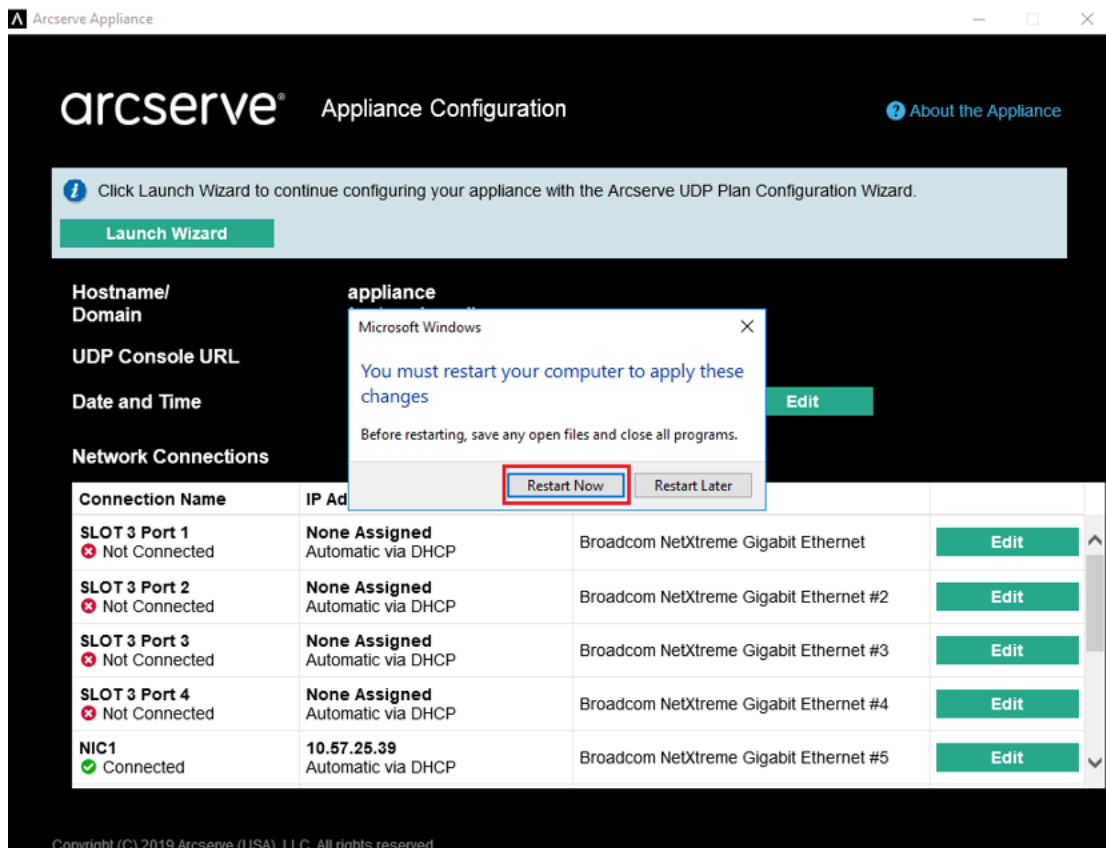
注: 以下の警告は無視することができます。

Arcserve UDP 復旧ポイント サーバデータストアは、ボリューム X、Y: で設定されています。このボリュームはバックアップされません。

2. バックアップ後、上記の手順で取得した復旧ポイントを使用してアプライアンス 8400 で BMR を実行し、手動でドライバ *megasas.inf* を選択します。



3. BMR の後、システムプロンプトに従ってアプライアンス 8400 を再起動します。

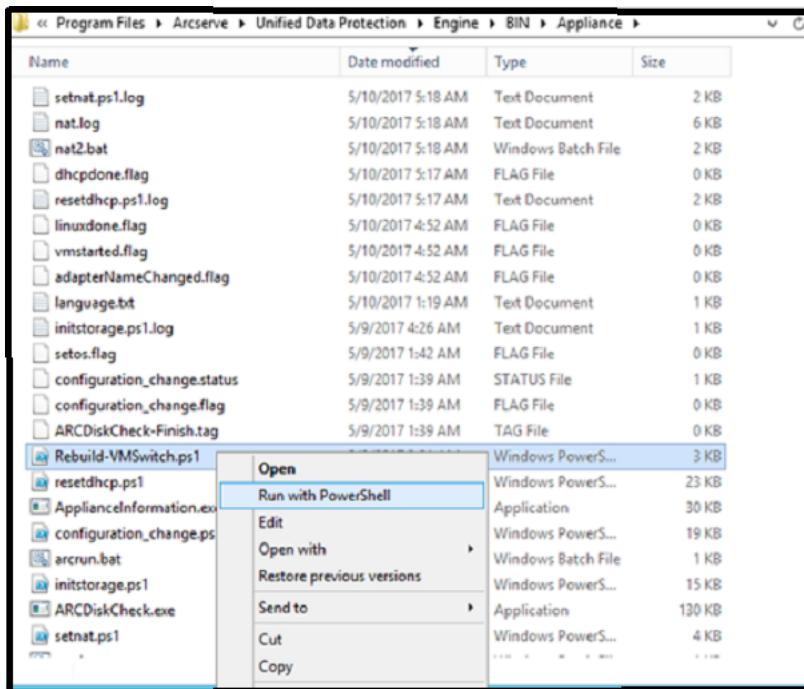


4. ここで、8400 アプライアンス上にネットワークスイッチが再構築されます。

PowerShell で、以下のコマンドを実行します。

```
C:\Program Files\Arcserve\Unified Data
```

```
Protection\Engine\BIN\Appliance\Rebuild-VMSwitch.ps1
```



5. ここで、以下の手順を実行し、8200 アプライアンス上のデータを 8400 アプライアンスにコピーし、データを 8400 にインポートします。
 - a. コマンドラインで以下のコマンドを使用し、Arcserve アプライアンス 8200 上のすべての UDP サービスを停止します。

```
C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN>cmdutil.exe /stopall
```
 - b. ディスク X および Y 上のすべてのデータを、Arcserve アプライアンス 8200 から 8400 に手動でコピーします。

```
Administrator: C:\Windows\System32\cmd.exe
Microsoft Windows [Version 6.3.9600]
(c) 2013 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN>cndut
il.exe /stopall
Start to kill process explorer.exe

Killing process explorer.exe
Process killed.

Start to kill process D2DUDgc.exe

Stopping service 'Arcserve UDP Agent Service'...
Service Stopped.

Stopping service 'Arcserve UDP RPS Data Store Service'...
Service Stopped.

Stopping service 'Arcserve UDP RPS Port Sharing Service'...
Service Stopped.

Stopping service 'Arcserve UDP Identity Service'...
Service Stopped.

Stopping service 'Arcserve UDP Management Service'...
Service Stopped.

Stopping service 'Arcserve UDP Management Port Sharing Service'...
Service Stopped.

Stopping service 'Arcserve UDP Agent Explorer Extension Service'...
Service Stopped.

Stopping service 'Arcserve UDP Update Service'...
Service Stopped.

Stopping Arcserve UDP agent monitor...
Arcserve UDP agent monitor stopped.

Start to kill Arcserve UDP processes

Killing process sync_utl_d.exe
Process killed.

Killing process AFD2DMonitor.exe
Process killed.

Killing process GDDServer.exe
Process killed.

Killing process GDDServer.exe
Process killed.

Killing process GDDServer.exe
Process killed.

Killing process AStartup.exe
Process killed.

Killing process explorer.exe
Process killed.

Stopping mounting driver...
Mounting driver stopped.

Start Windows Explorer.
```

- c. 8400 アプライアンスで、すべての UDP サービスを起動し、8200 アプライアンスからコピーしたデータをインポートします。

resources

Import a Data Store

Recovery Point Server appliance

Data Store Folder

Encryption Password

解決策 2

Arcserve アプライアンスの移行に関するソリューション

重要: 既存のアプライアンスが Arcserve UDP コンソールと Arcserve UDP RPS の両方として動作している場合、この解決策を使用することができます。

前提条件:

- Arcserve アプライアンス 8200 でジョブが実行されていないこと。
- Arcserve UDP コンソールが Arcserve アプライアンス 8200 から 8400 に移行済みであること。

注: Arcserve UDP コンソールをアプライアンス 8200 から 8400 に移行する方法の詳細については、「[ConsoleMigration.exe を使用した Arcserve UDP コンソールの移行方法](#)」を参照してください。

以下の手順に従います。

1. コマンドラインで以下のコマンドを使用し、Arcserve アプライアンス 8200 上のすべての Arcserve UDP サービスを停止します。

```
C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN>  
cmdutil.exe /stopall
```

```
Administrator: C:\Windows\System32\cmd.exe
Microsoft Windows [Version 6.3.9600]
(c) 2013 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN>cmdut
il.exe /stopall
Start to kill process explorer.exe

Killing process explorer.exe
Process killed.

Start to kill process D2DUVgc.exe

Stopping service 'Arcserve UDP Agent Service'...
Service Stopped.

Stopping service 'Arcserve UDP RPS Data Store Service'...
Service Stopped.

Stopping service 'Arcserve UDP RPS Port Sharing Service'...
Service Stopped.

Stopping service 'Arcserve UDP Identity Service'...
Service Stopped.

Stopping service 'Arcserve UDP Management Service'...
Service Stopped.

Stopping service 'Arcserve UDP Management Port Sharing Service'...
Service Stopped.

Stopping service 'Arcserve UDP Agent Explorer Extension Service'...
Service Stopped.

Stopping service 'Arcserve UDP Update Service'...
Service Stopped.

Stopping Arcserve UDP agent monitor...
Arcserve UDP agent monitor stopped.

Start to kill Arcserve UDP processes

Killing process sync_utl_d.exe
Process killed.

Killing process AFD2DMonitor.exe
Process killed.

Killing process GDDServer.exe
Process killed.

Killing process GDDServer.exe
Process killed.

Killing process GDDServer.exe
Process killed.

Killing process AStartup.exe
Process killed.

Killing process explorer.exe
Process killed.

Stopping mounting driver...
Mounting driver stopped.

Start Windows Explorer.
```

2. ディスク X および Y 上のすべてのデータを、Arcserve アプライアンス 8200 から 8400 に手動でコピーします。
3. 8400 アプライアンスで、すべての Arcserve UDP サービスを起動し、8200 アプライアンスからコピーしたデータストアをインポートします。

resources

Import a Data Store

Recovery Point Server: appliance

Data Store Folder: X:\Arcserve\data_store\common

Encryption Password: •|

注: Arcserve UDP ログ ファイルは新しいアプライアンスには移行されません。

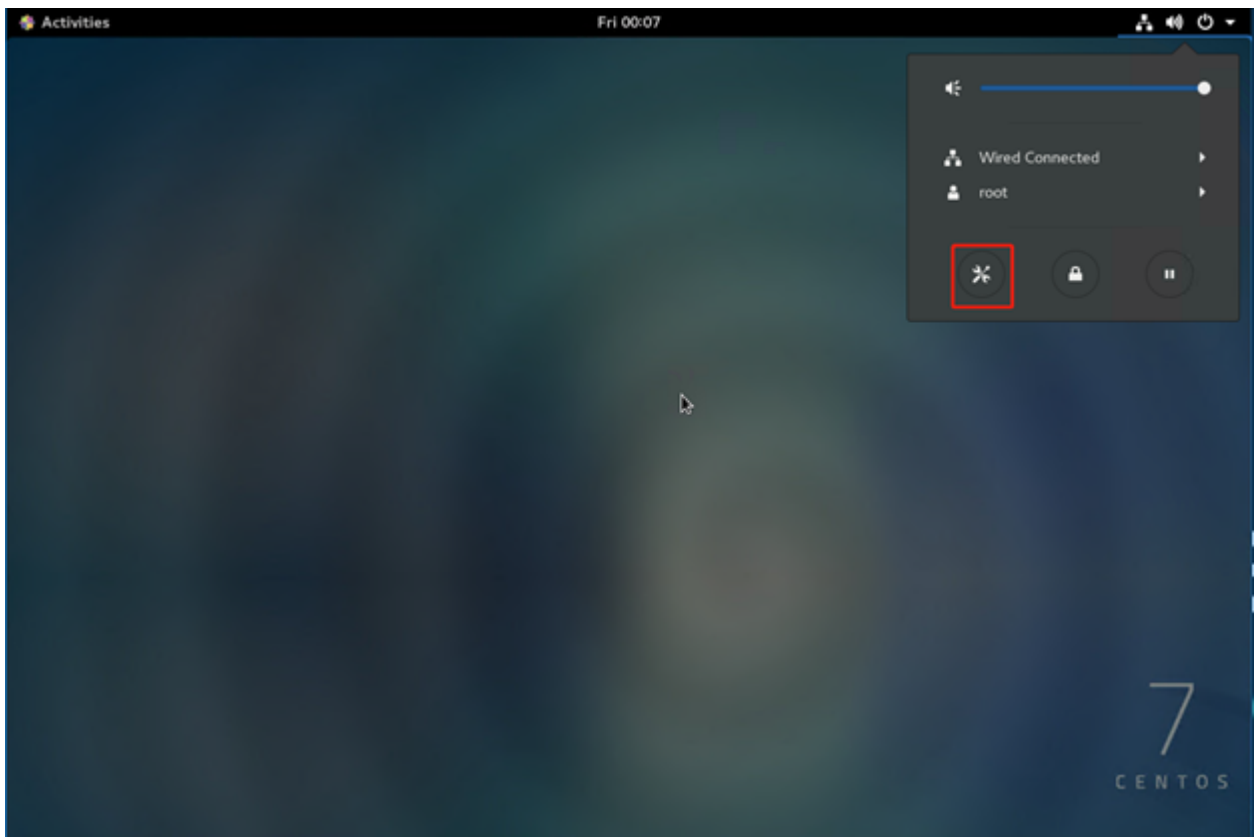
既存の Arcserve アプライアンス から別の新しい Arcserve アプライアンス への移行が完了します。

プレインストールされた Linux バックアップ サーバの入力ソースの変更

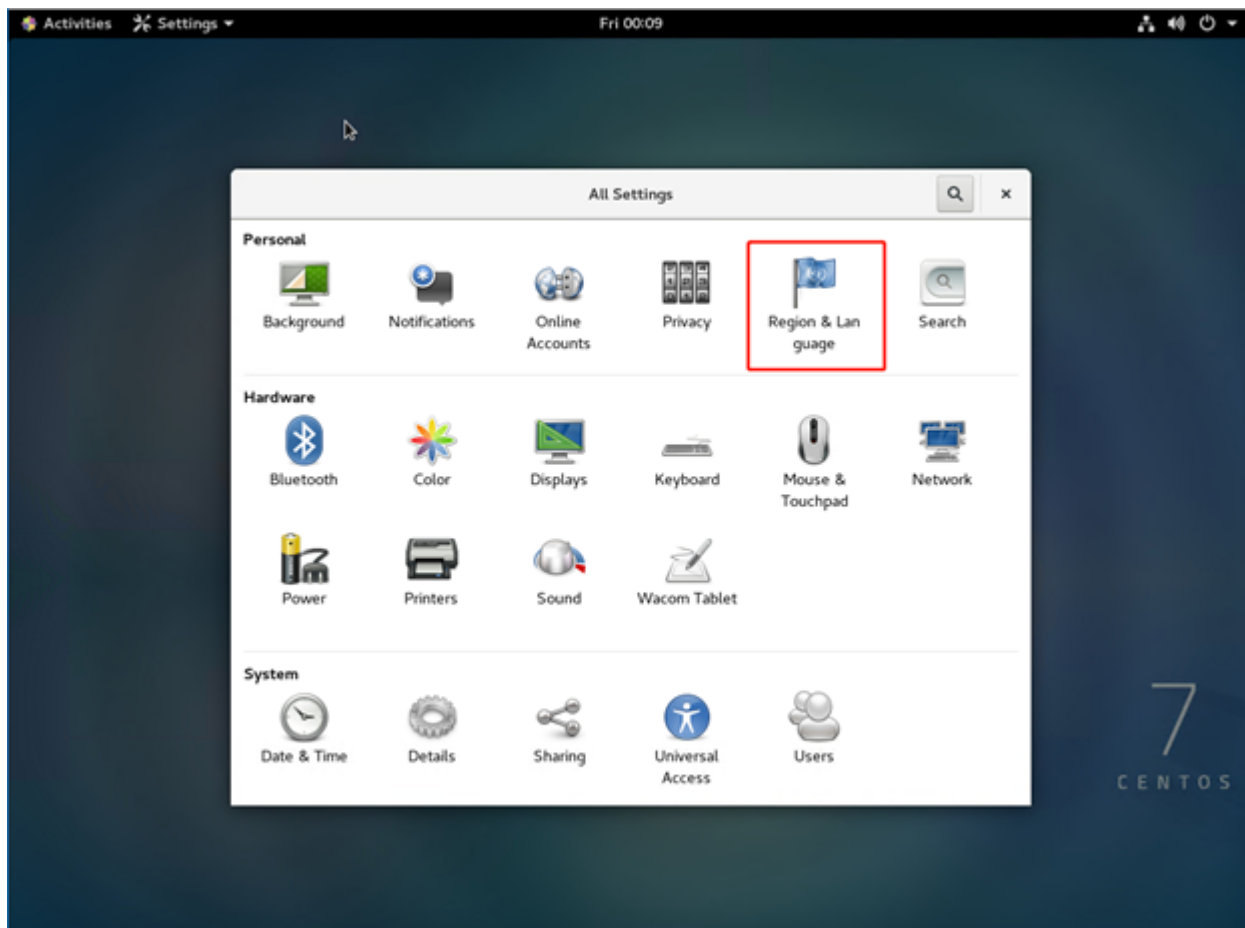
プレインストールされた Linux バックアップ サーバのキーボードを変更することができます。

以下の手順に従います。

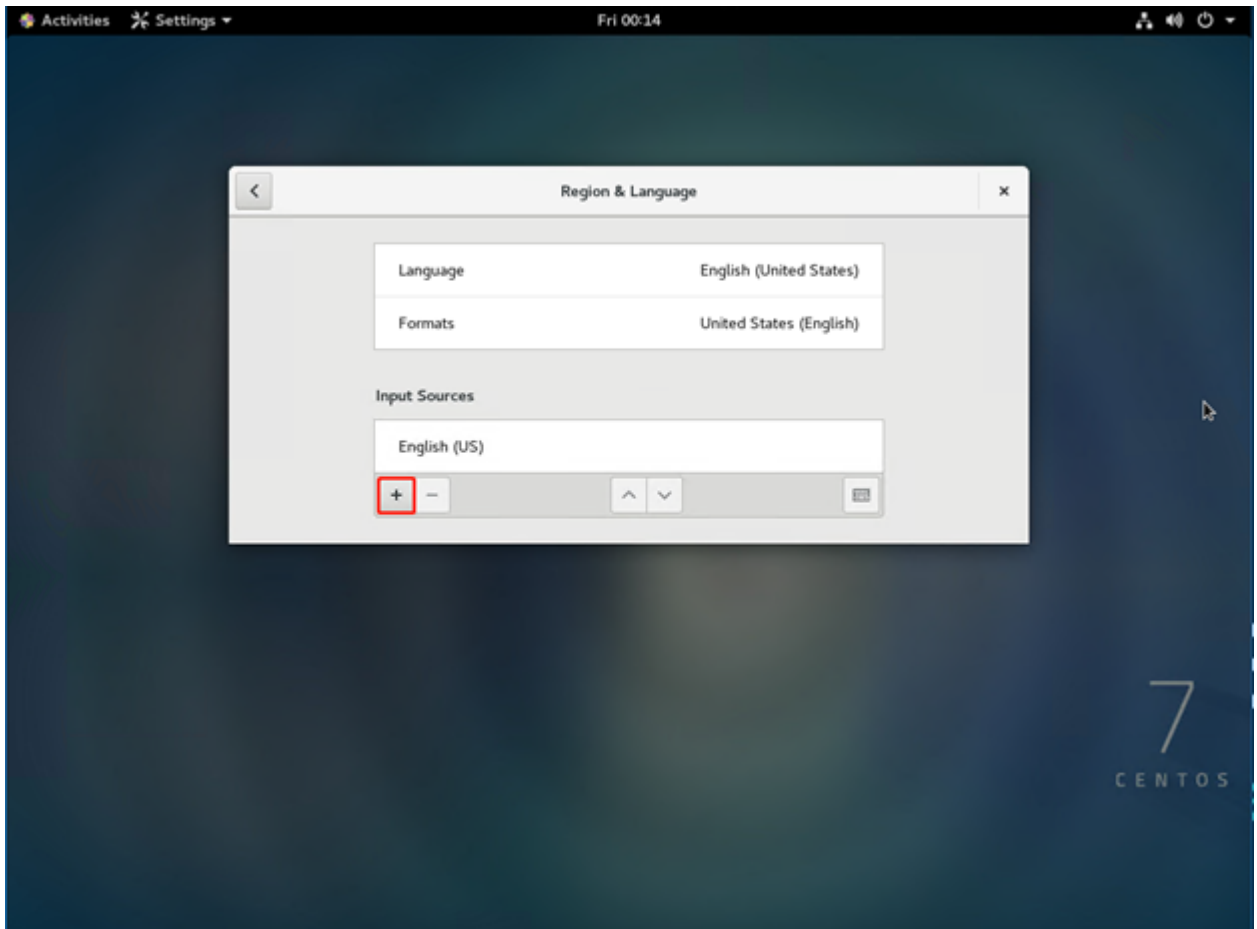
1. 管理者として Arcserve アプライアンス にログインします。
2. **設定**]をクリックします。



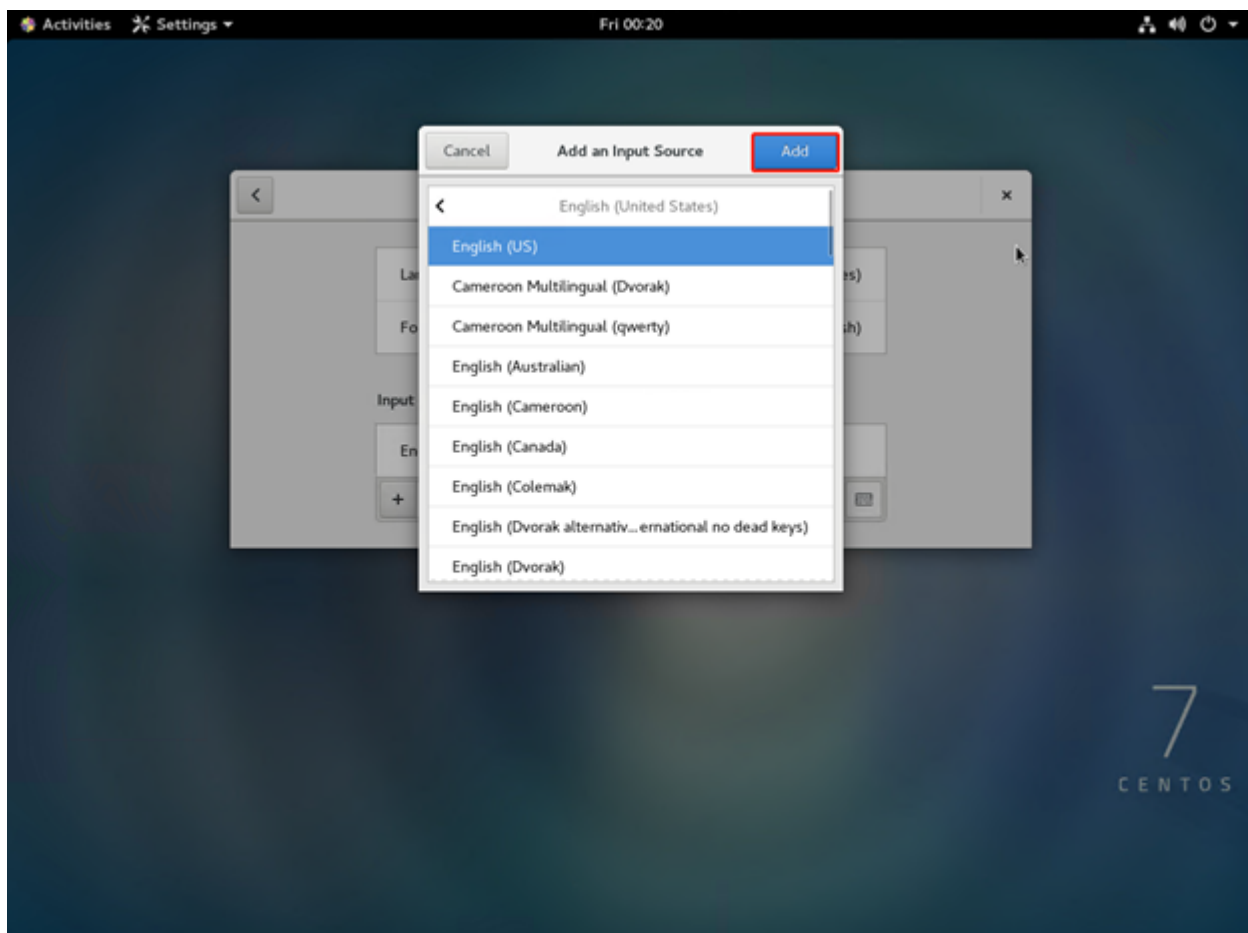
3. **地域と言語**]をクリックします。



4. [R]をクリックして、新しい入カソースを選択します。



5. 言語とキーボード レイアウトを選択します。



6. **追加** をクリックします。
入力ソースが正しく追加されます。

第7章: アプライアンス サーバのリモート モニタリング

Arcserve アプライアンス をリモート でモニタリングすることができます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

IPMI での作業	137
iDRAC (Integrated Dell Remote Access Controller) での操作	142

IPMI での作業

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

IPMI パスワードを変更する方法

IPMI パスワードを変更する前に、BIOS セットアップ画面にアクセスして IP アドレスを取得する必要があります。

以下の手順に従います。

1. システムを起動します。

ブート画面が表示されます。

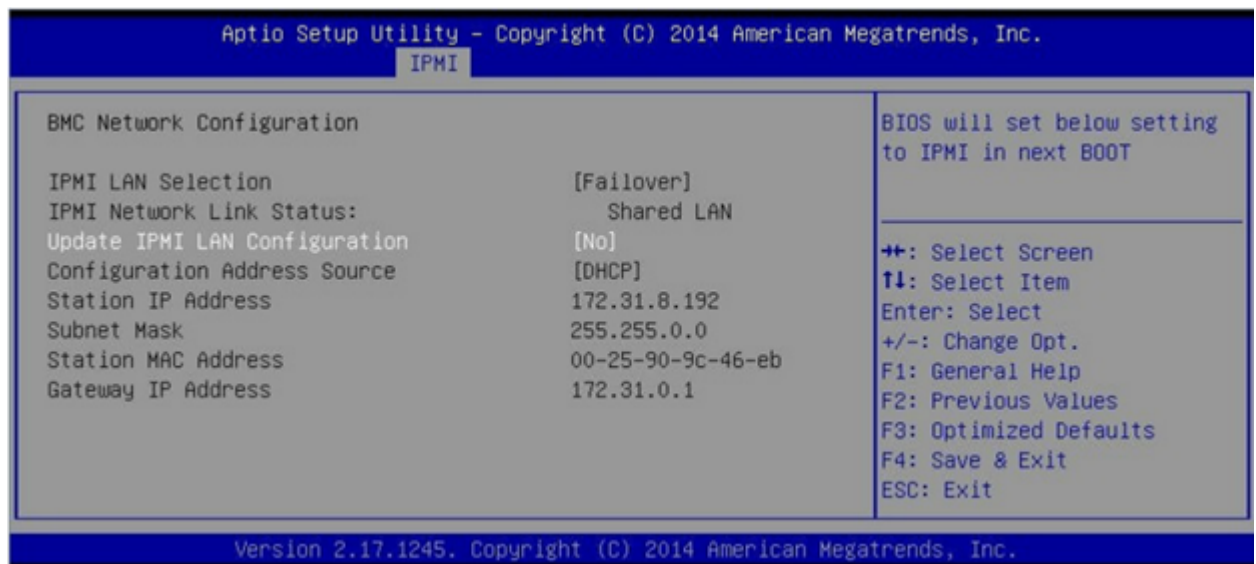
2. **Delete** キーを押します。

BIOS セットアップ画面が表示されます。

注: 移動するには、矢印キーを使用し、**Enter** キーを押します。前の画面に戻るには、**Escape** キーを押します。

3. BIOS メイン画面の上部で **[IPMI]** タブを選択します。

注: デフォルトでは、環境設定アドレスソースは DHCP に設定されています。



4. IP アドレスが正しいことを確認します。サーバが同じネットワーク上にある場合のみ、Web ブラウザを使用して、IPMI インターフェースに接続することができます。
5. ステーション IP アドレスをメモします。
6. ステーション IP アドレスを Web ブラウザに入力します。

IPMI ポート経由でリモート サーバに接続した後、IPMI ログイン画面が表示されます。

Please Login

Username

Password

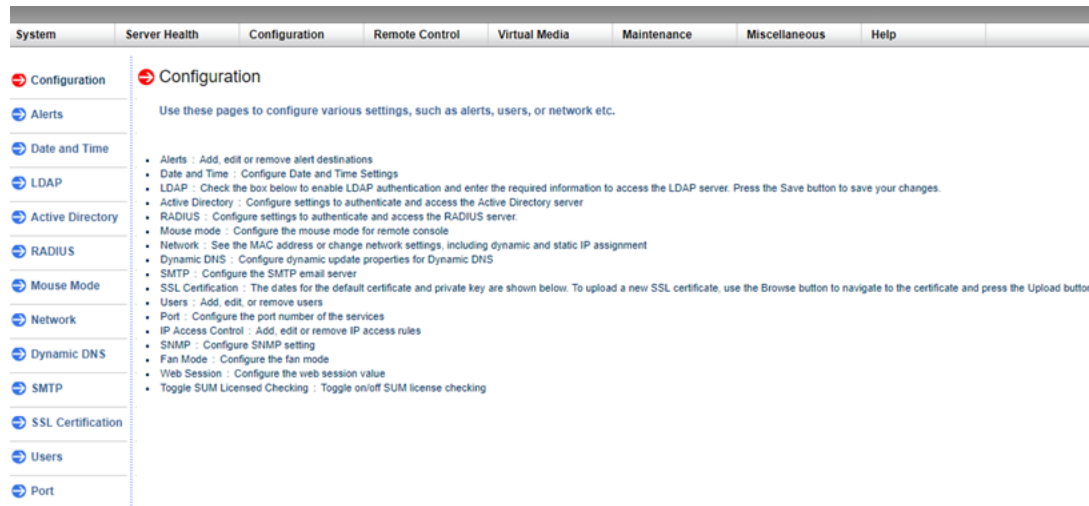
7. [ユーザ名]フィールドにユーザ名を入力します。
デフォルト: ADMIN
8. [パスワード]フィールドにパスワードを入力します。
デフォルト: ARCADMIN
ホームページ (IPMI メイン画面) が表示されます。

The screenshot shows the IPMI web interface with a navigation bar at the top containing: System, Server Health, Configuration, Remote Control, Virtual Media, Maintenance, Miscellaneous, and Help. On the left, a sidebar menu has 'System' selected, with 'FRU Reading' and 'Hardware Information' below it. The main content area is titled 'Summary' and displays the following information:

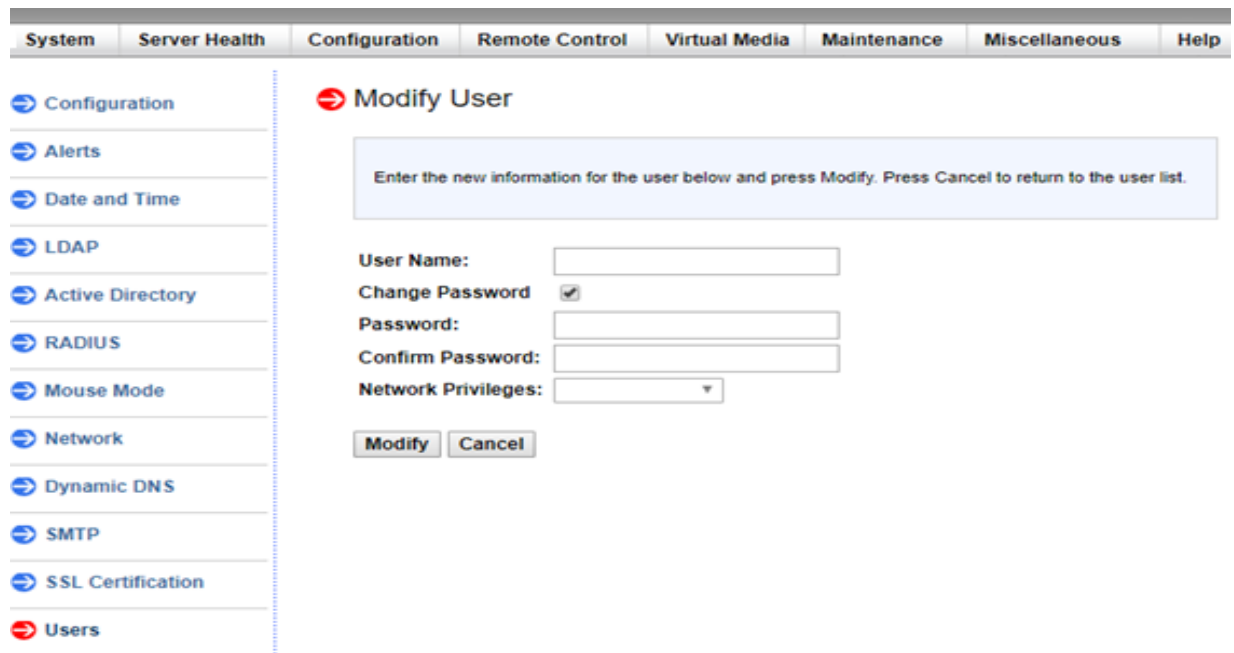
Firmware Revision : 03.27	IP address : 010.057.025.011
Firmware Build Time : 01/18/2016	BMC MAC address : 00:25:90:fe:8c:b0
BIOS Version : 2.0	System LAN1 MAC address : 00:25:90:fc:70:48
BIOS Build Time : 12/17/2015	System LAN2 MAC address : 00:25:90:fc:70:49
Redfish Version : 1.0.0	

Below the summary is a 'Remote Console Preview' section with a 'Refresh Preview Image' button. The preview shows a login screen for 'arcserve unified data protection console' with fields for 'Username' and 'Password' and a 'Login' button. At the bottom of the preview, it says 'All rights reserved. Arcserve. All rights reserved. Arcserve.' Below the preview is a 'Power Control via IPMI' section with the status 'Host is currently on' and three buttons: 'Power On', 'Power Down', and 'Reset'.

9. 上部バーから [環境設定] オプションをクリックします。
[環境設定] 画面が表示されます。



10. [環境設定] サイドバーで [ユーザ] オプションをクリックします。
11. ユーザリストから [ユーザ: (ADMIN)] を選択します。
12. [ユーザの変更] をクリックします。
[ユーザの変更] 画面が表示されます。



13. ユーザ名 (ADMIN) を入力します。
14. [パスワードの変更] オプションを選択します。
パスワード フィールドが有効になります。
15. 新しいパスワードを入力し、確認します。
16. [変更] をクリックすると、変更が保存されます。
IPMI パスワードは正しく変更されます。

IPMI ファームウェアをアップグレードする方法

Supermicro IPMI ユーティリティは、組織の要件に従って IPMI をアップグレードするのに役立ちます。

以下の手順に従います。

1. IPMI にログインし、**[Maintenance]** タブに移動して **[Firmware Update]** をクリックします。

[Firmware Update] 画面が表示されます。

2. **[Enter Update Mode]** をクリックします。

[Message from webpage] ポップアップ ウィンドウが表示されます。

3. **[OK]** をクリックします。

[BIOS & IPMI download] 画面が表示されます。

4. IPMI モデルのレビジョンに対応する **.zip** ファイルをクリックします。

ファイルがダウンロードされ、**[Firmware Upload]** 画面が表示されます。

5. ダウンロードした **.zip** ファイルからファイルを抽出します。

6. **[Firmware Upload]** 画面で **[Browse]** をクリックして、抽出されたファイルから **.bin** ファイルを選択します。

7. **[Upload Firmware]** をクリックします。

ファームウェアのイメージがアップロードされます。

8. **[Start Upgrade]** をクリックします。

ファームウェアのアップグレードが完了し、IPMI が再起動されます。

[Summary] 画面で、アップグレードされたファームウェアのバージョンを確認できます。

iDRAC (Integrated Dell Remote Access Controller) での操作

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

iDRAC (Integrated Dell Remote Access Controller) の モニタと管理

Arcserve アプライアンス 9012-9504DR には、iDRAC9 (Integrated Dell Remote Access Controller 9) が搭載されています。iDRAC9 により、サーバ管理者は Arcserve アプライアンスの全体の可用性を向上させることができます。iDRAC によりサーバの問題に関するアラートが管理者に提供されるため、サーバのリモート管理を実行することができ、サーバへ物理的にアクセスする必要性が少なくなります。

システムステータスのモニタ、システム情報の管理、および仮想コンソールの起動を行うには、iDRAC にログインする必要があります。

以下の手順に従います。

iDRAC にログインします。

1. ブラウザを起動して、<https://<iDRAC-IP-address>> に移動します。
iDRAC のログイン ページが表示されます。
2. 以下の情報を入力します。
ユーザ名：root
パスワード：ARCAADMIN
3. **[ログイン]**をクリックします。

システムステータスのモニタとシステム情報の管理：

iDRAC システムステータスをモニタして、以下のシステム情報を管理できます。

- システムの健全性
- システムのプロパティ
- ハードウェアとファームウェアのインベントリ
- センサの健全性
- ストレージ デバイス
- ネットワーク デバイス
- ユーザ セッションの表示と終了

仮想コンソールを起動します。

1. <https://<iDRAC-IP-address>> にログインします。
2. **[ダッシュボード]**に移動して、**[仮想コンソールの起動]**をクリックします。

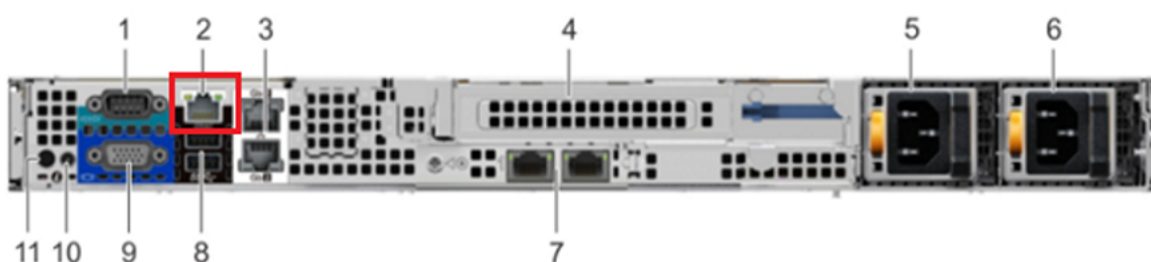
仮想コンソール]ページが表示されます。

仮想コンソールビューア]には、リモート システム デスクトップが表示されます。キーボードとマウスを使用してリモート システムを制御し、操作を実行することができます。

iDRAC (Integrated Dell Remote Access Controller 9000 シリーズ) の IP アドレスの検出

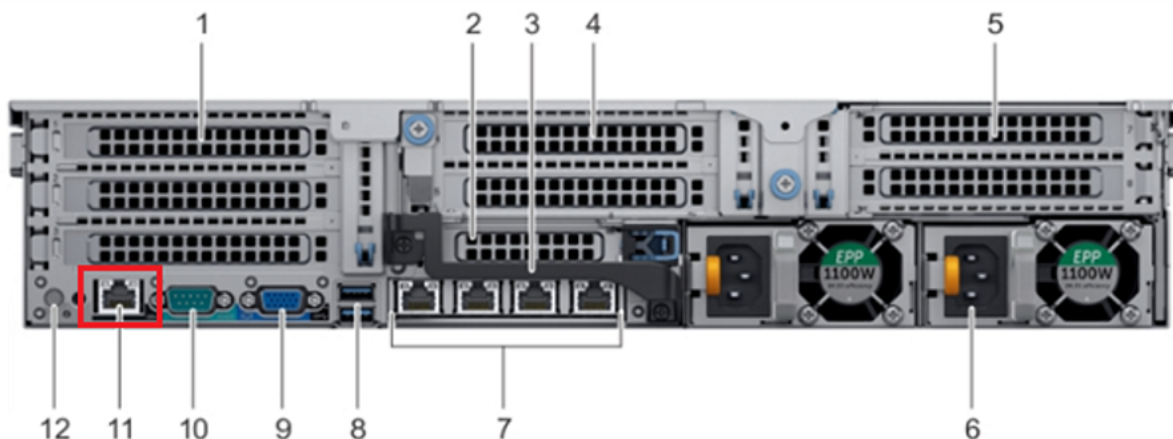
Arcserve アプライアンス 9012-9504DR シリーズ モデルは、デフォルトで iDRAC 対応の DHCP を使用するよう設定されています。iDRAC にアクセスするには、iDRAC9 専用ネットワークポートに Ethernet ケーブルを接続します。Arcserve アプライアンス 9012-9504DR シリーズ モデルの背面パネルおよび iDRAC9 専用ネットワークポートの詳細については、「[9012-9048 の背面パネル](#)」および「[9072DR-9504DR の背面パネル](#)」を参照してください。

iDRAC9 対応 9012-9048 の背面パネルの外観



iDRAC9 dedicated network port
on rear panel of Arcserve Appliance 9012-9048 series models

iDRAC9 対応 9072DR-9504DR の背面パネルの外観

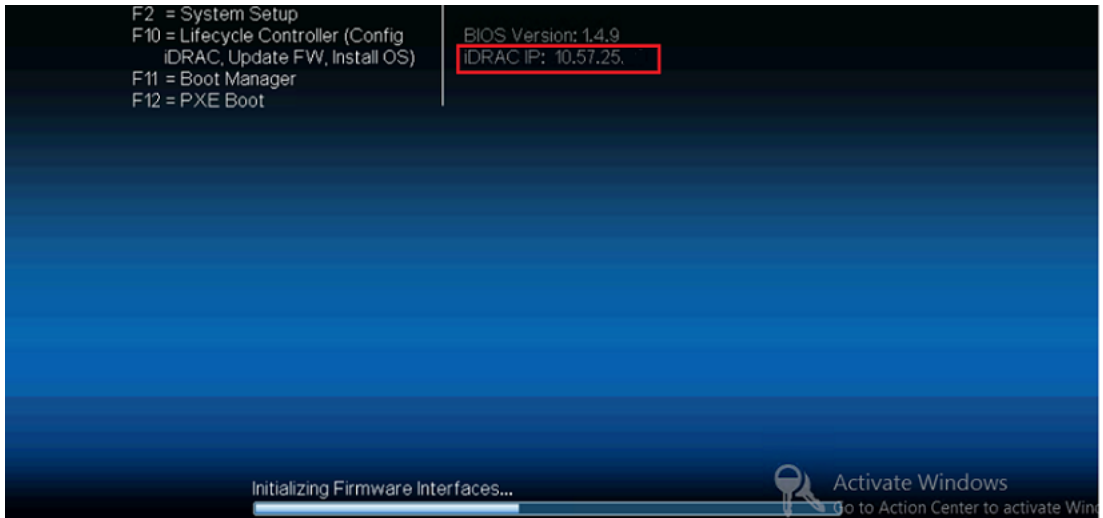


iDRAC9 dedicated network port on
rear panel of Arcserve Appliance 9072DR-9504DR series models

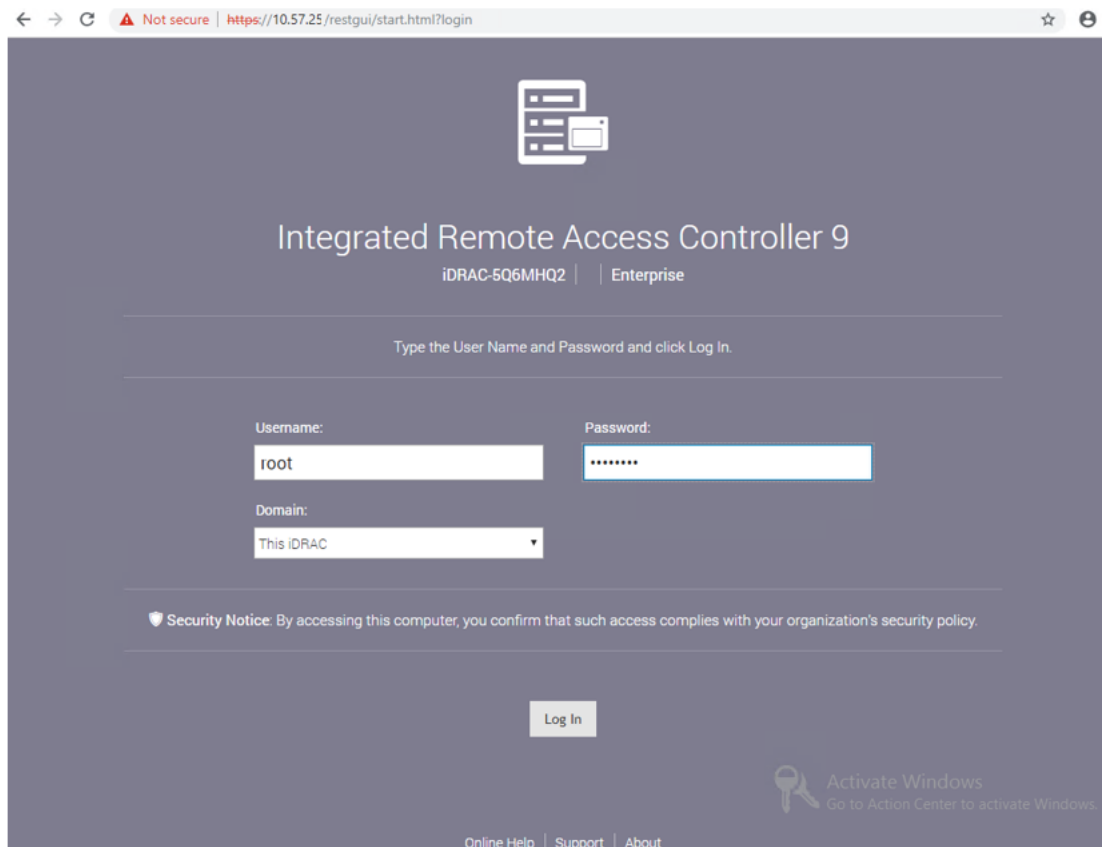
アプライアンスから iDRAC の IP アドレスを検出できます。

以下の手順に従います。

1. Arcserve アプライアンスの起動中に iDRAC IP をメモします。



2. ブラウザを起動して、`https://<iDRAC-IP-address>` に移動します。



iDRAC ログイン ページが表示されます。

iDRAC (Integrated Dell Remote Access Controller、X シリーズ) の IP アドレスの検出

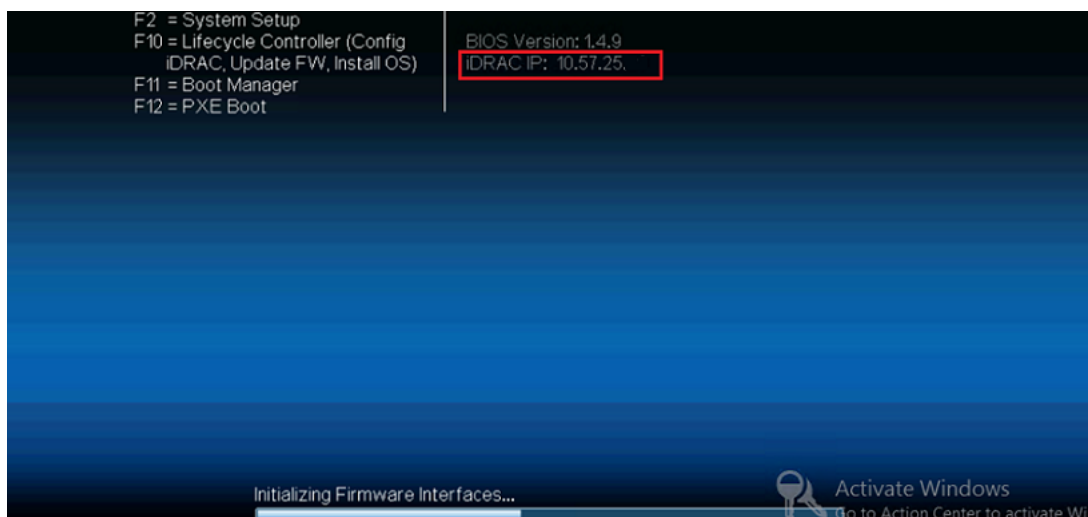
Arcserve アプライアンス X シリーズ モデルは、デフォルトで iDRAC 対応の DHCP を使用するよう設定されています。iDRAC にアクセスするには、iDRAC9 専用ネットワークポートに Ethernet ケーブルを接続します。Arcserve アプライアンス X シリーズ モデルの背面パネルおよび iDRAC9 専用ネットワークポートの詳細については、「[X シリーズの背面パネル](#)」を参照してください。

X シリーズの背面パネルの表示

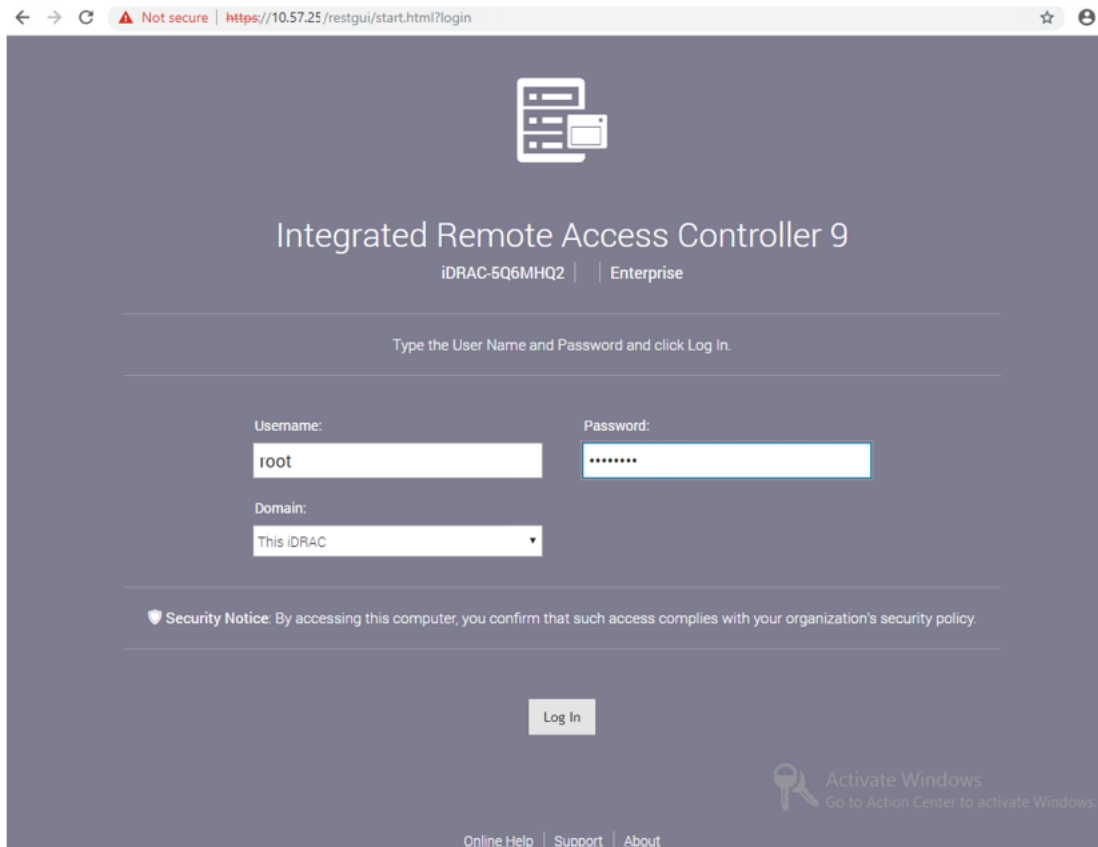
アプライアンスから iDRAC の IP アドレスを検出できます。

以下の手順に従います。

1. Arcserve アプライアンスの起動中に iDRAC IP をメモします。



2. ブラウザを起動して、<https://<iDRAC-IP-address>> に移動します。



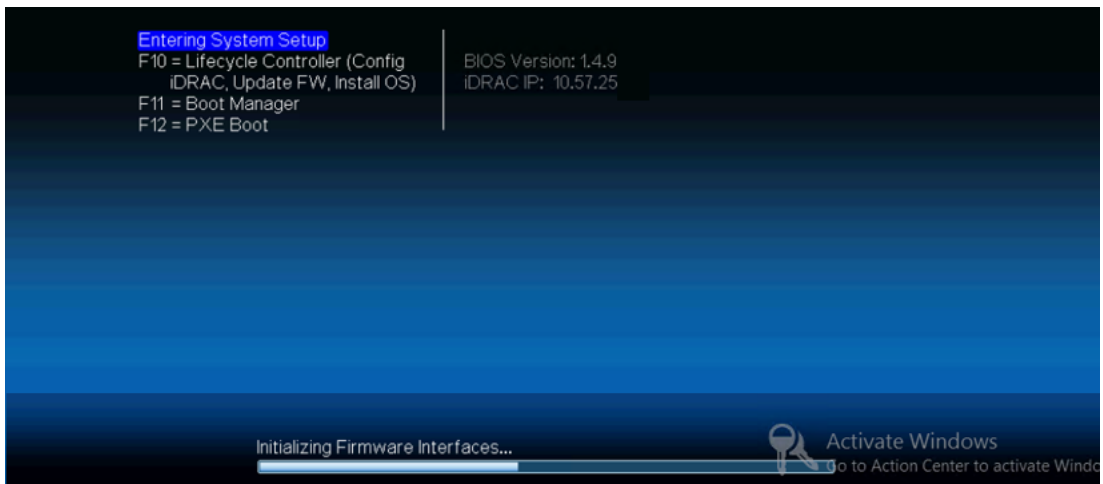
iDRAC ログイン ページが表示されます。

iDRAC の DHCP または静的 IP アドレスの設定

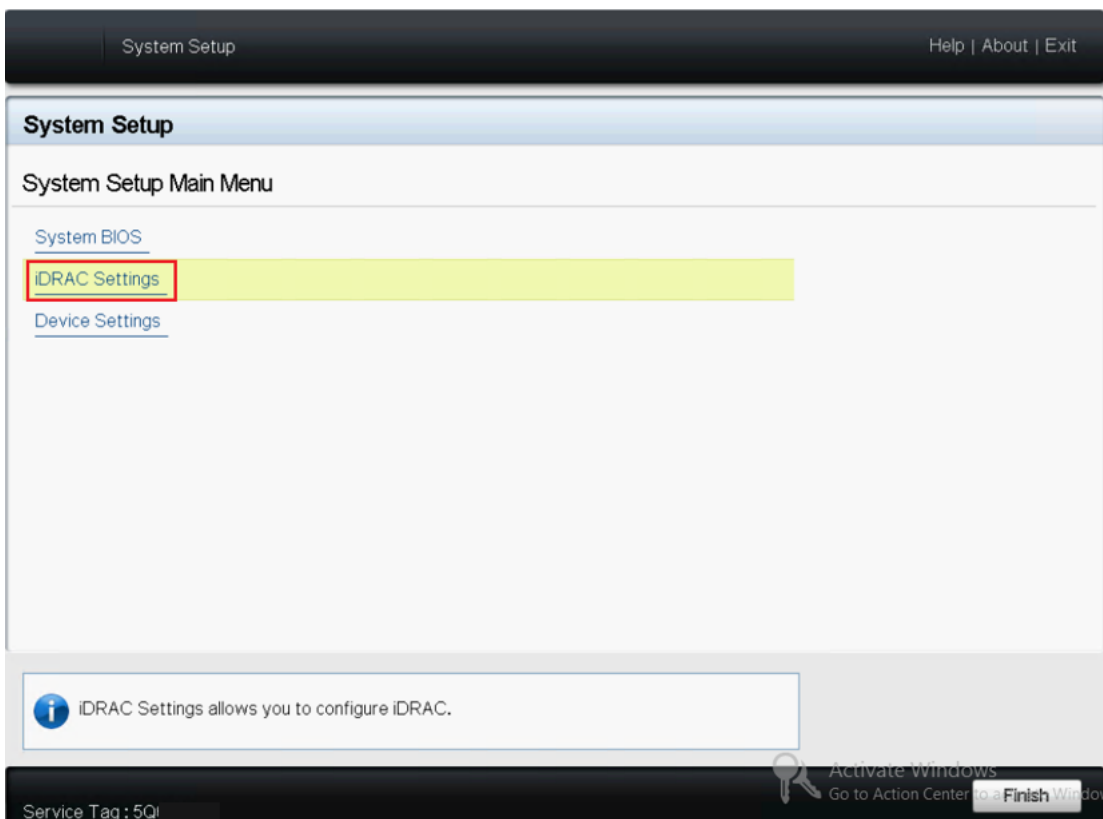
iDRAC に対して、DHCP ネットワークモードを設定することができます。

以下の手順に従います。

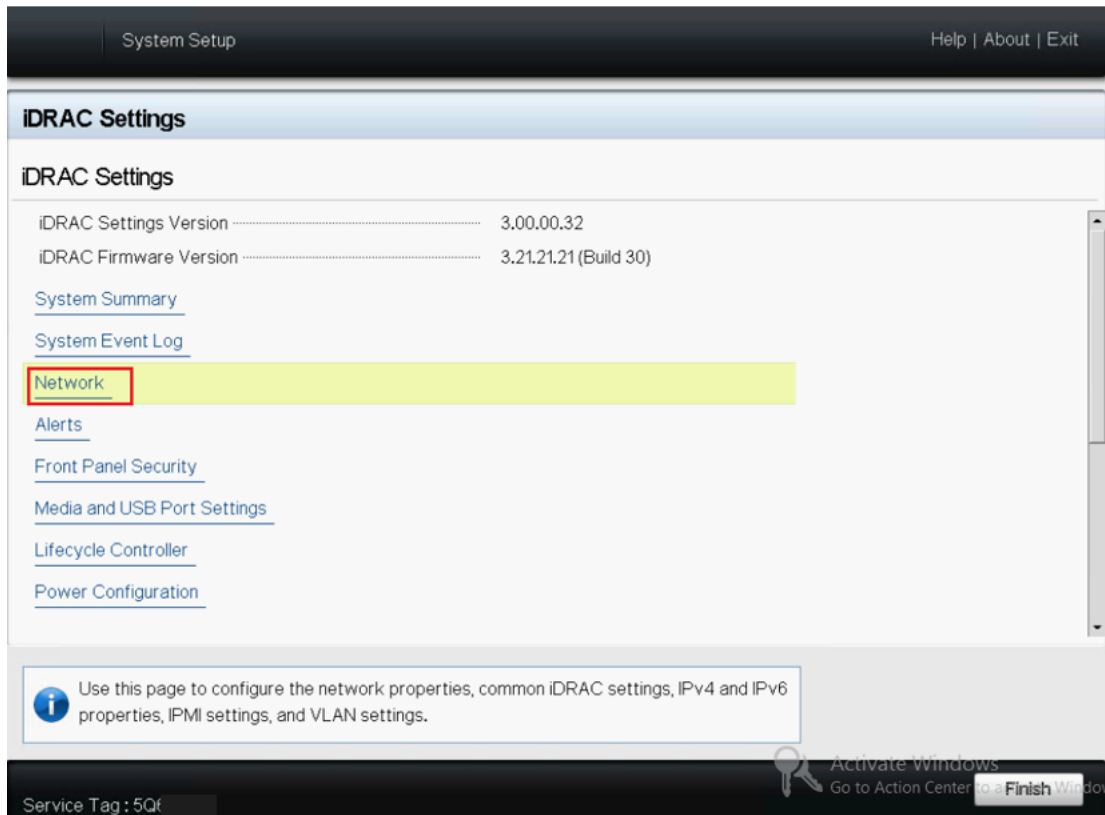
1. Arcserve アプライアンスの起動中に F2 キーを押して、システムのセットアップ画面に切り替えます。



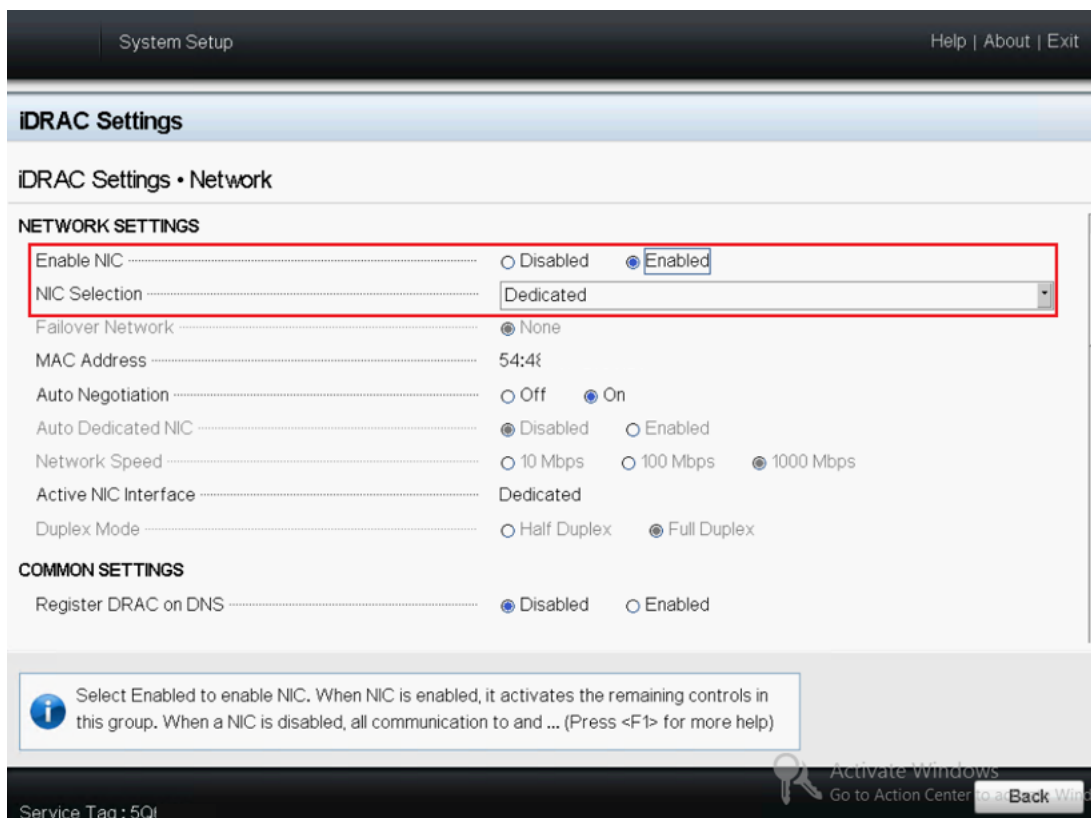
2. [システムセットアップメインメニュー]画面で、[iDRAC の設定]をクリックします。



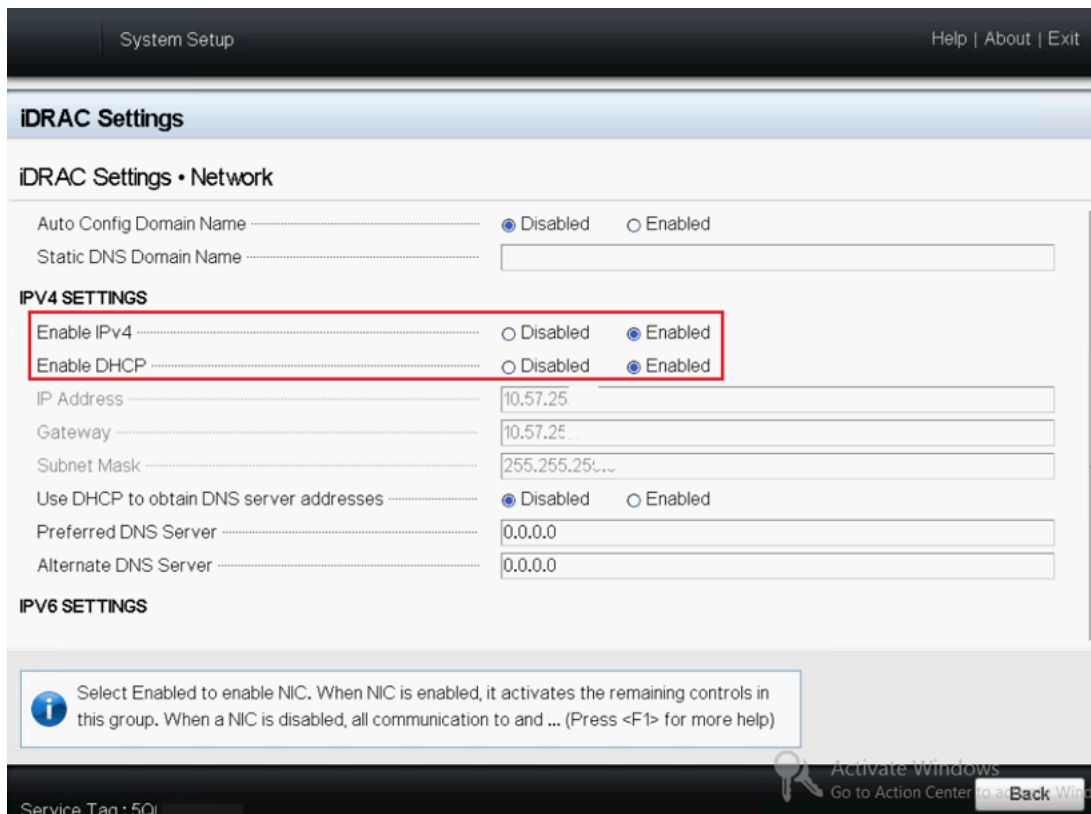
3. [DRAC の設定] オプションで [ネットワーク] をクリックします。
[ネットワークの設定] フィールドが表示されます。



4. 専用ネットワーク インターフェースを使用するには、[NIC 設定の有効化] で [有効] を選択し、[NIC を選択] で [専用] を選択します。



5. DHCP モードを設定するには、IPV4 設定の [IPv4 有効] および [DHCP 有効] で、[有効] オプションを選択します。



注: iDRAC 専用ネットワークに静的 IP を設定する場合は、[IPv4 有効] の設定を [有効] にし、[DHCP 有効] の設定を [無効] にします。ネットワーク構成に従って、IP アドレス、ゲートウェイ、およびサブネット マスクを設定します。

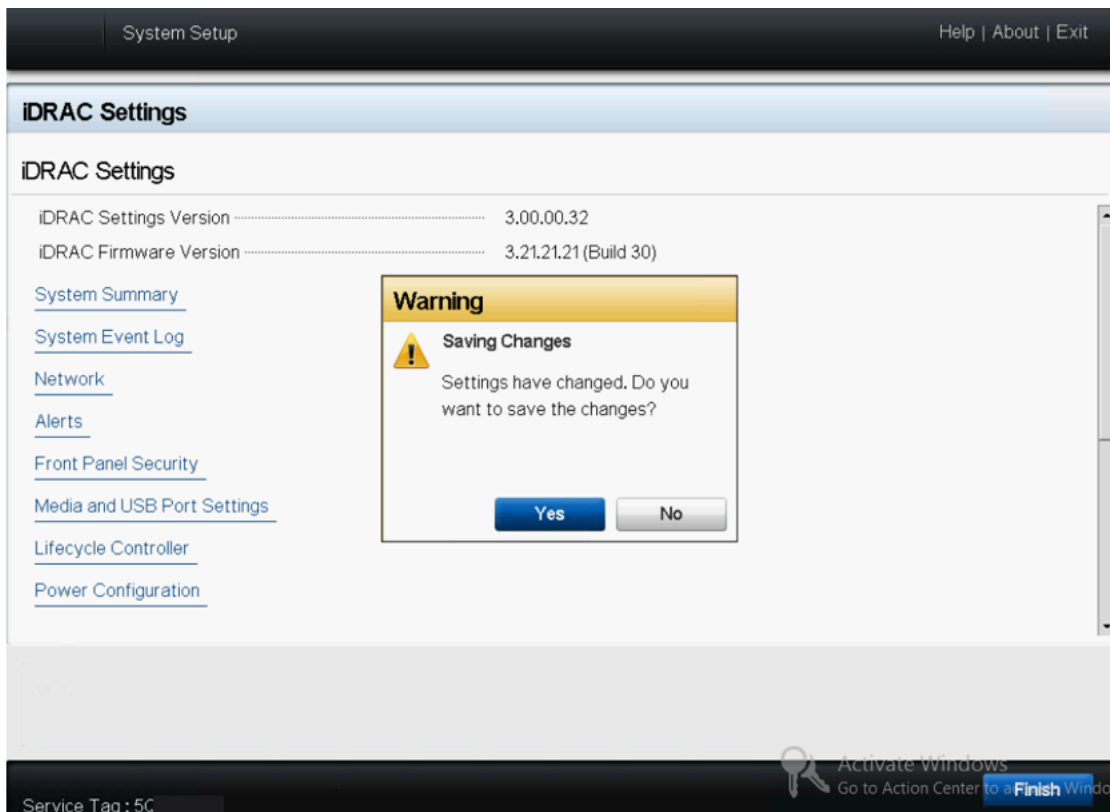
The screenshot shows the 'System Setup' interface for iDRAC. The 'iDRAC Settings' section is expanded to 'Network'. Under 'IPV4 SETTINGS', the following settings are visible:

- Auto Config Domain Name: Disabled Enabled
- Static DNS Domain Name: [Empty text box]
- Enable IPv4: Disabled Enabled
- Enable DHCP: Disabled Enabled
- IP Address: 10.57.25
- Gateway: 10.57.25
- Subnet Mask: 255.255.255...
- Use DHCP to obtain DNS server addresses: Disabled Enabled
- Preferred DNS Server: 0.0.0.0
- Alternate DNS Server: 0.0.0.0

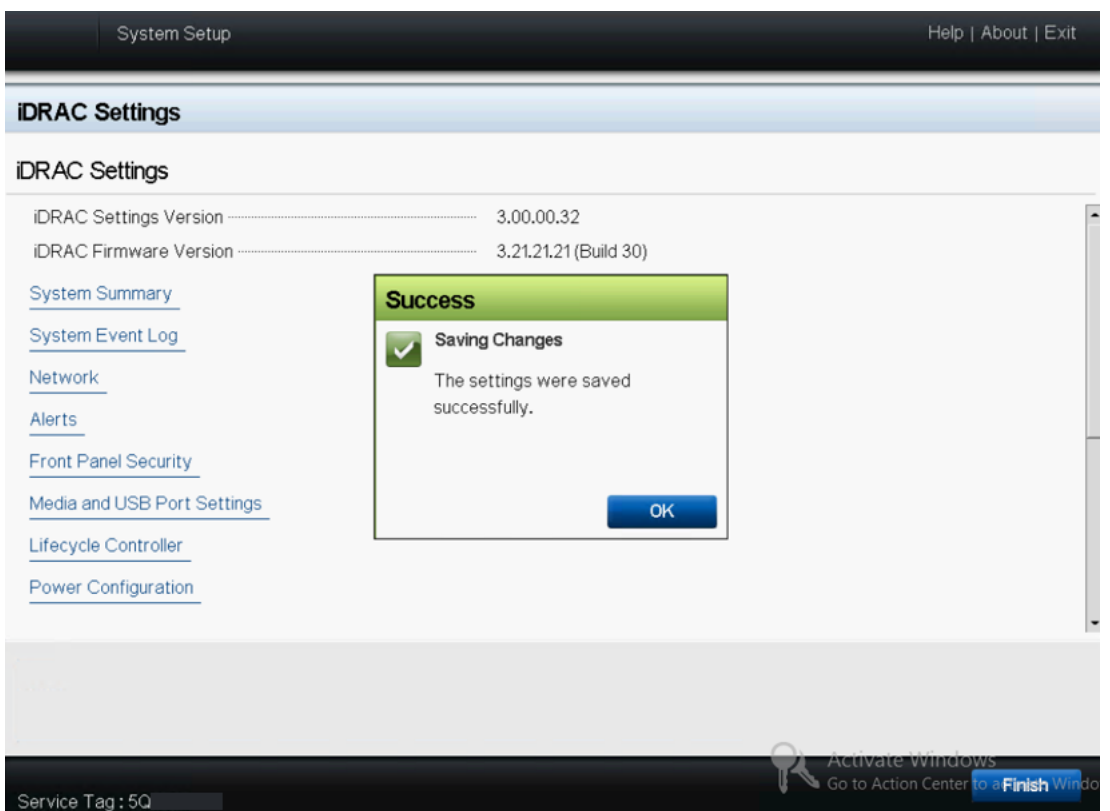
Below the settings, there is a warning message: "Select Enabled to enable NIC. When NIC is enabled, it activates the remaining controls in this group. When a NIC is disabled, all communication to and ... (Press <F1> for more help)".

6. [警告] ダイアログ ボックスで [戻る] をクリックし、次に、[完了] - [はい] をクリックします。

ネットワーク情報が保存されます。

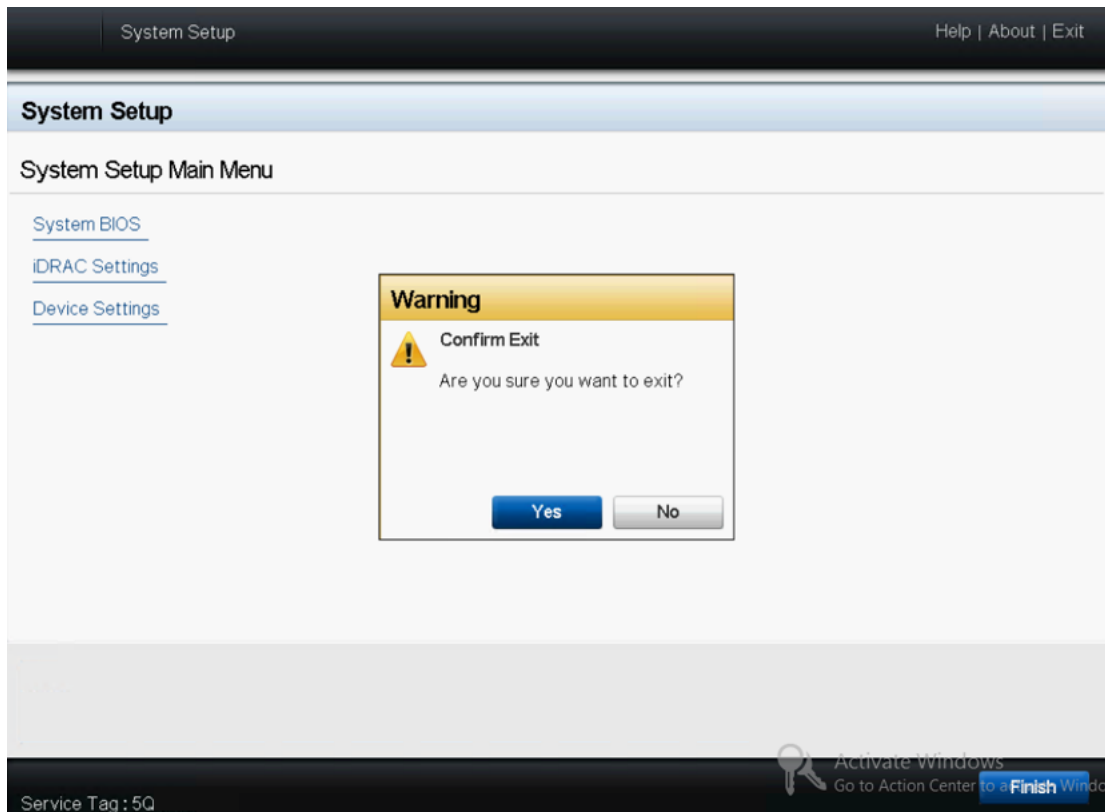


7. [成功]ダイアログ ボックスで、[OK]をクリックします。



iDRAC DHCP の設定が完了します。

- 完了]- **はい**]をクリックすると、セットアップが終了し、システムが起動します。



iDRAC に対して DHCP ネットワークモードが設定されます。

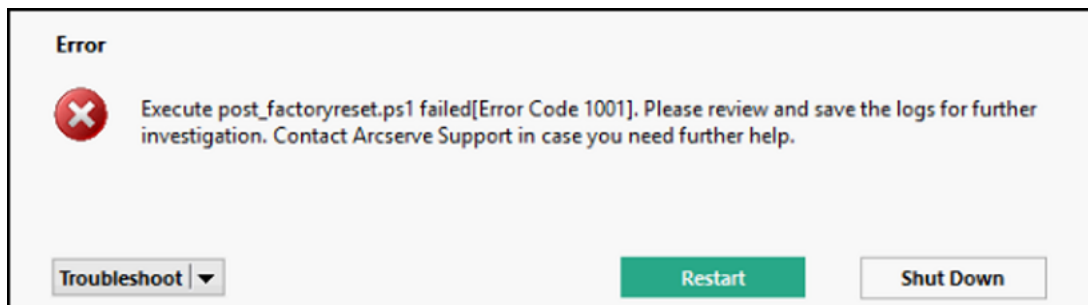
第8章: Arcserve アプライアンス のリスト アまたは修復

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

ファクトリリセットのデバッグ	157
7000-8000 シリーズ アプライアンスのブート オプションを使用した Arcserve UDP ファクトリリセットの適用	159
9012 - 9504 DR シリーズ アプライアンスのブート オプションを使用した Arcserve UDP ファクトリリセットの適用	162
X シリーズ アプライアンスのブート オプションを使用した Arcserve UDP ファクトリリセットの適用	165
環境設定の消去およびアプライアンスファクトリリセットの適用	168
アプライアンスイメージ設定ユーティリティを使用したファクトリリセット イメージの置換	171
ハードドライブの取り外しおよび交換	174
データを保持しないベアメタル復旧 (BMR) の実行	176
ベアメタル復旧 (BMR) とデータ保存の実行	191

ファクトリリセットのデバッグ

このトピックでは、以下のエラーメッセージが表示された場合に、ファクトリリセットをデバッグする方法について説明します。



問題を解決するには、以下の手順を実行してください。

1. エラーメッセージで **[トラブルシューティング]** のドロップダウン オプションをクリックします。

以下のオプションが表示されます。

コマンド プロンプト

CMD (コマンド プロンプト) ダイアログ ボックスでは、いくつかの基本操作を行うことができます。たとえば、フォルダ内にファイルが存在するかどうかの確認、ファイルのコピーと削除、ディスクレイアウト情報の取得を実行できます。

ログの表示

[ログの表示] オプションでは、メモ帳にログを表示できます。ログを確認した後、 **[ファイル]- [名前を付けて保存]** をクリックしてログを保存し、後で利用することもできます。

ファクトリリセットの再起動

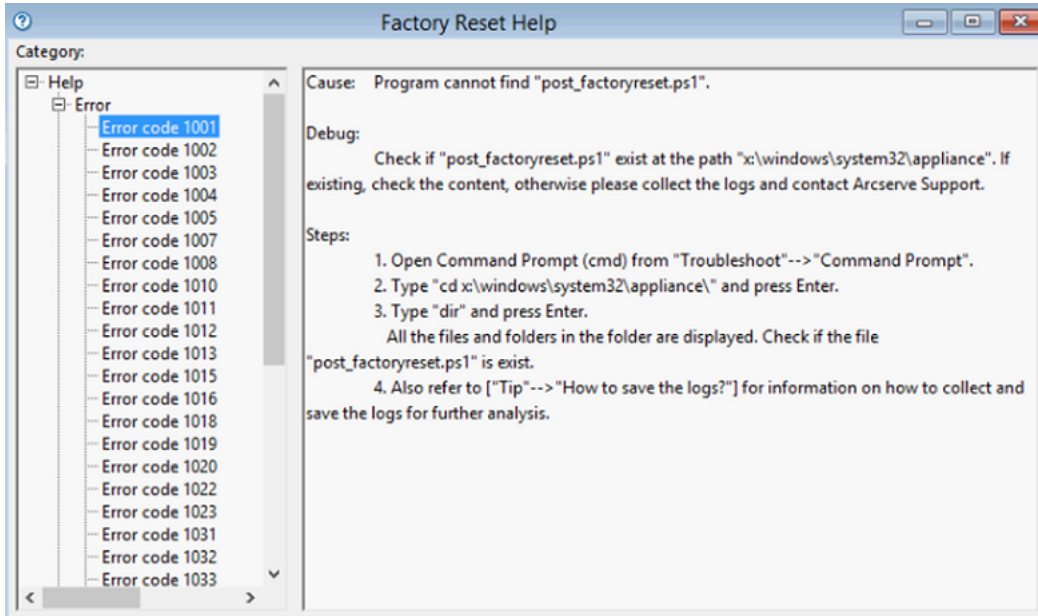
問題の解決後、このオプションを選択すると、ファクトリリセットを再起動できます。

ヘルプ

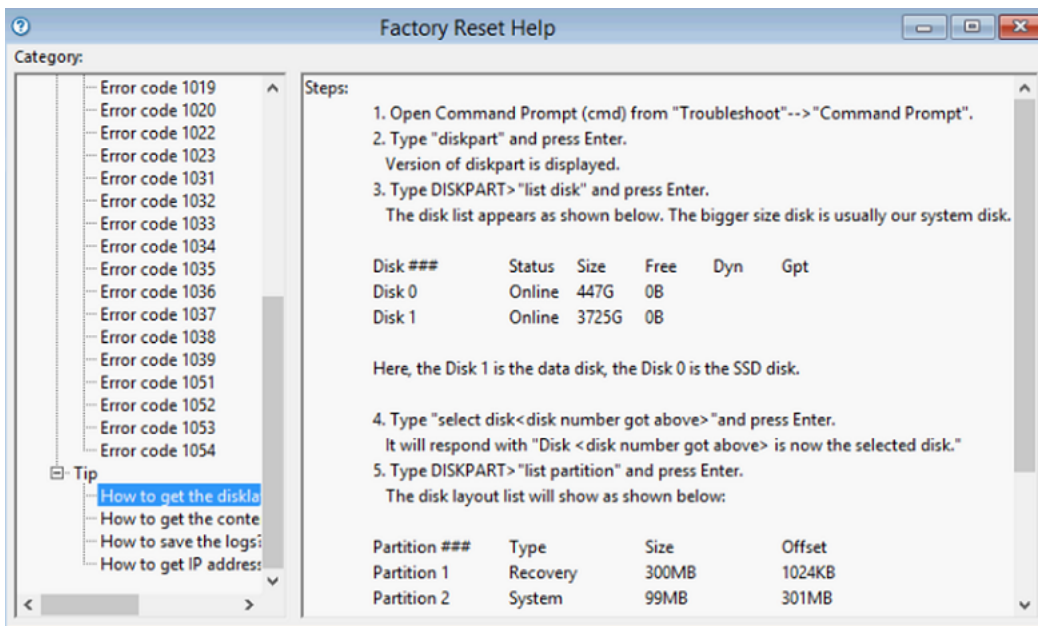
[ヘルプ辞書] ダイアログ ボックスには、エラーの原因、基本分析、および解決策に関する情報が表示されます。この問題を解決するには、以下の手順を実行してください。共通の操作についてのヒントも表示されます。たとえば、ディスクレイアウトの取得方法、ファクトリリセットのプロパティファイルコンテンツの取得方法、ログの保存方法などです。

2. 表示されるオプションの中から **[ヘルプ]** をクリックします。

画面には、複数のエラーコードとその詳細が表示されます。



3. エラーメッセージに表示されるエラーコードの [ヒント] に移動し、右側のパネルの下に表示されている指示に従います。



該当するエラーを選択し、ヒントに表示される指示に従うと、ファクトリリセットの問題を解決できます。

7000-8000 シリーズ アプライアンスのブート オプションを使用した Arcserve UDP ファクトリリセットの適用

UDP ファクトリリセットは、Arcserve アプライアンスのブートメニューから適用することができます。UDP ファクトリリセットを使用して、Arcserve アプライアンスをクリーンな未設定の状態に戻すことができます。

注：UDP ファクトリリセットの実行中に、バックアップデータを保持するオプションを選択することもできます。

以下の手順に従います。

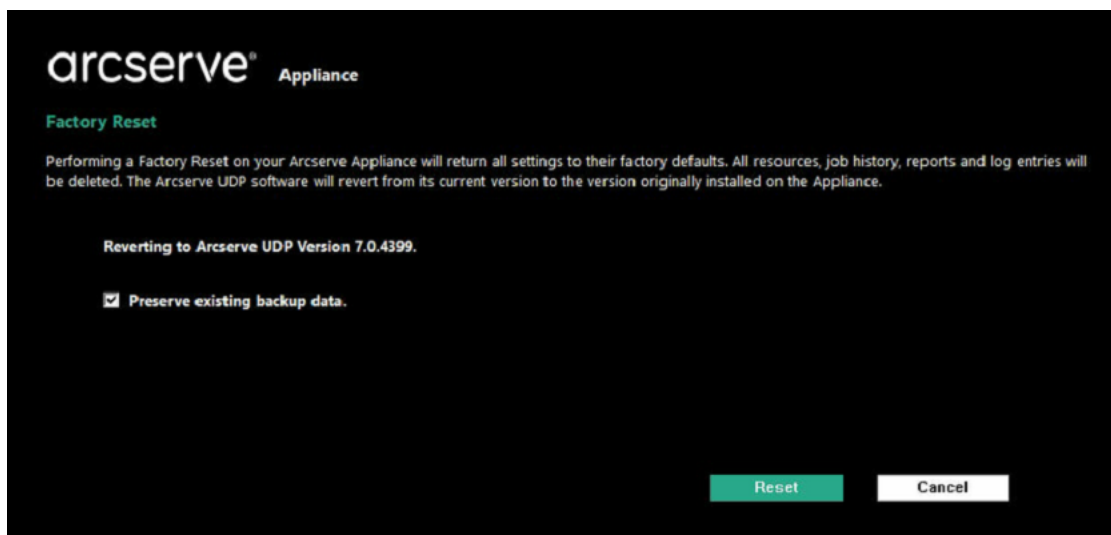
1. ブートメニューを起動するには、F11 キーを押します。



2. ブートオプションのUDPファクトリリセットを選択します。



ファクトリリセットに関するページが表示されます。

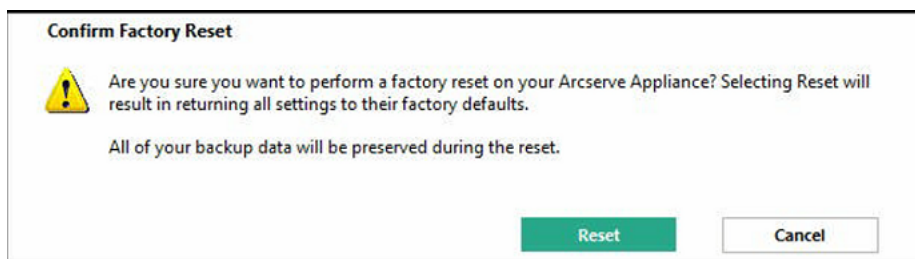


Notes:

- デフォルトで、**既存のバックアップデータを保持** オプションが選択されています。元のオペレーティングシステムの C:\ ボリュームのみが再構築されます。X:\ volume および Y:\ volume のデータは変更されませんままになります。
- **既存のバックアップデータを保持** オプションの選択をオフにすると、元のオペレーティングシステムの C:\、X:\、Y:\ の各ボリューム上のすべてのデータが再構築されます。

1. **リセット** をクリックします。

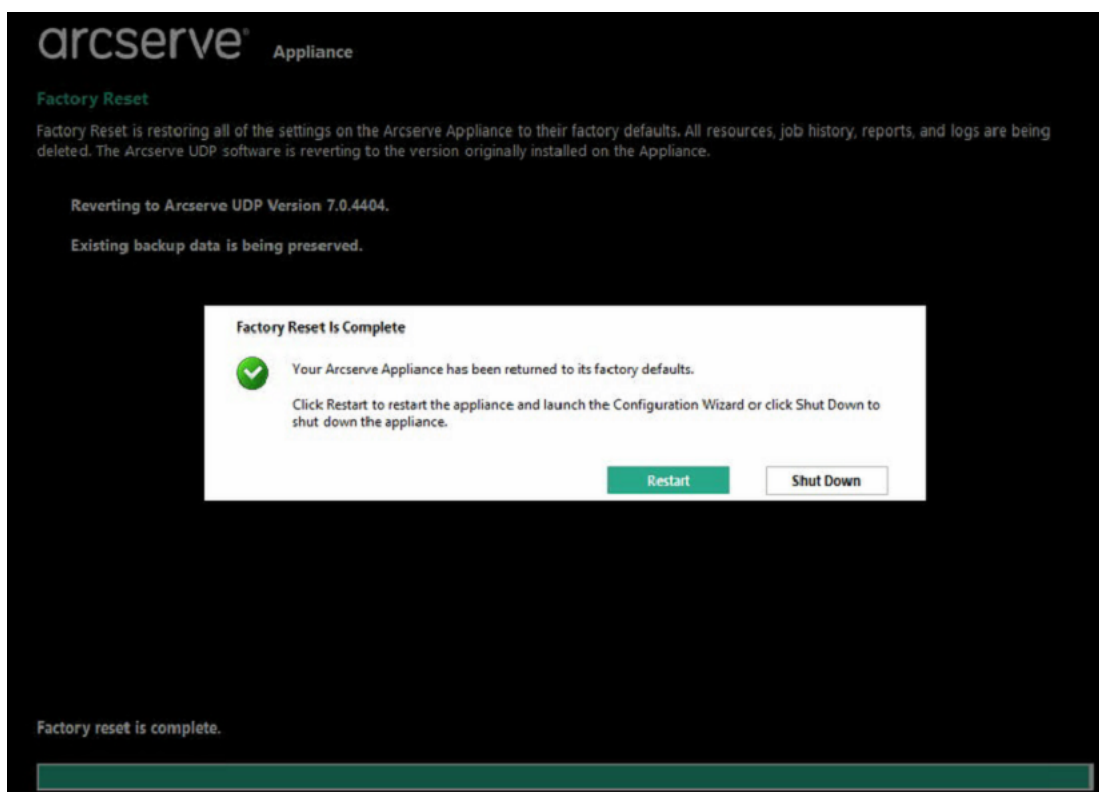
確認のダイアログボックスが表示されます。



[キャンセル]をクリックすると、Arcserve アプライアンス ユニートを再起動できません。

2. ファクトリリセットが完了した後、以下のいずれかの操作を実行できます。

- ◆ [再起動]をクリックしてアプライアンスを再起動します。
- ◆ [シャットダウン]をクリックしてアプライアンスを閉じます。



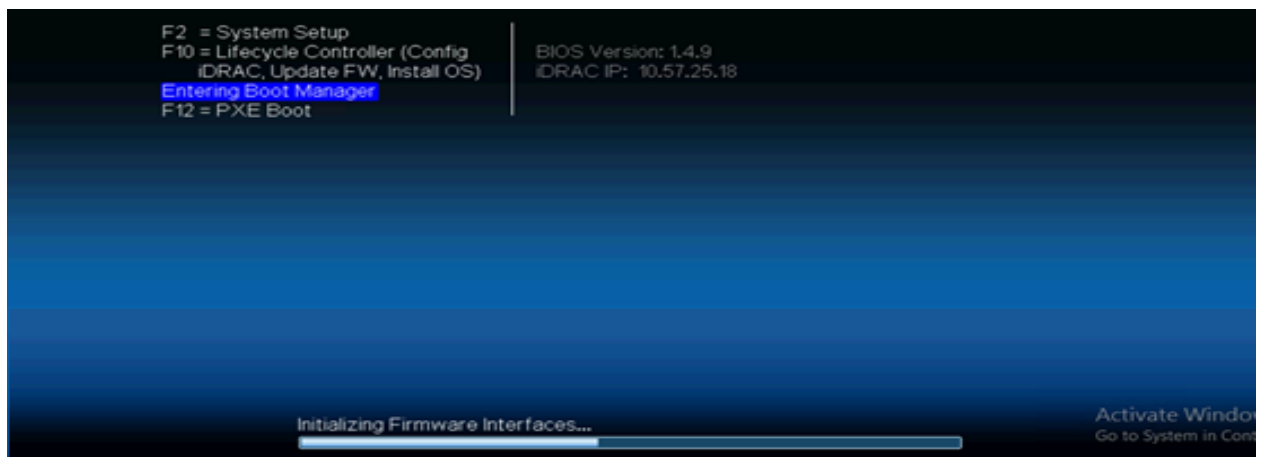
9012 - 9504 DR シリーズ アプライアンスのブート オプションを使用した Arcserve UDP ファクトリリセットの適用

UDP ファクトリリセットは、Arcserve アプライアンス 9012-9504DR シリーズのブートメニューから適用することができます。UDP ファクトリリセットを使用して、Arcserve アプライアンス 9012-9504DR シリーズをクリーンな未設定の状態に戻すことができます。

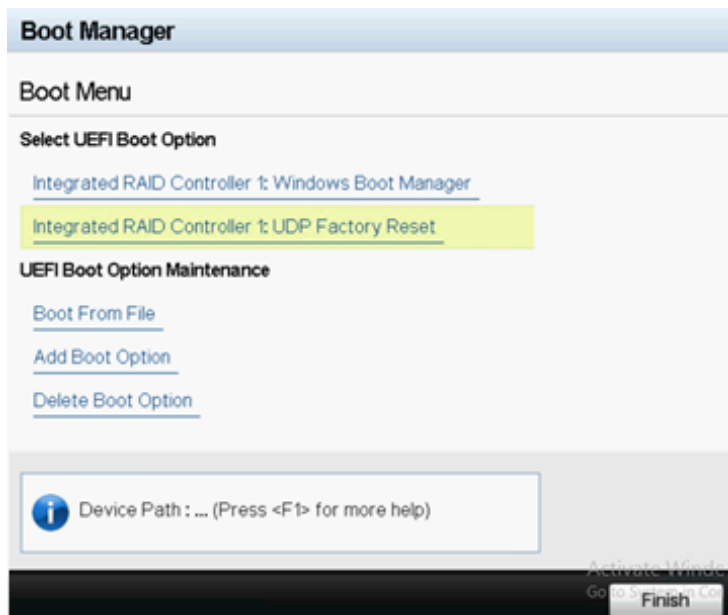
注：UDP ファクトリリセットの実行中に、バックアップデータを保持するオプションを選択することもできます。

以下の手順に従います。

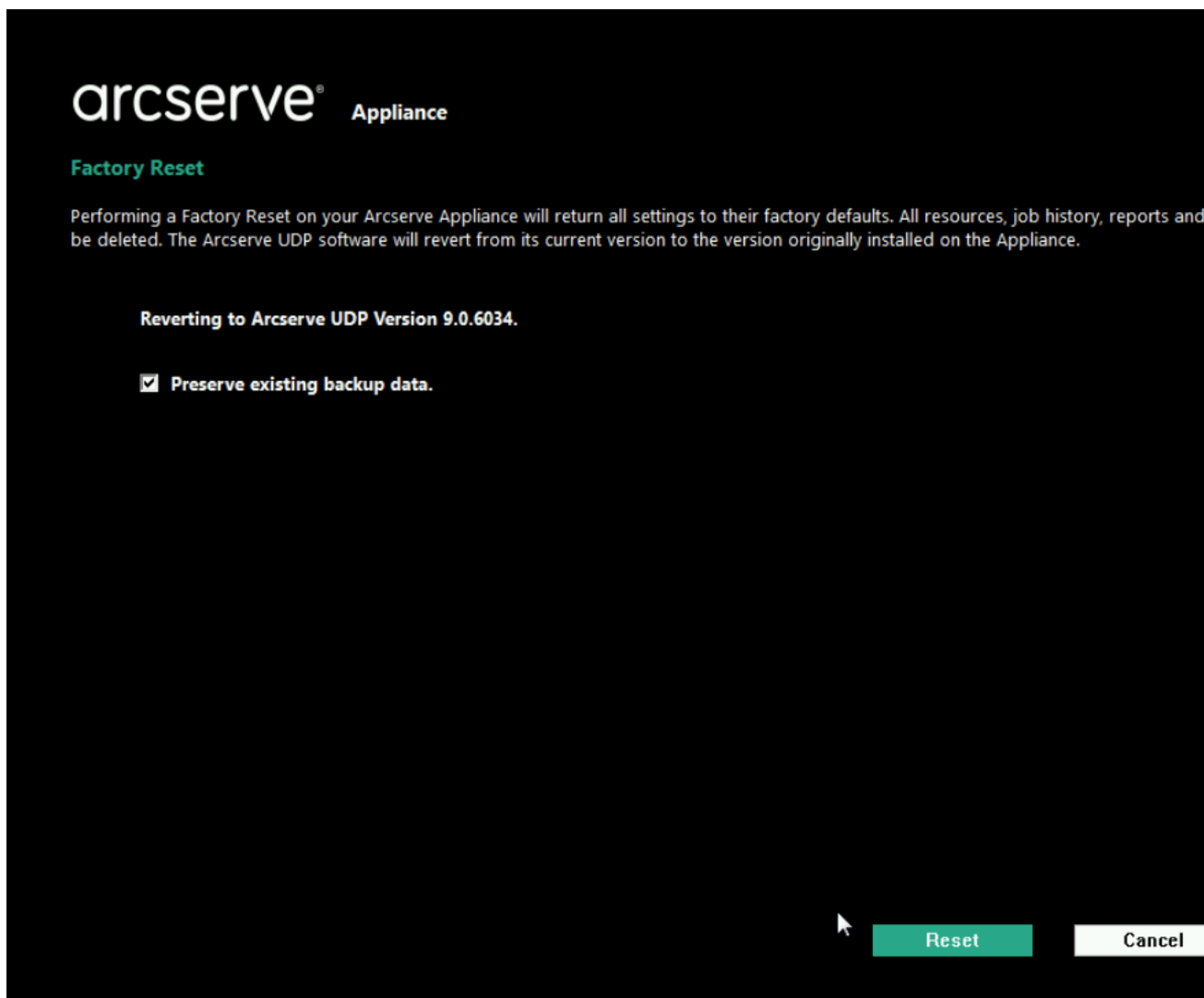
1. キーボードの F11 キーを押して、ブートメニューを起動します。



2. [Integrated RAID Controller 1: UDP Factory Reset (統合 RAID コントローラ 1: UDP ファクトリリセット)]ブート オプションを選択します。



ファクトリリセットに関するページが表示されます。

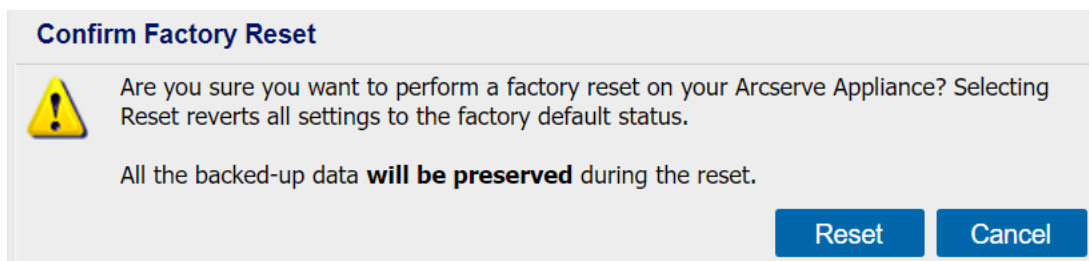


注:

- デフォルトで、**既存のバックアップデータを保持** オプションが選択されています。元のオペレーティングシステムの C:\ ボリュームのみが再構築されます。X:\ volume および Y:\ volume のデータは変更されないままになります。
- **既存のバックアップデータを保持** オプションの選択をオフにすると、元のオペレーティングシステムの C:\、X:\、Y:\ の各ボリューム上のすべてのデータが再構築されます。

3. **リセット** をクリックします。

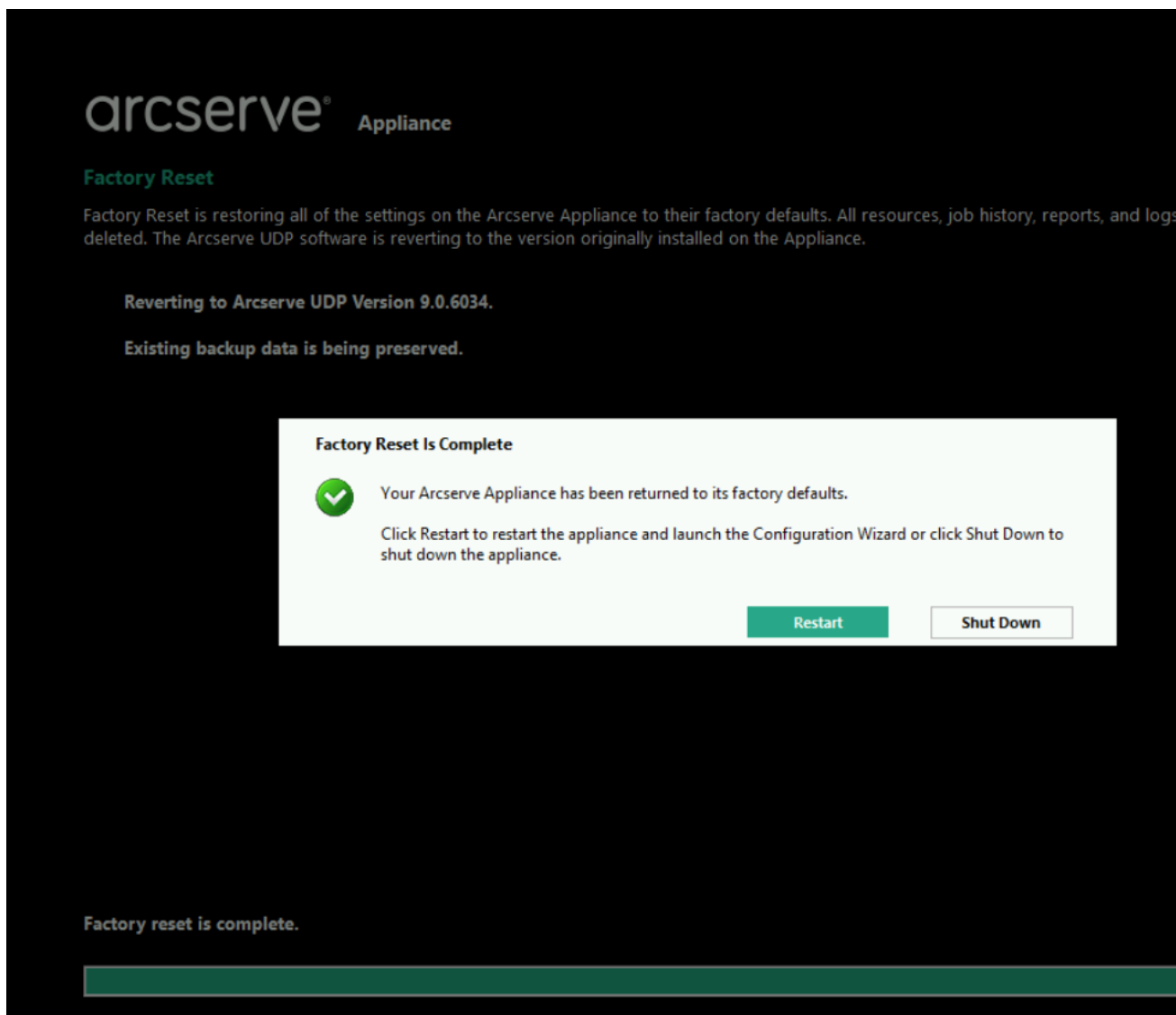
確認のダイアログ ボックスが表示されます。



キャンセル をクリックすると、Arcserve アプライアンス ユニートを再起動できません。

4. ファクトリリセットが完了した後、以下のいずれかの操作を実行できます。

- ◆ **再起動** をクリックしてアプライアンスを再起動します。
- ◆ **シャット ダウン** をクリックしてアプライアンスを閉じます。



X シリーズ アプライアンスのブート オプションを使用した Arcserve UDP ファクトリリセットの適用

UDP ファクトリリセットは、Arcserve アプライアンス X シリーズのブート メニューから適用することができます。UDP ファクトリリセットを使用して、Arcserve アプライアンス X シリーズをクリーンな未設定の状態に戻すことができます。

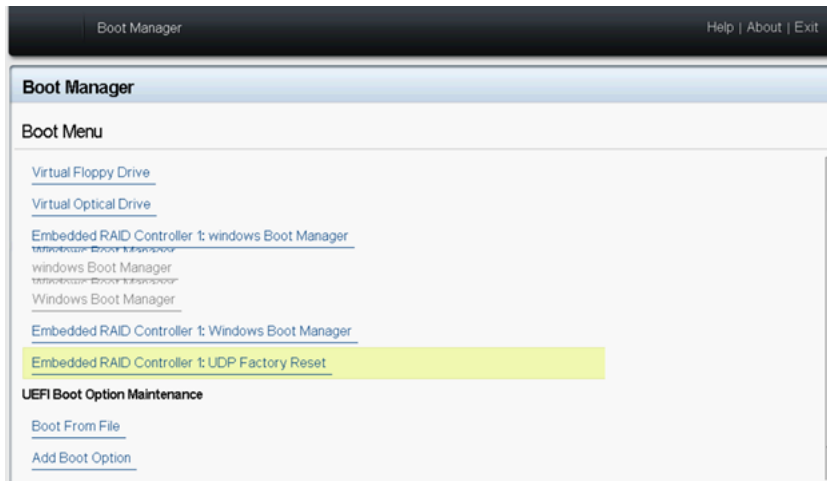
注：UDP ファクトリリセットの実行中に、バックアップ データを保持するオプションを選択することもできます。

以下の手順に従います。

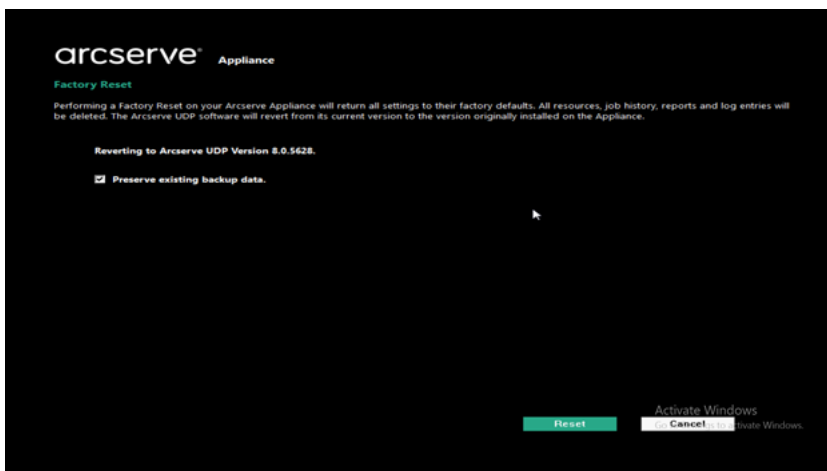
1. キーボードの F11 キーを押して、ブート メニューを起動します。



2. 組み込み RAID コントローラ 1: UDP ファクトリリセット]ブート オプションを選択します。



ファクトリリセットに関するページが表示されます。

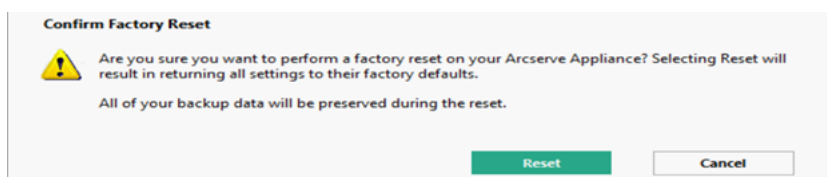


注:

- デフォルトで、**既存のバックアップデータを保持** オプションが選択されています。元のオペレーティングシステムの C:\ ボリュームのみが再構築されます。X:\ volume および Y:\ volume のデータは変更されないままになります。
- **既存のバックアップデータを保持** オプションの選択をオフにすると、元のオペレーティングシステムの C:\、X:\、Y:\ の各ボリューム上のすべてのデータが再構築されます。

3. **リセット** をクリックします。

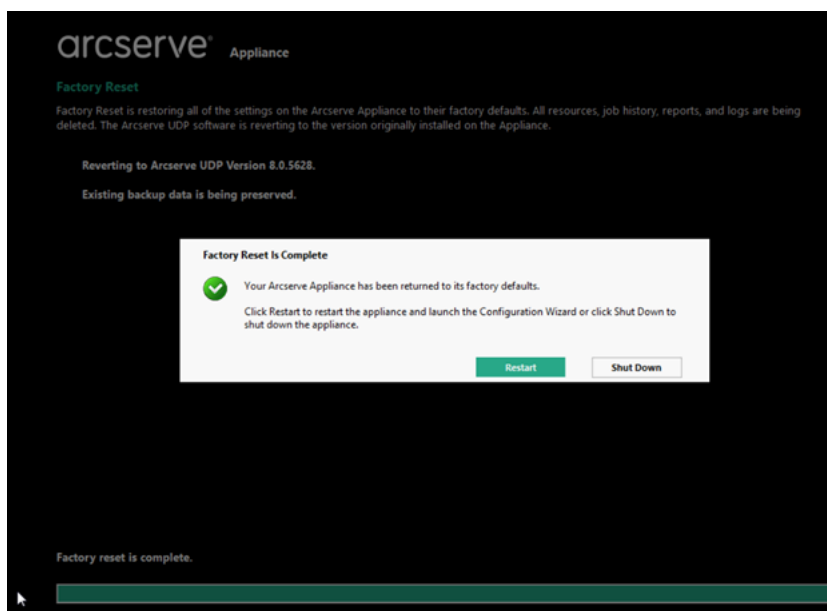
確認のダイアログボックスが表示されます。



キャンセル をクリックすると、Arcserve アプライアンス ユニートを再起動できません。

4. ファクトリリセットが完了した後、以下のいずれかの操作を実行できます。

- ◆ **再起動** をクリックしてアプライアンスを再起動します。
- ◆ **シャットダウン** をクリックしてアプライアンスを閉じます。

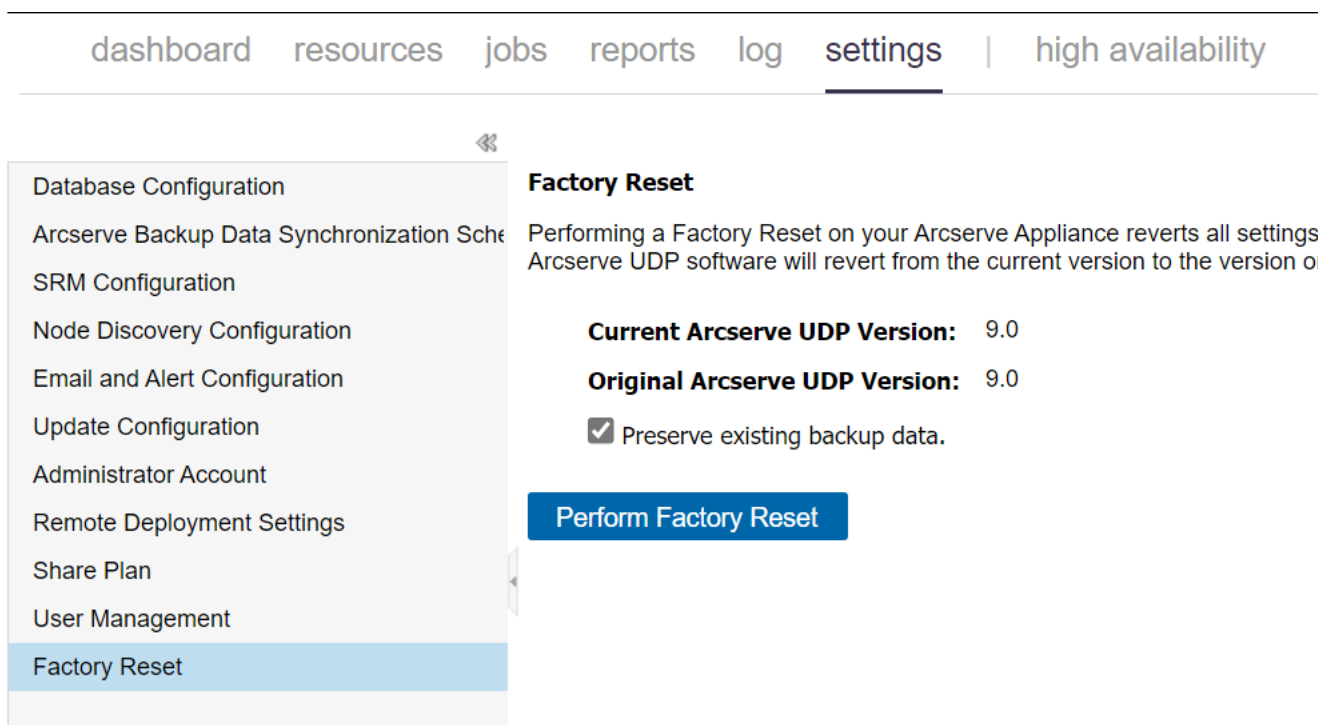


環境設定の消去およびアプライアンスファクトリリセットの適用

ファクトリリセットを使用して、Arcserve アプライアンスをクリーンな未設定の状態に戻すことができます。ファクトリリセットは Arcserve UDP コンソールから適用できます。

以下の手順に従います。

1. Arcserve UDP コンソールの **設定** タブで **ファクトリリセット** をクリックします。



デフォルトではすべてのバックアップデータが保存されます。

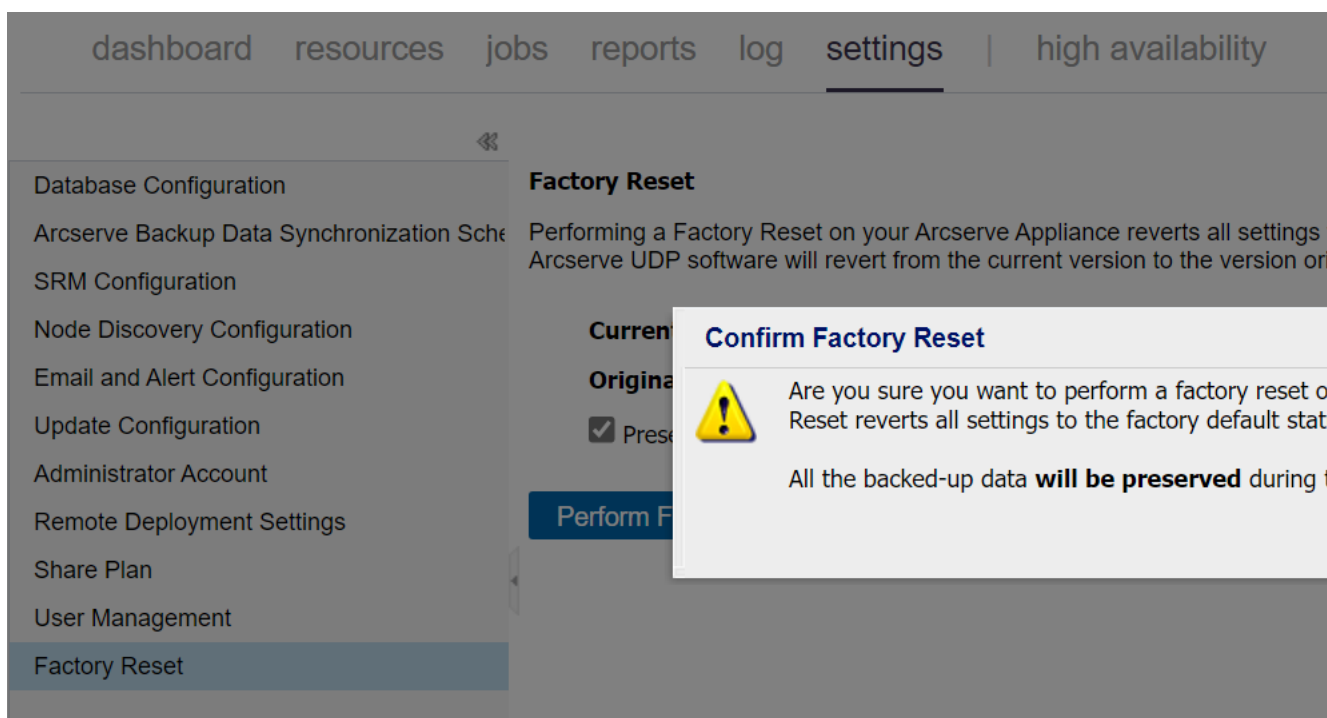
注:

Arcserve UDP には、**既存のバックアップデータを保持** オプションが用意されており、既存のデータストアを保存することができます。

- ◆ **既存のバックアップデータを保持** オプションを選択した場合、C:\ volume のみが再構築されます。X:\ volume および Y:\ volume のデータは変更されないままになります。
- ◆ **既存のバックアップデータを保持** オプションを選択しない場合、C:\, X:\ および Y:\ が再構築されます。

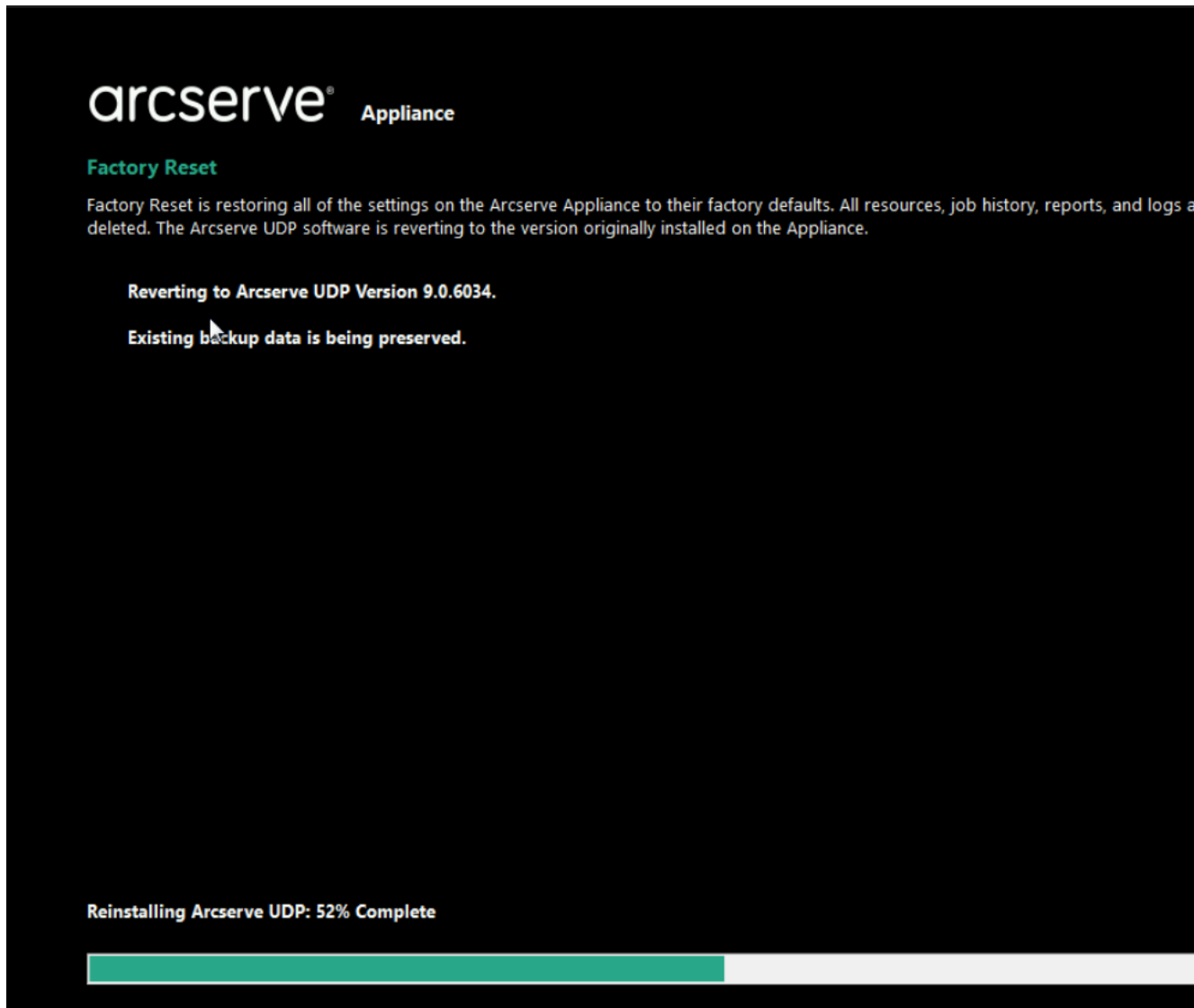
2. [ファクトリリセットを実行] をクリックします。

確認のダイアログボックスが表示されます。



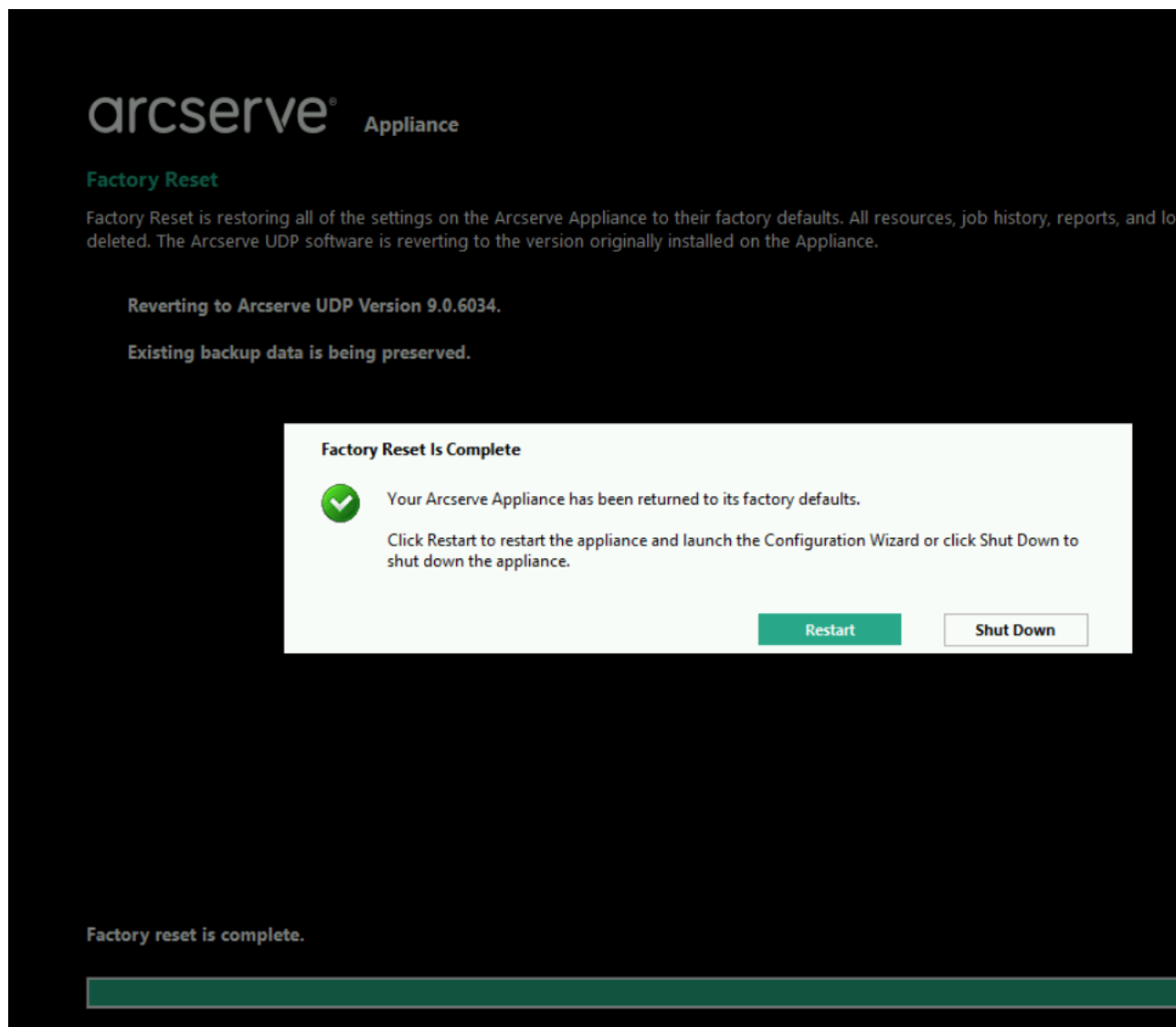
3. 確認のダイアログボックスで、[リセット] をクリックすると、ファクトリリセットが開始されます。

アプライアンスマシンが再起動され、ファクトリリセットが以下に表示されるとおりに実行されます。



ファクトリリセットの完了により、確認のダイアログボックスが表示されます。

4. 確認ダイアログボックスで、以下のいずれかのオプションを実行します。
 - ◆ **再起動** をクリックしてアプライアンスを再起動します。
 - ◆ **シャットダウン** をクリックしてアプライアンスを閉じます。



アプライアンスイメージ設定ユーティリティを使用した ファクトリリセット イメージの置換

アプライアンスイメージ設定ユーティリティツールを使用すると、現行システムの元のアプライアンスイメージを Arcserve アプライアンスの利用可能バージョンの該当するアプライアンスイメージに置き換えることができます。

ユーティリティの実行後、Arcserve UDP コンソールで利用可能なファクトリリセットを実行し、アプライアンスをファクトリデフォルト設定で Arcserve アプライアンスの目的のリリース済みバージョンに戻します。アプライアンスイメージ設定ユーティリティは、Arcserve アプライアンス v6.5 Update 1 以降のリリースで利用可能です。

注：置換に使用するアプライアンスイメージは、にインストールされている元の Arcserve UDP バージョン Arcserve アプライアンスより上位のバージョンにする必要が

あります。Arcserve アプライアンス イメージを別の Windows オペレーティング システムのバージョンに置き換えることはできません。

元の Arcserve UDP のバージョンを確認するには、Arcserve UDP コンソールにログインし、**設定**]に移動して、バージョンの詳細の **ファクトリリセット**]を選択します。

Factory Reset

Performing a Factory Reset on your Arcserve UDP Appliance will return all settings to their factory defaults. All resources, job history, reports, and log entries will be deleted. The Arcserve UDP software will revert from its current version to the version originally installed on the Appliance.

Current Arcserve UDP Version: 6.5.4175 update 4 build 1223

Original Arcserve UDP Version: 6.5.4175 update 4 build 1223

Preserve existing backup data.

Perform Factory Reset

注: 上記の画面では、Arcserve アプライアンス v6.5 Update4 と表示されていますが、Arcserve アプライアンス のリリース バージョンによっては異なる場合があります。

[Arcserve アプライアンス v6.5 Update 4 のファクトリリセット イメージをアプライアンス 9000 シリーズのアプライアンス 7.0 ファクトリリセット イメージに置き換えるサンプルシナリオ](#)

以下の例では、ファクトリリセット イメージを置き換える処理について説明します。別のバージョンでも同じ処理を実行できます。

アプライアンス イメージ設定 ユーティリティを使用して Arcserve アプライアンス 6 4 を Arcserve アプライアンス v Update 7.0 に戻す方法

以下の手順に従います。

1. Arcserve アプライアンス 9000 シリーズのアプライアンス ファクトリリセット イメージをダウンロードし、アプライアンス イメージ設定 ユーティリティを実行します。以下の手順を実行し、アプライアンス イメージ設定 ユーティリティを使用します。
 - a. 7.0 のファクトリリセット イメージをダウンロードするには、[Arcserve サポート](#)にお問い合わせください。
 - b. Windows コマンド ラインを開いて、以下のコマンドを入力します。


```
C:\Program files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\bin\Appliance\SetImage.exe - applianceimage <Fullpath of the appliance image just downloaded>
```

 終了したアプライアンス イメージの確認手順が完了したら、以下のクエリが表示されます。


```
appliance.wim ファイルを置き換えてもよろしいでしょうか? <y/n>
```
 - c. イメージを置き換えるには「y」または「yes」を入力し、実行を終了するには「n」または「no」を入力します。

イメージの複製が完了すると、コマンドラインには、以下のメッセージが表示されます。

アプライアンスイメージの置換が完了しました。

```
C:\Users\Administrator>"C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN\Appliance\SetImage.exe" -applianceimage c:\appliance_image\appliance.wim
Start to check appliance image, this may need about 30 minutes, please wait...
Mounting the old appliance image, please wait...
Unmounting the old appliance image, please wait...
Mounting the new appliance image, please wait...
Unmounting the new appliance image, please wait...
Completed checking appliance images.
Are you sure you want to replace the appliance image file? <y/n>:y
Start to replace appliance image, please wait...
Replace appliance image completed.
```

2. Arcserve アプライアンス 7.0 に戻すには、以下の手順を実行します。

注： Arcserve UDP コンソールでのアプライアンスファクトリリセットイメージの置換後、元の Arcserve UDP バージョンは目的のアプライアンスリリースバージョンに変更されます。

- a. Arcserve UDP コンソールから、**設定**]に移動し、**ファクトリリセット**]を選択します。

Factory Reset

Performing a Factory Reset on your Arcserve UDP Appliance will return all settings to their factory defaults. All resources, job history, reports, and log entries will be deleted. The Arcserve UDP software will revert from its current version to the version originally installed on the Appliance.

Current Arcserve UDP Version: 6.5.4175 update 4 build 1223

Original Arcserve UDP Version: 7.0.4455

Preserve existing backup data.

Perform Factory Reset

元の Arcserve UDP バージョンは、Arcserve アプライアンス 7.0 に変更されます。

注： アプライアンスイメージの置換後に、**元の Arcserve UDP バージョン**]に目的のアプライアンスリリースバージョンが表示されていない場合は、ページを再度読み込みます。

- b. **ファクトリリセットの実行**]をクリックすると、現在のバージョンのアプライアンスから、新しい Arcserve アプライアンス 7.0 バージョンに戻ります。

ファクトリリセットの詳細についてはこちらの[リンク](#)を参照してください。

ハードドライブの取り外しおよび交換

Arcserve アプライアンスを使用すると、ハードドライブの1つに障害が発生した場合、残りのドライブがすぐに起動し、データは失われずにアプライアンスが引き続き正常に動作します。そのため、複数のハードドライブの障害に関連する問題に対して防御するには、データが失われる可能性を最小限に抑えるためにできる限り早くハードドライブを置き換える必要があります。

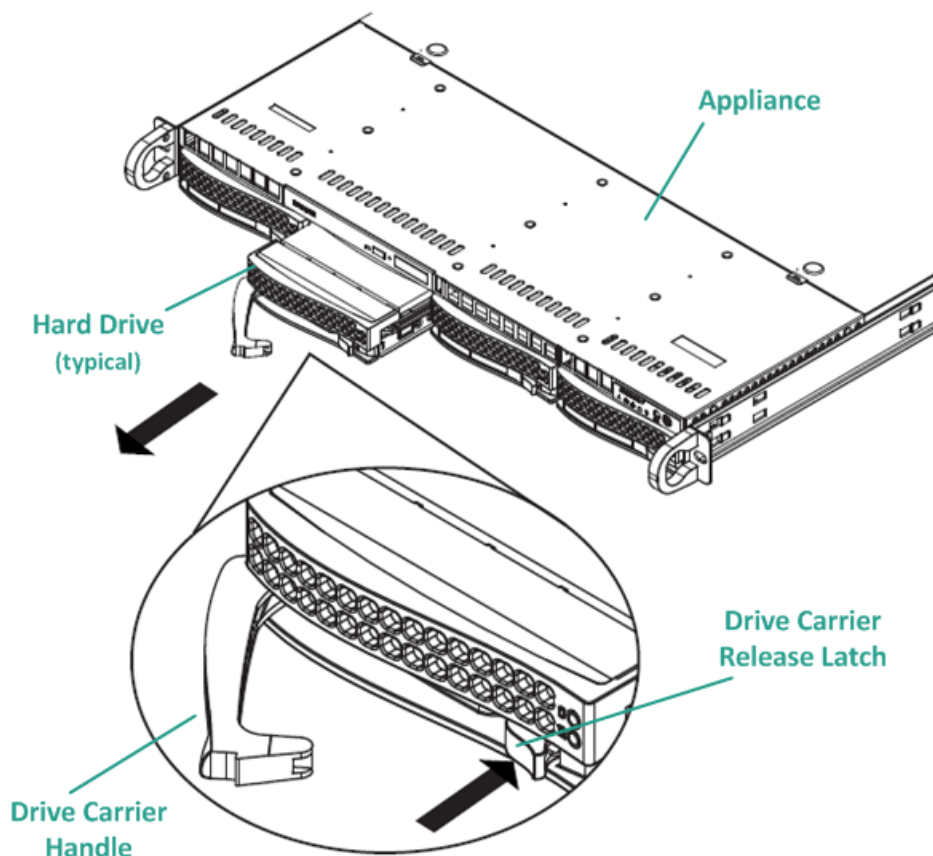
Arcserve アプライアンスには、4つのハードドライブ キャリアが含まれており、左から右に0、1、2、3とラベルが付けられています。一度に複数のハードドライブを交換する場合、各ドライブ キャリアでどのドライブが交換されたかがわかるように、交換したハードドライブにラベルを付ける必要があります。アプライアンスから取り外したハードドライブにもラベルを付け、どのドライブ キャリアによって占有されていたかがわかるようにします。

重要: ハードドライブは静電気に敏感なデバイスであり、損傷しやすいため、ハードドライブを扱う場合は適切な保護対策を講じてください。

- 静電気の放電を防ぐためにリストトラップを着用してください。
- 交換用ハードディスクを帯電防止のパッケージ袋から取り出す前に、接地された物体に触れるようにします。
- ハードドライブを扱う際は常に端のみを持つようにし、底面の露出している部品には一切触れないでください。

以下の手順に従います。

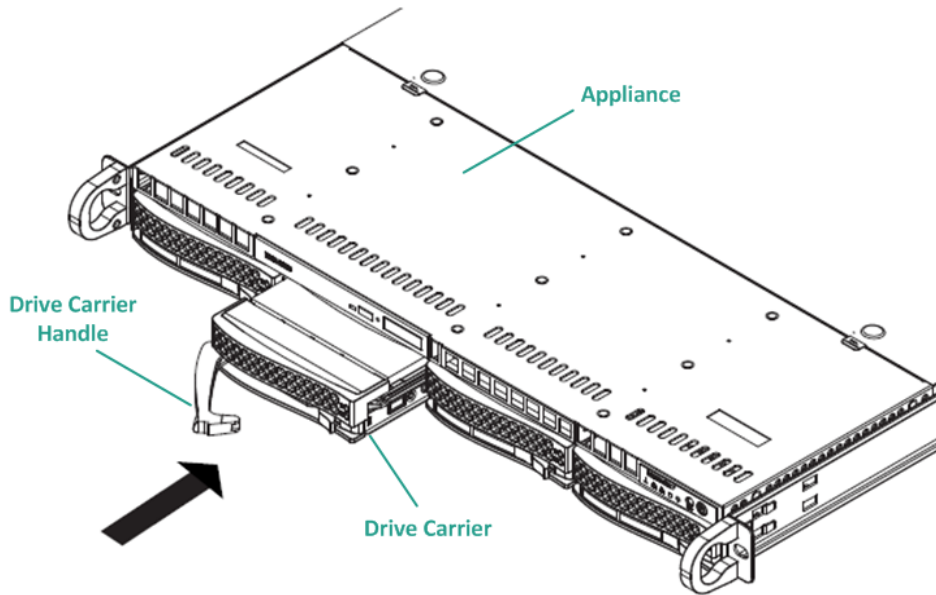
1. ドライブホルダーにアクセスするには、まずフェイスプレートを取り外す必要があります。
 - a. フェイスプレートのロックを解除します。
 - b. 取り外し用つまみを押し、フェイスプレートピンを格納します。
 - c. フェイスプレートを慎重に取り外します(両手を使用)。
2. ドライブキャリアの取り外し用ラッチを押します。これにより、ドライブキャリアハンドルが展開されます。



3. ハンドルを使用して、アプライアンスの前面からドライブ キャリアを引き出します。ハードドライブは、アプライアンスに対する取り付け/取り外しを簡単に行うことができるよう、ドライブ キャリアにマウントされています。これらのキャリアは、ドライブ ベイに適切な換気が行われるようにするのも役立ちます。

重要: 短時間の場合を除き(ハードドライブの交換など)、ドライブ キャリアが完全に設置されていない状態でアプライアンスを稼働させることはしないでください。

4. 古いハードドライブをドライブ キャリアから取り外し、新しいハードドライブを設置します。その際、交換用ハードドライブが正しい向きであるかに注意し、ラベルが上部、部品が下部にきていることを確認します。
5. ドライブトレイがアプライアンスに完全に設置されるまでスライドし、ドライブ キャリア ハンドルを閉じて固定します。



6. ドライブを返却する場合は、返却に関する指示を Arcserve サポートから取得します。

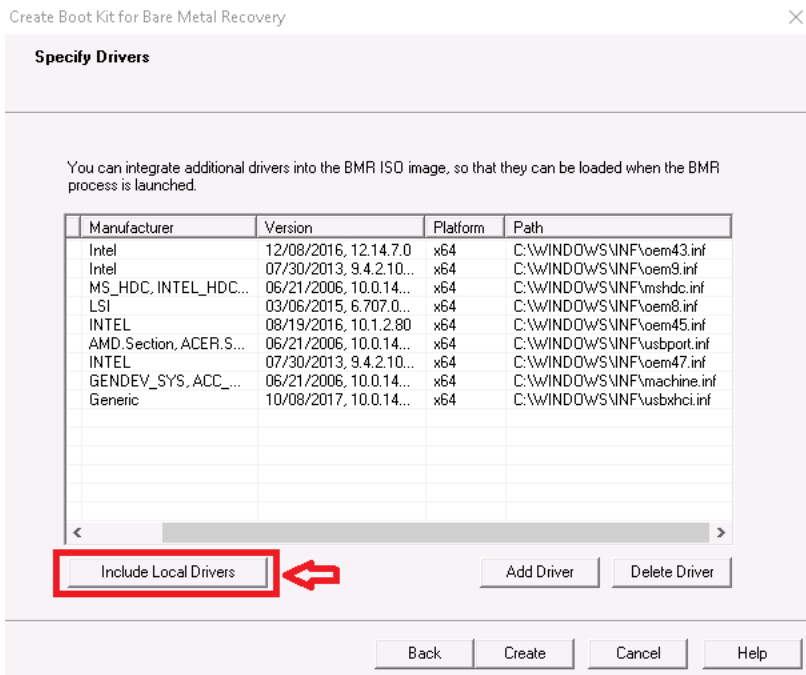
データを保持しないベアメタル復旧(BMR)の実行

Arcserve アプライアンスでは、Arcserve UDP ブート キットを使用して、ベアメタル復旧を実行できます。

以下の手順に従います。

1. アプライアンスで Arcserve UDP ブートキット ウィザードを実行し、x64 プラットフォームでブート可能な BMR ISO イメージまたは USB スティックを生成します。

注：ISO イメージにはローカルドライバを含める必要があります。ローカルドライバを含めるには、[ベアメタル復旧用のブートキットの作成]ウィンドウで [ローカルドライバを含む] オプションを選択します。ブートキットの作成方法の詳細については、この[リンク](#)を参照してください。



2. BMR ISO イメージまたは USB スティックを使用して、Arcserve アプライアンスを起動します。

Arcserve ベアメタル復旧のセットアップ画面が表示されます。

3. 必要な言語を選択して、[次へ]をクリックします。



4. [Arcserve Unified Data Protection のバックアップからのリストア]オプションを選択し、[次へ]をクリックします。

arcserve® bare metal recovery

Bare Metal Recovery(BMR)
- Select the type of backup for BMR

Select type of restore source:

Restore from a Arcserve Unified Data Protection backup

Use this option to perform a restore from either a backup destination folder or a data store.

Recover from a virtual machine

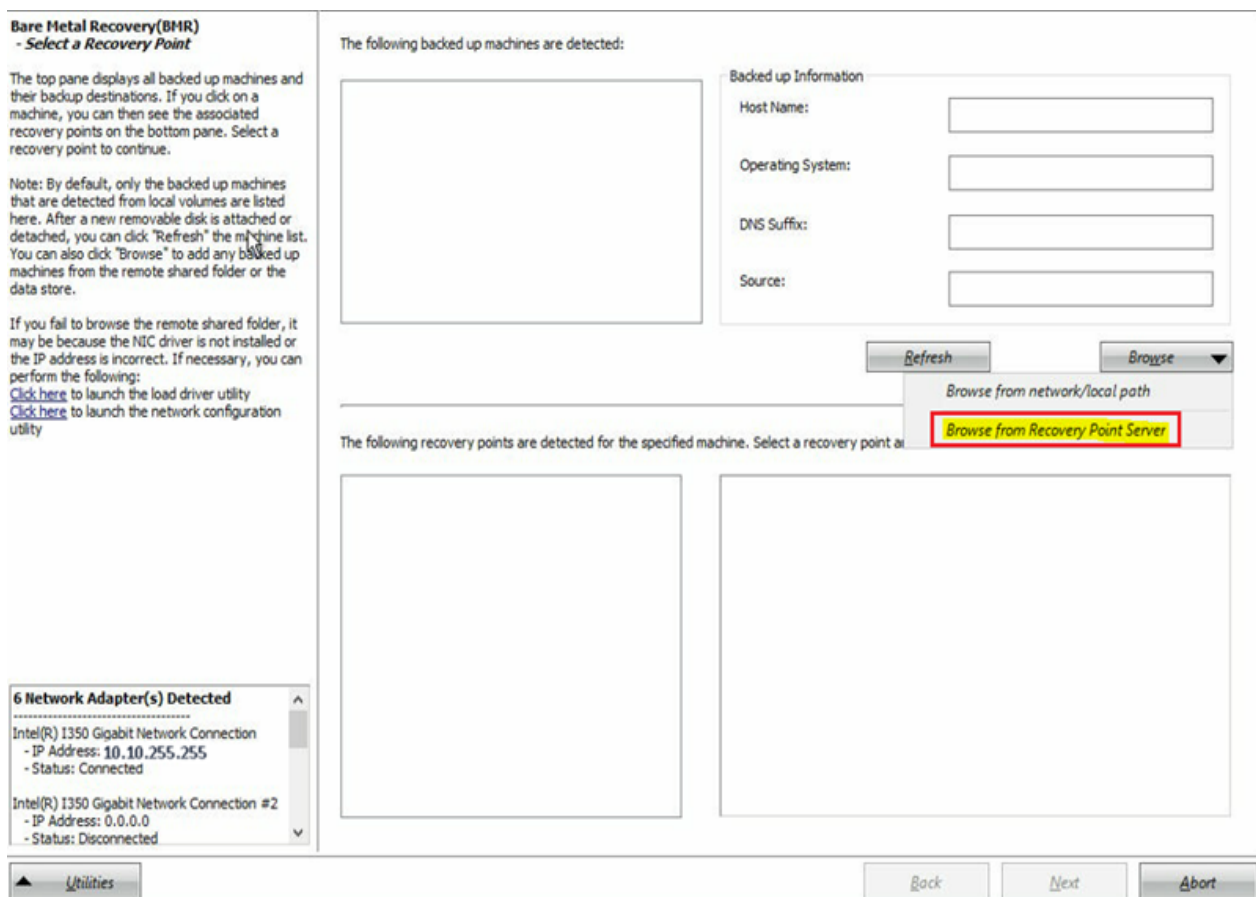
Use this option to perform a virtual-to-physical (V2P) restore from a virtual machine created by Virtual Standby or Instant VM

Source is on a VMware machine

Source is on a Hyper-v machine

復旧ポイントの選択]ウィザードのウィンドウが表示されます。

5. **参照]**をクリックして、**復旧ポイント サーバから参照]**を選択します。



[ノードの選択]ウィンドウが表示されます。

6. 復旧ポイント サーバのホスト名、ユーザ名、パスワード、ポート、およびプロトコルを入力します。
7. [接続]をクリックします。
8. 接続が確立されたら、[OK]をクリックします。

Select Node

Enter the Recovery Point Server credentials and click "Connect" to connect to the server and retrieve the data store and node list.

Host Name: appliance7501 Port: 8014

User Name: administrator Protocol: HTTP HTTPS

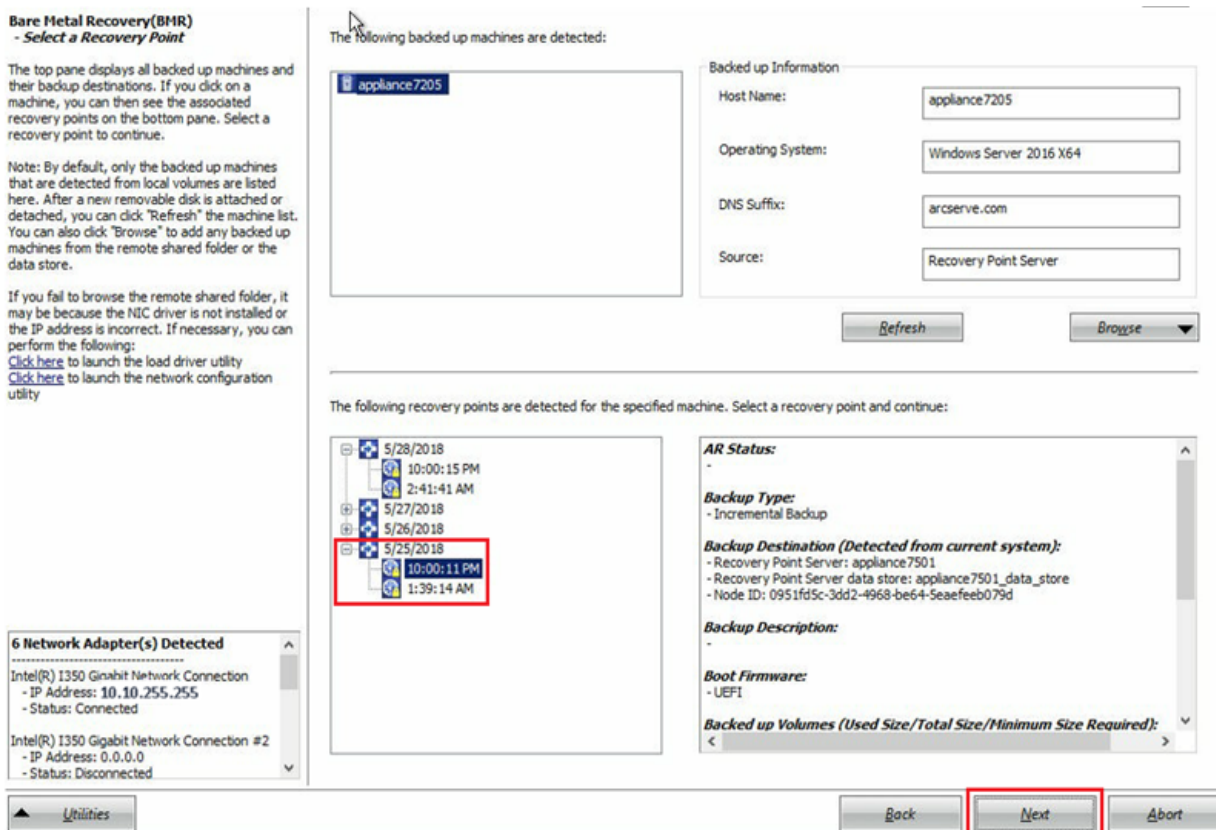
Password: [masked]

Data stores and nodes protected on this server:

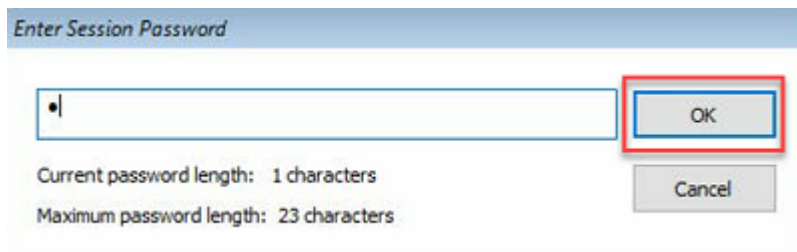
Property	Description
Node	appliance7205
DNS Suffix	arcserve.com
Node ID	0951fd5c-3dd2-4968-be64-5eaf...

[ペアメタル復旧(BMR) - 復旧ポイントの選択]ダイアログボックスが表示されます。

9. リストアする復旧ポイントを選択して、[次へ]をクリックします。

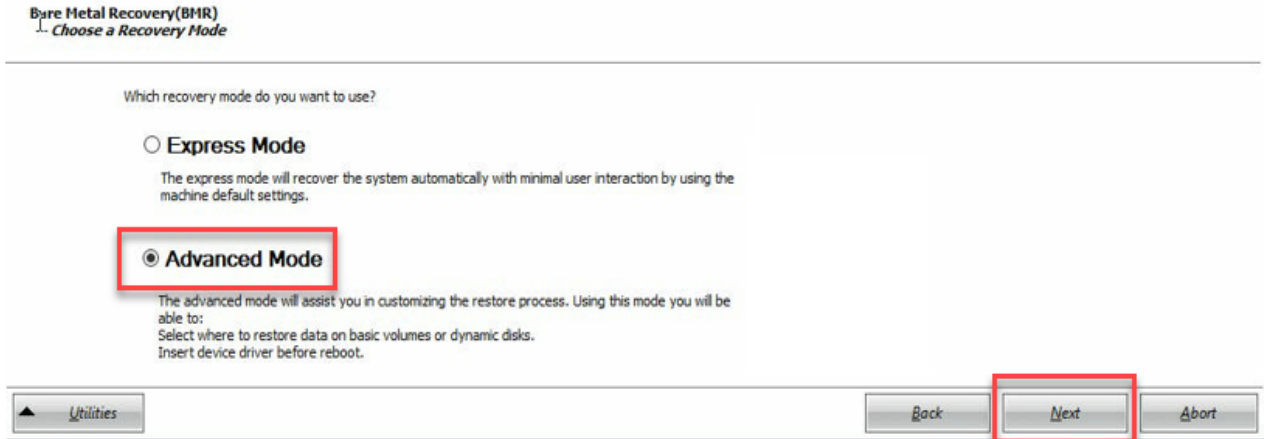


10. (オプション) 要求された場合はセッションパスワードを入力し、**[OK]**をクリックします。



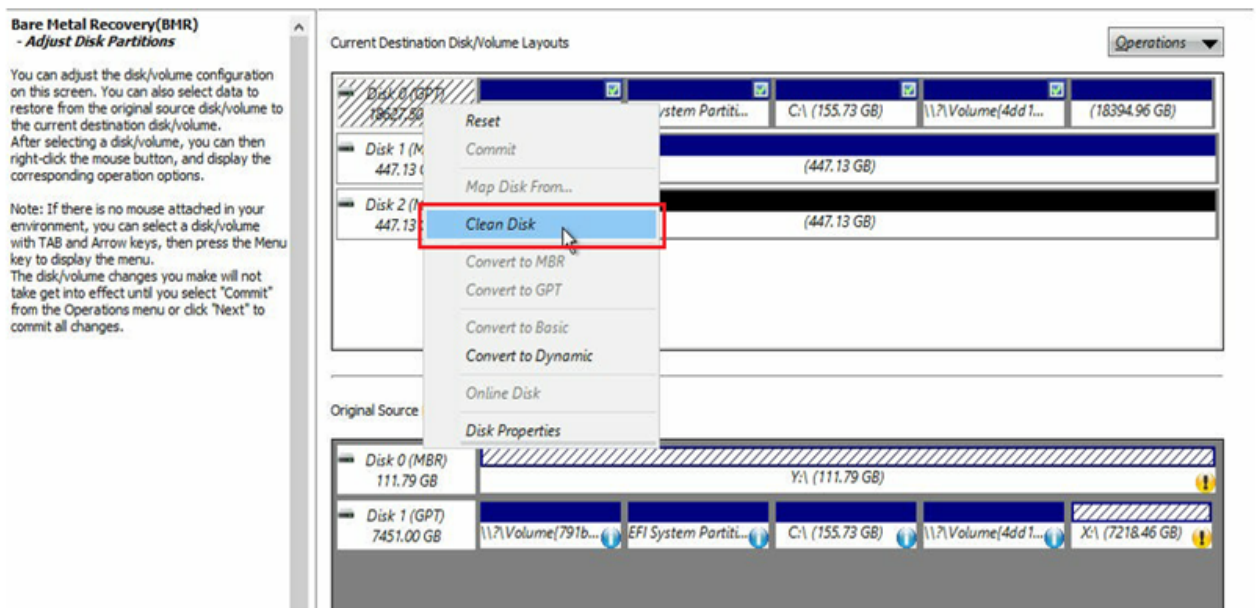
[ペアメタル復旧 (BMR) - 復旧モードの選択] ダイアログボックスが表示されます。

11. **[拡張モード]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。

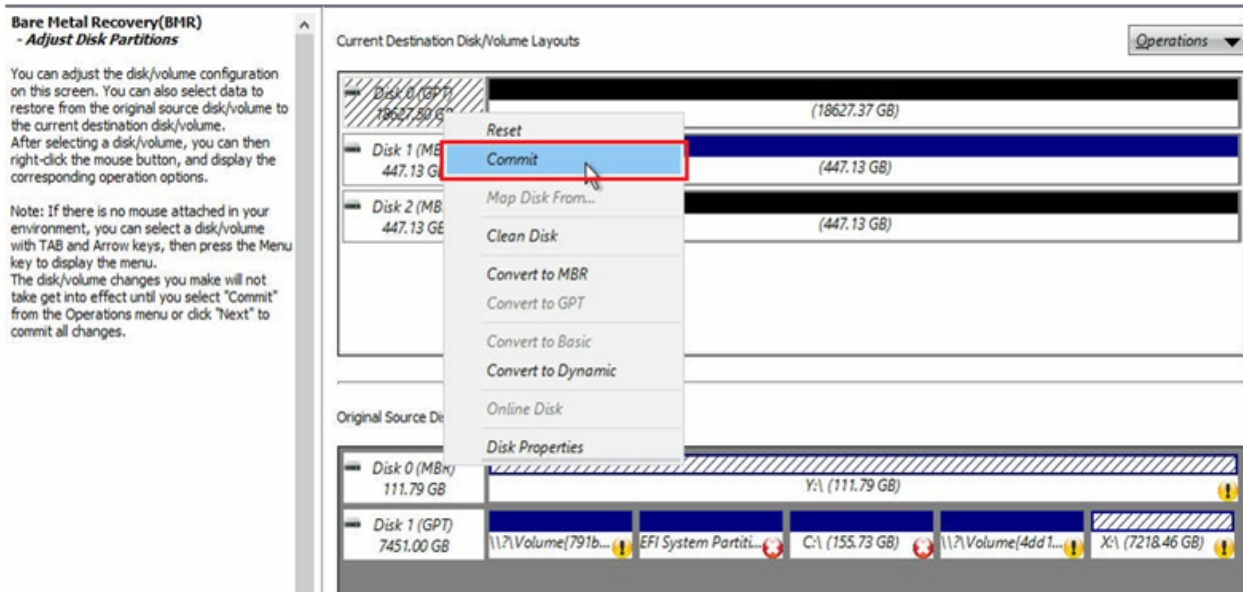


「ペアメタル復旧(BMR) - ディスクパーティションの調整」ダイアログボックスが表示されます。

12. 使用可能な最大のGUIDパーティションテーブル(GPT)ディスクを右クリックし、「ディスクの消去」をクリックします。

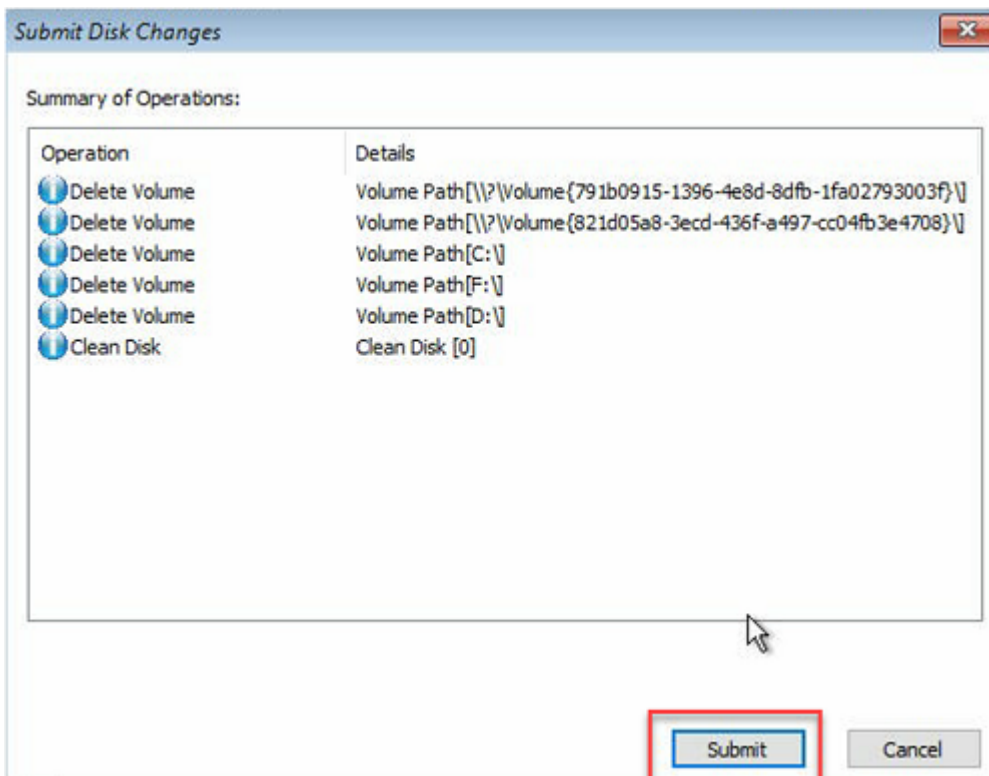


13. ディスクを消去した後、同じディスクを右クリックして「コミット」をクリックします。

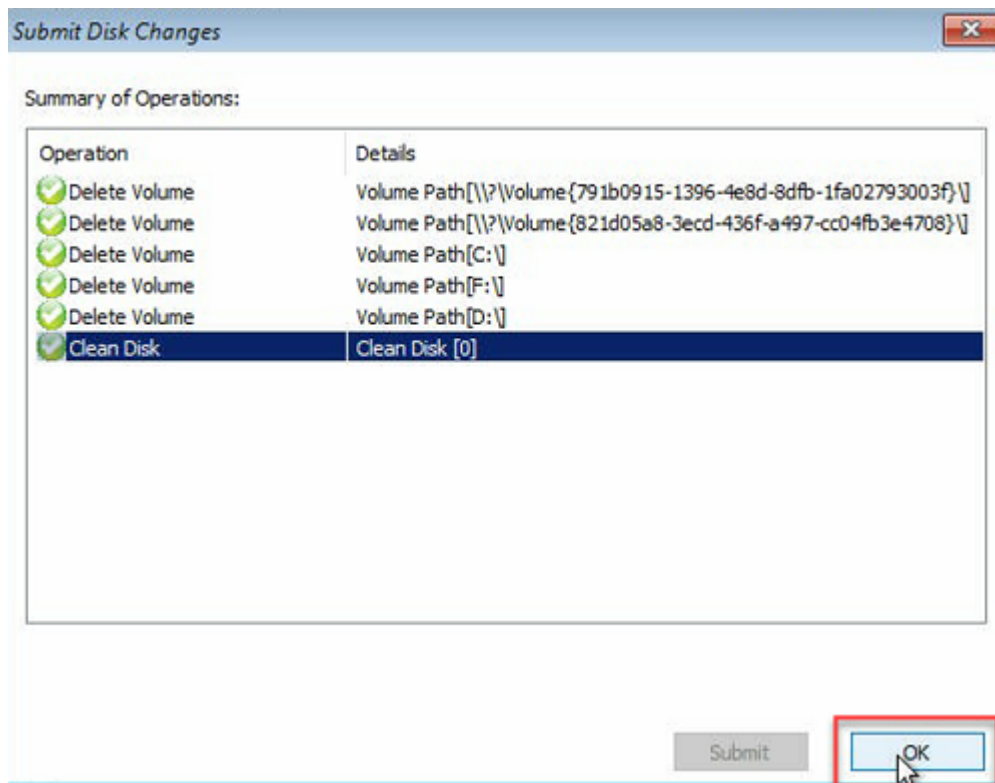


「ディスク変更のサブミット」ウィンドウが表示されます。

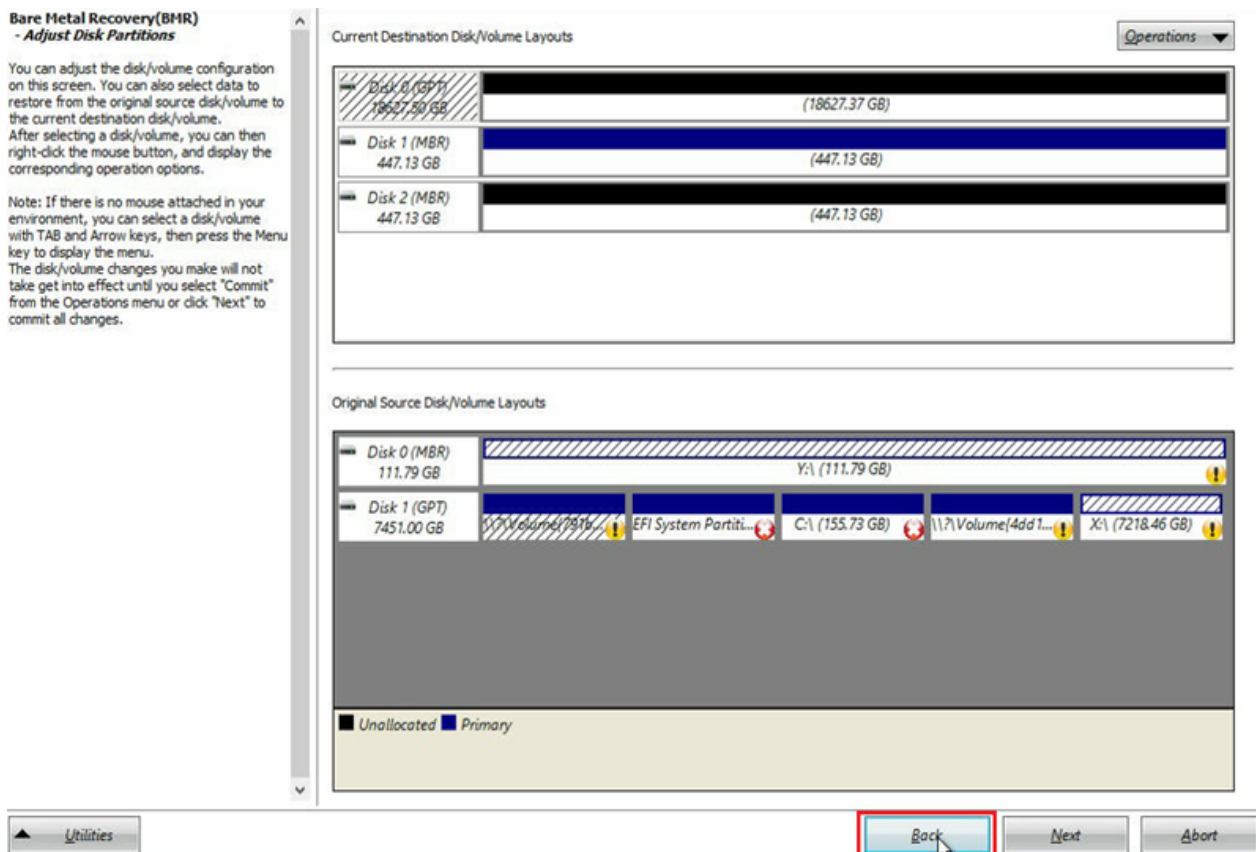
- 「サブミット」をクリックします。



- ディスクの消去が完了したら、[OK]をクリックします。

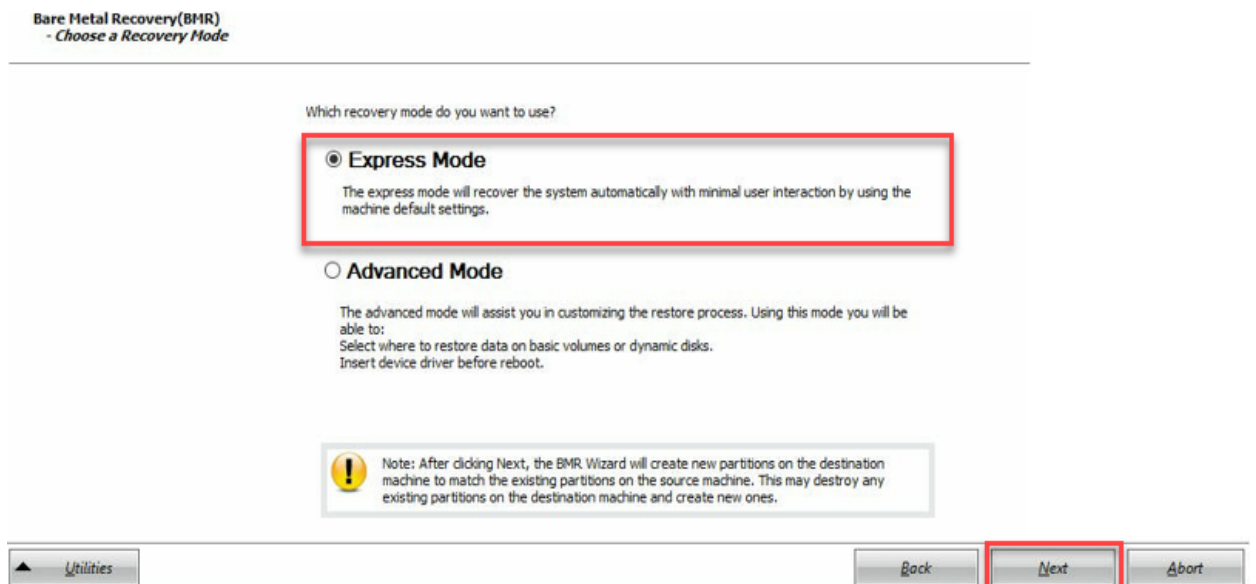


16. [ベアメタル復旧 (BMR) - ディスクパーティションの調整] ダイアログボックスで [戻る] をクリックします。



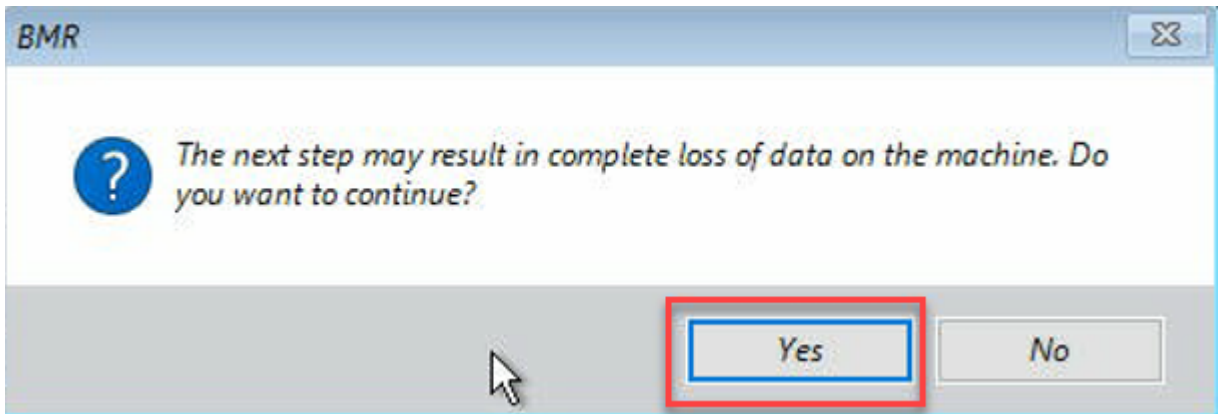
[ペアメタル復旧(BMR) - 復旧モードの選択]ダイアログボックスが表示されます。

17. [高速モード]を選択し、[次へ]をクリックします。



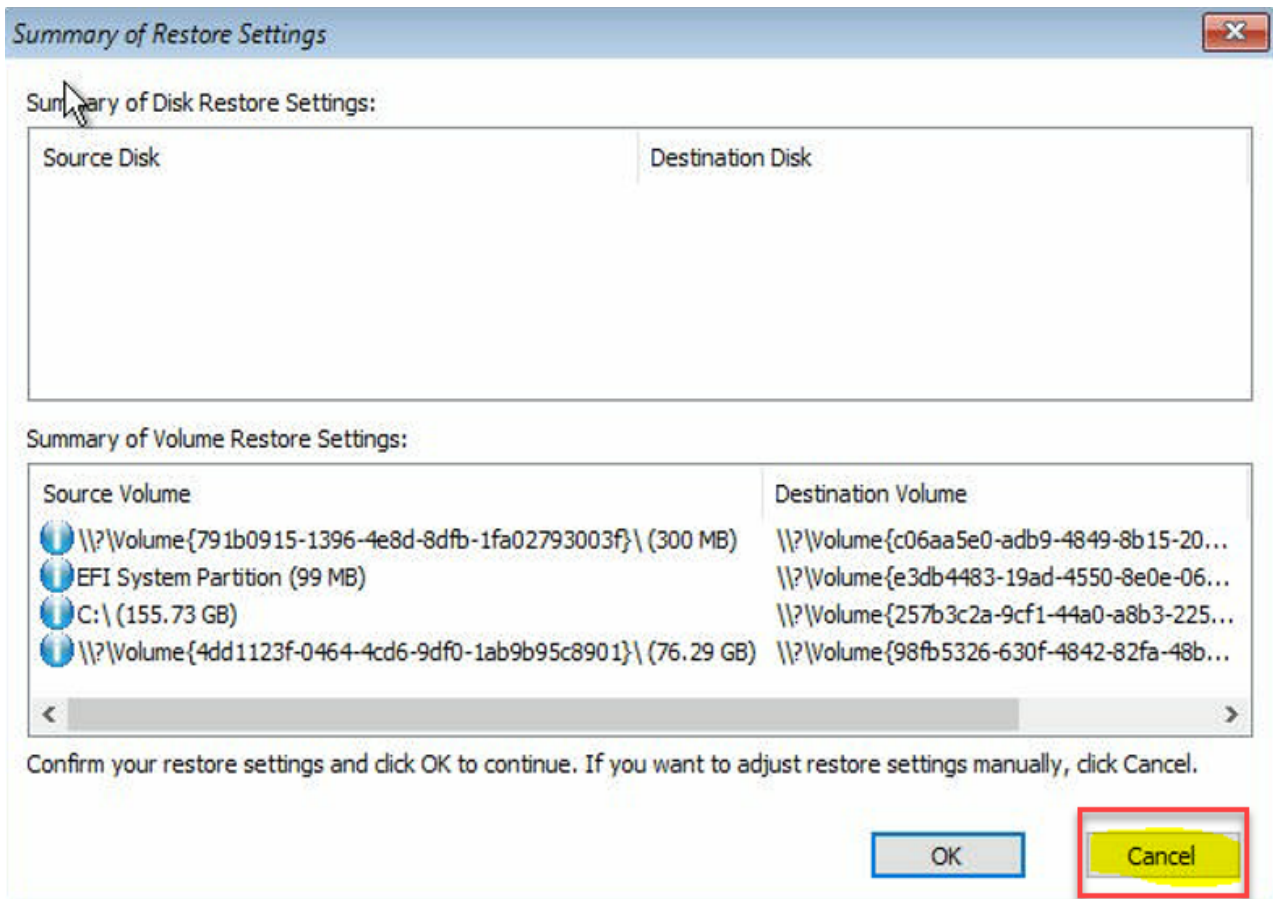
[BMR]ダイアログボックスが表示されます。

18. **【はい】**をクリックします。



【リストア設定のサマリ】ダイアログ ボックスが表示されます。

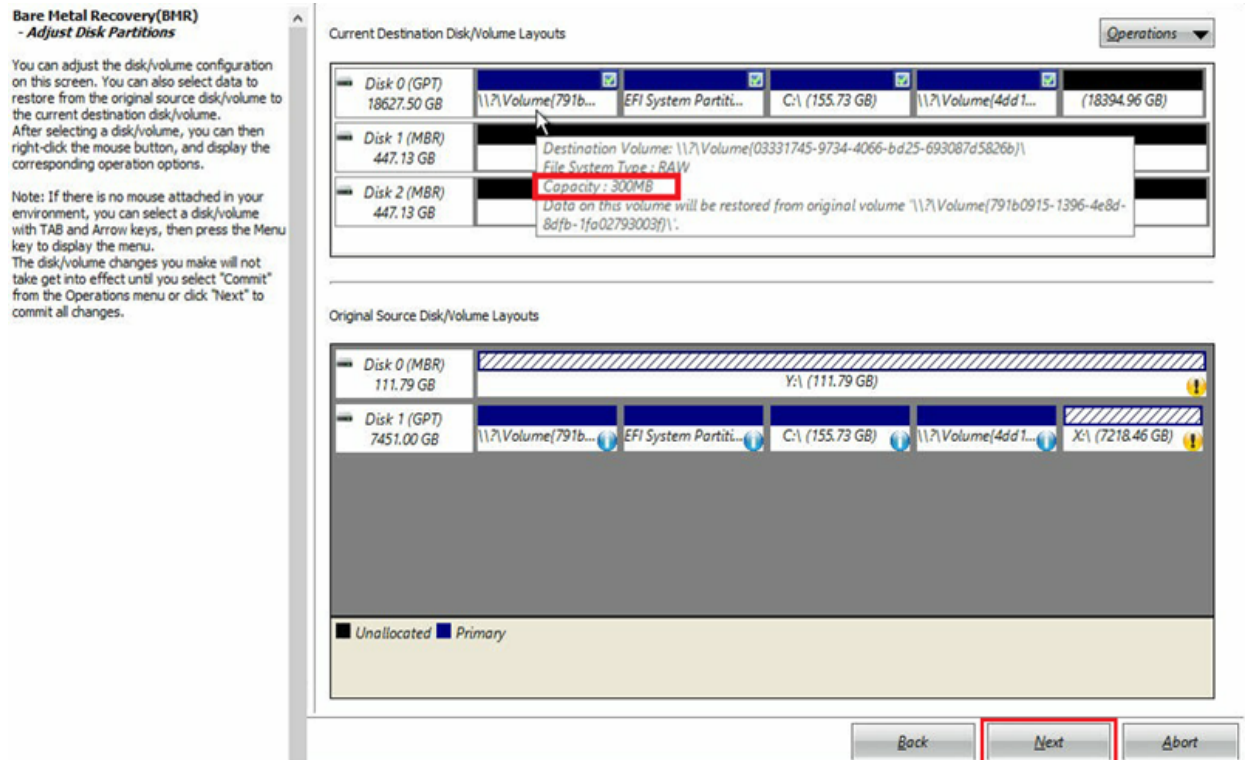
19. **【キャンセル】**をクリックします。



【ペアメタル復旧(BMR) - ディスクパーティションの調整】ダイアログ ボックスが表示されます。

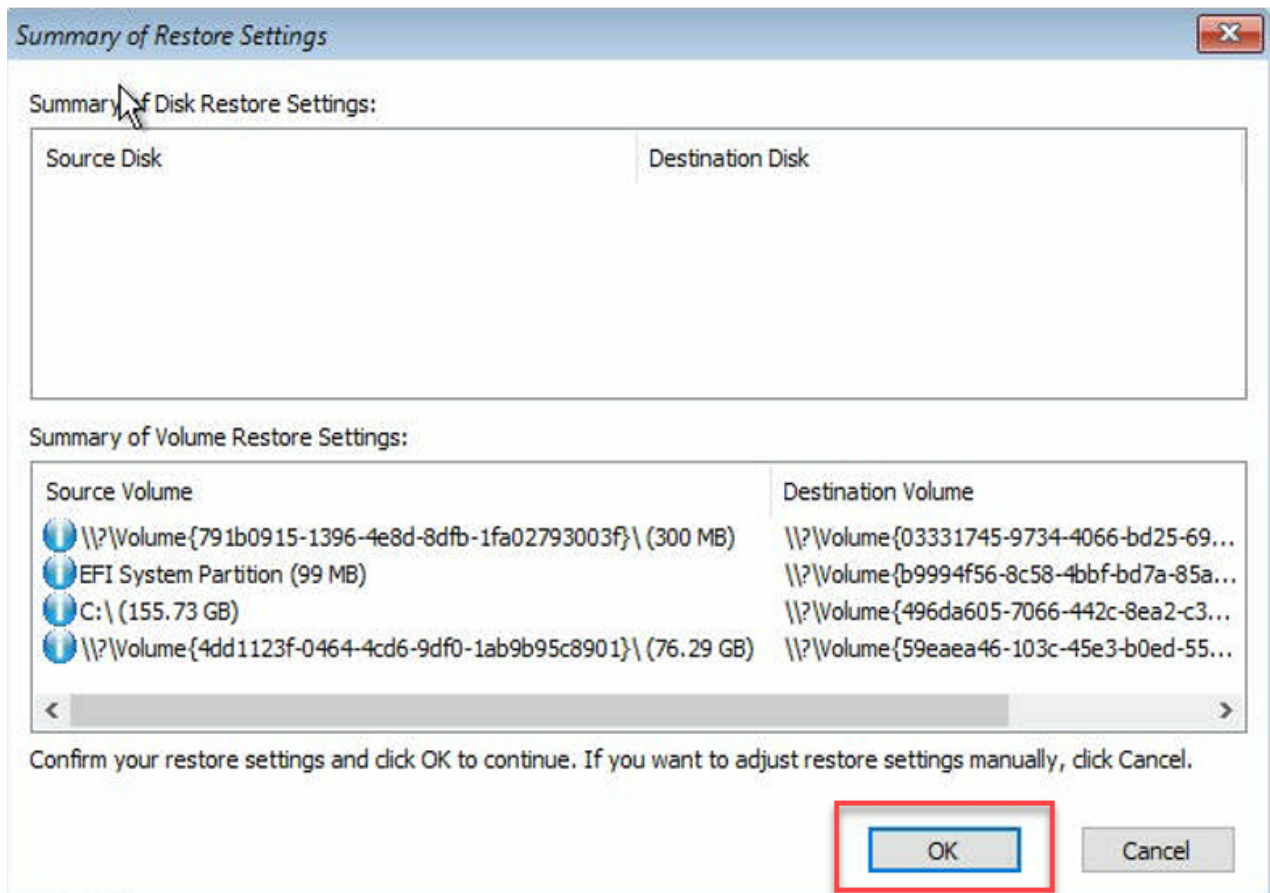
20. 現在のデスティネーション ディスク/ボリュームのレイアウト]タブで使用可能な最初の4つのパーティションの容量が、元のソース ディスク/ボリュームのレイアウト]タブで使用可能な最大のGPT ディスクと一致するかどうかを比較して確認し、[次へ]をクリックします。

注: パーティションのサイズを表示するには、ディスクの上にマウスカーソルを移動させて、ディスクプロパティを表示します。



[リストア設定のサマリ]ダイアログ ボックスが表示されます。

21. [OK]をクリックします。



Bare Metal Recovery(BMR)- Start Recovery Process (ベアメタル復旧 (BMR) - 復旧プロセスの開始) ダイアログボックスが表示されます。

- 再起動後にエージェントサービスを自動的に開始しない]オプションをオフにして、リストアの完了を待ちます。

Bare Metal Recovery(BMR)
- Start Restore Process

This page displays a summary of the disk/volume restore settings that you have made.

Note: After the BMR process is complete and server has been rebooted, you may not want to perform backup jobs from this server. If you are just testing the BMR functionality, we recommend that you select the "Do not start Agent service automatically after reboot" option.

When you select this option, you can manually start the Agent service (and the Recovery Point Server service, if installed) after reboot if you want to perform backup jobs.

Enable Windows F8 boot option helps user perform further recovery or troubleshooting after BMR. For example, press F8 and boot into Active Directory Service Restore mode to perform Active Directory authoritative restore.

Summary of Restore Settings

Restore Item	Status	Progress	Throughput
Restore source volume '\\?\Volume{791b0915-1396-4e8d-8dfb-1fa02793003f}\ ...	Completed	100.0%	367.44 MB/Minute
Restore source volume 'EFI System Partition' to current destination disk 0	Completed	100.0%	967.90 MB/Minute
Restore source volume 'C:\' to current destination disk 0	Restoring	0.8%	2705.50 MB/Minute
Restore source volume '\\?\Volume{4dd1123f-0464-4cd6-9df0-1ab9b95c8901}\ ...	Not Started		

Automatically reboot your system after recovery.

Do not start Agent service automatically after reboot.

Boot the system to Advanced Boot Options (F8) Menu on the next boot for Windows 8 / Windows Server 2012 and later OS.

Elapsed Time: 00 : 00 : 24

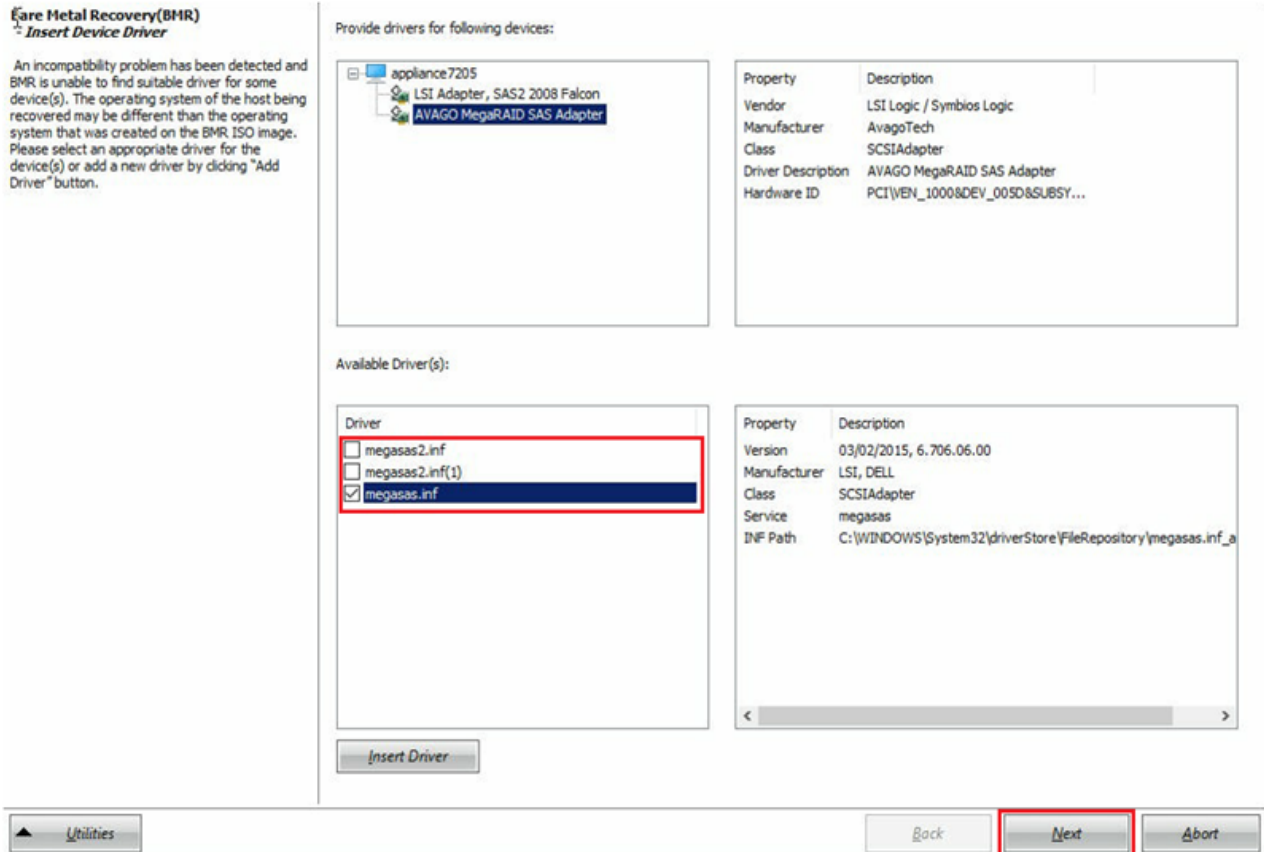
Estimated Time Remaining: 01 : 30 : 50

[0.8%] [576MB/76631MB] Restoring basic source volume 'C:\' to current destination disk 0

Utilities
Back
Next
Abort

[ペアメタル復旧 (BMR) - デバイスドライバのインストール]ダイアログ ボックスが表示されます。

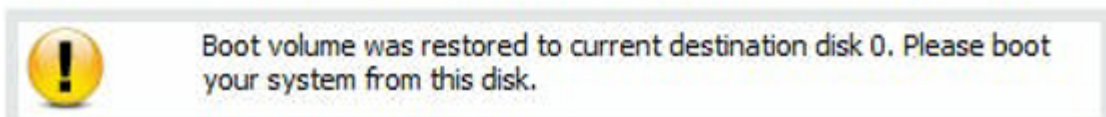
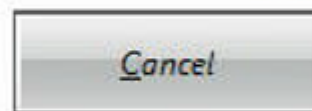
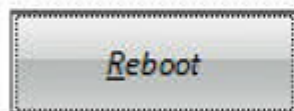
23. RAID コントローラで必要なドライバを選択し、[次へ]をクリックします。



[再起動]ポップアップ ウィンドウが表示され、Arcserve アプライアンスが自動的に再起動します。

Click ReBoot to automatically reboot your system at this time. If you want to collect all BMR log files you can use the Activity log utility.
[Click here](#) to launch the Activity Log utility.

Your system will reboot in **11 second(s)**.



BMR の処理が正常に完了しました。

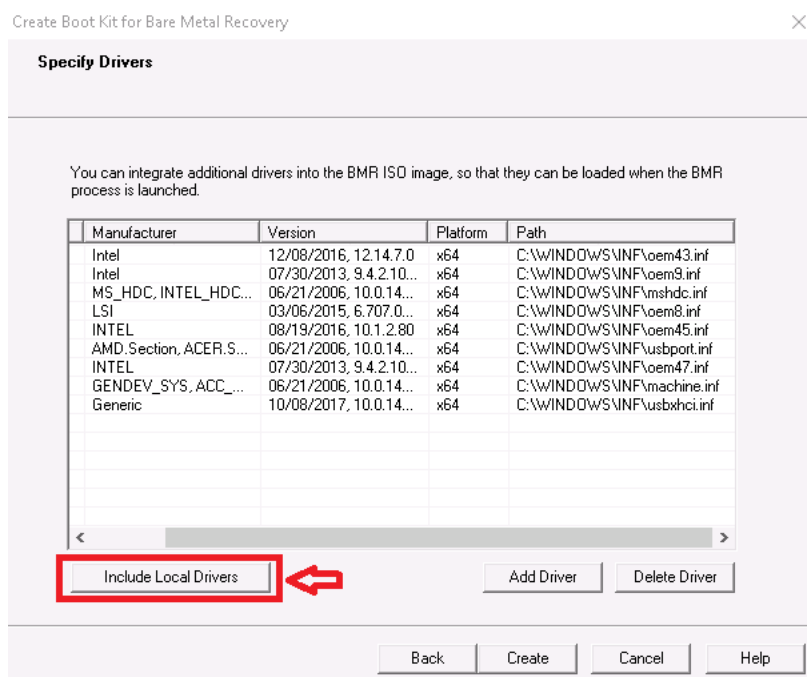
ベアメタル復旧 (BMR) とデータ保存の実行

Arcserve アプライアンスでは、Arcserve UDP ブート キットを使用して、ベアメタル復旧を実行できます。

以下の手順に従います。

1. アプライアンスで Arcserve UDP ブートキット ウィザードを実行し、x64 プラットフォームでブート可能な BMR ISO イメージまたは USB スティックを生成します。

注：ISO イメージにはローカルドライバを含める必要があります。ローカルドライバを含めるには、**[ベアメタル復旧用のブートキットの作成]**ウィンドウで **[ローカルドライバを含む]**オプションを選択します。ブートキットの作成方法の詳細については、この[リンク](#)を参照してください。



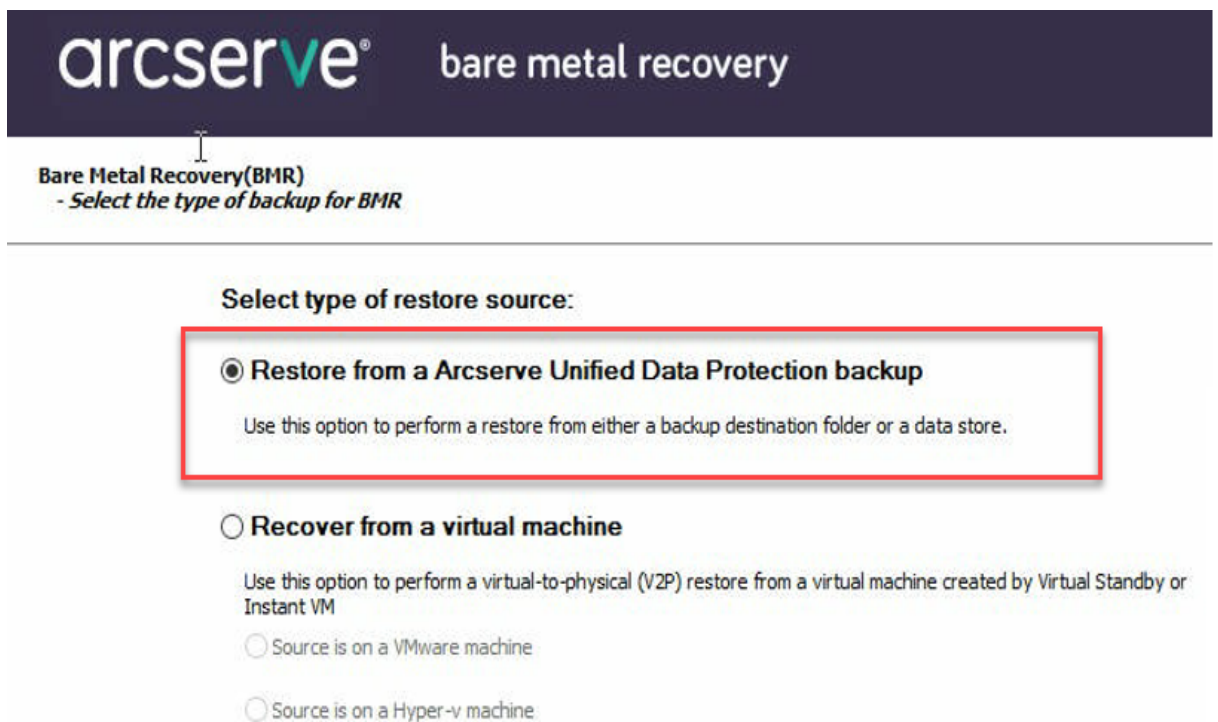
2. BMR ISO イメージまたは USB スティックを使用して、Arcserve アプライアンスを起動します。

Arcserve ベアメタル復旧のセットアップ画面が表示されます。

3. 必要な言語を選択して、**[次へ]**をクリックします。

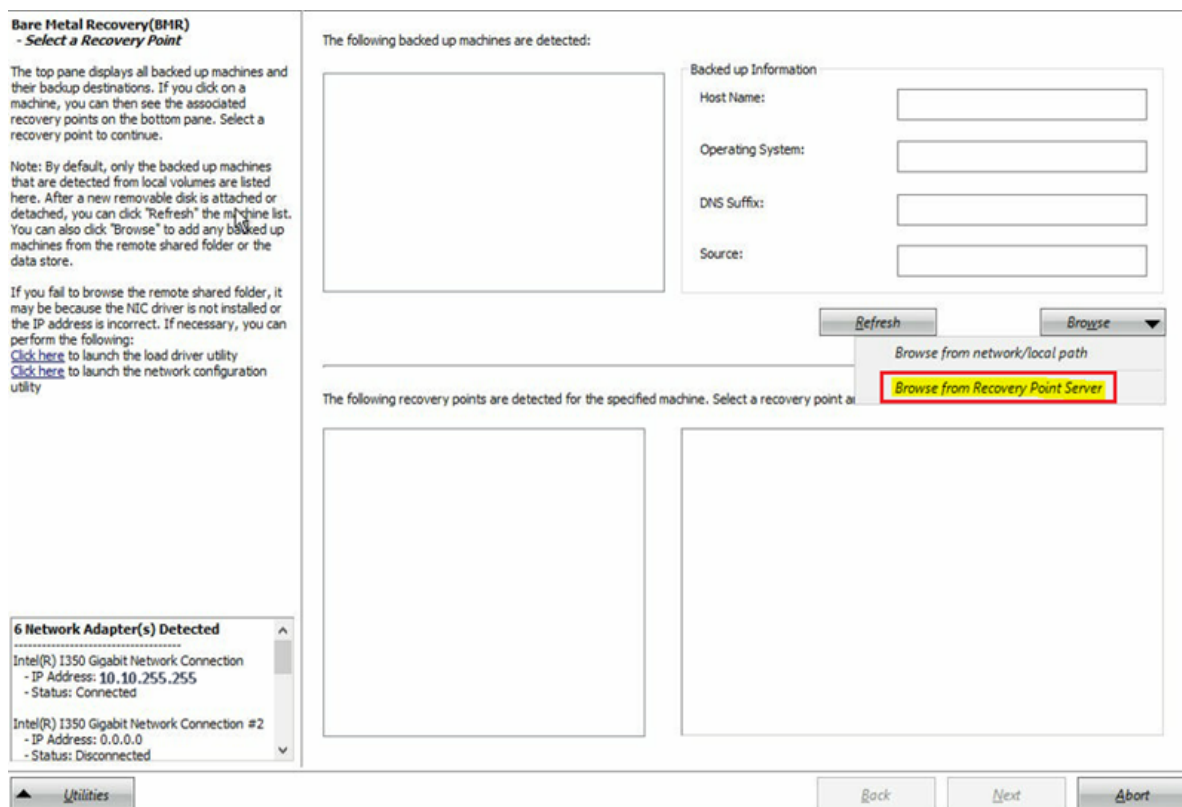


4. [Arcserve Unified Data Protection のバックアップからのリストア]オプションを選択し、[次へ]をクリックします。



復旧ポイントの選択]ウィザードのウィンドウが表示されます。

5. [参照]をクリックして、[復旧ポイント サーバから参照]を選択します。



[ノードの選択]ウィンドウが表示されます。

6. 復旧ポイント サーバのホスト名、ユーザ名、パスワード、ポート、およびプロトコルを入力します。
7. **接続** をクリックします。
8. 接続が確立されたら、**OK** をクリックします。

Select Node

Enter the Recovery Point Server credentials and click "Connect" to connect to the server and retrieve the data store and node list.

Host Name: Port:

User Name: Protocol: HTTP HTTPS

Password:

Data stores and nodes protected on this server:

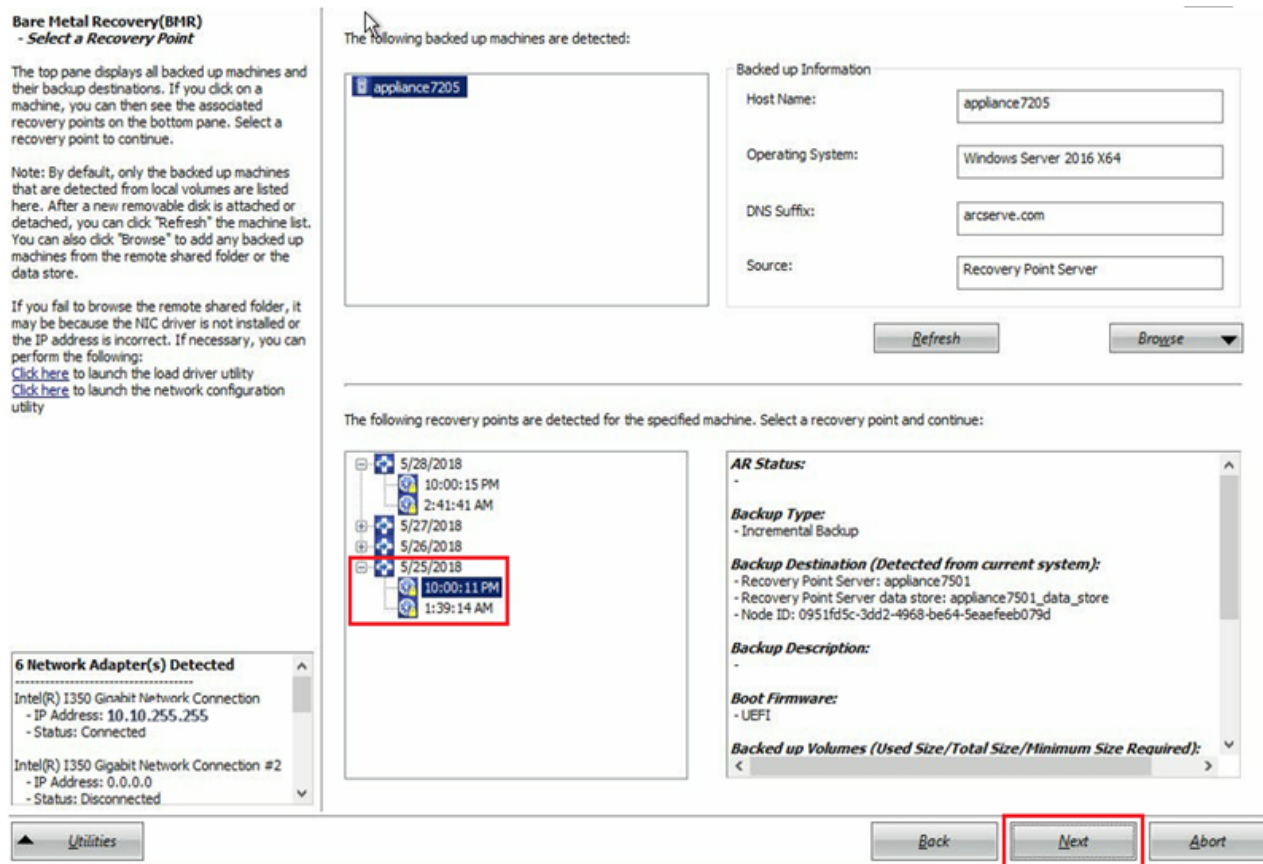
[-] [icon] appliance7501_data_store

 [icon] appliance7205

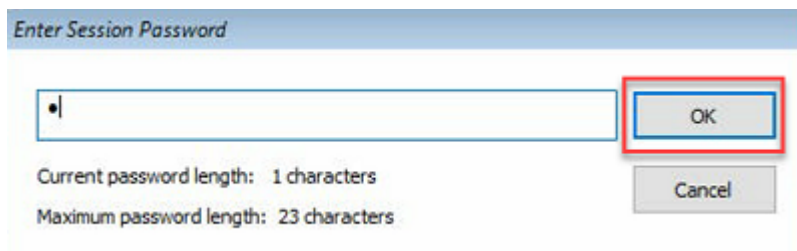
Property	Description
Node	appliance7205
DNS Suffix	arcserve.com
Node ID	0951fd5c-3dd2-4968-be64-5eaef...

【ペアメタル復旧(BMR) - 復旧ポイントの選択】ダイアログボックスが表示されます。

9. リストアする復旧ポイントを選択して、【次へ】をクリックします。

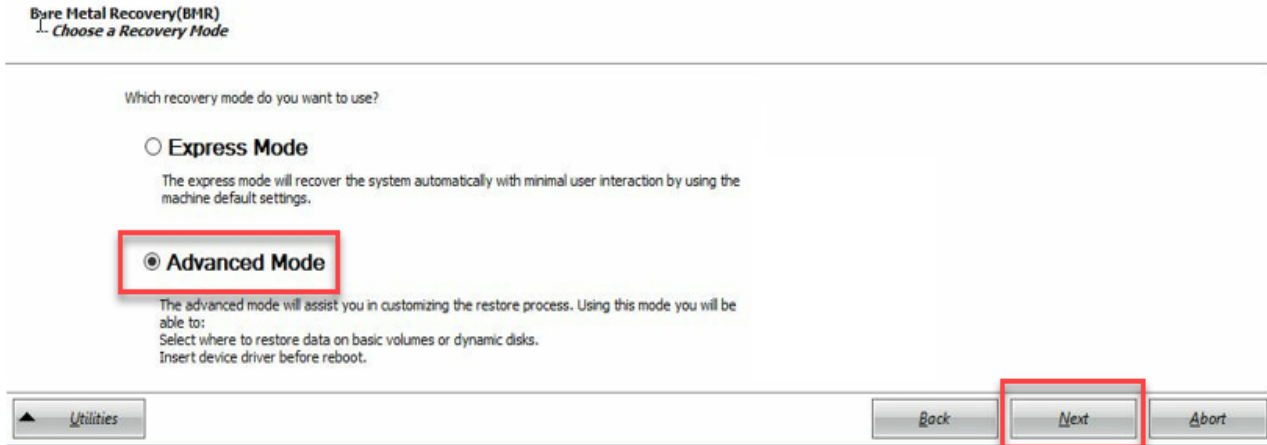


- (オプション) 要求された場合はセッションパスワードを入力し、[OK]をクリックします。

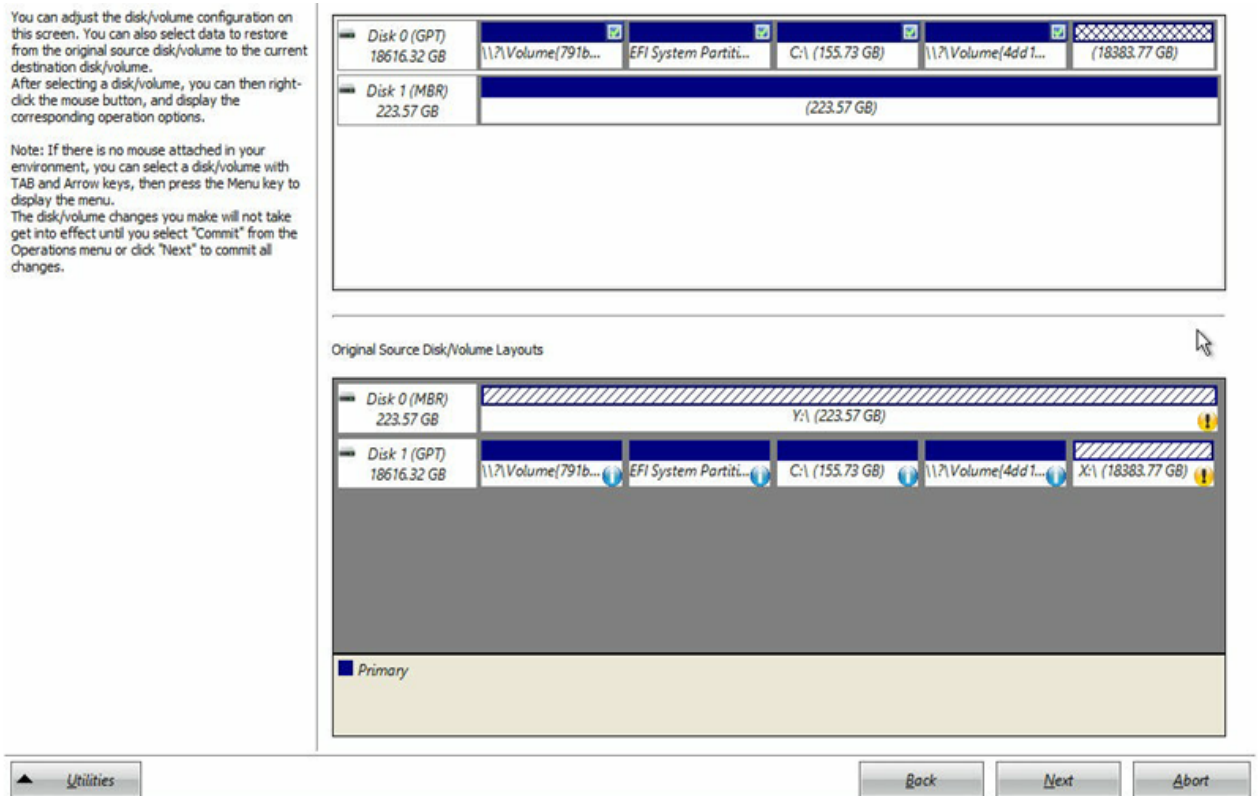


[ペアメタル復旧 (BMR) - 復旧モードの選択]ダイアログボックスが表示されます。

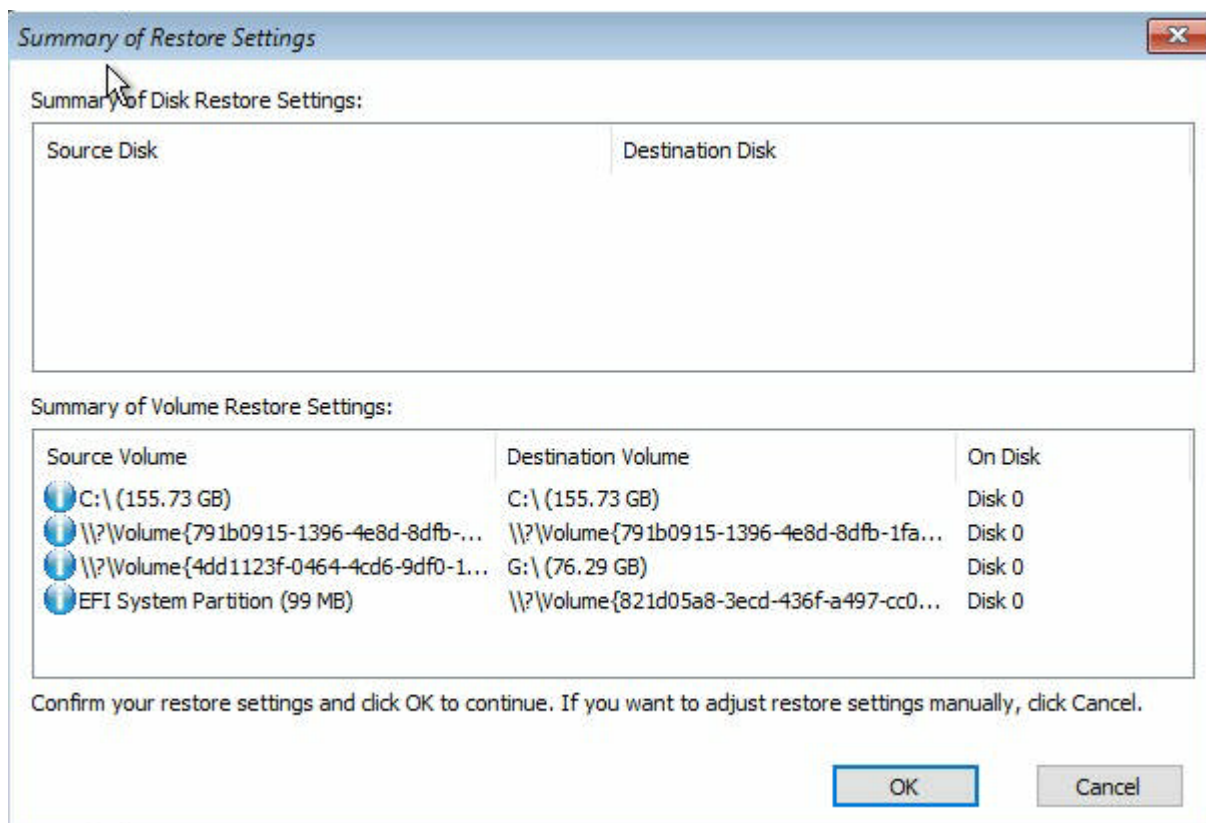
- 拡張モード]を選択し、[次へ]をクリックします。



12. [ベアメタル復旧(BMR) - ディスクパーティションの調整]ダイアログボックスで [次へ] をクリックします。



13. [ディスクリストア設定のサマリ]画面で、[OK] をクリックします。



14. **Bare Metal Recovery(BMR)- Start Recovery Process (ペアメタル復旧 (BMR) - 復旧プロセスの開始)**]ダイアログ ボックスで、**再起動後にエージェント サービスを自動的に開始しない**]オプションをオフにして、リストアの完了とマシンの再起動を待ちます。

Bare Metal Recovery(BMR)
- Start Restore Process

This page displays a summary of the disk/volume restore settings that you have made.

Note: After the BMR process is complete and server has been rebooted, you may not want to perform backup jobs from this server. If you are just testing the BMR functionality, we recommend that you select the "Do not start Agent service automatically after reboot" option. When you select this option, you can manually start the Agent service (and the Recovery Point Server service, if installed) after reboot if you want to perform backup jobs.

Enable Windows F8 boot option helps user perform further recovery or troubleshooting after BMR. For example, press F8 and boot into Active Directory Service Restore mode to perform Active Directory authoritative restore.

Summary of Restore Settings

Restore Item	Status	Progress	Throughput
Restore source volume 'C:\' to current destination disk 0	Restoring	1.8%	3115.69 MB/Minute
Restore source volume '\\?\Volume {791b0915-1396-4e8d-8dfb-1fa02793003f}\ ...	Not Started		
Restore source volume '\\?\Volume {4dd1123f-0464-4cd6-9df0-1ab9b95c8901}\ ...	Not Started		
Restore source volume 'EFI System Partition' to current destination disk 0	Not Started		


Automatically reboot your system after recovery.

Do not start Agent service automatically after reboot.

Boot the system to Advanced Boot Options (F8) Menu on the next boot for Windows 8 / Windows Server 2012 and later OS.

Elapsed Time: 00 : 00 : 33
Estimated Time Remaining: 00 : 52 : 55

[1.8%] [1632MB/90738MB] Restoring basic source volume 'C:\' to current destination disk 0



Utilities Back Next Abort

BMR の処理が正常に完了しました。

第9章: アプライアンスの容量拡張

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Arcserve アプライアンス拡張キットの操作 - X シリーズ モデル	199
Arcserve X シリーズ アプライアンスの SSD フラッシュ拡張キットの操作	204
Arcserve アプライアンス 9072-9504DR モデルの拡張キットでの操作	213
Arcserve アプライアンス 9072-9504 DR モデルの SSD フラッシュ拡張キットの操作	218
アプライアンス サーバ(8000) へのアプライアンス拡張シェルフの接続	224

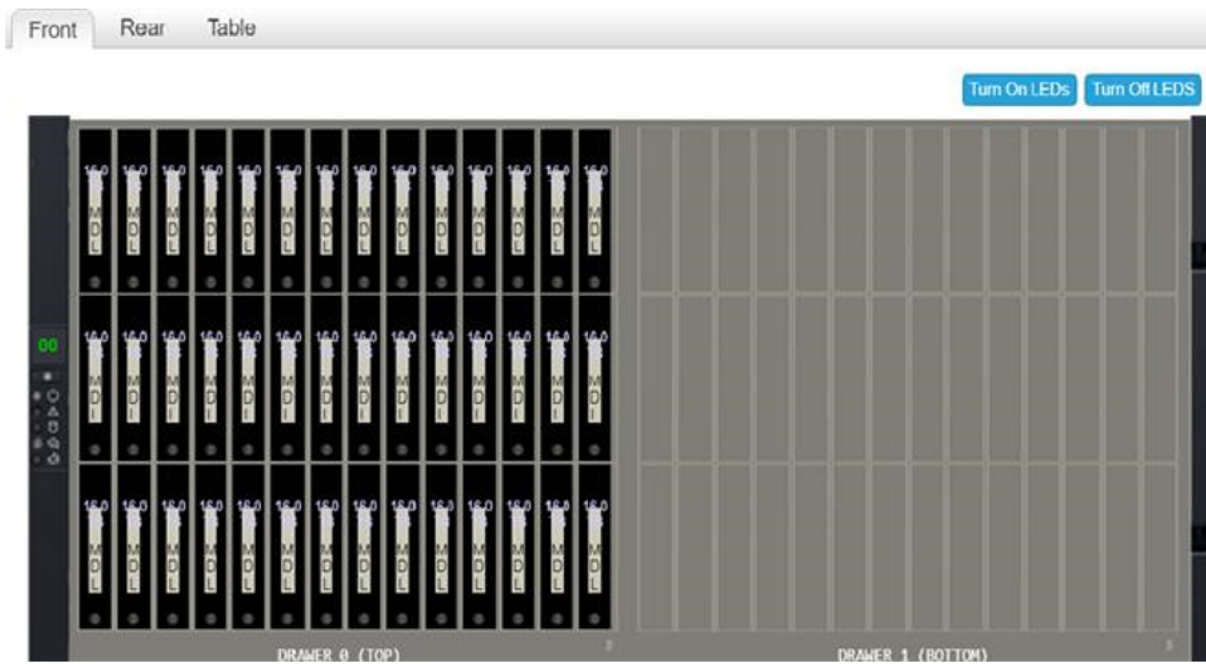
Arcserve アプライアンス拡張キットの操作 - X シリーズ モデル

Arcserve 拡張キットを使用して、Arcserve アプライアンス X シリーズ モデルのデータ容量を拡張できます。

以下の手順に従います。

1. X シリーズ拡張キット - すべてのモデル(X3000DR を除く) の容量では、最大モデルの X3000DR に達するまで、オプションの拡張キットを使用して必要な回数だけ線形拡張を実行できます。
2. 以下の手順に従い、空のディスク スロットに HDD を挿入します。
 - a. Arcserve UDP コンソールで、アプライアンス サーバ上に実行中のジョブがないことを確認します。実行中のジョブがある場合は、対応するプランを一時停止します。
 - b. ストレージ ユニット - ME4084 Value Array の空のディスク スロットに HDD を挿入します。X シリーズ拡張キットの各キットは、14 x 16TB

ディスクで構成されています。



3. ME ユニット - Value Array ストレージ マネージャにログインし、[プール]に移動して拡張するディスクグループを選択します。

The screenshot shows the Arcserve Value Array Storage Manager interface. The top header displays 'VA084 Value Array Storage Manager' and 'System: Uninit Version: GT28'. A left sidebar contains navigation icons for Home, System, Hosts, Pools, Volumes, and Mapping. The main area is titled 'Action' and contains three tables: 'Related Disk Groups', 'Related Disk Groups', and 'Related Disks'. The first table shows a disk group 'Arc01' with a health status of 'OK'. The second table shows the same disk group 'Arc01' with a pool of 'Arc01' and RAID type 'ADAPT'. The third table shows four disks (0.0 to 0.3) with a health status of 'OK' and description 'SAS MDL'. A context menu is open over the first table, listing actions such as 'Storage Setup', 'Add Disk Group', 'Modify Disk Group', 'Remove Disk Group', 'Expand Disk Group', 'Manage Spares', 'Create Volumes', 'Change Pool Setting', 'Disk Group Utilities', and 'Dequarantine Disk C'.

Name	Health	Size
Arc01	OK	5

Name	Health	Pool	RAID
Arc01	OK	Arc01	ADAPT

Location	Health	Description	Size
0.0	OK	SAS MDL	16
0.1	OK	SAS MDL	16
0.2	OK	SAS MDL	16
0.3	OK	SAS MDL	16

4. 選択したディスクグループを右クリックし、**ディスクグループの拡張**を選択します。

ディスクグループの拡張パネルが開き、ディスクグループの情報とディスクテーブルが表示されます。

Expand Disk Group

Name: Arc01 Type: Linear
Owner: A Data Protection: ADAPT

Disk Selection Sets, Complete: Yes

Type	Disk Description	Selected	Maximum	Size
ADAPT	SAS MDL	0	128	672.0TB

Add disks to the disk group by entering a range of disks or by selecting disks from the table below.

Enter Range of Disks: ⓘ

Select All ⓘ

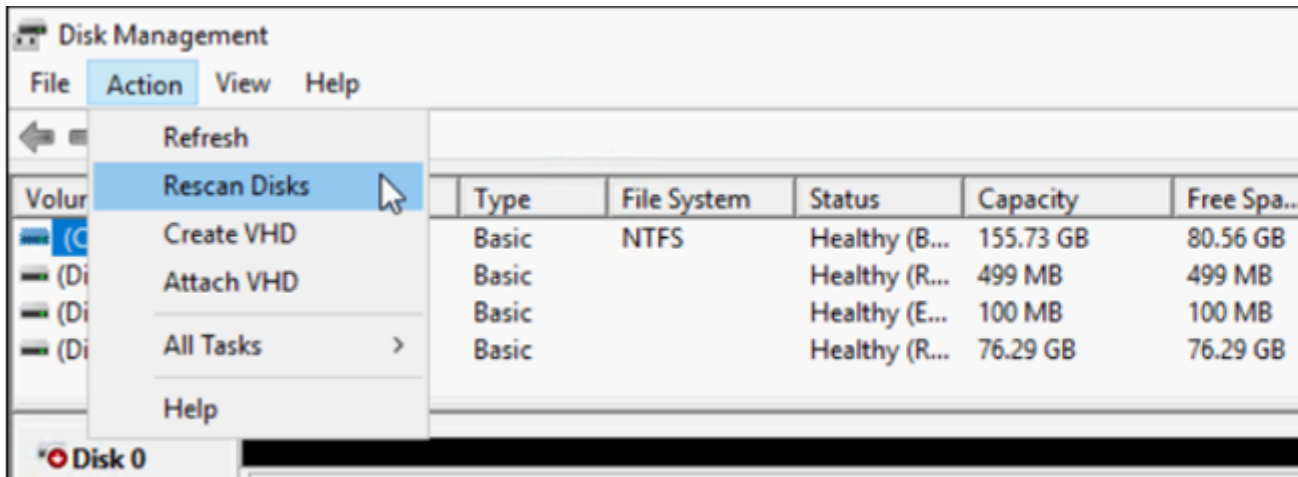
Showing 1 to 0 of 0 entries

Description	Enclosure ID	Slot	Size
No data available in the table			

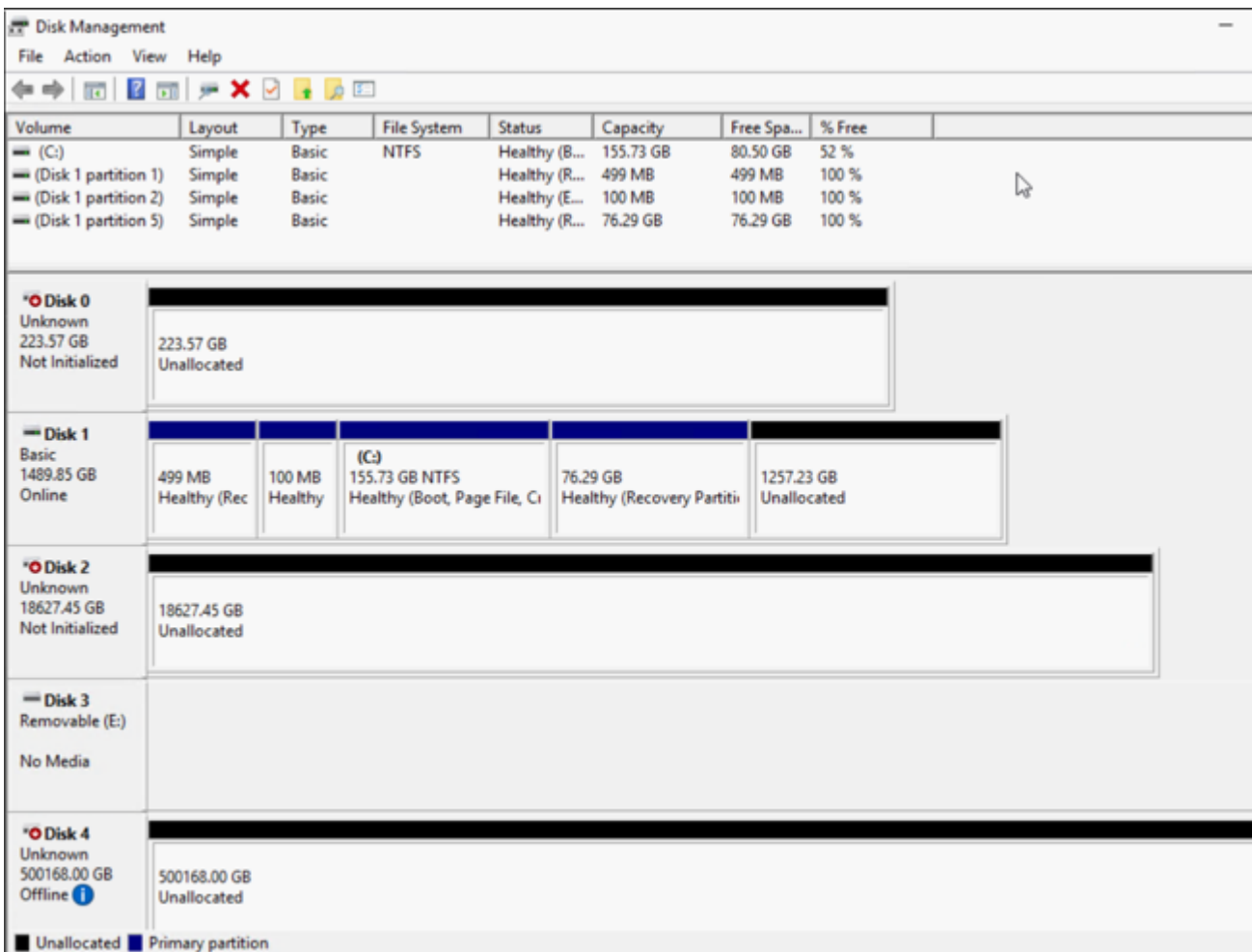
5. ディスクグループにディスクを追加するには、**「ディスクの範囲の入力」** フィールドにディスクの範囲を入力するか、テーブルからディスクを選択します。
6. **「変更」** をクリックします。
7. 確認パネルで **「はい」** をクリックしてグループの展開を開始し、**「OK」** をクリックしてパネルを閉じます。

注：拡張ジョブが完了すると、ディスクグループで再バランスジョブがトリガされます。

8. 拡張ジョブと再バランスジョブが完了したら、コンピュータユニットから **「ディスクの管理」** を開き、**「アクション」** - **「ディスクの再スキャン」** を選択します。



再スキャン後、ストレージユニットのディスクは拡張されたストレージと共に表示されます。



Arcserve X シリーズ アプライアンスの SSD フラッシュ拡張キットの操作

Arcserve SSD フラッシュ拡張キットを使用すると、セカンダリデータストアを作成してデータ容量を拡張し、Arcserve アプライアンス X シリーズで DR 関連操作 (IVM / VSB/Continuous Availability) を実行します。

以下の手順に従います。

1. 以下の手順に従い、空のディスクスロットに SSD を挿入します。
 - a. Arcserve UDP コンソールで、アプライアンス サーバ上に実行中のジョブがないことを確認します。実行中のジョブがある場合は、対応するプランを一時停止します。
 - b. SSD を空のディスクスロットに挿入します。

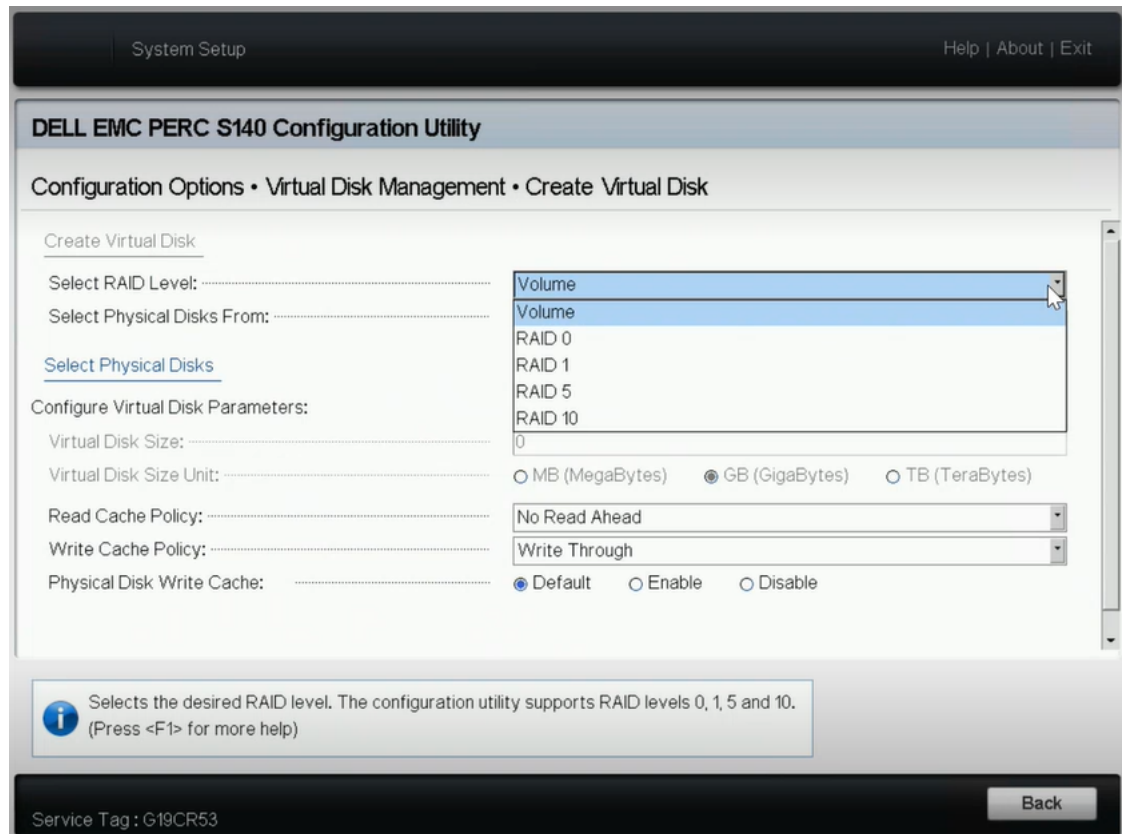


2. 以下の手順に従い、BIOS ブート マネージャ オプションから Raid-5 を設定します。
 - a. 仮想コンソールダッシュボードを起動するには、iDRAC にログインし、**仮想コンソールの開始** をクリックします。
 - b. 仮想コンソールページで、**ブート** をクリックし、**BIOS ブート マネージャ** オプションを選択します。

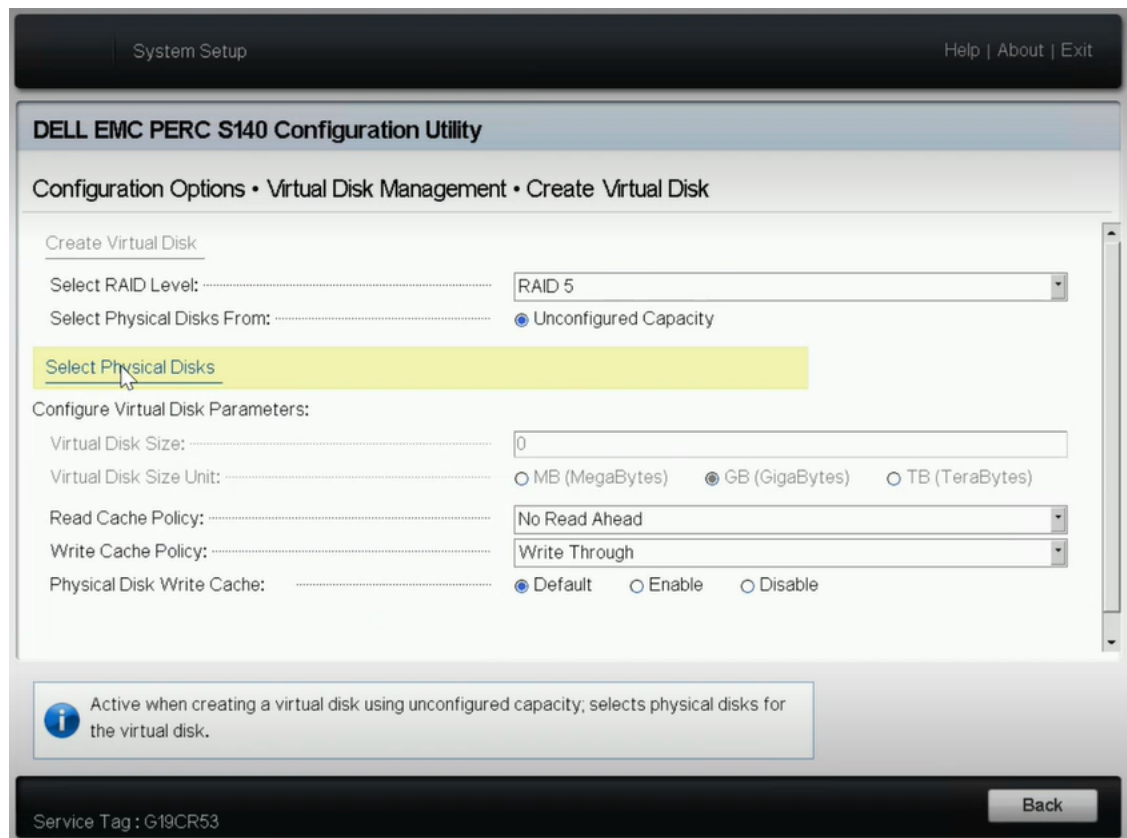
確認ウィンドウで **はい** をクリックして、BIOS ブート マネージャを再起動します。
 - c. **電源** をクリックし、**システムのリセット (ウォームブート)** を選択します。

アプライアンスが起動し、ブート マネージャ セットアップ ページが再起動します。
 - d. ブート マネージャのメインメニューで、**システムセットアップの起動** をクリックしてから、**デバイス設定** > **Dell EMC PERC S140 Controller** > **仮想ディスク管理** > **仮想ディスクの作成** に移動します。
 - e. **RAID レベルの選択** ドロップダウン リストから、**RAID 5** を選択します。

注: RAID 5 仮想ディスクは拡張キットに使用され、物理ディスクごとに新しく接続された 3.63 TB のディスクが含まれます。



- f. **物理ディスクの選択]オプションを選択します。**

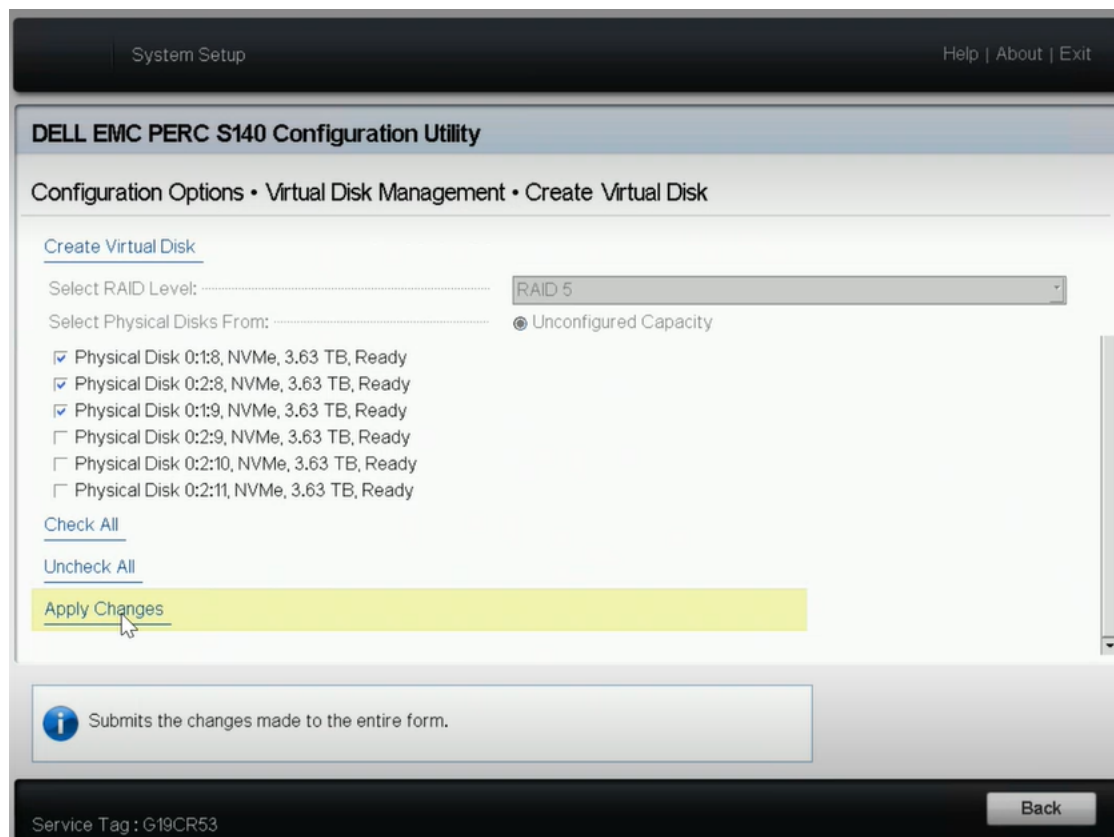


物理 ディスク操作 の選択]ウィンドウが開きます。

- g. [インターフェースの種類 の選択]オプションで、[NVMe]をクリックします。

物理 ディスクのリストが表示されます。

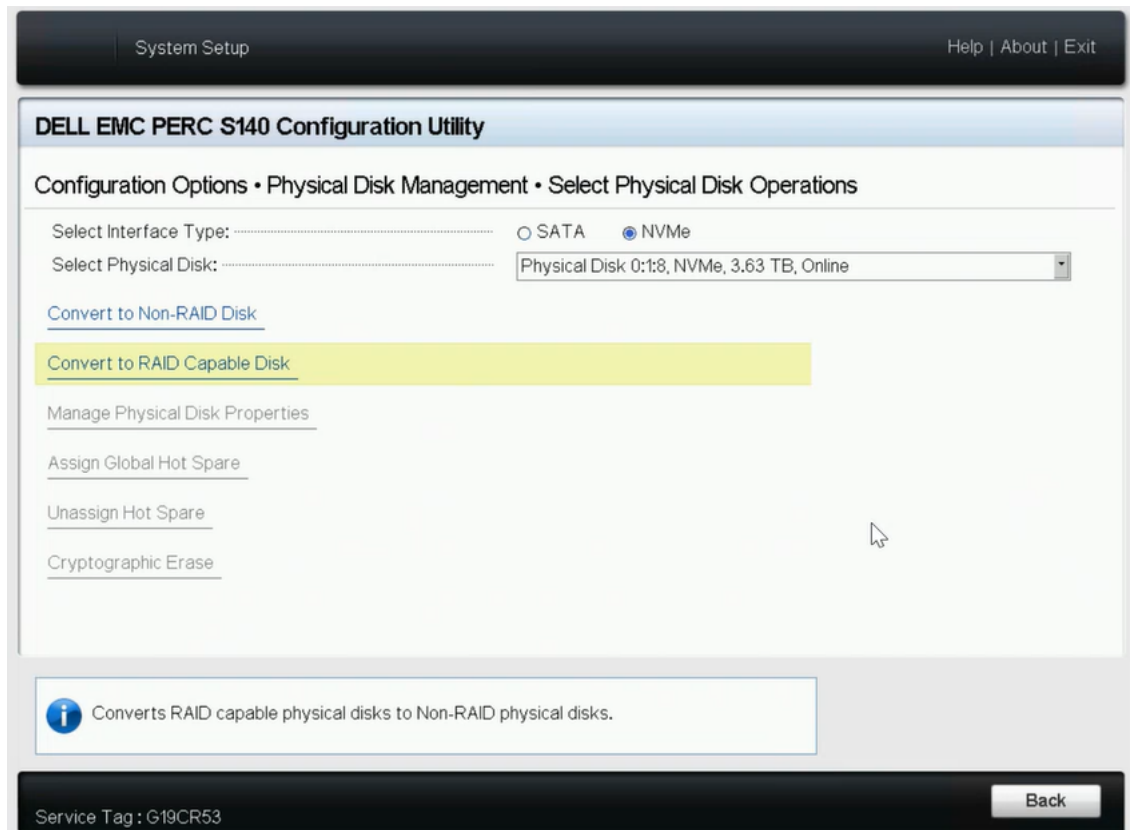
- h. 物理 ディスクのリストから、必要に応じてディスクを選択し、[変更の適用]をクリックします。



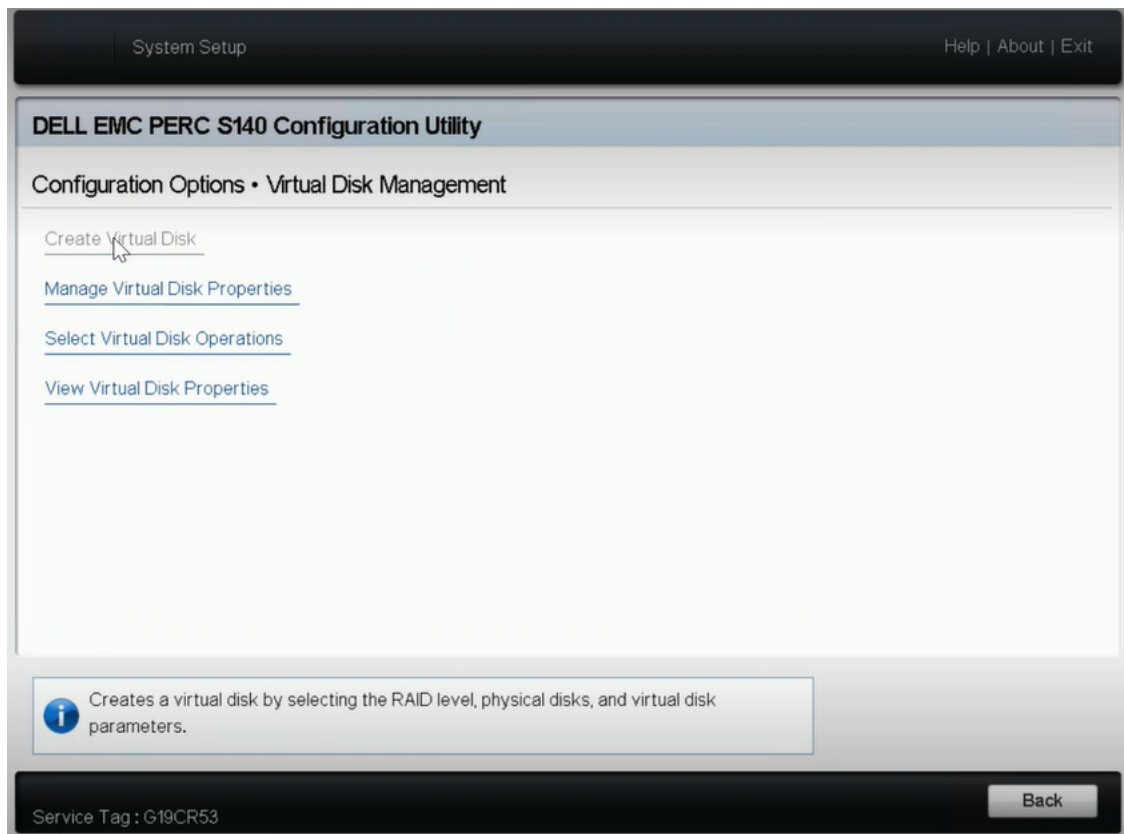
注：最小 3 ディスク、最大 16 ディスクを選択します。

- i. 変更が適用されたら、[仮想ディスクの作成]オプションを再度クリックして、仮想ディスクの作成プロセスを完了します。
3. [環境設定オプション] > [物理ディスク管理] > [物理ディスク操作の選択]に移動します。
- a. インターフェースの種類 の選択で、[NVMe]をクリックします。
- b. [物理ディスクの選択]ドロップダウンリストから、必要に応じてオプションを選択し、[RAID 対応ディスクに変換]をクリックします。

注：RAID 対応ディスクに変換するオプションは、すべての物理ディスクに1つずつ適用できます。

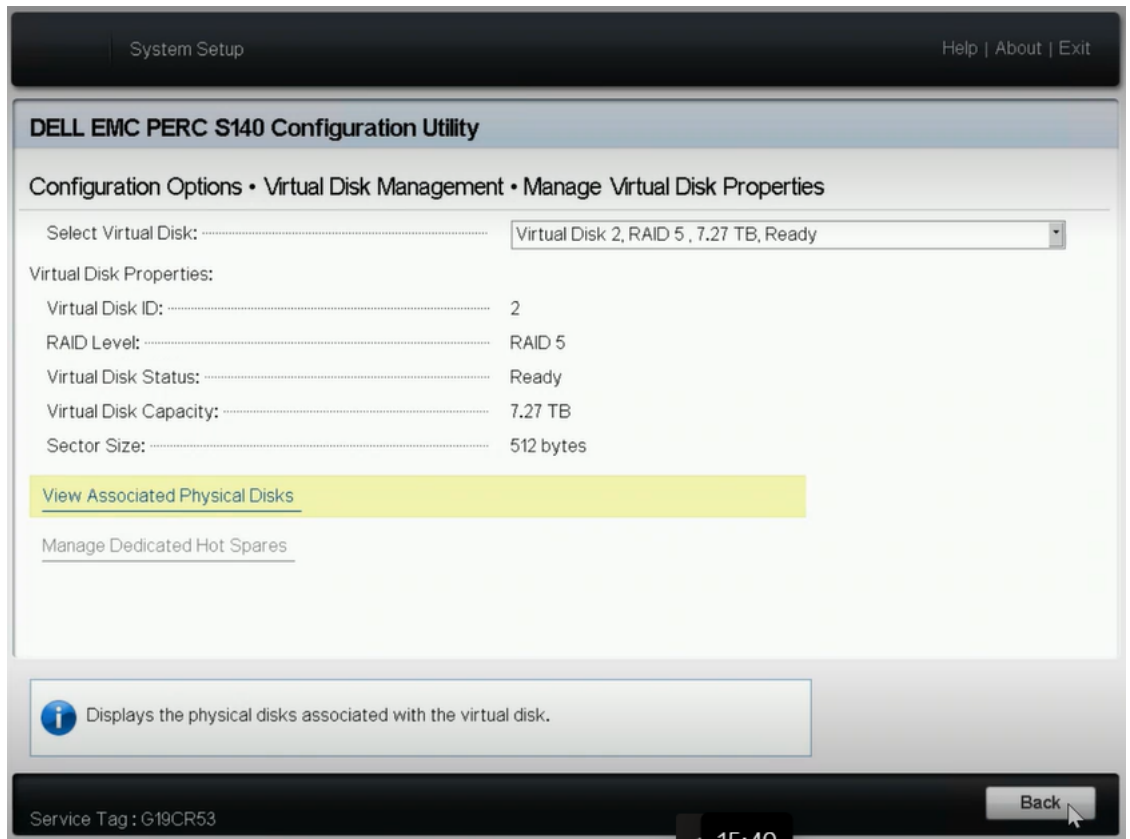


- c. 以下の警告メッセージが表示されたら、以下を実行します。
- RAC0516: 物理ディスクドライブを RAID 互換に変換すると、OS で作成された RAID アレイは上書きされます。
1. OS で構成された RAID アレイが存在しないことを確認し、[OK]をクリックします。
 2. [OK]をクリックします。
4. [環境設定オプション] > [仮想ディスク管理]に移動し、以下を実行します。

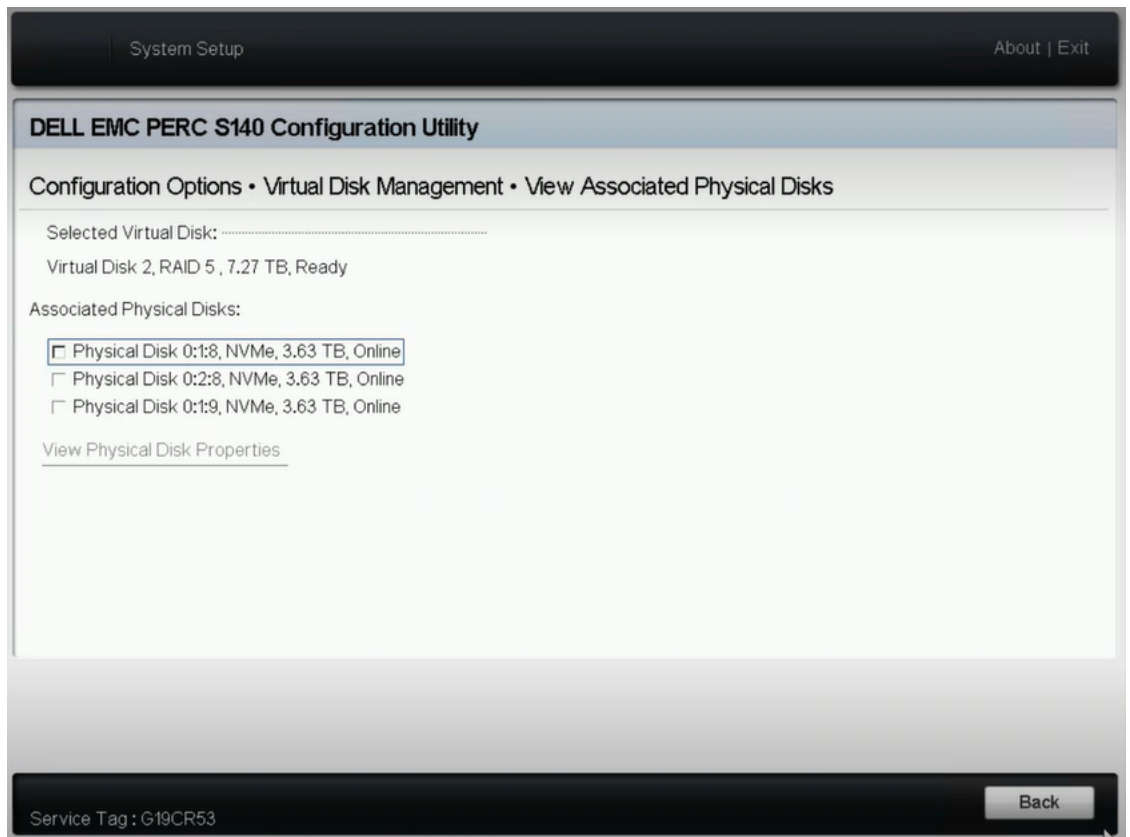


- a. 仮想ディスクを管理するには、**仮想ディスクプロパティの管理**]をクリックします。

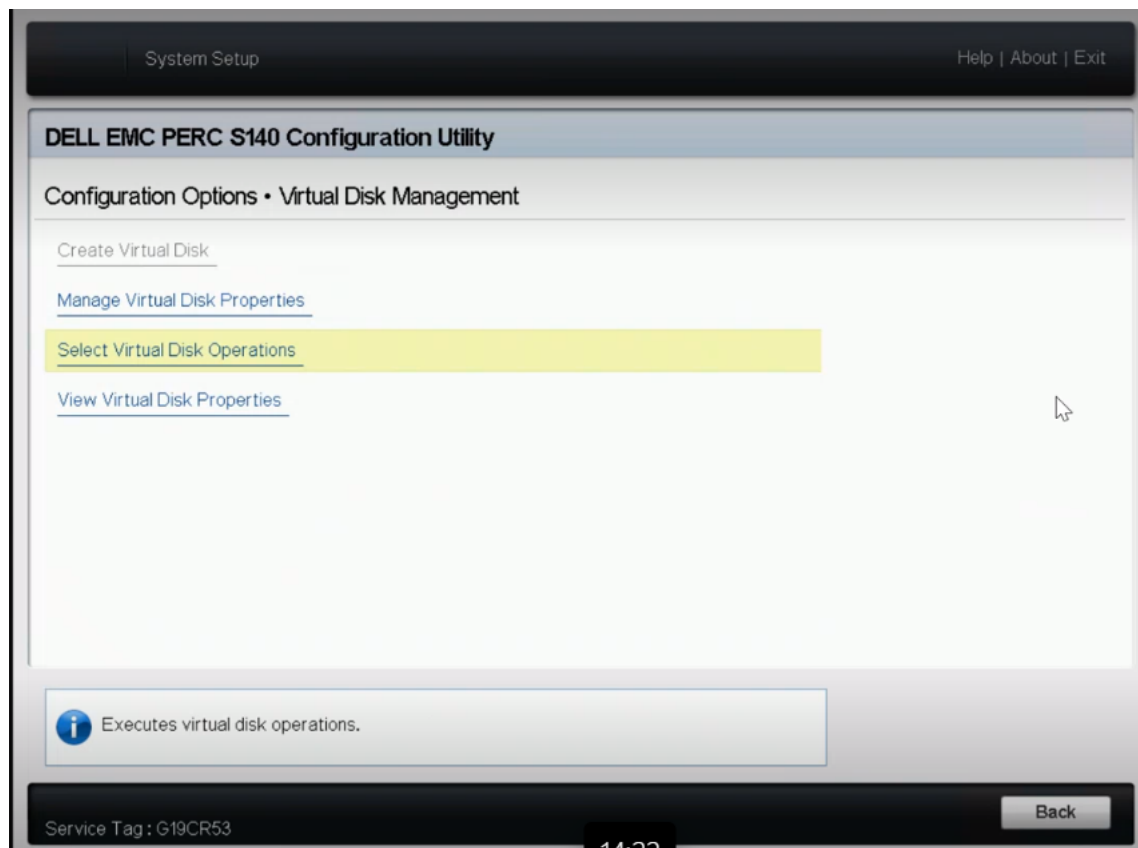
仮想ディスクの選択]ドロップダウンリストから、いずれかの RAID 5 ディスクを選択し、**関連する物理ディスクの表示**]をクリックします。



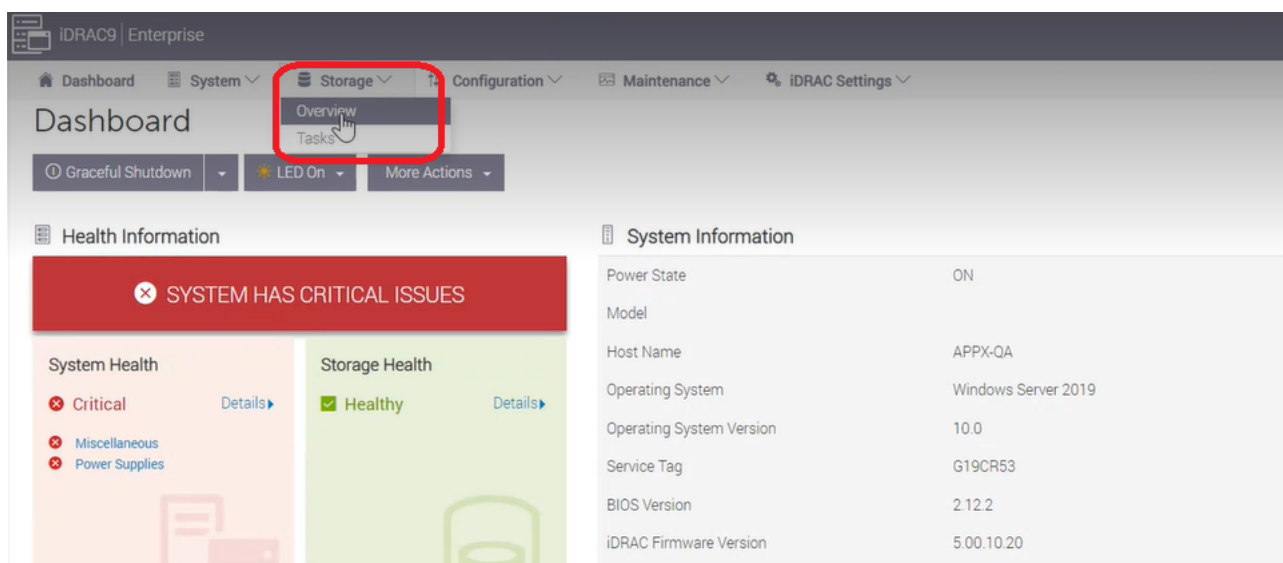
関連するディスクが表示されます。



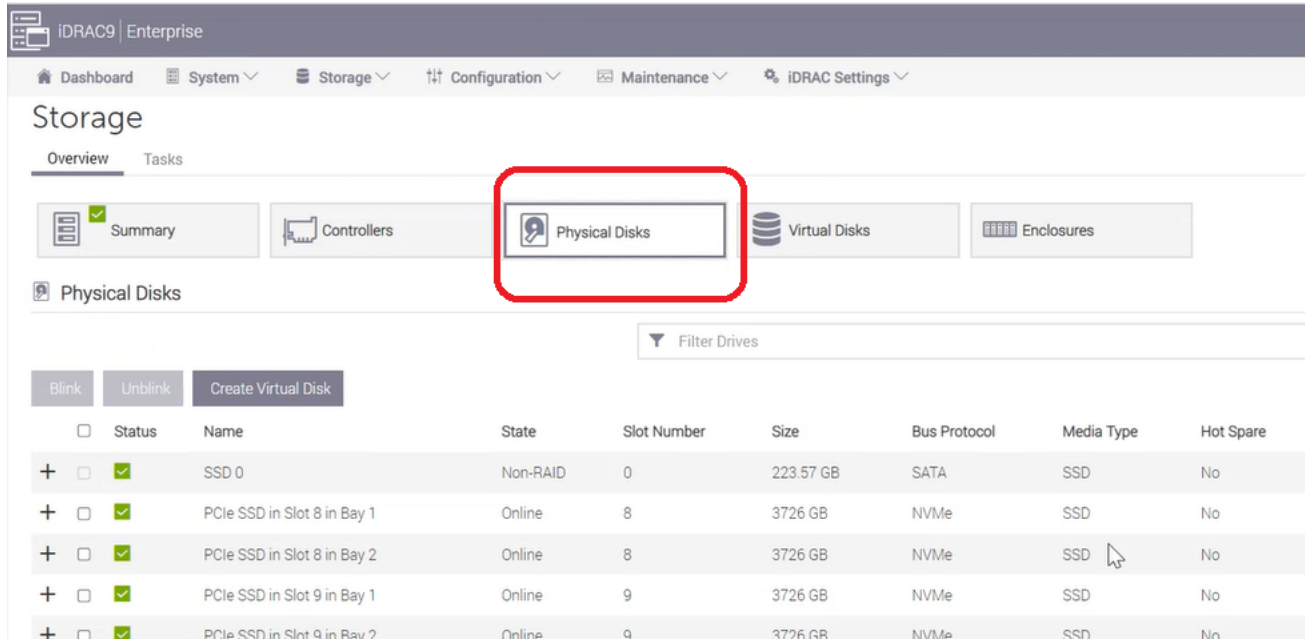
- b. 仮想ディスク操作を選択するには、**仮想ディスク操作の選択**]をクリックします。



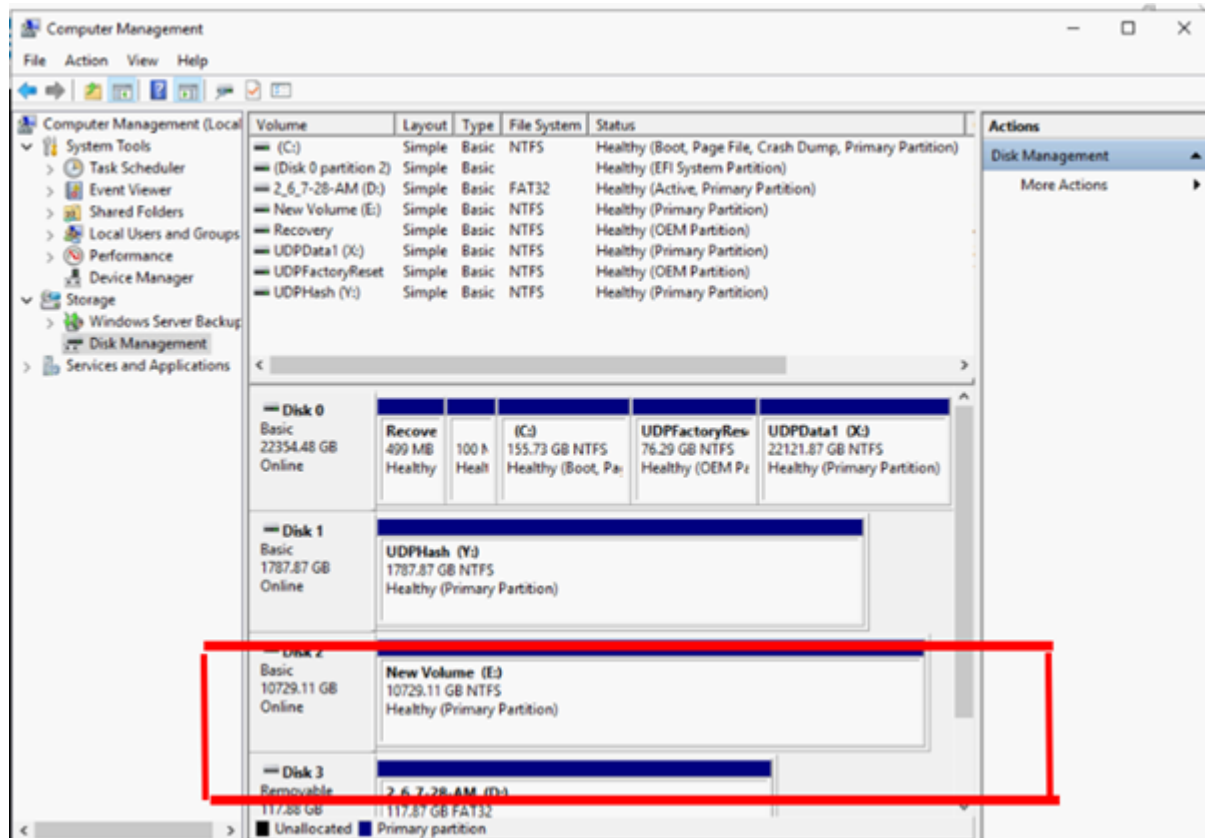
- c. ブート マネージャで仮想ディスクのプロパティを表示するには、**仮想ディスクプロパティの表示**]をクリックします。
5. iDRAC でディスク情報を表示するには、iDRAC にログインしてから、**ストレージ**] > **概要**]をクリックします。



概要]セクションで、**物理ディスク]**をクリックして、作成した物理ディスクのリストを表示します。



6. 新しく追加した仮想ディスクを初期化してフォーマットするには、以下の手順に従います。
 - a. **コンピュータ管理]- [ディスク管理]**に移動します。
 - b. 追加した新しい仮想ディスクをダブルクリックします。
[ディスクの初期化]ウィンドウが表示されます。
 - c. **[GPT (GUIDパーティションテーブル)]**オプションを選択して、**[OK]**をクリックします。
 - d. **[ディスクの管理]**ウィンドウで仮想ディスクを選択し、以下のプロパティを適用します。
 - ◆ ドライブ文字の割り当て
 - ◆ ファイルシステムとして NTFS を指定します。
 - ◆ ディスクのフォーマット



仮想ディスクが作成されます。

Arcserve アプライアンス 9072-9504DR モデルの拡張キットでの操作

Arcserve 拡張キットを使用して、Arcserve アプライアンス 9072-9504DR モデルのデータ容量を拡張できます。

以下の手順に従います。

1. 以下の手順に従い、空のディスクスロットに HDD を挿入します。
 - a. Arcserve UDP コンソールで、アプライアンス サーバ上に実行中のジョブがないことを確認します。実行中のジョブがある場合は、対応するプランを一時停止します。
 - b. HDD を空のディスクスロットに挿入します。



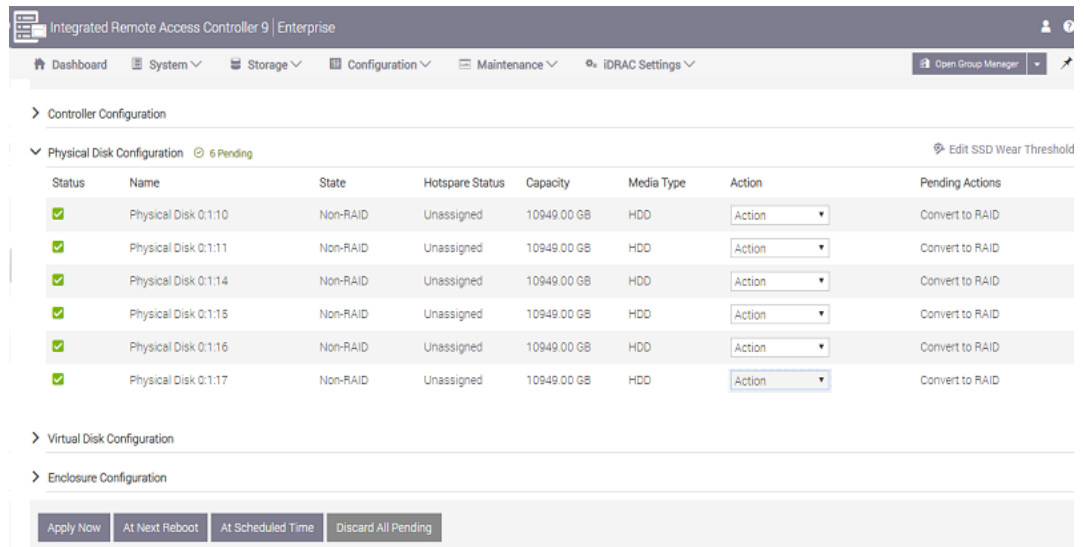
2. 以下の手順に従い、iDRAC で RAID-6 を設定します。
 - a. iDRAC にログインし、[環境設定]-[ストレージの環境設定]-[物理ディスクの環境設定]に移動します。
 - b. 新しいディスクごとに、[物理ディスクの構成]セクションの[アクション]ドロップダウンで、[RAID への変換]オプションを選択します。

ダイアログ ボックスに以下の警告メッセージが表示されます。

RAC0516: 物理 ディスクドライブを RAID 互換に変換すると、OS で作成された RAID アレイは上書きされます。

OS で構成された RAID アレイが存在しないことを確認し、[OK]をクリックします。
 - c. [OK]をクリックします。

[保留中のアクション]の下に RAID ステータスが表示されます。



- d. 以下のオプションのいずれかをクリックして、保留中のアクションを完了します。

今すぐ適用

RAID 変換アクションがすぐに開始されます。

次回の再起動時

次の再起動時に RAID 変換アクションが開始されます。

スケジュールされた日時

スケジュールされた日時に RAID 変換アクションが開始されます。

すべての保留中を破棄

すべてのディスクの RAID 変換アクションが破棄されます。

- e. [メンテナンス]- [ジョブ キュー]に移動します。

RAID へのディスク変換を実行中のジョブ リストが表示されます。RAID への変換 ジョブが完了すると、ステータスが **完了 (100%)** に変更されます。

3. 以下の手順に従い、仮想ディスクを作成します。

- [環境設定]- [ストレージの環境設定]- [仮想ディスクの設定]に移動します。
- [仮想ディスクの構成]セクションで、[仮想ディスクの作成]をクリックします。
- [レイアウト]で「RAID-6」を選択します。

- d. **物理ディスクの選択**]セクションで、RAID に変換するディスクを選択します。
- e. **保留中の操作に追加**]をクリックします。

Create Virtual Disk

Name	<input type="text" value="Enter or use auto-name"/>
Layout	RAID-6 ▼
Media Type	HDD ▼
Stripe Element Size	64 KB ▼
Capacity*	<input type="text" value="14.55"/> TB ▼
Read Policy	Read Ahead ▼
Write Policy	Write Back ▼
Disk Cache Policy	Default ▼
T10 PI Capability	Disabled ▼
Span Count	1 ▼

- f. **環境設定**]- **ストレージの環境設定**]に移動します。
- g. 以下のオプションのいずれかをクリックして、保留中の処理を完了します。

今すぐ適用

仮想ディスクの作成処理がすぐに開始されます。

次回の再起動時

次の再起動時に仮想ディスクの作成処理が開始されます。

スケジュールされた日時

スケジュールされた時刻に仮想ディスクの作成処理が開始されます。

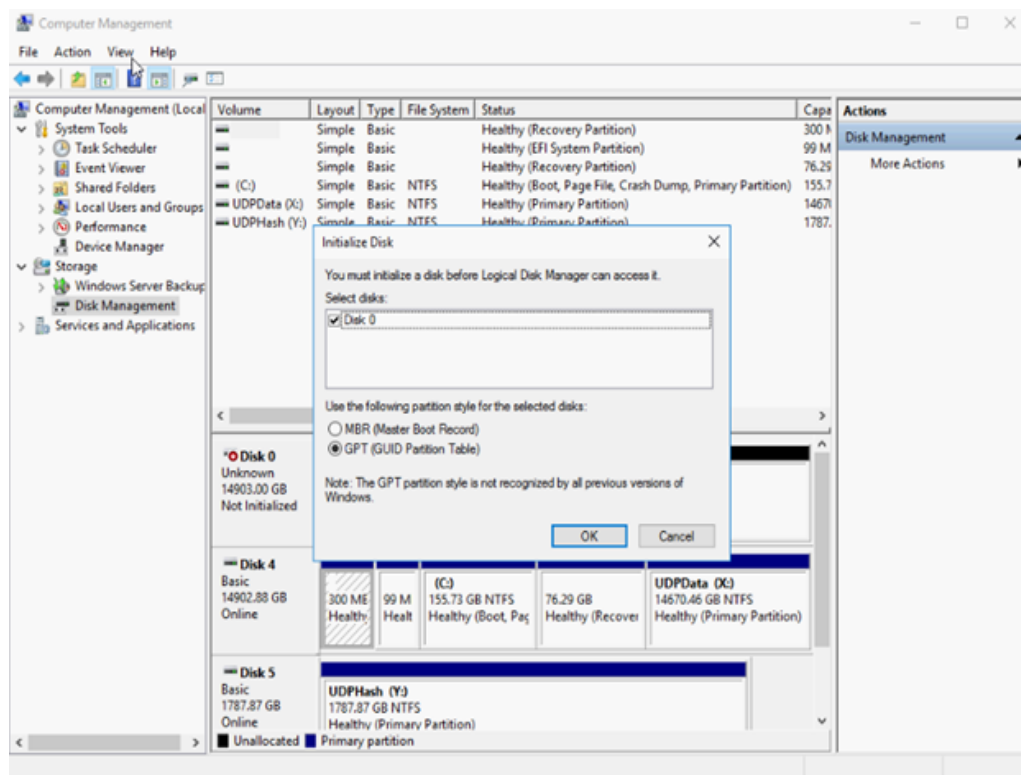
すべての保留中を破棄

すべてのディスクに対して、仮想ディスク作成処理が破棄されます。

- h. **メンテナンス**]- **ジョブキュー**]に移動します。

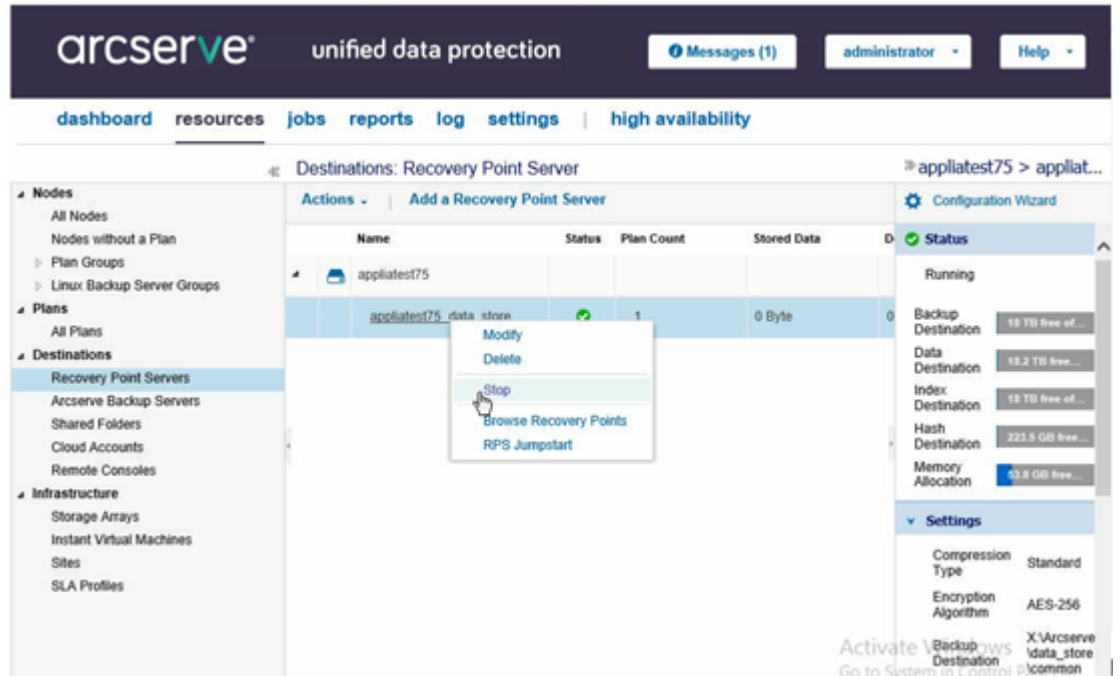
仮想ディスクの作成を実行中のジョブリストが表示されます。仮想ディスクの作成ジョブが完了すると、ステータスが **完了 (100%)**]に変更されます。

- i. [コンピュータ管理]- [ディスク管理]に移動します。
- j. 追加した新しい仮想ディスクをダブルクリックします。
[ディスクの初期化]ウィンドウが表示されます。
- k. [GPT (GUIDパーティションテーブル)]オプションを選択して、[OK]をクリックします。
- l. [ディスクの管理]ウィンドウで仮想ディスクを選択し、以下のプロパティを適用します。
 - ドライブ文字の割り当て
 - ファイルシステムとして NTFS を指定します。
 - ディスクのフォーマット



4. 以下の手順に従い、データストアを拡張します。
 - a. 追加したドライブに移動し、フォルダを作成します。
 - b. Arcserve アプライアンス デスクトップで Arcserve アプライアンス ウィザードを起動します。
[Arcserve アプライアンス 環境設定]ページが表示されます。
 - c. [UDP コンソールの起動]をクリックします。
[Arcserve UDP コンソール ログイン]ページが表示されます。

- d. 管理者としての UDP コンソールにログインします。
- e. [ソース]- [デスティネーション]- [復旧ポイント サーバ]に移動します。
- f. [データストア]を右クリックし、[停止]をクリックします。



- g. コマンド ラインから `C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN` に移動し、以下のコマンドを実行します。

```
as_gddmgr.exe -DataPath Add <data store name> -NewDataPath <new data folder>
```

以下の画面の例では、ボリューム容量、使用容量、プライマリデータパスの空き容量、拡張データパスの空き容量、合計値などの詳細が表示されています。合計値は、プライマリデータパスと拡張データパスの合計です。

以下のコマンドを実行して、データパスの詳細を表示することもできます。

```
as_gddmgr.exe -DataPath Display <data store name>
```

```

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN>as_gddngr.exe -Data
path Add appliatest75_data_store -NewDataPath Y:\data
Successfully load data store configuration information.
Successfully added new expanded data path for the data store.
The data store has 1 expanded data path(s) now:

          Volume capacity      Used space      Free space
Primary data path : X:\Arcserve\data_store\data\
                  18384 GB      1 GB          18383 GB
Expanded data path1: Y:\data
                  224 GB      1 GB          223 GB
Total              18608 GB      2 GB          18606 GB
Success to add data path Y:\data.
C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN>

```

データストアへの新しい拡張データパスの追加が完了します。

- h. UDP コンソールで、[ソース]- [デスティネーション]- 復旧ポイントサーバ]に移動します。
 - i. [データストア]を右クリックし、[開始]をクリックします。
 - j. 一時停止していたプランを UDP コンソールから再開します。

Arcserve アプライアンス のデータ容量の拡張が完了します。

Arcserve アプライアンス 9072-9504 DR モデルの SSD フラッシュ拡張キットの操作

Arcserve SSD フラッシュ拡張キットを使用すると、セカンダリデータストアを作成してデータ容量を拡張し、Arcserve アプライアンス 9072-9504DR モデルで DR 関連操作 (IVM / VSB / Continuous Availability) を実行します。

以下の手順に従います。

1. 以下の手順に従い、空のディスクスロットに SSD を挿入します。
 - a. Arcserve UDP コンソールで、アプライアンス サーバ上に実行中のジョブがないことを確認します。実行中のジョブがある場合は、対応するプランを一時停止します。
 - b. SSD を空のディスクスロットに挿入します。



2. 以下の手順に従い、iDRAC で RAID-5 を設定します。

- a. iDRAC にログインしてから、**環境設定**]- **ストレージの環境設定**]- **物理ディスクの環境設定**]に移動します。
- b. **物理ディスクの環境設定**]セクションで、それぞれの新しい SSD ディスクの **アクション**]ドロップダウンリストから、**RAID 変換**]オプションを選択します。

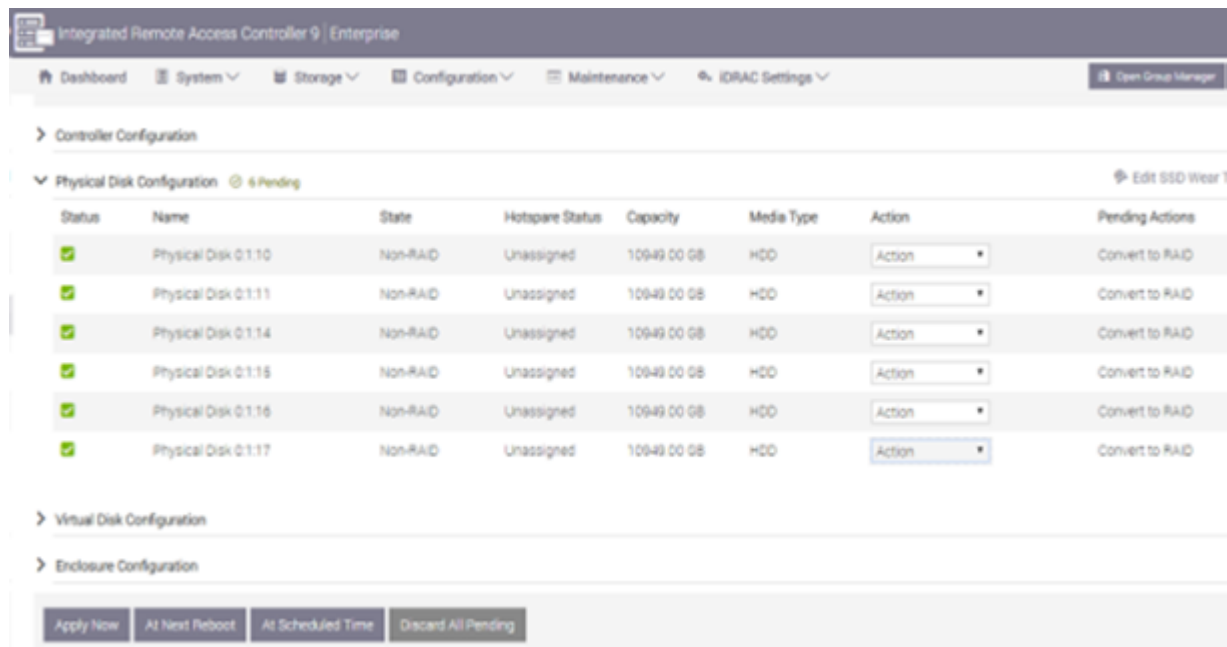
ダイアログ ボックスに以下の警告メッセージが表示されます。

RAC0516: 物理ディスクドライブを RAID 互換に変換すると、OS で作成された RAID アレイは上書きされます。

OS で構成された RAID アレイが存在しないことを確認し、**[OK]**をクリックします。

- c. **[OK]**をクリックします。

メディアの種類が SSD であるため、**保留アクション**]列の下に **RAID 変換**]ステータスが表示されます。



- d. 以下のオプションのいずれかをクリックして、保留中のアクションを完了します。

今すぐ適用

RAID 変換アクションがすぐに開始されます。

次回の再起動時

次の再起動時に RAID 変換アクションが開始されます。

スケジュールされた日時

スケジュールされた日時に RAID 変換アクションが開始されます。

すべての保留中を破棄

すべてのディスクの RAID 変換アクションが破棄されます。

- e. [メンテナンス]- [ジョブ キュー]に移動します。

RAID へのディスク変換を実行中のジョブ リストが表示されます。RAID 変換ジョブが完了すると、ステータスに 100%と表示されます。

Status	Name	State	Slot Number	Size	Security Status	Bus Protocol	Media Type	Hot Spare	Remaining Rated Write Endurance
<input type="checkbox"/>	Physical Disk 0:1.0	Online	0	7451.5 GB	Not Capable	SAS	HDD	No	Not Applicable
<input type="checkbox"/>	Solid State Disk 0:1.1	Online	1	3576.38 GB	Not Capable	SAS	SSD	No	100%
<input type="checkbox"/>	Solid State Disk 0:1.2	Online	2	3576.38 GB	Not Capable	SAS	SSD	No	100%
<input type="checkbox"/>	Solid State Disk 0:1.3	Online	3	3576.38 GB	Not Capable	SAS	SSD	No	100%
<input type="checkbox"/>	Solid State Disk 0:1.4	Online	4	3576.38 GB	Not Capable	SAS	SSD	No	100%
<input type="checkbox"/>	Solid State Disk 0:1.12	Online	12	1787.88 GB	Not Capable	SATA	SSD	No	100%
<input type="checkbox"/>	Solid State Disk 0:1.13	Online	13	1787.88 GB	Not Capable	SATA	SSD	No	100%
<input type="checkbox"/>	Physical Disk 0:1.14	Online	14	7451.5 GB	Not Capable	SAS	HDD	No	Not Applicable
<input type="checkbox"/>	Physical Disk 0:1.15	Online	15	7451.5 GB	Not Capable	SAS	HDD	No	Not Applicable
<input type="checkbox"/>	Physical Disk 0:1.16	Online	16	7451.5 GB	Not Capable	SAS	HDD	No	Not Applicable

3. 以下の手順に従い、仮想ディスクを作成します。
 - a. [環境設定]- [ストレージの環境設定]- [仮想ディスクの設定]に移動します。
 - b. [仮想ディスクの構成]セクションで、[仮想ディスクの作成]をクリックします。
 - c. [仮想ディスクの作成]ウィンドウで以下を実行し、それ以外はデフォルトのままにします。
 - レイアウト - ドロップダウン リストから、[RAID-5]を選択します。
 - メディアの種類 - ドロップダウン リストから、[SSD]を選択します。
 - d. [物理ディスクの選択]セクションで、下にスクロールして RAID に変換するすべての SSD ディスクを選択します。
 - e. [保留中の操作に追加]をクリックします。

Create Virtual Disk

Name	<input type="text" value="UDPFlash"/>
Layout	<input type="text" value="RAID-5"/> ▼
Media Type	<input type="text" value="SSD"/> ▼
Stripe Element Size	<input type="text" value="64 KB"/> ▼
Capacity*	<input type="text" value="10.48"/> <input type="text" value="TB"/> ▼
Read Policy	<input type="text" value="Read Ahead"/> ▼
Write Policy	<input type="text" value="Write Back"/> ▼
Disk Cache Policy	<input type="text" value="Default"/> ▼
T10 PI Capability	<input type="text" value="Disabled"/> ▼
Span Count	<input type="text" value="1"/> ▼

- f. **環境設定**]- **ストレージの環境設定**]に移動します。
- g. 仮想ディスクの作成処理をすぐに行うには、**今すぐ適用**]をクリックします。

Integrated Remote Access Controller 9 | Enterprise

Dashboard System Storage Configuration Maintenance

Configuration

Power Management Virtual Console Virtual Media Licenses System Settings

Use this page to configure your storage settings. Storage settings are confirmed per controller and you must schedule the job. Pending Operations will persist until the job is created or they are discarded.

Controller PERC H730P Mini (Embedded)

> Controller Configuration

> Physical Disk Configuration

▼ Virtual Disk Configuration

Create Virtual Disk

Status	Name	RAID Level	Deduplication
✓	UDPData	RAID-6	Non-Deduplication
✓	UDPHash	RAID-1	Non-Deduplication
✓	UDPFlash	RAID-5	Non-Deduplication

> Enclosure Configuration

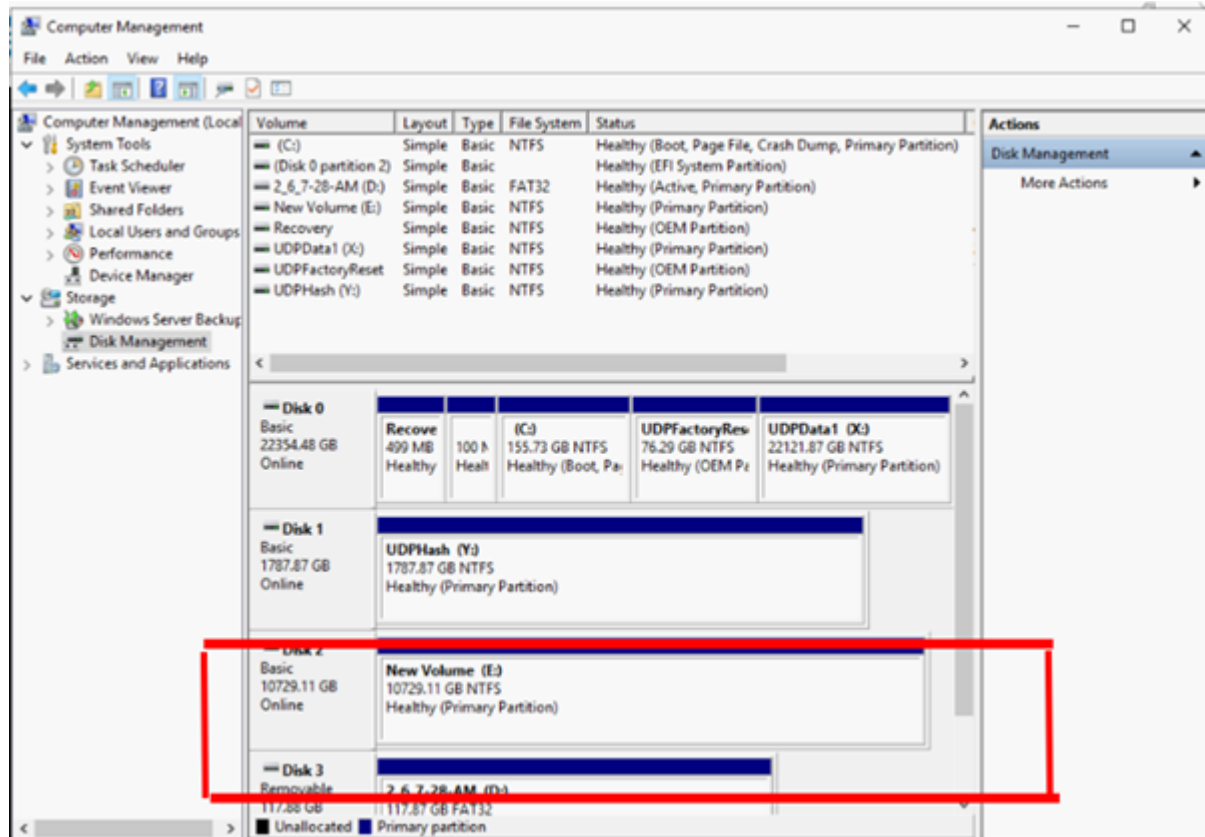
Apply Now At Next Reboot At Scheduled Time Discard All Pending

h. [メンテナンス]- [ジョブ キュー]に移動します。

仮想ディスクの作成を実行中のジョブリストが表示されます。仮想ディスクのジョブを作成すると、ステータスが [100%]に変更されます。

i. [コンピュータ管理]- [ディスク管理]に移動します。

- j. 追加した新しい仮想ディスクをダブルクリックします。
[ディスクの初期化] ウィンドウが表示されます。
- k. [GPT (GUID パーティション テーブル)] オプションを選択して、[OK] をクリックします。
- l. [ディスクの管理] ウィンドウで仮想ディスクを選択し、以下のプロパティを適用します。
 - ◆ ドライブ文字の割り当て
 - ◆ ファイルシステムとして NTFS を指定します。
 - ◆ ディスクのフォーマット



仮想ディスクが作成されます。

アプライアンス サーバ(8000) へのアプライアンス拡張シェルフの接続

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

すべての利用可能なモデルのためのアプライアンスインフィールド拡張

モデル	現在の容量 \TB	拡張シェルフ容量	現在のSSD - GB	新しいSSD要件 GB	空きスロット数	アドオンカード	説明
8100	4, 6	8 (6x2 TB ディスク)	120	8 TB - 140	2, 3	LSI SAS 9200 -8E HBA Qlogic デュアルポート HBA クアッド ポート 1G NIC デュアルポート 10G SPF+ デュアルポート 10G Copper インフィールド拡張 - (MegaRAID SAS 9380-8e)	<ol style="list-style-type: none"> 8100 モデルでは、8 TB インフィールド拡張のみをサポートします。 8100 - 8 TB 拡張シェルフには、設定済みの組み込み型 SSD 240 GB が付属しています。 8100 には、オプションスロット 2 および 3 があります。アプライアンスインフィールド拡張 / MegaRAID SAS 9380-8e のために、空きスロットが 1 つ必要です。 オプションスロットの両

							<p>方にアドオンカードが挿入されている場合、インフィールド拡張を使用するため、少なくとも1つのスロット、好ましくはスロット3を空ける必要があります。</p> <p>5. アプライアンスと拡張シェルフの間ではSAS接続が使用されます。</p> <p>6. 8100 - 拡張シェルフにはRAID-6が搭載されています。</p> <p>7. 拡張シェルフにはデュアルPSUが搭載されています。</p> <p>8. 拡張シェルフを接続した後、拡張ガイドの「データパスの追加」に記載された手順に従います。</p>
--	--	--	--	--	--	--	---

							9. 新しいSSDが必要な場合は、拡張ガイドの「新しいSSDへのハッシュステーションの移行」の手順に従います。
8200	8, 12	8 (6x2 TB ディスク) または 16 (6x4 TB ディスク)	220	8 TB - NA 16 TB - 280	2, 3	LSI SAS 9200 -8E HBA Qlogic デュ アルポート HBA クアッド ポー ト 1G NIC デュアル ポート 10G SPF+ デュアル ポート 10G Copper インフィール ド拡張 (MegaRAID SAS 9380- 8e)	1. 8200 モデルでは、8 TB または 16 TB のインフィールド拡張をサポートします。クライアントは、いつでも 1 つだけ拡張シェルフに接続することができます。 2. 8200 - 16 TB 拡張シェルフには、設定済みの組み込み型 SSD 480 GB が付属しています。 3. 8200 には、オプション スロット 2 および 3 があります。アプライアンス インフィールド 拡張 /

							<p>MegaRAID SAS 9380-8e のために、空きスロットが1つ必要です。</p> <p>4. オプション スロットの両方にアドオンカードが挿入されている場合、インフィールド拡張を使用するため、少なくとも1つのスロット、好ましくはスロット3を空ける必要があります。</p> <p>5. アプライアンスと拡張シェルフの間ではSAS接続が使用されます。</p> <p>6. 拡張シェルフにはRAID-6が搭載されています。</p> <p>7. 拡張シェルフにはデュアルPSUが搭載されています。</p> <p>8. 拡張シェルフを接続し</p>
--	--	--	--	--	--	--	--

							<p>た後、拡張ガイドの「データパスの追加」に記載された手順に従います。</p> <p>9. 新しいSSDが必要な場合は、拡張ガイドの「新しいSSDへのハッシュステーションの移行」の手順に従います。</p>
8300	16,20,24,28,32,36,40	<p>8 (6x2 TB ディスク) または 16 (6x4 TB ディスク) または 40 (12x4 TB ディスク)</p>	480	<p>8 TB - NA 16 TB - 560 40 TB - 790</p>	2, 5, 6	<p>LSI SAS 9200 -8E HBA Qlogic デュアルポート HBA クアッドポート 1G NIC デュアルポート 10G SPF+ デュアルポート 10G Copper インフィールド拡張 (MegaRAID SAS 9380-8e)</p>	<p>1. 8300 モデルでは、8 TB、16 TB、または 40 TB のインフィールド拡張をサポートします。クライアントは、いつでも 1 つだけ拡張シェルフに接続することができます。</p> <p>2. 8300 - 16 TB / 40 TB 拡張シェルフには組み込みおよび事前設定済みの SSD 1.9 TB が付属しています。</p>

							<p>3. 8300 には、オプション スロット 2、5 および 6 があります。アプライアンス インフィールド 拡張 / MegaRAID SAS 9380-8e のために、空きスロット が 1 つ 必要 です。</p> <p>4. オプション スロット の両 方にアドオン カードが挿 入されてい る場合、イン フィールド 拡張を使 用するた め、少なく と も 1 つのス ロット、好ま しくはスロッ ト 2 を空け る必要があ ります。</p> <p>5. アプライア ンスと拡張 シェルフの間 では SAS 接 続が使用さ れます。</p> <p>6. 拡張シェル フには RAID- 6 (6x4 TB ディスク) が</p>
--	--	--	--	--	--	--	--

							<p>搭載されています。</p> <p>7. 拡張シェルフにはデュアルPSUが搭載されています。</p> <p>8. 拡張シェルフを接続した後、拡張ガイドの「データパスの追加」に記載された手順に従います。</p> <p>9. 新しいSSDが必要な場合は、拡張ガイドの「新しいSSDへのハッシュステーションの移行」の手順に従います。(アプライアンス8300を40TBアプライアンス拡張シェルフと接続する場合のみ、拡張シェルフではなくベースアプライアンスに設置する必要がある未接続の2</p>
--	--	--	--	--	--	--	--

							<p>TB SSD が 1 つあります。詳細については拡張ガイドを参照してください)。</p>
8400	32,40,48,56,64,72,80	<p>8 (6x2 TB ディスク) または 16 (6x4 TB ディスク) または 40 (12x4 TB ディスク)</p>	1200	<p>8 TB - NA 16 TB - NA 40 TB - NA</p>	2, 5, 6	<p>LSI SAS 9200 -8E HBA Qlogic デュアルポート HBA クアッド ポート 1G NIC デュアルポート 10G SPF+ デュアルポート 10G Copper インフィールド拡張 (MegaRAID SAS 9380-8e)</p>	<p>1. 8400 モデルでは、8 TB、16 TB、または 40 TB のインフィールド拡張をサポートします。クライアントは、いつでも 1 つだけ拡張シェルフに接続することができます。</p> <p>2. 8400 - 追加の SSD は必要ありません。</p> <p>3. 8400 には、オプション スロット 2、5 および 6 があります。アプライアンスインフィールド拡張 / MegaRAID SAS 9380-8e のために、空きスロットが 1 つ必要です。</p> <p>4. オプション ス</p>

							<p>ロットの両方にアドオンカードが挿入されている場合、インフィールド拡張を使用するため、少なくとも1つのスロット、好ましくはスロット2を空ける必要があります。</p> <p>5. アプライアンスと拡張シェルフの間ではSAS接続が使用されます。</p> <p>6. 拡張シェルフにはRAID-6が搭載されています。</p> <p>7. 拡張シェルフにはデュアルPSUが搭載されています。</p> <p>8. 拡張シェルフを接続した後、拡張ガイドの「データパスの追加」に記載された手順に従います。</p>
--	--	--	--	--	--	--	---

同梱されている内容

ボックスには以下の品目が同梱されています。

注：ボックス内の破損品にお気づきの場合は、[Arcserve サポート](#)までご連絡ください。

- アプライアンス拡張シェルフ

注：アプライアンス拡張シェルフの容量は、拡張シェルフで利用可能なディスクの数に依存します。



- CVPM02 モジュール (CacheVault Power Module02) とケーブル



- MegaRAID SAS 9380-8e RAID Controller



- SAS ケーブル

2つのSASケーブルは、アプライアンス拡張シェルフのMegaRaid Controllerとアプライアンスサーバを接続するのに使用されます。



- SSD (オプション)

注: アプライアンス 8300 の場合のみ、40 TB アプライアンス拡張に接続する必要があり、未接続の 2 TB SSD が 1 つあります。

アプライアンスサーバへのアプライアンス拡張シェルフの接続方法

以下の手順に従います。

1. アプライアンス拡張シェルフを準備し、アプライアンスサーバの近くに配置します。
2. CacheVault Power Module02 (CVPM02) を MegaRAID Controller 9380-8e に接続します。

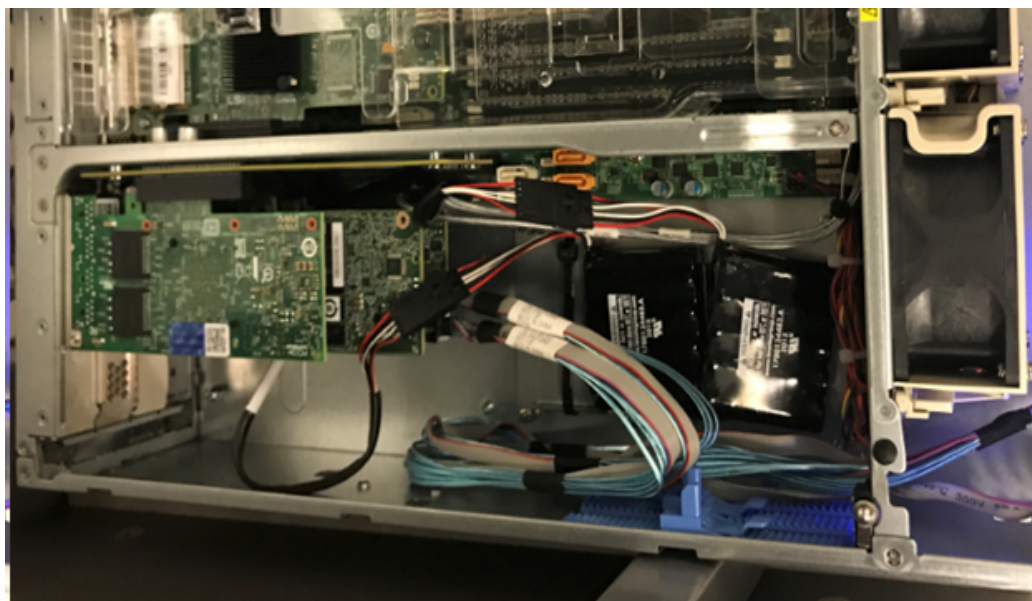


3. すべての Arcserve UDP プランを一時停止し、アプライアンスサーバで実行中のジョブがないことを確認します。
4. アプライアンスサーバの電源をオフにし、電源装置から電源コードを抜きます。

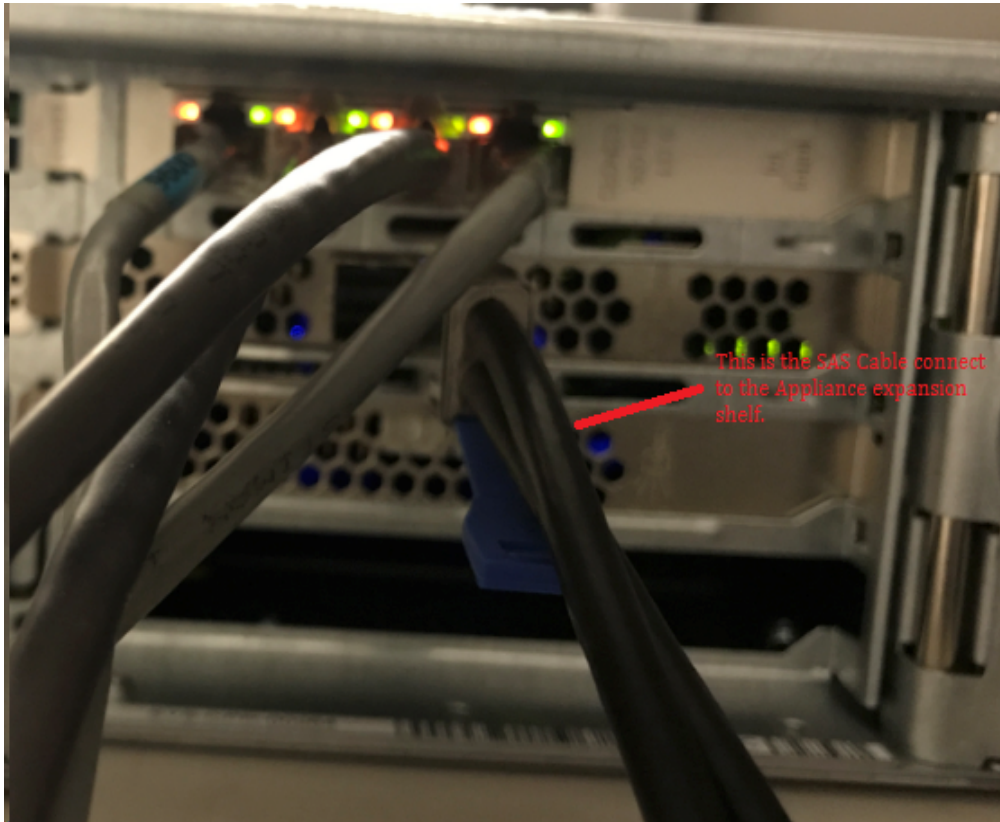
注: システムの損傷や感電のリスクを回避するために、電源装置からコンピュータを切断します。

5. アプライアンスサーバシャーシのカバーを取り外します。

6. 以下の手順に従い、MegaRAID Controller 9380-8e をアプライアンスサーバの利用可能な PCI-e スロットに挿入します。
 - a. 空いている PCI-e スロットを見つけます。
 - b. コンピュータ背面の、空の PCIe スロットと合う空のブラケット パネルを取り外します。
 - c. ネジがある場合は、ブラケットのネジを保存します。
 - d. MegaRAID Controller 9380-8e を PCIe スロットに合わせます。
 - e. 優しくじっくり押し込み、RAID コントローラを正しくスロットに取り付けます。



7. MegaRAID Controller 9380-8e ブラケットをシステムのシャーシに固定します。
8. アプライアンスサーバシャーシのカバーを再び取り付けます。
9. SAS ケーブルを使用して、アプライアンスサーバ内の MegaRAID コントローラ 9380-8e をアプライアンス拡張シェルフ内の MegaRAID コントローラに接続します。

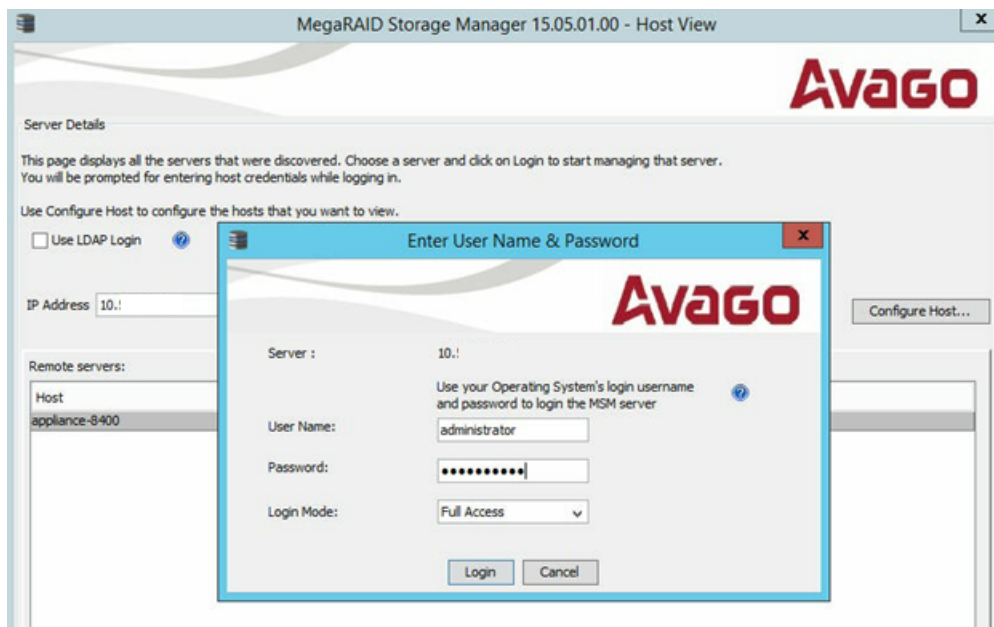


10. SSD を挿入します(アプライアンス 8300 + 40 TB 拡張シェルフの場合のみ)。

注: アプライアンス 8300 に 40 TB アプライアンス拡張シェルフを接続している場合、アプライアンス 8300 の背面パネルの空いている SATA スロットに、2 TB SSD (アプライアンス拡張シェルフに同梱) を追加します。



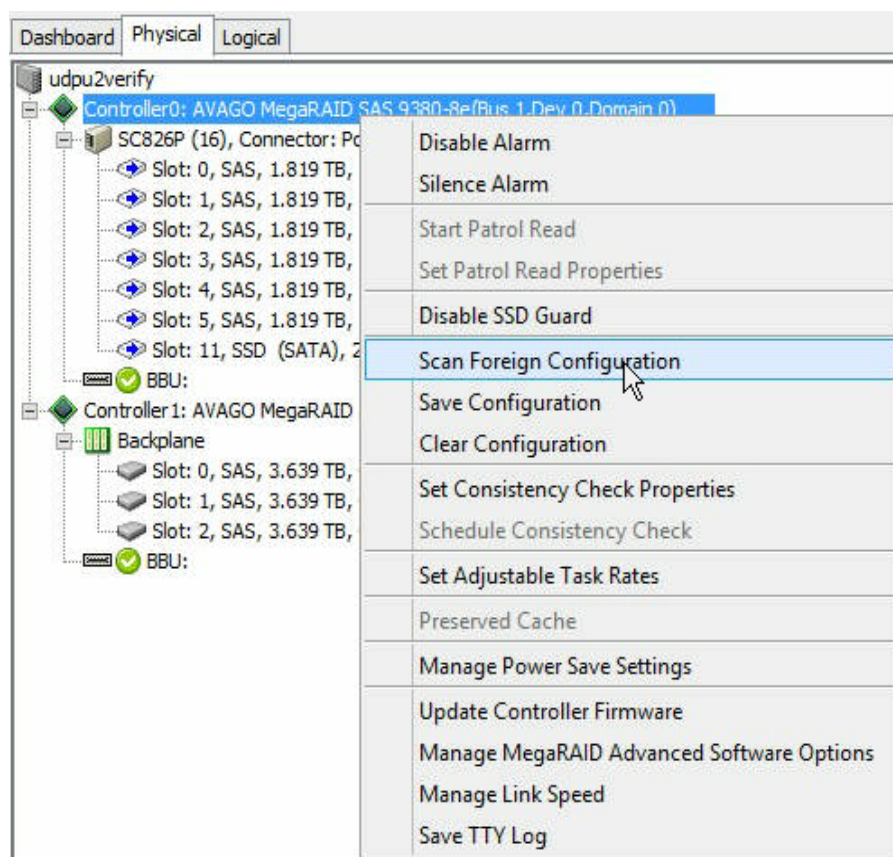
11. アプライアンス拡張シェルフの電源コードを接続し、アプライアンス拡張シェルフの電源を入れます。
12. <! アプライアンスサーバの電源コードを再接続し、アプライアンスサーバの電源を入れます。
13. アプライアンスサーバにログインします。MegaRAID ストレージ マネージャを開いて、管理者としてログインします。



14. 以下の手順に従い、MegaRAID ストレージ マネージャから RAID コントローラを確認します。

- a. [物理]タブに移動します。2つのコントローラが一覧表示されます。
- b. [コントローラ 9380-8e]を選択し、コントローラ 9380-8e に接続されているすべてのディスクがオンラインで、利用可能であることを確認します。

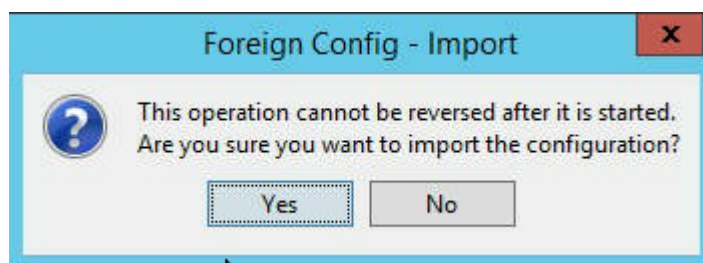
注: オンラインではないディスクがある場合、右クリックして [外部構成のスキャン]を選択します。



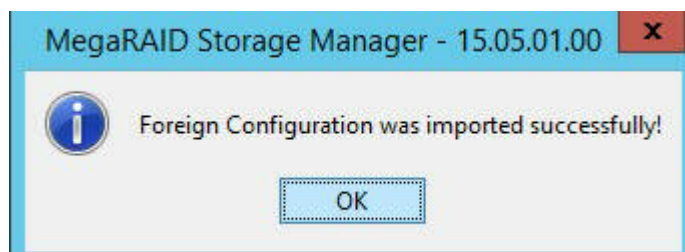
- c. [Import: Import logical configuration from all foreign drives (インポート: すべての外部ドライブから論理構成をインポート)]オプションを選択して、[OK]をクリックします。



- d. **【はい】**をクリックしてインポート処理を開始します。

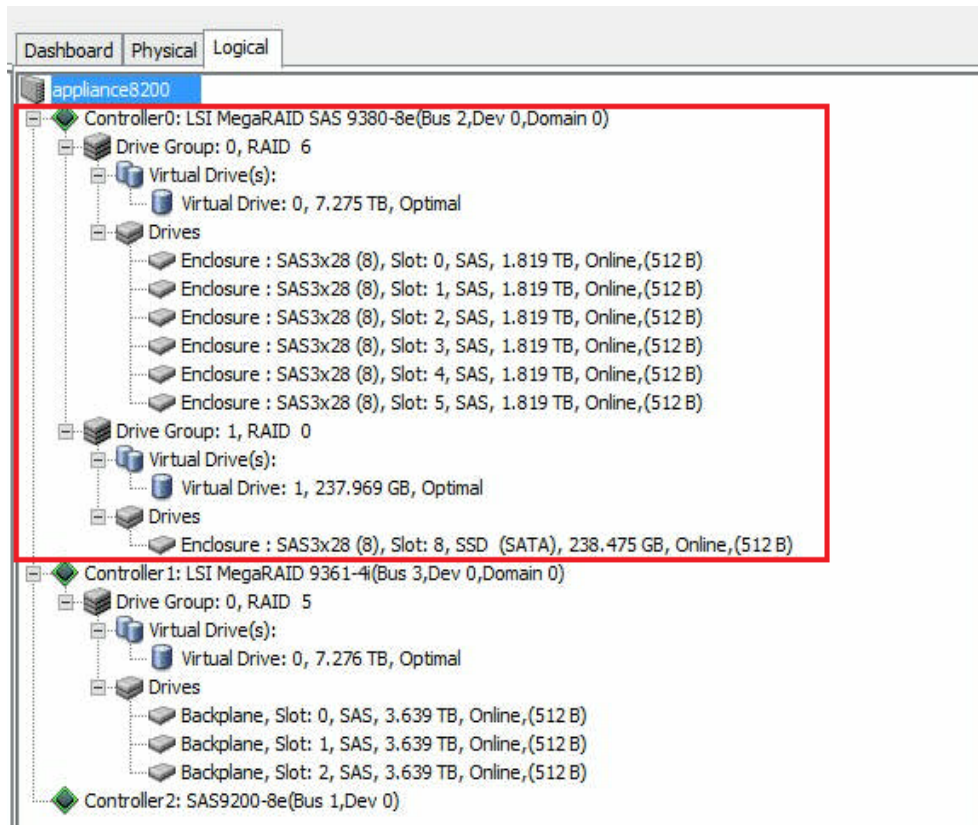


- e. **【OK】**をクリックします。



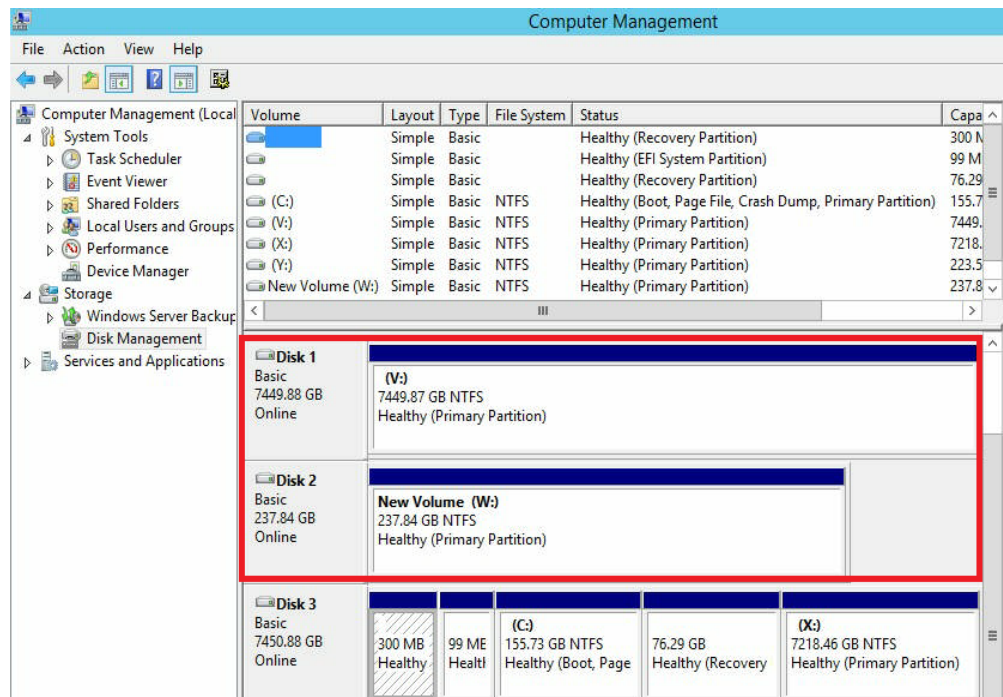
拡張シェルフ上のすべてのディスクドライブがオンラインになります。

15. **【論理】**タブに移動します。RAID-6 が設定された以下のディスクが表示されます。他の拡張シェルフ モジュールの場合、1 つ SSD が RAID 0 にされ、*LSI MegaRAID SAS 9380-8e* の下に一覧表示されます。
- アプライアンス サーバ 8100 + 8 TB 拡張シェルフ
 - アプライアンス サーバ 8200 + 16 TB 拡張シェルフ
 - アプライアンス サーバ 8300 + 16 TB 拡張シェルフ



16. [コンピュータの管理]を開き、[ディスクの管理]に移動して、以下の手順を実行します。
 - a. アプライアンス拡張シェルフの組み込みディスクをNTFS形式でフォーマットし、ドライブ文字を割り当てます。たとえば、「V:」を割り当てます。
 - b. NTFS形式でSSDをフォーマットして、ドライブ文字を割り当てます。た

たとえば、「W:」を割り当てます。



アプライアンス拡張シェルフがアプライアンスサーバに正常に接続されました。

Arcserve UDP データストアの変更方法

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- [拡張シェルフのデータパスを Arcserve UDP データストアに追加する](#)
- [新しい SSD へのハッシュ デスティネーションの移行](#)
- [Arcserve UDP コンソールからのデータストア全体の容量の確認](#)
- [Arcserve UDP コンソールからのすべてのプランの再開](#)

Arcserve UDP データストアへの拡張シェルフ データパスの追加

以下の手順に従います。

1. 「V:\data」などのアプライアンス拡張シェルフ上のボリュームにフォルダを作成します。
2. データストアを停止し、以下のコマンドを使用して、データストアをアプライアンス拡張シェルフに拡張します。

```
as_gddmgr.exe -DataPath Add <data store name> -NewDataPath <new data folder>
```

```
as_gddmgr.exe -DataPath Display <data store name>
```

新しい SSD へのハッシュ デスティネーションの移行

注: この手順は、以下の拡張シェルフに新しい SSD を使用する場合にのみ、必要です。

- アプライアンスサーバ 8100 + 8 TB 拡張シェルフ
- アプライアンスサーバ 8200 + 16 TB 拡張シェルフ
- アプライアンスサーバ 8300 + 16 TB 拡張シェルフ
- アプライアンスサーバ 8300 + 40 TB 拡張シェルフ

以下の手順に従います。

1. 新しい SSD に、`W:\Arcserve\data_store\hash` などのハッシュフォルダを作成します。
2. データストアが停止していることを確認します。停止していない場合、Arcserve UDP コンソールからデータストアを停止します。
3. Arcserve UDP コンソールからデータストアを変更し、ハッシュ デスティネーションを `W:\Arcserve\data_store\hash` に設定します。
4. データストアの変更を保存します。
5. Arcserve UDP コンソールからデータストアを起動します。

Arcserve UDP コンソールでのデータストアの全体容量の確認

全体の容量は、アプライアンスサーバの容量に、アプライアンス拡張シェルフの容量を追加したものです。

Arcserve UDP コンソールからのすべてのプランの再開

Arcserve UDP コンソールからすべての一時停止プランを再開します。

第10章: ネットワーク設定の操作

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

ネットワーク設定の詳細	252
DHCP サーバを無効化する方法	257
プリインストールされた Linux バックアップ サーバの IP アドレスを設定する方法	258
負荷分散のために DNS サーバ上でラウンド ロビンを有効にする方法	260
アプライアンスのネットワークステータスを確認する方法	261

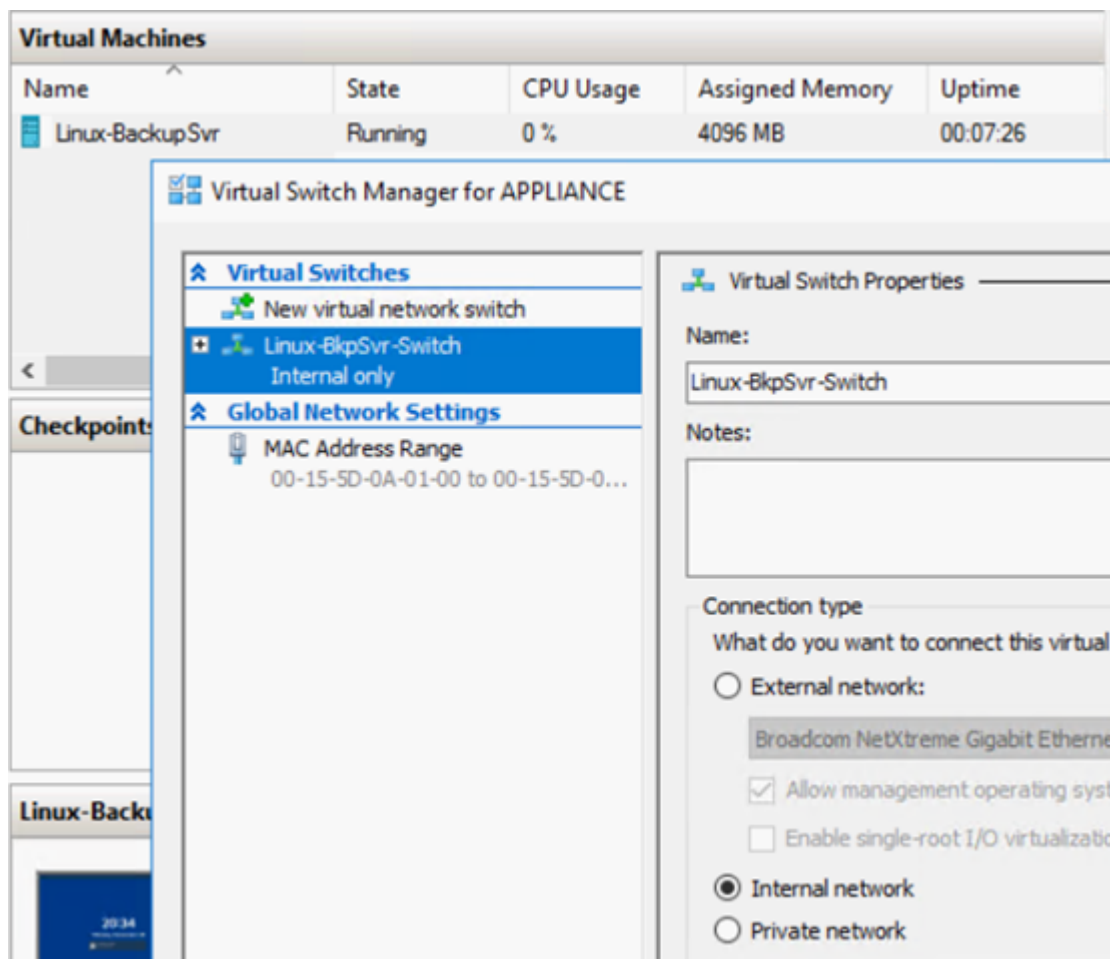
ネットワーク設定の詳細

アプライアンスのネットワーク設定により、組み込み Linux バックアップ サーバ (HYPER-V マネージャでの仮想名: Linux BackupSvr) を NAT の背後で稼働させることができます。これにより以下の利点があります。

- ユーザは、組み込み Linux のホスト名を変更する必要がありません。
- ユーザは、Linux バックアップ サーバのネットワーク上の IP を保存します。
- Linux バックアップ サーバは、パブリック ネットワーク上のマシンに接続できます。
- アプライアンス サーバ専用の特別なポートを介して、パブリック ネットワーク上の任意のマシンを Linux バックアップ サーバに接続できます。

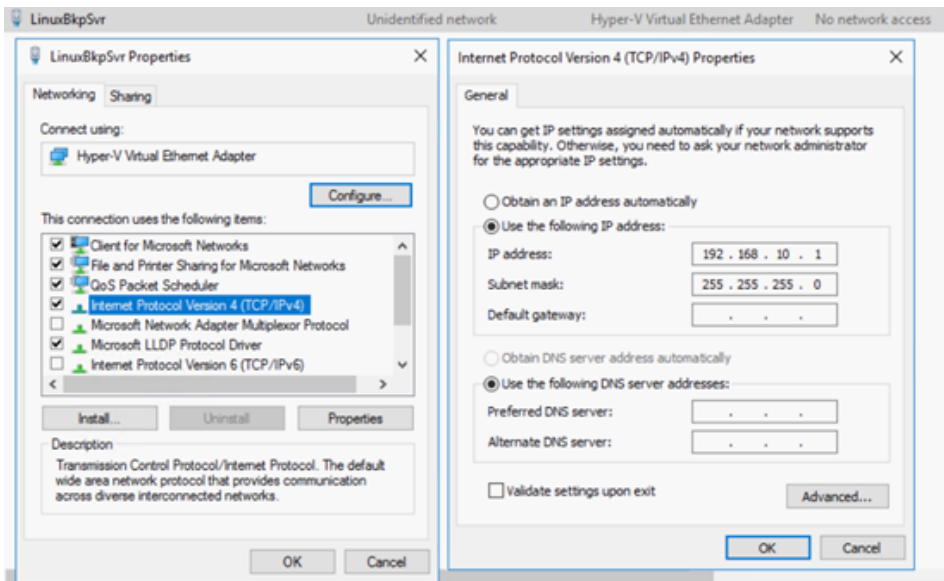
ネットワーク設定の詳細:

- Hyper-V マネージャで、Linux-BackupSvr によってのみ使用される内部のみの仮想スイッチ - *Linux-BkpSvr-Switch* が利用可能です。

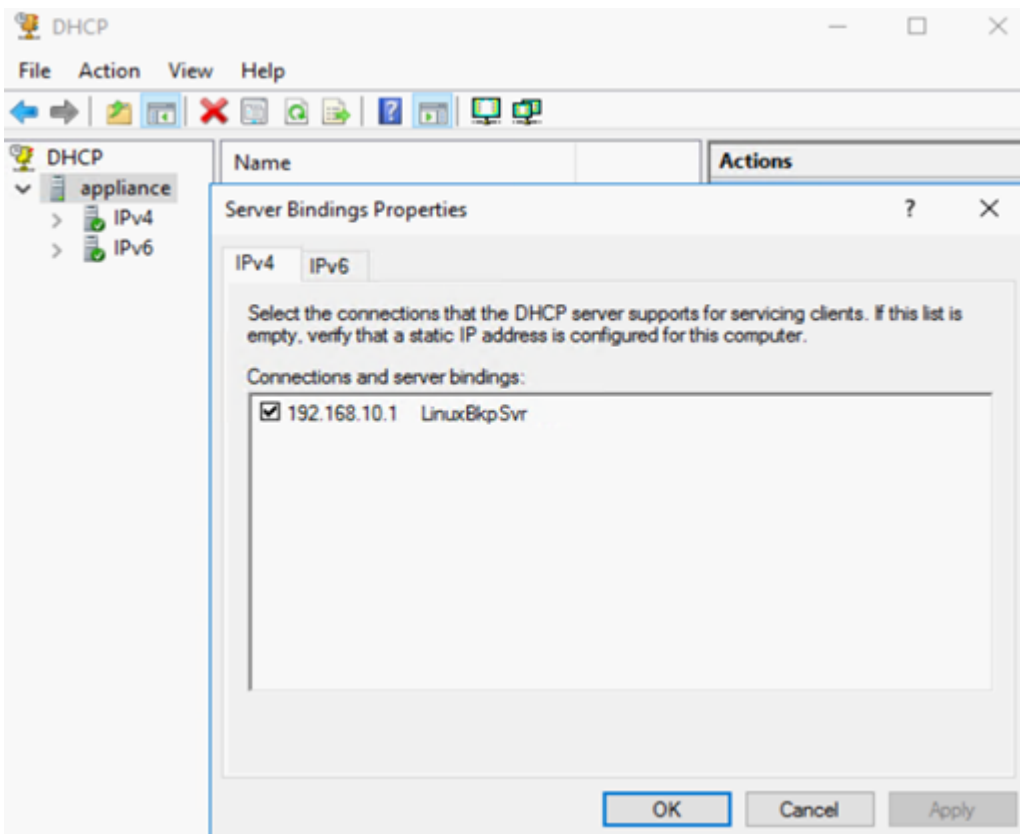


- コントロールパネル\ネットワークとインターネット\ネットワーク接続に、「LinuxBkpSvr」という名前前の「Hyper-V Virtual Ethernet Adapter」が表示されま

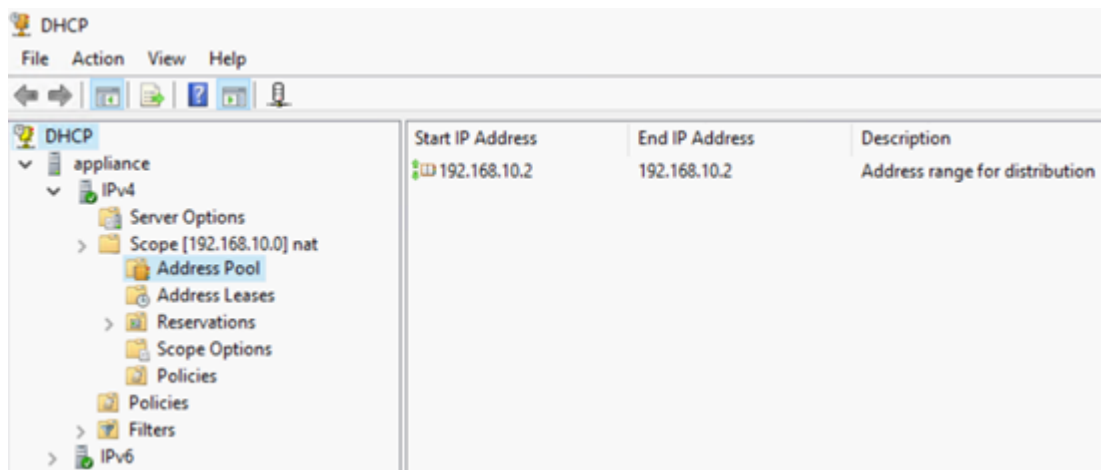
す。デフォルトでは、以下のように、このスイッチの IPv4 を 192.168.10.1 として設定しています。



- デフォルトで、アプライアンスマシンには DHCP サーバが設定されています。DHCP サーバは、HYPER-V 仮想アダプタ上でのみ稼働します。



- デフォルトでは、アドレスプールには 192.168.10.2 のみがあり、これによって、組み込み Linux バックアップサーバが IP 192.168.10.2 を確実に取得できます。



- アプライアンス マシン上で NAT が設定されました。

Name	Status	Device Name	Connectivity	Network Category
NIC1	Disabled	Broadcom NetXtreme Gigabit Et...		
NIC2	Disabled	Broadcom NetXtreme Gigabit Et...		
NIC3	Disabled	Broadcom NetXtreme Gigabit Et...		
NIC4	ARCSERVE.COM	Broadcom NetXtreme Gigabit Et...	Internet access	Public network
LinuxBkpSvr	Unidentified network	Hyper-V Virtual Ethernet Adapter	No network access	Public network

```
Administrator: Command Prompt
c:\Windows\System32>netsh routing ip nat dump

# -----
# NAT configuration
# -----
pushd routing ip nat
uninstall
install
set global tcptimeoutmins=1440 udptimeoutmins=1 loglevel=ERROR

#
#NAT Configuration For Interface NIC4
#
add interface name="NIC4" mode=FULL

#
#NAT Configuration For Interface LinuxBkpSvr
#
add interface name="LinuxBkpSvr" mode=PRIVATE

popd
```

- Linux バックアップ サーバ用に、アプライアンス上でポート リダイレクションを設定しています。

```
Administrator: Command Prompt
c:\Windows\System32>netsh interface portproxy show all
Listen on ipv4:          Connect to ipv4:
Address      Port      Address      Port
-----
*           8018     192.168.10.2 8014
*           8019     192.168.10.2 22
*           8035     192.168.10.2 8035
*           8017     192.168.10.2 8017
*           8021     192.168.10.2 8021
*           50000    192.168.10.2 50000
*           50001    192.168.10.2 50001
*           50002    192.168.10.2 50002
*           50003    192.168.10.2 50003
*           50004    192.168.10.2 50004
```

- Linux バックアップ サーバは、DHCP サーバから IP アドレス 192.168.10.2 を取得します。IP アドレスを取得した後、バックエンド スクリプト (*C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\resetdhcp.ps1*) は Linux と通信し、Linux のシステム ロケールを変更して、アプライアンス Windows OS のシステム ロケールと一致させます。

```
[root@Linux-BackupSvr network-scripts]# cat ifcfg-eth0
TYPE=Ethernet
BOOTPROTO=dhcp
DEFROUTE=yes
PEERDNS=yes
PEERROUTES=yes
IPV4_FAILURE_FATAL=no
IPV6INIT=yes
IPV6_AUTOCONF=yes
IPV6_DEFROUTE=yes
IPV6_PEERDNS=yes
IPV6_PEERROUTES=yes
IPV6_FAILURE_FATAL=no
IPV6_ADDR_GEN_MODE=stable-privacy
NAME=eth0
UUID=9ae68090-5e77-4396-b6c4-a5d6d83ab62f
DEVICE=eth0
ONBOOT=yes
ZONE=
[root@Linux-BackupSvr network-scripts]# ifconfig
eth0: flags=4163<UP,BROADCAST,RUNNING,MULTICAST> mtu 1500
    inet 192.168.10.2 netmask 255.255.255.0 broadcast 192.168.10.255
    inet6 fe80::c08c:d0dc:bf67:8afa prefixlen 64 scopeid 0x20<link>
    ether 00:15:5d:0a:01:00 txqueuelen 1000 (Ethernet)
    RX packets 20955 bytes 28503433 (27.1 MiB)
    RX errors 0 dropped 0 overruns 0 frame 0
    TX packets 19202 bytes 1534457 (1.4 MiB)
    TX errors 0 dropped 0 overruns 0 carrier 0 collisions 0

lo: flags=73<UP,LOOPBACK,RUNNING> mtu 65536
    inet 127.0.0.1 netmask 255.0.0.0
    inet6 ::1 prefixlen 128 scopeid 0x10<host>
    loop txqueuelen 1 (Local Loopback)
    RX packets 14 bytes 1600 (1.5 KiB)
    RX errors 0 dropped 0 overruns 0 frame 0
    TX packets 14 bytes 1600 (1.5 KiB)
    TX errors 0 dropped 0 overruns 0 carrier 0 collisions 0
```

DHCP サーバを無効化する方法

DHCP サーバは、アプライアンス上ではデフォルトで有効になります。DHCP サーバが、アプライアンス上の Hyper-V 仮想 Ethernet アダプタ - *LinuxBkpSvr* でのみ動作し、プリインストールされた Linux バックアップ サーバが IP アドレスを取得でき、アプライアンスとの通信が可能で、実稼働ネットワーク環境に影響を与えないことを確認します。

DHCP サーバを無効にするには、次の手順を実行します。

1. ファイル *C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\Configuration\Appliance.properties* を開きます。
2. ファイルを *DHCP_ENABLE=false* と変更します。*Appliance.properties*には以下のように表示されます。

```
DHCP_ENABLE=false  
AdapterName=LinuxBkpSvr  
Appliance_IPAddress=192.168.10.1  
Linux_IPAddress=192.168.10.2
```

3. ファイルを保存します。
4. ファイル *C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\dhcpdone.flag* を削除します。
5. *C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\resetdhcp.ps1*を DOS コマンド ラインから以下のように実行し、DHCP サーバサービスを無効化します。

```
C:\Program Files\Arcserve\Unified Data  
Protection\Engine\BIN\Appliance>powershell .\resetdhcp.ps1
```

プリインストールされた Linux バックアップ サーバの IP アドレスを設定する方法

プリインストールされた Linux バックアップ サーバは、デフォルトで IP 192.168.10.2 を使用して、アプライアンス サーバと通信します。プリインストールされた Linux バックアップ サーバがアプライアンス サーバと通信する方法については、プリインストールされた Linux バックアップ サーバのネットワーク設定概要を参照してください。

プリインストールされた Linux バックアップ サーバの IP アドレスを指定するには、次の手順を実行します。

1. ファイル `C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\Configuration\Appliance.properties` を開きます。
2. `Appliance_IPAddress` および `Linux_IPAddress` の IP アドレスを変更します。たとえば、`Appliance_IPAddress` を 192.168.100.1 に、`Linux_IPAddress` を 192.168.100.2 に設定します。

注:

- ◆ `Appliance_IPAddress` の IP アドレスは、このプリインストールされた Linux バックアップ サーバとの通信に使用されるネットワーク インターフェイス `LinuxBkpSvr` (Hyper-V 仮想 Ethernet アダプタ) に設定されます。
- ◆ `Linux_IPAddress` の IP アドレスは、プリインストールされた Linux バックアップ サーバに設定されます。
- ◆ 「`Appliance_IPAddress`」および「`Linux_IPAddress`」が同じサブ ネットワークの IP アドレスを使用していることを確認してください。

変更後、ファイルの内容は以下ようになります。

```
DHCP_ENABLE=true  
AdapterName=LinuxBkpSvr  
Appliance_IPAddress=192.168.100.1  
Linux_IPAddress=192.168.100.2
```

3. ファイルを保存します。
4. ファイル `C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\dhcpdone.flag` を削除します。
5. `C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\resetchcp.ps1` を実行し、ネットワークイ

インターフェース LinuxBkpSvr とプリインストールされた Linux バックアップ サーバの IP アドレスをリセットします。

注:

ユーザが Linux_IPAddress を変更する場合、処理中にプリインストールされた Linux バックアップ サーバはシャット ダウンし、再起動します。

6. コマンド プロンプトで以下のコマンドを実行します。

```
C:\Program Files\Arcserve\Unified Data  
Protection\Engine\BIN\Appliance>powershell .\resetdhcp.ps1
```

負荷分散のために DNS サーバ上でラウンド ロビンを有効にする方法

Microsoft DNS サーバでは、サーバ間の負荷分散に使用される技術であるラウンド ロビンをサポートしています。この機能によって、DNS では `myserver.mydomain.com` のクエリを受信する場合に両方の IP アドレスを送信できます。クライアント(またはリゾルバ)では、常に最初のものを使用します。次に DNS がこの名前前のクエリを受信するときに、IP アドレスのリストの順序はラウンド ロビン手法を使用して変更されます(以前のリストで 1 番目だったアドレスは、新しいリストの最後になります)。1 つのエイリアスに対して 1 つのカノニカル名しか許可されないため、名前レコードのラウンド ロビンはサポートされていません。

アプライアンスで、ドメイン ネーム サーバ(DNS) にすべての IPv4 アドレスのレコードを追加し、ネットワーク インターフェース全体で負荷分散することができます。

サーバ間の負荷分散の詳細については、[RFC 1794](#) を参照してください。

追加の IP アドレスのレコードをドメイン ネーム サービス サーバに追加する方法

サーバに 2 つ以上のネットワーク インターフェースカード(NIC) があるか、サーバの NIC に 2 つ以上の IP アドレスが指定されている場合は、各 IP アドレスの「A」レコードを作成することによって、追加の IP アドレスのレコードを DNS サーバに追加できます。

例:

サーバの DNS ホスト名が `<myserver>` で、DNS ドメイン名が `<mydomain.com>` であるとして、このサーバには、以下の 2 つの IP アドレスが割り当てられています。

- IPAddress1
- IPAddress2

これらの IP アドレスを DNS サーバに追加するには、以下のように 2 つの「A」レコードを `<mydomain.com>` ゾーンに作成します。

- Myserver A <IPAddress1>
- Myserver A <IPAddress2>

リゾルバが毎回同じ IP アドレスを取得できるようにするには、以下のように、各アドレスに一意的な名前を割り当てる「A」レコードをさらに 2 つ作成します。

- Altname1 A <IPAddress1>
- Altname2 A <IPAddress2>

この方法を使用すると、リゾルバは Alname1 に対するクエリを送信するときは常に IPAddress1 を取得し、Alname2 に対するクエリを送信するときは常に IPAddress2 を取得します。

アプライアンスのネットワークステータスを確認する方法

ApplianceNetworkStatusCheck.ps1 ツールは、Arcserve アプライアンス サーバの現在のネットワーク状態全体に関する情報を収集し、XML 形式でレポートを生成するために使用されます。このレポートには、ネットワークアダプタ、ネットワークスイッチ、Hyper-V 仮想スイッチ、DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol、動的ホスト構成プロトコル)、DNS (Domain Name System、ドメインネームシステム)、RRAS (Route and Remote Access Service、ルーティングとリモートアクセスサービス)、およびサーバ上のその他の主要な設定に関する情報が含まれます。

ApplianceNetworkStatusCheck.ps1 ツールは、Arcserve アプライアンス サーバ UDP V7.0 Update1 で利用可能です。

このツールを使用してアプライアンスサーバのネットワークステータスレポートを生成するには、以下の手順に従います。

1. 管理者として Arcserve アプライアンス サーバにログインします。
2. コマンドプロンプトを開き、フォルダの場所を入力します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance

3. ApplianceNetworkStatusCheck.ps1 を実行してレポートを生成します。

```
#Powershell .\ApplianceNetworkStatusCheck.ps1
```

```
c:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance>powershell .\ApplianceNetworkStatusCheck.ps1
1. Check network switch
2. Check HyperV virtual switch
3. Check DHCP service and properties
4. Check ipv4 to ipv4 tcp netsh interface portproxy
5. Check RRAS NAT interface
CHECK FINISH
Start create html report
```

ブラウザが開き、アプライアンスサーバのネットワークステータスレポート全体が表示されます。

第11章: 安全に関する注意事項についての理解

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

一般的な安全に関する注意事項	263
電気に関する安全のための注意事項	265
FCC コンプライアンス	266
静電気放電 (ESD) に関する注意事項	267

一般的な安全に関する注意事項

以下の一般的な安全に関する注意事項に従い、安全に注意を払い、またアプライアンスを障害や誤動作から保護する必要があります。

- EMI クラス A 機器 (商用機器) の場合、本装置は家庭用ではなく、商用機器 (A) として EMC (Electromagnetic Compatibility) Registration に登録されています。販売者およびユーザは、この点において注意する必要があります。

A급 기기 (업무용 방송 통신기자재)

이 기기는 업무용 (A급) 으로 전자파적합 기기로서 판매자 또는 사용자는 이 점을 주의하시기 바라며, 가정외의 지역에서 사용하는 것을 목적으로 합니다

注: この注意事項は韓国にのみ適用されます。詳細については、Arcserve サポート (<https://www.arcserve.com/support>) までお問い合わせいただくか、0079885215375 (韓国) までお電話ください。

- アプライアンスに同梱されている内容をチェックして破損がないことを確認します。破損の証拠がある場合は、すべてのパッケージ資材を保持して Arcserve サポートにご連絡ください: <https://www.arcserve.com/support>。
- アプライアンスを格納するラックユニットの適切な場所を決定します。これは、よく換気され、ごみなどがいない清潔かつ無塵の領域に配置する必要があります。熱、電氣的ノイズ、電磁場が生じる場所は避けてください。
- また、接地された電源コンセントが少なくとも 1 つある場所の近くに配置する必要があります。モデルによっては、アプライアンスに 1 つの電源または冗長電源装置のいずれかが含まれており、2 つの接地されたコンセントが必要になります。
- アプライアンスは、限られた場所でのみ使用するものです。
 - 場所に適用される制限の理由および従うべき注意事項について指示されているユーザまたはサービス担当者からアクセスを得ることができます。
 - アクセスするには、ツールまたはロックおよびキー、セキュリティの別の手段によって与えられ、その場所に責任を持つ担当者によって制御されます。
- アプライアンスから取り外した上部のカバーやコンポーネントは、誤って踏むことがないようにテーブルの上に置きます。

- アプライアンスを使用して作業する際は、ネクタイや袖のボタンを留めていないシャツなどゆるやかな服装は避けてください。そのような服装は、電子回路に触れたり、冷却ファンに巻き込まれたりする可能性があります。
- 宝飾品や金属のものは、金属導体であり、プリント基板 (PCB) または電流が流れている場所に接触すると、ショートしたり損傷を生じさせたりする可能性があるため、身に付けないでください。
- アプライアンスの内部にアクセスし、すべての接続が行われたことを確認したら、アプライアンスを閉じて、留めねじでラックユニットに固定します。

電気に関する安全のための注意事項

以下の電気安全に関する注意事項に従い、安全に注意を払い、またアプライアンスを障害や誤動作から保護する必要があります。

- アプライアンス上の電源オン/オフのスイッチの場所と、部屋の緊急電源遮断スイッチ、切断スイッチ、電源コンセントの場所を確認します。電氣的事故が発生した場合は、アプライアンスから電力を素早く切断することができます。
- 高電圧の部品を扱う場合は、1人で作業しないでください。
- システムの主要部品(サーバボード、メモリモジュール、DVD-ROM、フロッピードライブなど)を取り外したり配置したりする場合は、必ずアプライアンスから電力を切断する必要があります(ホットスワップ可能なドライブには必要ありません)。電力を切断する場合は、最初にオペレーティングシステムでアプライアンスの電源を切り、次にアプライアンスのすべての電源モジュールから電源コードのプラグを抜きます。
- 露出している電子回路の周りで作業する場合、電源切断の制御に慣れている別の担当者が待機し、必要に応じて電源スイッチをオフにする必要があります。
- 電源がオンになっている電子機器を扱う場合は、片手のみを使用します。これは、完全に閉じられた回路を防ぐためです。完全な回路は電気ショックを引き起こす可能性があります。金属のツールを使用する場合、電子部品や回路基板に接触すると簡単に損傷を与える可能性があるため、特に注意します。
- 感電からの保護として静電気を軽減するために設計されたマットは使用しないでください。代わりに、電気絶縁体として特別に設計されているゴムのマットを使用します。
- 電源装置の電源コードには、アース端子付きプラグが含まれている必要があります。アース接地用コンセントに接続する必要があります。
- サーバボード バッテリ: **注意** - オンボード バッテリの上下を逆に設置すると、極性が逆になり、爆発の危険があります。このバッテリーは、メーカーによって推奨されるのと同じ種類または同等の種類でのみ置き換える必要があります。メーカーの指示に従って使用済みバッテリーを破棄します。
- DVD-ROM レーザー: **注意** - このサーバには、DVD-ROMドライブが装備されている場合があります。レーザービームへの直接の露出および有害な放射線被ばくを回避するため、筐体を開いたり、通常とは異なる方法でユニットを使用したりしないでください。

FCC コンプライアンス

このアプライアンスは、FCC 規則の Part 15 に準拠しています。以下の条件に従って運用される必要があります。

- このアプライアンスは、有害な干渉を引き起こしません
- このアプライアンスは、受け取った干渉を受け入れる必要があります(意図しない操作を発生させる可能性がある干渉を含む)

注: この機器はテストされ、クラス A のデジタル機器の制限に従っており、FCC 規則の Part 15 に準拠していることが検証されています。これらの制限は、機器が商用目的で運用された場合に有害な干渉に対して適切な保護を提供するように設計されています。この機器は、電磁波を発生および利用し、外部に放射することがあり、正式な手順に従って設置および使用されない場合は、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。住宅地域でこの機器を稼働させると、有害な干渉が発生する可能性があります。ユーザは自らの費用負担で干渉を是正する必要があります。

静電気放電(ESD)に関する注意事項

静電気放電(ESD)は、異なる電荷の2つの物体が互いに接触することによって生じます。静電気は、この電荷の違いを中和しようとして発生し、電子部品やプリント回路基板に損傷を与える可能性があります。ESDに敏感なデバイスには、サーバボード、マザーボード、PCIeカード、ドライブ、プロセッサ、メモリカードなどがあり、特殊な扱いが必要となります。接触する物体の電荷の違いを中和するための努力として、接触前に以下の注意事項に従い、機器をESDから保護します。

- 電気絶縁体として特別に設計されているゴムのマットを使用します。感電からの保護として静電気を軽減するために設計されたマットは使用しないでください。
- 静電気の放電を防ぐように設計されている接地されたリストストラップを使用します。
- 帯電または放電(ESD)を予防する洋服または手袋を使用します。
- すべての部品およびプリント回路基板(PCB)は、使用するまで静電気防止バッグに入れておきます。
- 基盤を静電気防止バッグから取り出す前に、接地されたメタルオブジェクトに触れません。
- 部品またはPCBが洋服に触れないようにします。触れた場合は、リストストラップを装着していても静電気を帯びる可能性があります。
- ボードを扱う際は、その端のみに触れるようにします。その部品、周辺チップ、メモリモジュール、接点に触れないでください。
- チップまたはモジュールを扱う場合、そのピンに触れないようにします。
- サーバボードおよび周辺機器を使用しない場合は静電気防止バッグに戻します。
- 接地目的のため、アプライアンスが、電源、ケース、マウントファスナー、サーバボード間で優れた伝導性を提供することを確認します。

第12章: Arcserve アプライアンス 9000 シリーズ上の Sophos のアクティブ化

このセクションでは、Arcserve アプライアンス上で Sophos をアクティブ化する方法に関する情報を提供します。

重要:

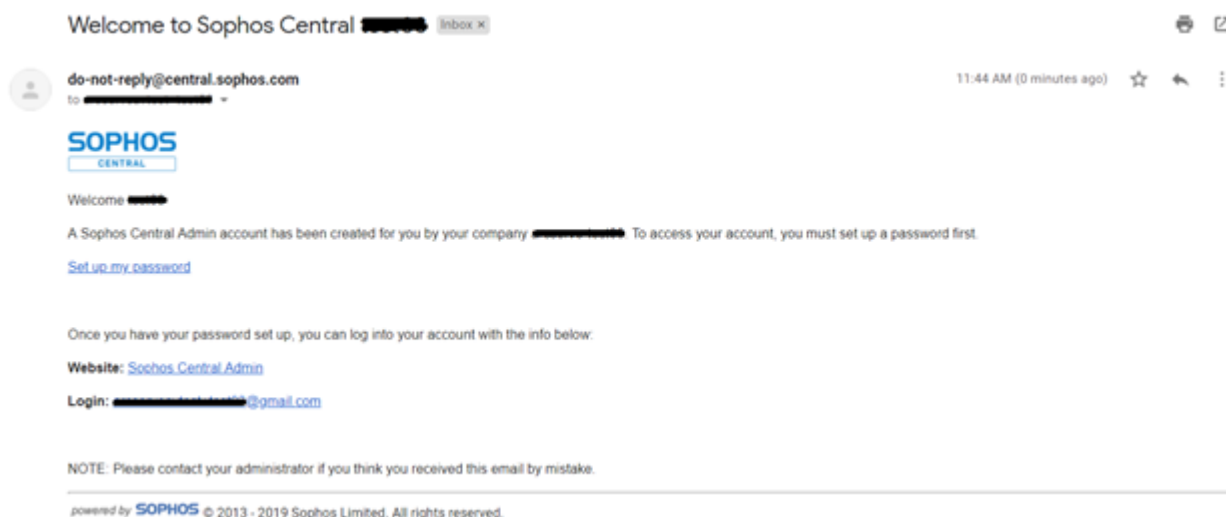
- 配信プロセスの一部として、Sophos Intercept X がプレインストールされた Arcserve アプライアンスの新規のお客様には、簡単なアクティブ化手順が含まれた電子メールが送信されます。アクティブ化プロセスを完了するには、指定された方法に従ってください。既存のお客様の場合、Arcserve アプライアンスには Sophos Intercept X はプレインストールされません。Sophos Intercept X を手動でダウンロードしてインストールすることをお勧めします。
- 方法 1 または方法 2 を使用した Sophos のアクティベーションは、アプライアンス X シリーズには適用できないため、Sophos を手動でインストールする必要があります。完全なインストールプロセスの詳細については、「[Arcserve アプライアンス用 Sophos Intercept X Advanced for Server を手動でインストールする](#)」を参照してください。

以下の手順に従います。

1. Sophos から電子メールを受信した後、パスワードを設定するには、[**Set up my password**]リンクをクリックします。

注: 複数の顧客アカウントに適用する場合は、Sophos から各アカウントに対する対応する数のウェルカム電子メールを受信し、それに応じてパスワードをセットアップします。

すでに既存の顧客アカウントを持っていて、同じ顧客アカウントを使用し続けてもう 1 つの Arcserve アプライアンス Sophos をアクティブ化する場合は、この顧客アカウントに関連付けられた電子メールアドレスにこのようなウェルカム電子メールは送信されません。Zip ファイルと Sophos アクティブ化の手順を含む電子メールが Arcserve から届きます。



2. Arcserve アプライアンスで Sophos をアクティブにするための方法が 2 つ提供されます。

注: さらに多くの Arcserve アプライアンス Sophos をアクティブ化するには、必要に応じて方法 1 または方法 2 の手順を繰り返します。

- ◆ **方法 1:** Arcserve からの電子メールを使用した Arcserve アプライアンス上の Sophos のアクティブ化。
- ◆ **方法 2:** スクリプト Customer_Boot.ps1 を使用した Arcserve アプライアンス上の Sophos のアクティブ化

方法 1: 電子メールを使用した Arcserve アプライアンス上の Sophos のアクティブ化

Arcserve は、Sophos をアクティブ化するために、電子メールで Zip ファイルを送信します。ファイルを解凍します。フォルダ「Arcserve_Appliance_Sophos_Activation_YYYY-MM-DD-HH-MM-SS」には以下のファイルが含まれます。

- **Config.xml:** 設定ファイル
- **Registration.txt:** 登録ファイル。
- **Arcserve_Appliance_Sophos_Activation.ps1:** Sophos をアクティブ化するために実行する Powershell スクリプト。

Sophos をアクティブ化するには以下の手順に従います。

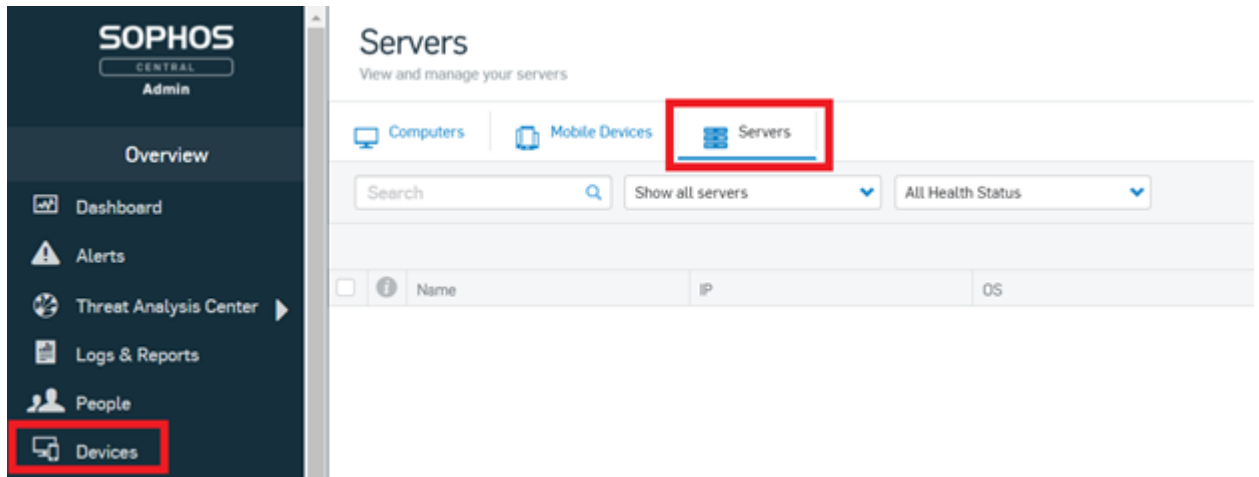
1. システム管理者として Arcserve アプライアンスにログインします。
2. zip ファイルを Arcserve アプライアンスにコピーし、必要に応じてファイルを解凍して展開します。
3. コマンド プロンプトを開き、展開したファイルを含む場所を入力します。

4. `Arcserve_Appliance_Sophos_Activation.ps1` を実行します。

```
#powershell .\ Arcserve_Appliance_Sophos_Activation.ps1
```

5. 保護された Arcserve アプライアンスを表示するには、電子メールアドレスとパスワードを使用して Sophos Central ページにログインし、[Devices]-[Servers]に移動します。

注: zip ファイルを受信した電子メールアドレスは、ログインに使用する必要があるの電子メールアドレスと同じです。



アプライアンスで Sophos がアクティブ化されます。

方法 2: スクリプトを使用した Arcserve アプライアンス上の Sophos のアクティブ化

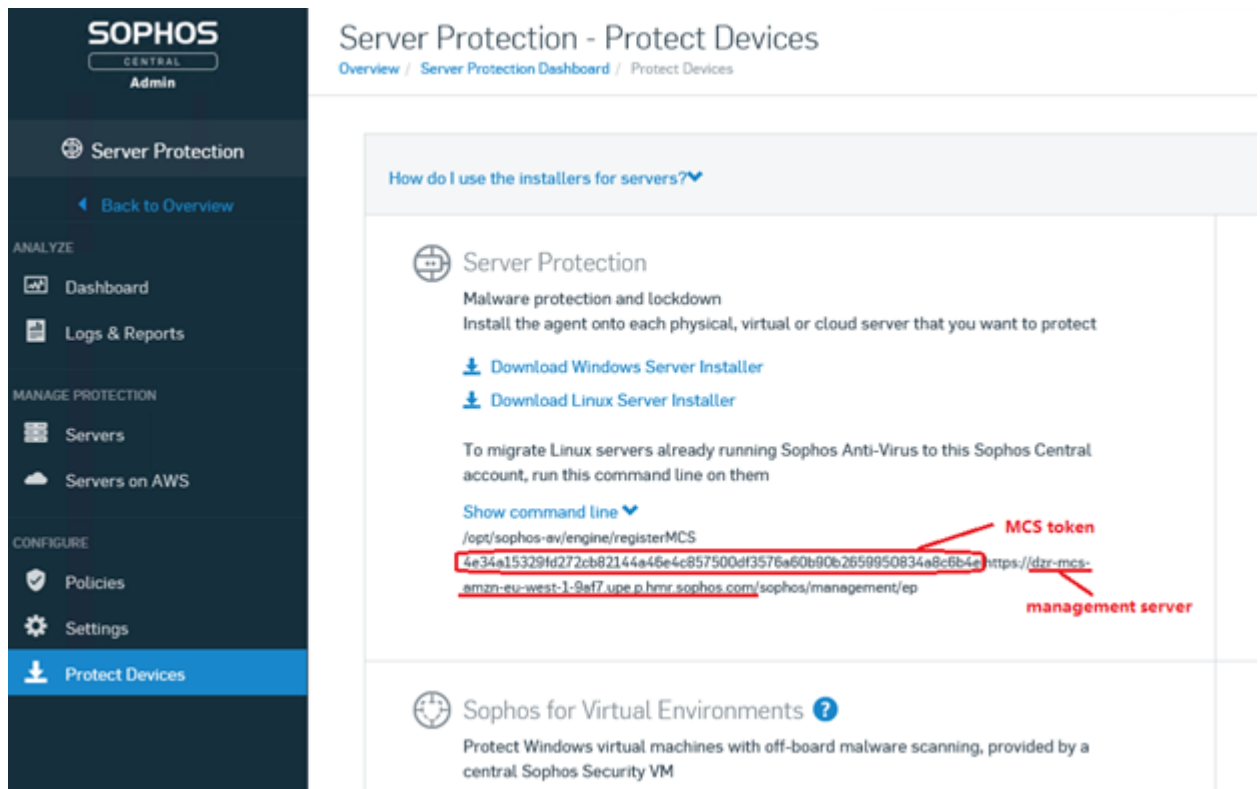
このセクションでは、スクリプト `Customer_Boot.ps1` を使用して Arcserve アプライアンス上で Sophos をアクティブ化する方法に関する情報を提供します。

以下の手順に従います。

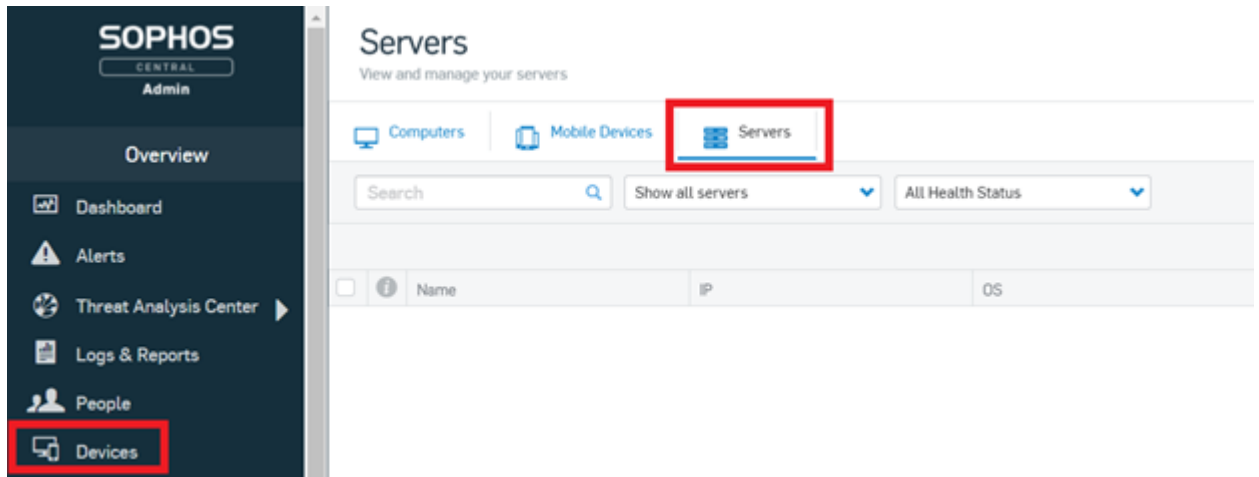
1. Sophos Central ページにログインするには、電子メールアドレスとパスワードを使用して <https://cloud.sophos.com> に移動します。

注: 異なる Arcserve アプライアンス Sophos の顧客アカウントに複数の電子メールアドレスが関連付けられている場合、目的の電子メールアドレスを選択し、対応するアカウントを使用して Sophos をアクティブ化します。

2. [Server Protection] の [Protection Devices] ページに移動し、[Show Command Line] リンクをクリックします。



3. mcstoken および管理サーバ情報をコピーします。
4. 管理者として Arcserve アプライアンスシステムにログインします。
5. コマンド プロンプトを開き、フォルダの場所「:\Program Files\Arcserve\Appliance\Sophos\Customer_Boot」を入力します。
#cd "C:\Program Files\Arcserve\Appliance\Sophos\Customer_Boot"
6. Run Customer_Boot.ps1
#powershell .\Customer_Boot.ps1
7. コマンド ライン プロンプトに基づいて MCS トークンおよび管理サーバ値を入力し、コマンドの実行が完了するのを待ちます。
8. 保護された Arcserve アプライアンスを表示するには、Sophos Central ページにログインし、[Devices]-[Servers]に移動します。



アプライアンスで Sophos がアクティブ化されます。

Arcserve UDP 用 Sophos Intercept X Advanced for Server を手動でインストールする

Arcserve UDP 用 Sophos Intercept X Advanced for Server をインストールすると、以下が有効になります。

- ランサムウェアやその他の攻撃からデータとシステムのバックアップを保護
- シグネチャベースのマルウェア検出とシグネチャなしのマルウェア検出を組み合わせたエンドポイント保護
- ディープラーニング ニューラル ネットワーク
- エクスプロイト対策技術
- エンドポイントの幅広い脅威を阻止するための、CyptoGuard アンチランサムウェアおよび WipeGuard 技術など

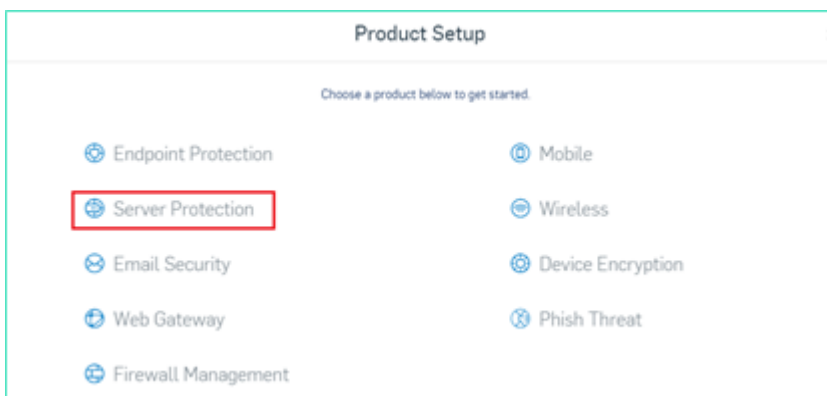
以下の手順に従います。

1. Arcserve サポート Web サイトでアカウントを作成します。
2. Sophos Intercept X Advanced の無償版をリクエストするには、[Sophos リクエスト フォーム](#)にすべての関連情報を入力し、Arcserve サポートに送信してください。電子メール ID と Order ID (オーダー ID) の詳細を共有する必要があります。自動生成された確認電子メールが送信されます。

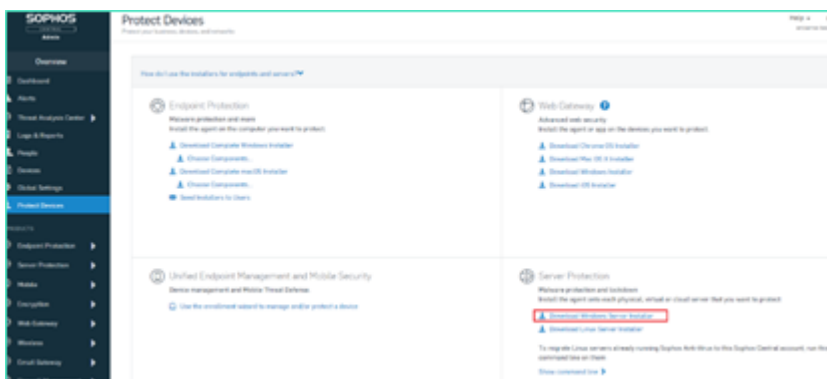
電子メール ID を確認すると、Arcserve によってリクエストが処理され、Sophos Central にアカウントが作成され、パスワードの作成方法が記載されたメールが送信されます。

3. Sophos Central で新しいアカウントのパスワードを作成するには、電子メールの指示に従います。
4. Sophos Central にログインします。

5. [Sophos Central]ダイアログを開き、[Server Protection]を選択します。



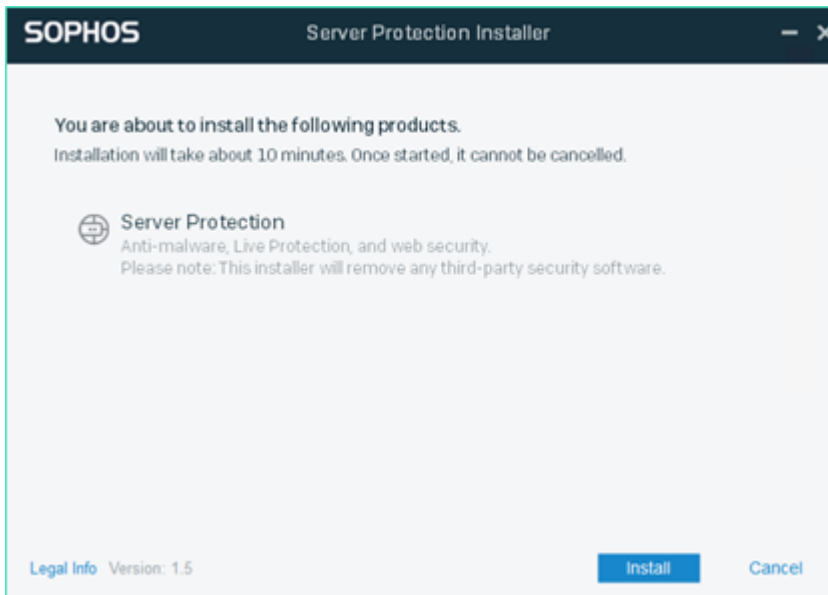
6. [Server Protection]セクションで、[Download Windows Server Installer]をクリックし、SophosSetup.exe インストーラを UDP 上のフォルダに保存します。



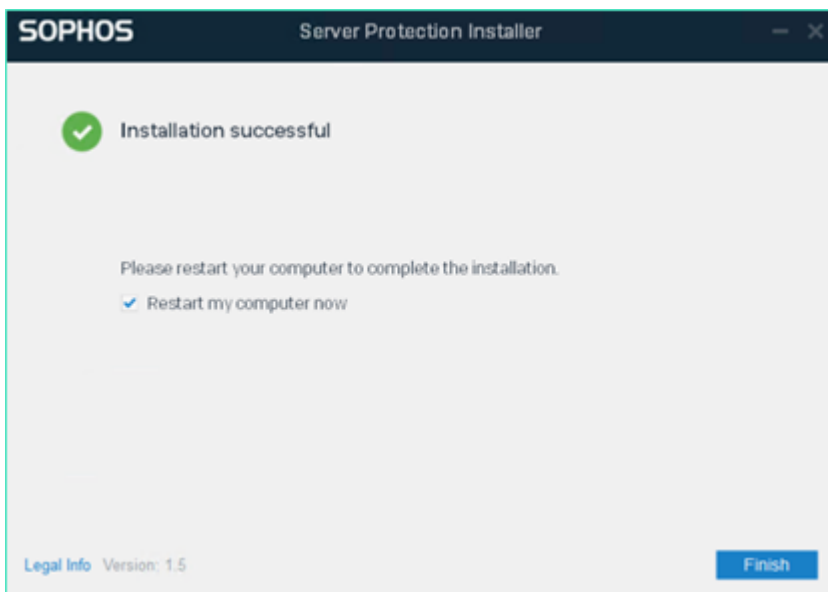
7. インストーラを起動するには、フォルダを開き、SophosSetup.exe をダブルクリックします。

注: Sophos Intercept-X のインストール中に予期しない動作が発生しないようにするには、サーバから Windows Defender やその他のアンチウイルスソフトウェアを無効にしてください。Sophos は、Sophos 以外の一部のセキュリティ製品を Windows サーバから削除します。詳細については、「[Sophos CRT: Sophos によって削除されるサードパーティ製のセキュリティソフトウェア](#)」を参照してください。

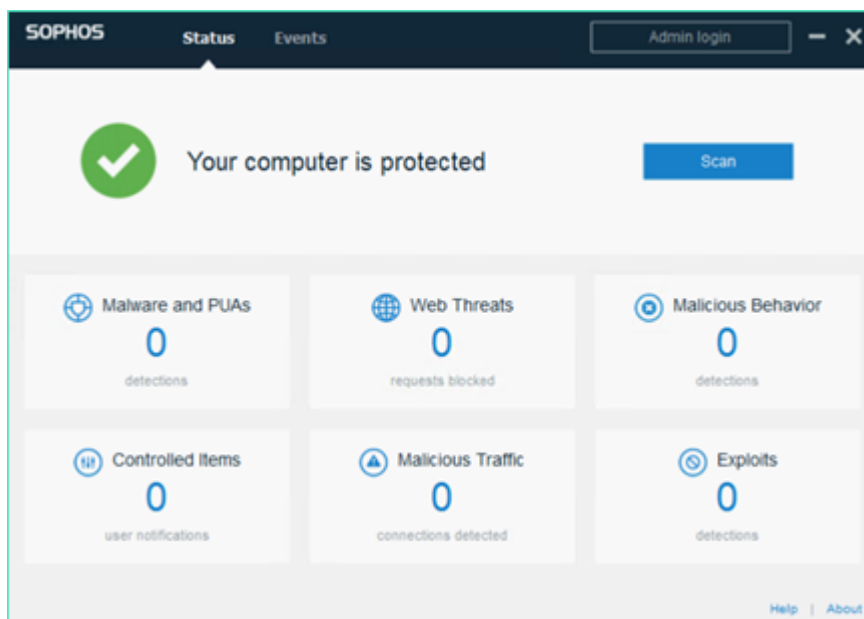
8. [インストール]をクリックします。



9. システムをすぐに再起動するには、**完了**]をクリックします。後で再起動するには、**Restart my computer now**]オプションをオフにします。



10. 保護ステータスを表示するには、**Sophos Intercept X** インターフェースを開きます。



このステータスは、Arcserve UDP 9.0 がランサムウェア攻撃、マルウェア、Web 脅威、およびゼロデイ エクスプロイトから保護されていることを示します。

11. Sophos Central にアクセスするには、**[Admin Login]** をクリックします。これによって、Sophos Intercept X Advanced Server の管理、アラートやポリシーの設定などを行うことができます。

注:

- *Sophos Intercept X Advanced* および関連する更新をインストールするには、Arcserve UDP でインターネットに接続する必要があります。Sophos Intercept X Advanced はクラウド ベースで、オフライン インストーラは利用できません。
- 以前に別の UDP を購入していて、Arcserve を通じて Sophos のアカウントを持っている場合は、すべての Arcserve UDP 9.0 に同じアカウントを使用します。
- Sophos から直接購入するなど、他の購入を通じて Sophos のアカウントをすでに持っている場合は、Sophos Central の別のアカウントには異なる電子メールアドレスを指定します。
- 何らかの理由で Sophos のインストールが失敗した場合は、画面または電子メールの指示に従って、エラー メッセージと共に表示されます。
- マルウェア定義の更新やバージョンのアップグレードなど、Sophos Intercept X Advanced for Server の更新を受け取るには、Arcserve UDP の有効でアクティブなメンテナンスまたはサブスクリプションが必要です。

詳細については、電話 (+1.844.765.7043) か[オンライン](#)で Arcserve テクニカルサポートにお問い合わせいただくか、最寄りの Arcserve サポート オフィスにお問い合わせください。

第12章: Arcserve アプライアンス X シリーズ上の Sophos のアクティブ化

このセクションでは、Arcserve アプライアンス上で Sophos を手動でアクティブ化する方法に関する情報を提供します。

Arcserve UDP 用 Sophos Intercept X Advanced for Server を手動でインストールする

Arcserve UDP 用 Sophos Intercept X Advanced for Server をインストールすると、以下が有効になります。

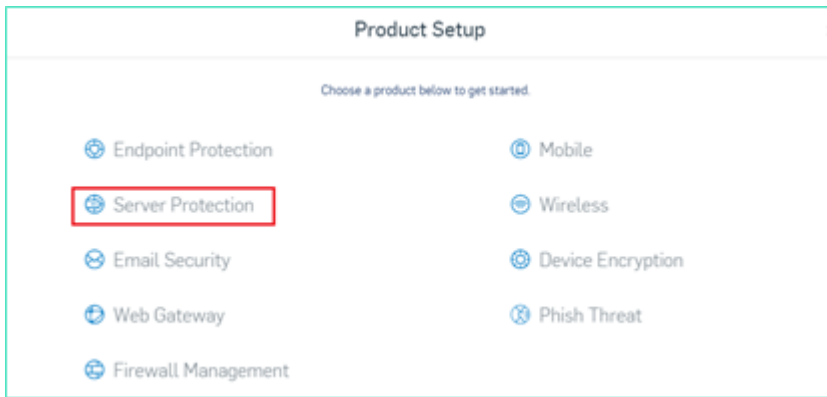
- ランサムウェアやその他の攻撃からデータとシステムのバックアップを保護
- シグネチャベースのマルウェア検出とシグネチャなしのマルウェア検出を組み合わせたエンドポイント保護
- ディープラーニング ニューラル ネットワーク
- エクスプロイト対策技術
- エンドポイントの幅広い脅威を阻止するための、CryptoGuard アンチランサムウェアおよび WipeGuard 技術など

以下の手順に従います。

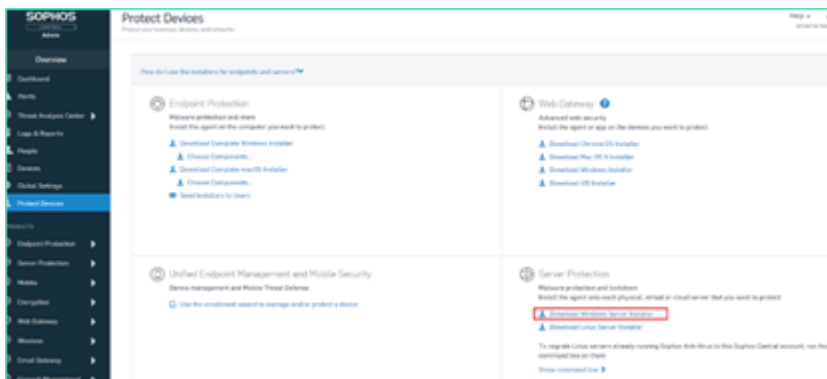
1. Arcserve サポート Web サイトでアカウントを作成します。
2. Sophos Intercept X Advanced の無償版をリクエストするには、[Sophos リクエスト フォーム](#)にすべての関連情報を入力し、Arcserve サポートに送信してください。電子メール ID と Order ID (オーダー ID) の詳細を共有する必要があります。自動生成された確認電子メールが送信されます。

電子メール ID を確認すると、Arcserve によってリクエストが処理され、Sophos Central にアカウントが作成され、パスワードの作成方法が記載されたメールが送信されます。

3. Sophos Central で新しいアカウントのパスワードを作成するには、電子メールの指示に従います。
4. Sophos Central にログインします。
5. [Sophos Central]ダイアログを開き、[Server Protection]を選択します。



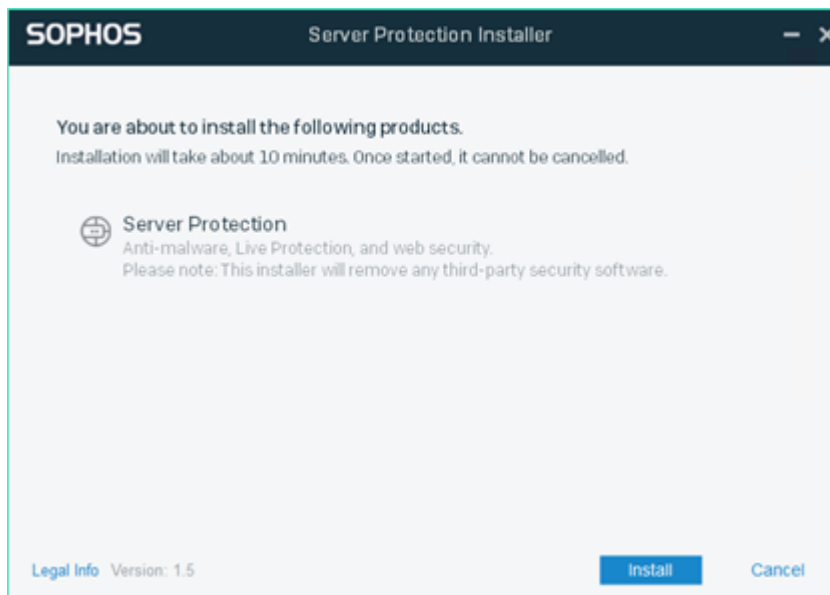
6. [Server Protection]セクションで、[Download Windows Server Installer] をクリックし、SophosSetup.exe インストーラを UDP 上のフォルダに保存します。



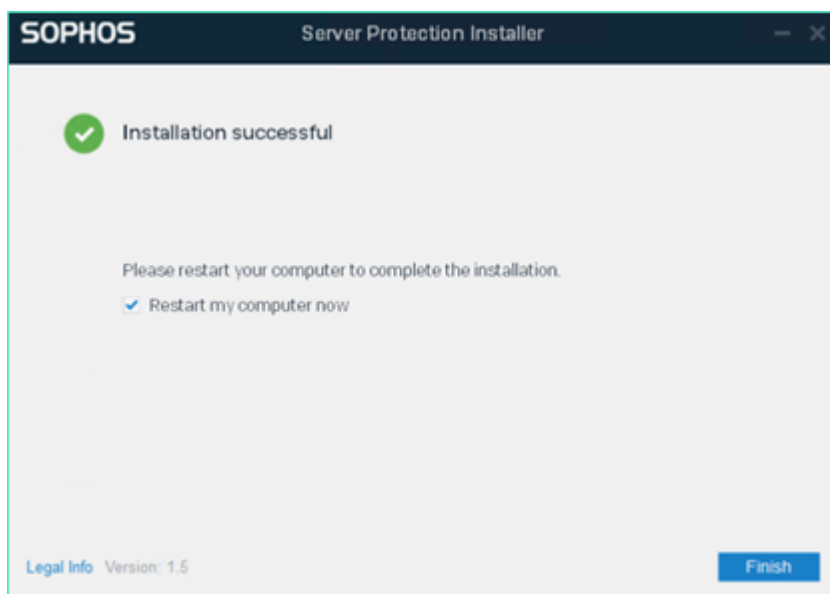
7. インストーラを起動するには、フォルダを開き、SophosSetup.exe をダブルクリックします。

注：Sophos Intercept-X のインストール中に予期しない動作が発生しないようにするには、サーバから Windows Defender やその他のアンチウイルスソフトウェアを無効にしてください。Sophos は、Sophos 以外の一部のセキュリティ製品を Windows サーバから削除します。詳細については、「[Sophos CRT: Sophos によって削除されるサードパーティ製のセキュリティソフトウェア](#)」を参照してください。

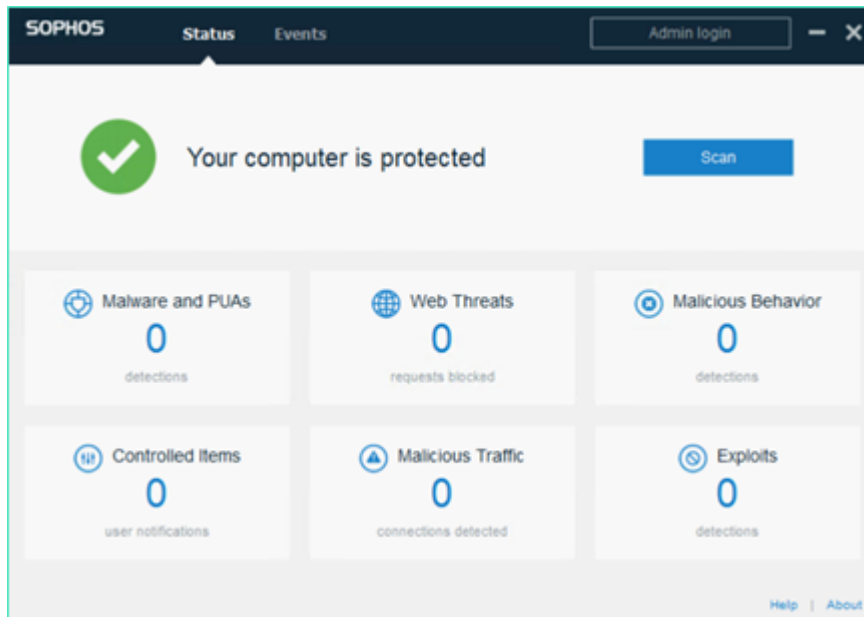
8. [インストール]をクリックします。



9. システムをすぐに再起動するには、**完了**]をクリックします。後で再起動するには、**Restart my computer now**]オプションをオフにします。



10. 保護ステータスを表示するには、Sophos Intercept X インターフェースを開きます。



このステータスは、Arcserve UDP 8.0 がランサムウェア攻撃、マルウェア、Web 脅威、およびゼロデイ エクスプロイトから保護されていることを示します。

11. Sophos Central にアクセスするには、**[Admin Login]** をクリックします。これによって、Sophos Intercept X Advanced Server の管理、アラートやポリシーの設定などを行うことができます。

注:

- *Sophos Intercept X Advanced* および関連する更新をインストールするには、Arcserve UDP でインターネットに接続する必要があります。Sophos Intercept X Advanced はクラウド ベースで、オフライン インストーラは利用できません。
- 以前に別の UDP を購入していて、Arcserve を通じて Sophos のアカウントを持っている場合は、すべての Arcserve UDP 8.0 に同じアカウントを使用します。
- Sophos から直接購入するなど、他の購入を通じて Sophos のアカウントをすでに持っている場合は、Sophos Central の別のアカウントには異なる電子メールアドレスを指定します。
- 何らかの理由で Sophos のインストールが失敗した場合は、画面または電子メールの指示に従って、エラー メッセージと共に表示されます。
- マルウェア定義の更新やバージョンのアップグレードなど、Sophos Intercept X Advanced for Server の更新を受け取るには、Arcserve UDP の有効でアクティブなメンテナンスまたはサブスクリプションが必要です。

詳細については、電話 (+1.844.765.7043) か [オンライン](#) で Arcserve テクニカルサポートにお問い合わせいただくか、最寄りの Arcserve サポート オフィスにお問い合わせください。

第12章: Arcserve アプライアンス 9000 シリーズのファームウェアのアップグレード

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Arcserve アプライアンス 9000 シリーズの BIOS ファームウェアのアップグレード	282
Arcserve アプライアンス 9000 シリーズの iDRAC ファームウェアのアップグレード	286

Arcserve アプライアンス 9000 シリーズの BIOS ファームウェアのアップグレード

このセクションでは、以下について説明しています。

BIOS ファームウェア バージョンの表示

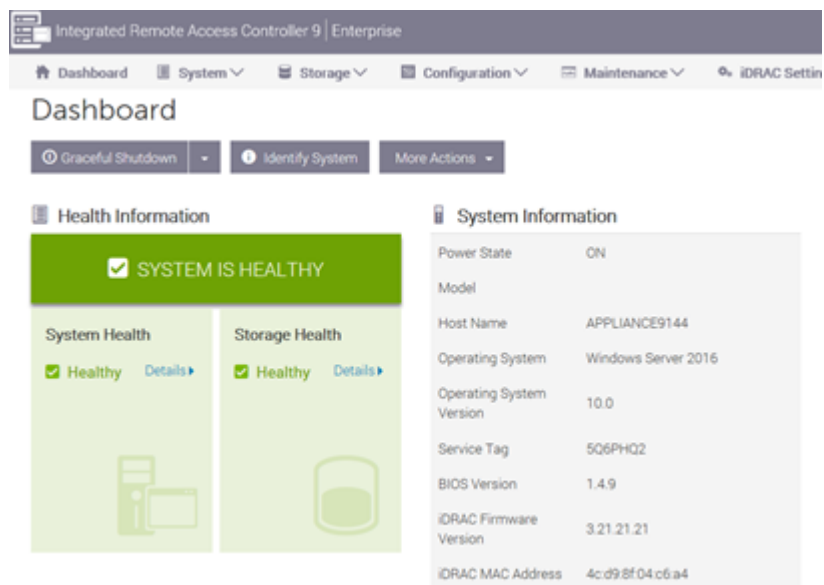
BIOS ファームウェア バージョンを表示するには、以下の方法の方法のいずれかを使用します。

- [方法 1: iDRAC Web インターフェースから BIOS ファームウェアのバージョンを表示する](#)
- [方法 2: BIOS Arcserve Appliance 9000 シリーズから BIOS ファームウェア バージョンを表示する](#)

方法 1: iDRAC Web インターフェースから BIOS ファームウェアのバージョンを表示する

以下の手順に従います。

1. iDRAC Web インターフェースに移動します。
2. ログインするには、以下のように入力します。
 - ユーザー名: root
 - パスワード: ARCADMIN

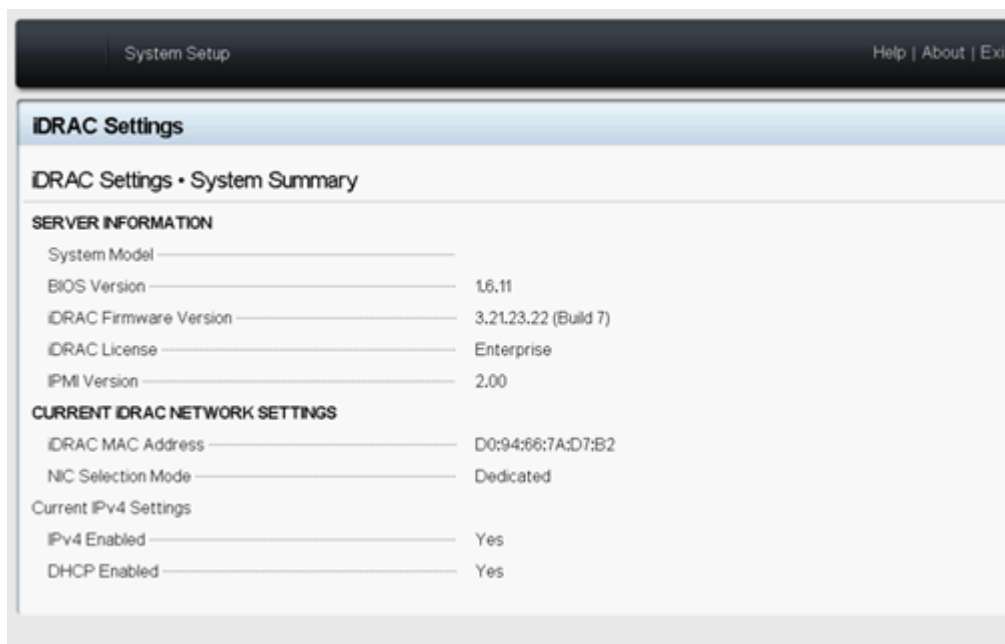


iDRAC ダッシュボード ページには、BIOS ファームウェア バージョンを含むシステム情報が表示されます。

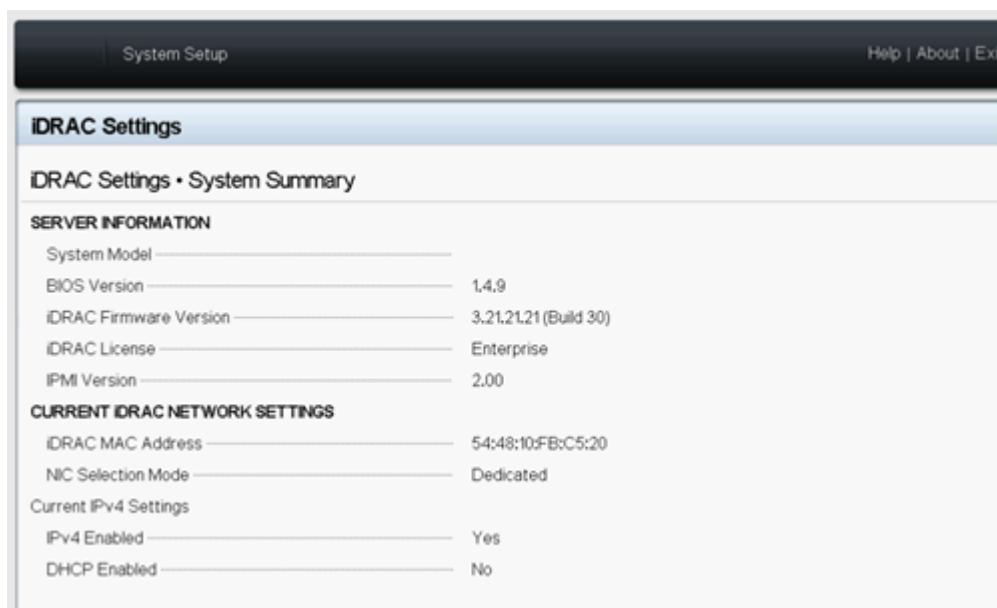
方法 2: BIOS Arcserve Appliance 9000 シリーズから BIOS ファームウェア バージョンを表示する

以下の手順に従います。

1. システムが起動したら、F11 キーを押してセットアップに入ります。
2. BIOS バージョンを表示するには **[System Setup]**- **[iDRAC Settings]**または **[System BIOS]**に移動します。



このページにはファームウェアのバージョンが表示されます。



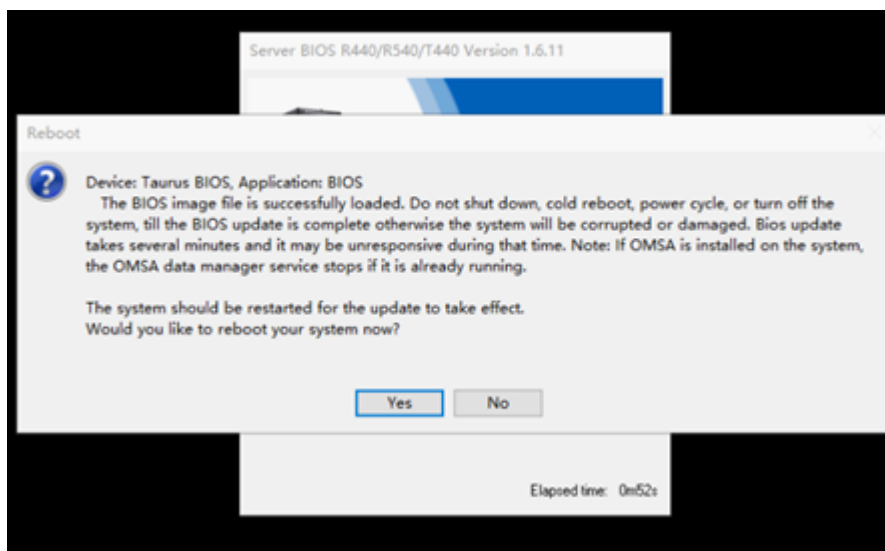
BIOS の更新されたパッケージのダウンロード

[Dell](#) の Web サイトから特定の Arcserve アプライアンス 9000 シリーズ モデルの最新の BIOS ファームウェア パッケージをダウンロードするか、Arcserve サポートにお問い合わせください。

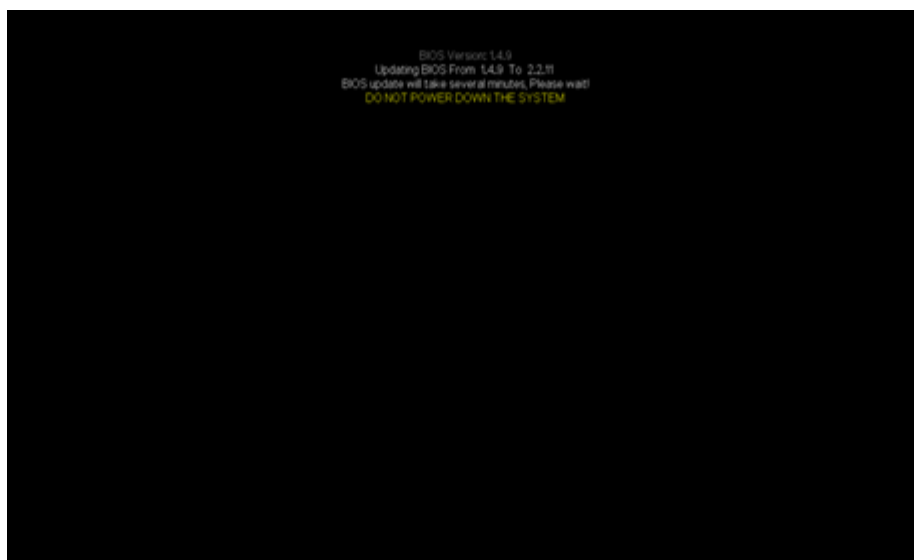
BIOS のアップグレード

以下の手順に従います。

1. アップグレード パッケージを Arcserve アプライアンス 9000 シリーズのローカル ディスクにコピーします。
2. アップグレード パッケージを起動し、画面の指示に従ってアップグレードを完了します。
3. 更新を完了するには、システムを再起動します。



注：アップグレード プロセスを開始する前に、すべてのアプリケーションが閉じられていることを確認してください。



更新された BIOS の確認

以下の方法のいずれかを使用します。

- [システムログを使用して更新された BIOS を確認する](#)
- [iDRAC Web インターフェースまたは BIOS から更新された BIOS を確認する](#)

システムログを使用して更新された BIOS を確認する

以下の手順に従います。

1. iDRAC にログインし、**[Maintenance]- [SupportAssist]- [Start a Collection]**に移動します。
2. ログを確認し、更新プロセス中にエラーがないことを確認します。

SCTNHQ2 2019-09-03 21:12:55			
Hardware > Logs > Lifecycle Log			
2019-08-29	15:40:34	USR0032	The session for root from 10.57.12.37 using GUI is logged off.
2019-08-29	15:10:35	SRV088	The SupportAssist Save to Local operation is successfully completed.
2019-08-29	15:10:34	SRV002	The SupportAssist Save to Local operation is started.
2019-08-29	15:10:20	SRV108	The SupportAssist Job JID_670625874264 is completed.
2019-08-29	15:10:20	SRV088	The SupportAssist Collection operation is successfully completed.
2019-08-29	15:10:20	SRV096	The SupportAssist Collection TSR20190829021014_5CTNHQ2.zip is successfully created.
2019-08-29	15:10:13	SRV007	The SupportAssist System information collection operation is successfully completed.
2019-08-29	15:10:13	LOG009	The current Lifecycle Log is successfully created for the view or export operation.
2019-08-29	15:10:07	LOG008	The complete Lifecycle Log was successfully created for an export operation.
2019-08-29	15:09:47	SRV006	The SupportAssist System information collection operation is started.
2019-08-29	15:09:47	SRV001	The SupportAssist Collection operation is started by iDRAC_GUI.
2019-08-29	15:09:47	SRV106	The Debug Logs are excluded from the SupportAssist collection because the Collection data is being filtered for personally identifiable information.
2019-08-29	15:09:47	SRV107	The Storage Logs are excluded from the SupportAssist collection because the Collection data is being filtered for personally identifiable information.
2019-08-29	15:09:47	SRV087	The SupportAssist Collection Job JID_670625874264 is successfully created.
2019-08-29	15:09:25	RAC1195	User root via IP 10.57.12.37 requested state / configuration change to SupportAssist using GUI.
2019-08-29	15:08:53	SEL9901	OEM software event.
2019-08-29	15:08:53	OSE1002	C: boot completed.
2019-08-29	15:08:46	PR36	Version change detected for BIOS firmware. Previous version:1.6.11, Current version:2.2.11

iDRAC Web インターフェースまたは BIOS から更新された BIOS を確認する

iDRAC Web インターフェースにログインするか、システム BIOS に入って、更新された BIOS ファームウェア バージョンを確認します。

Arcserve アプライアンス 9000 シリーズの iDRAC ファームウェアのアップグレード

このセクションでは、以下について説明しています。

iDRAC ファームウェア バージョンの表示

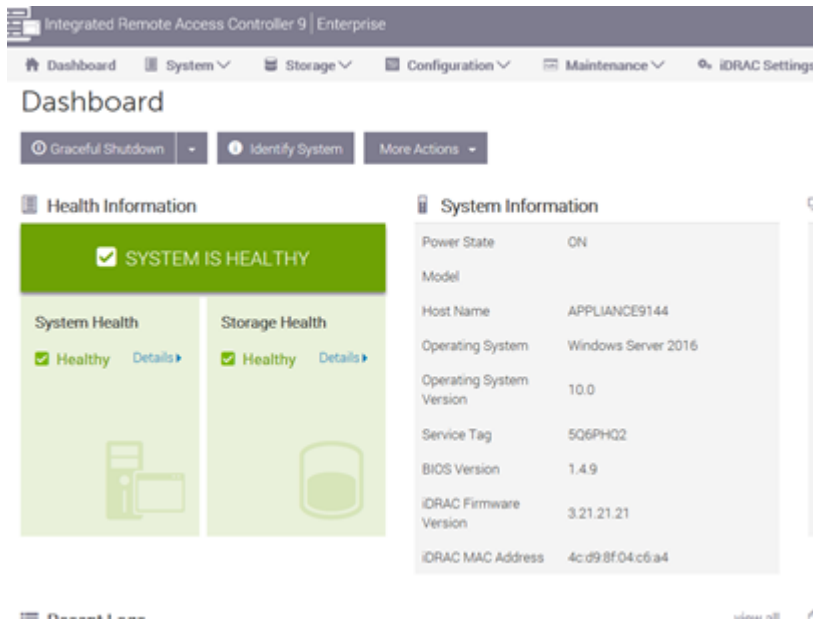
iDRAC ファームウェア バージョンを表示するには、以下の方法のいずれかを使用します。

- [方法 1: iDRAC Web インターフェースから iDRAC ファームウェアのバージョンを表示する](#)
- [方法 2: BIOS Arcserve Appliance 9000 シリーズから iDRAC ファームウェアバージョンを表示する](#)

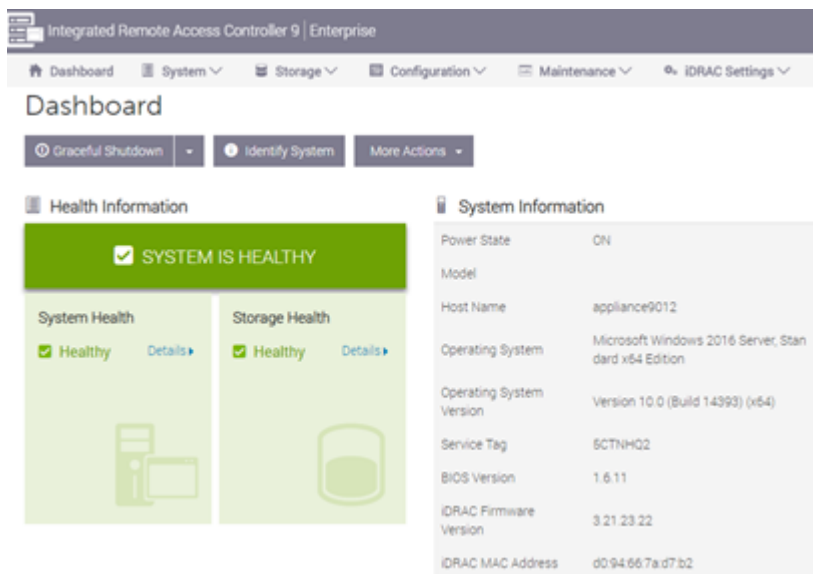
iDRAC Web インターフェースから iDRAC ファームウェアのバージョンを表示する

以下の手順に従います。

1. iDRAC Web インターフェースに移動します。
2. ログインするには、以下のように入力します。
 - ユーザ名: root
 - パスワード: ARCADMIN



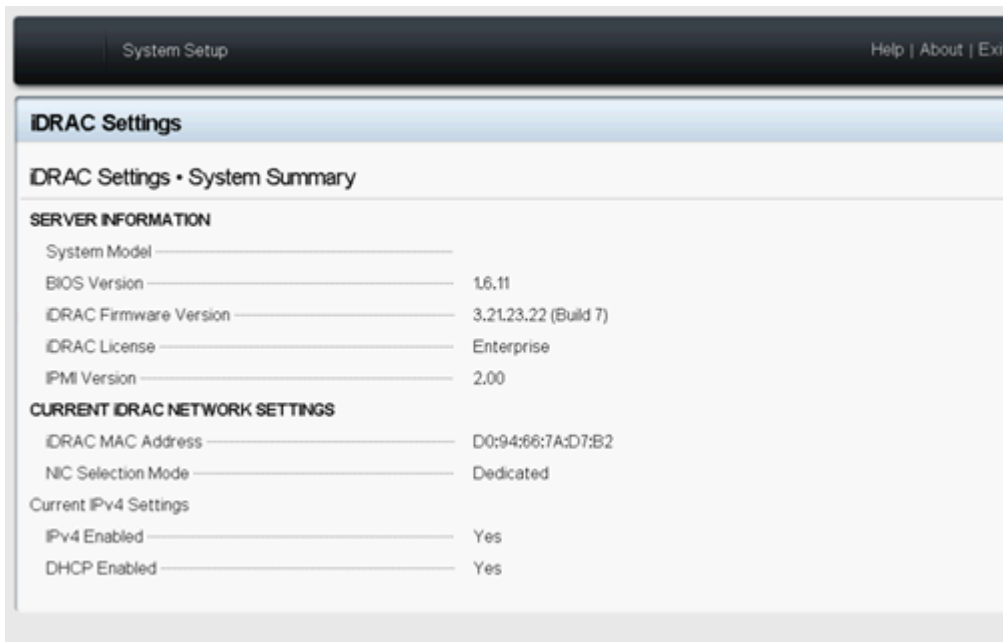
iDRAC ダッシュボードには、iDRAC ファームウェア バージョンを含むシステム情報が表示されます。



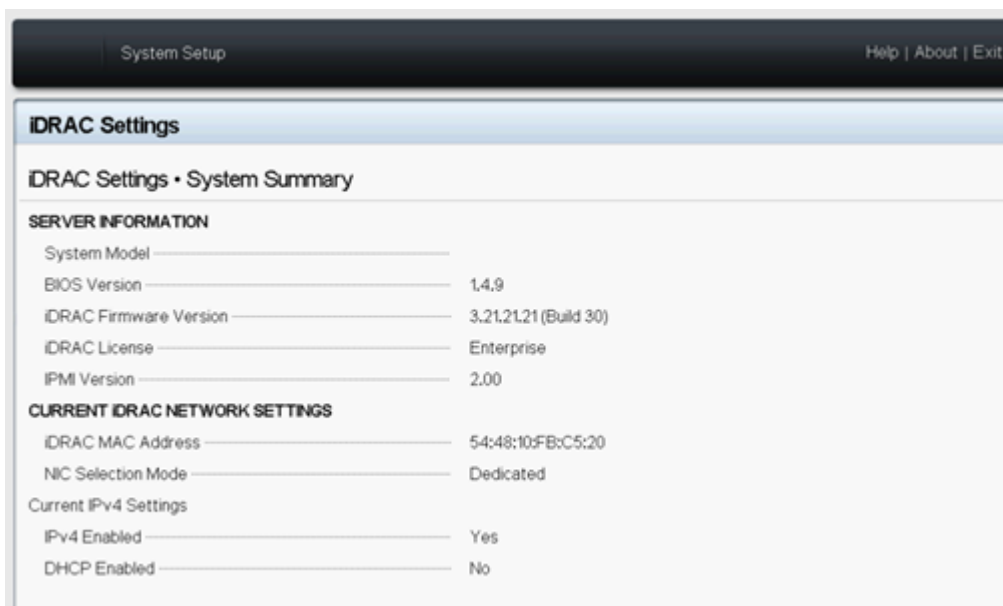
方法 2: BIOS Arcserve Appliance 9000 シリーズから iDRAC ファームウェア バージョンを表示する

以下の手順に従います。

1. システムが起動したら、F11 キーを押してセットアップに入ります。
2. iDRAC バージョンを表示するには [System Setup]- [iDRAC Settings] または [System BIOS] に移動します。



このページにはファームウェアのバージョンが表示されます。



iDRAC の更新されたパッケージのダウンロード

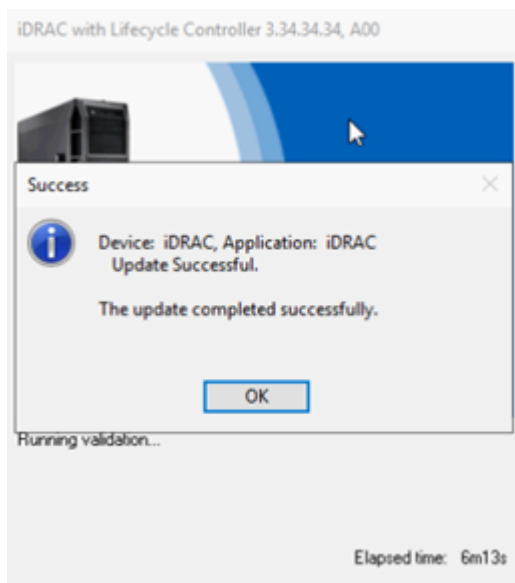
[Dell](#) の Web サイトから特定の Arcserve アプライアンス 9000 シリーズ モデルの最新の iDRAC ファームウェア パッケージをダウンロードするか、Arcserve サポートにお問い合わせください。

iDRAC のアップグレード

以下の手順に従います。

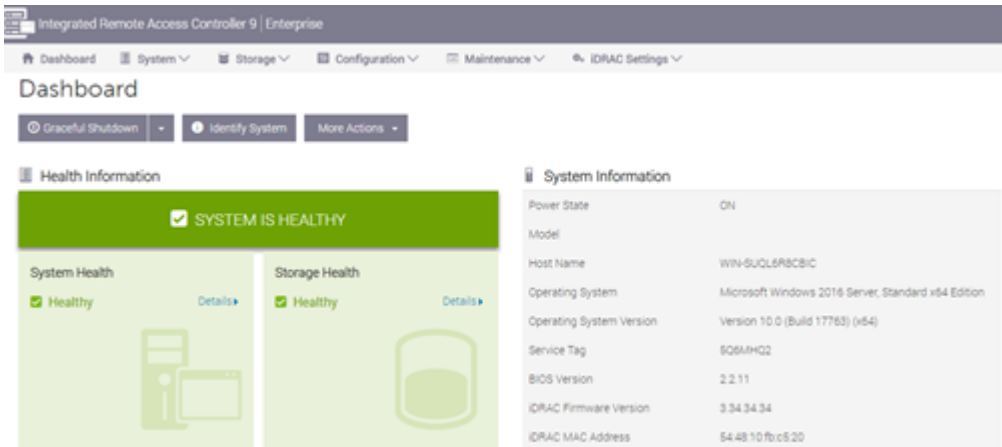
1. アップグレード パッケージを Arcserve アプライアンス 9000 シリーズのローカルディスクにコピーします。
2. アップグレード パッケージを起動し、画面の指示に従ってアップグレードを完了します。

注: アップグレード プロセスを開始する前に、すべてのアプリケーションが閉じられていることを確認してください。



3. アップグレード プロセス中、iDRAC と仮想コンソールが数分間切断されます。iDRAC にログインし、仮想コンソールを再起動します。これでアップグ

ロードが完了しました。



更新された iDRAC の確認

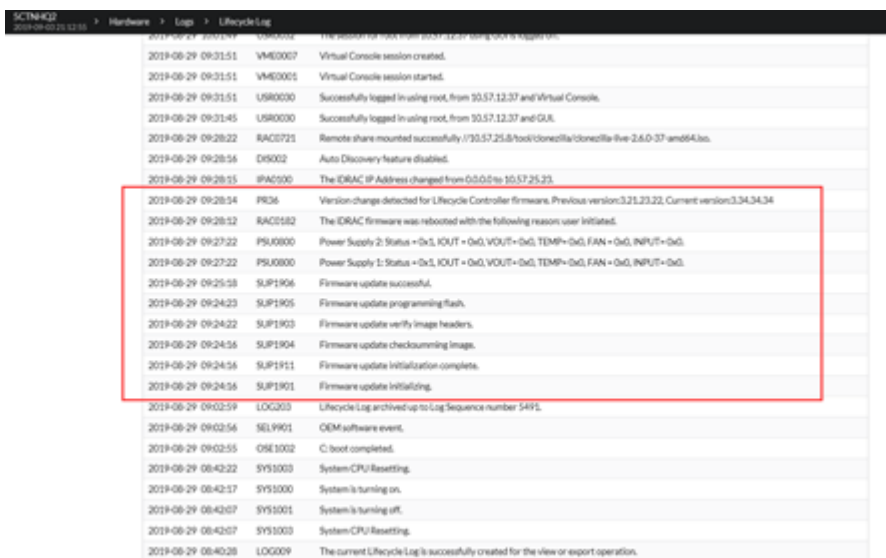
以下の方法のいずれかを使用します。

- [システムログを使用して更新された iDRAC を確認する](#)
- [iDRAC Web インターフェースまたは BIOS から更新された iDRAC を確認する](#)

システムログを使用して更新された iDRAC を確認する

以下の手順に従います。

1. iDRAC にログインし、**[Maintenance]** > **[SupportAssist]** > **[Start a Collection]**に移動します。
2. ログを確認し、更新プロセス中にエラーがないことを確認します。



iDRAC Web インターフェースまたは iDRAC から更新された BIOS を確認する

iDRAC Web インターフェースにログインするか、システム BIOS に入って、更新された BIOS ファームウェア バージョンを確認します。

Arcserve アプライアンス X シリーズのファームウェアのアップグレード

このセクションでは、以下について説明しています。

Arcserve アプライアンス X シリーズの BIOS ファームウェアのアップグレード

このセクションでは、以下について説明しています。

BIOS ファームウェア バージョンの表示

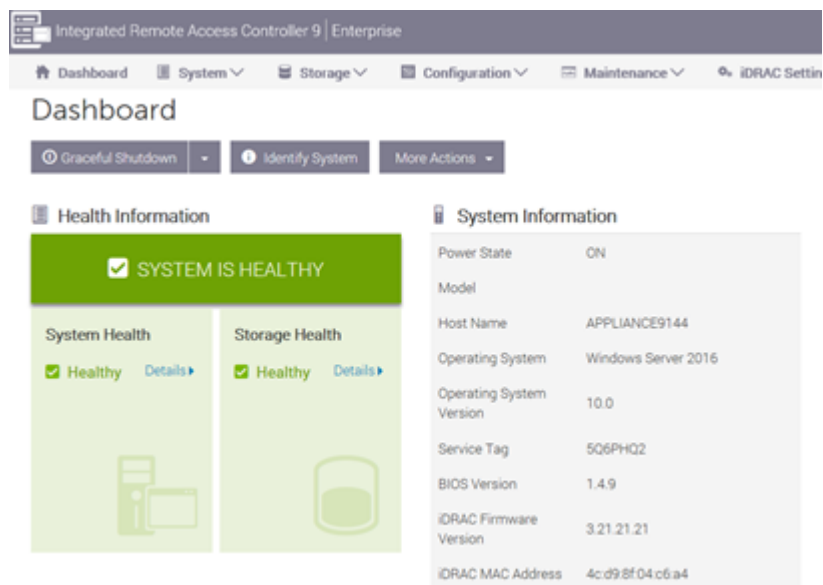
BIOS ファームウェア バージョンを表示するには、以下の方法の方法のいずれかを使用します。

- [方法 1: iDRAC Web インターフェースから BIOS ファームウェアのバージョンを表示する](#)
- [方法 2: BIOS Arcserve アプライアンス X シリーズから BIOS ファームウェア バージョンを表示する](#)

方法 1: iDRAC Web インターフェースから BIOS ファームウェアのバージョンを表示する

以下の手順に従います。

1. iDRAC Web インターフェースに移動します。
2. ログインするには、以下のように入力します。
 - ユーザー名: root
 - パスワード: ARCADMIN

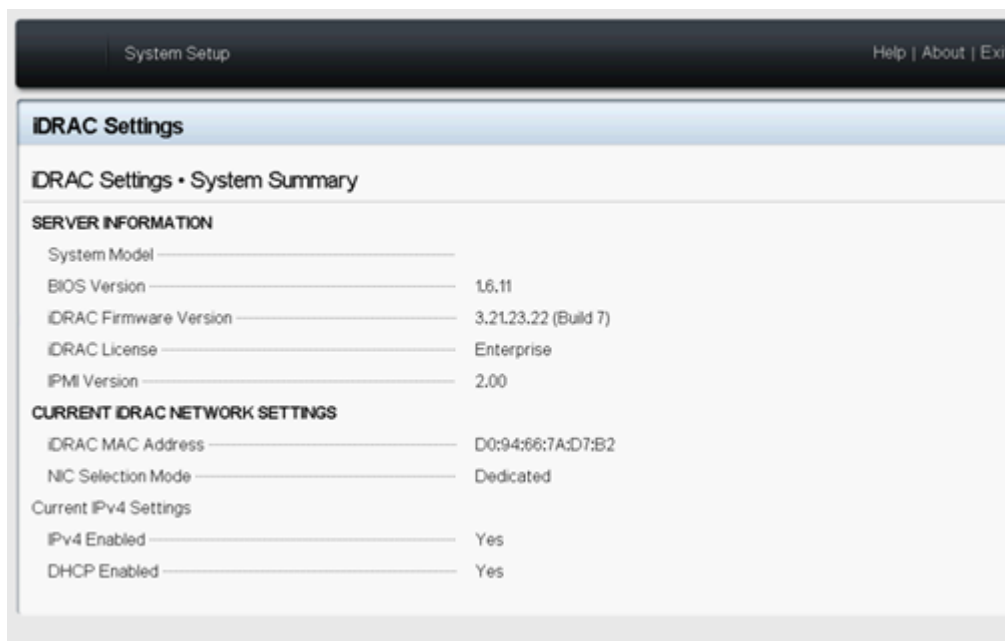


iDRAC ダッシュボード ページには、BIOS ファームウェア バージョンを含むシステム情報が表示されます。

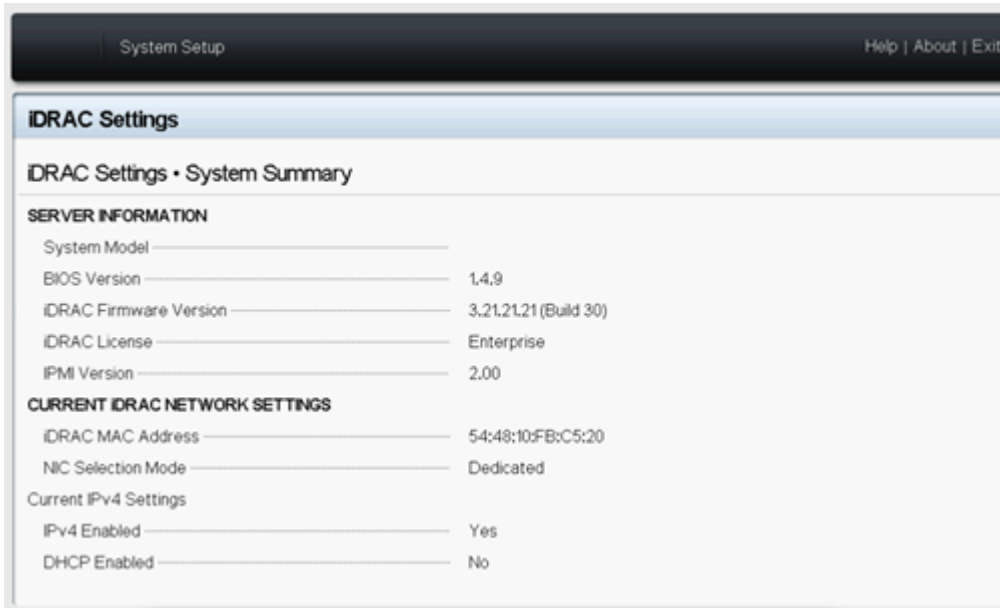
方法 2: BIOS Arcserve アプライアンス X シリーズから BIOS ファームウェア バージョンを表示する

以下の手順に従います。

1. システムが起動したら、F11 キーを押してセットアップに入ります。
2. BIOS バージョンを表示するには **[System Setup]**- **[iDRAC Settings]**または **[System BIOS]**に移動します。



このページにはファームウェアのバージョンが表示されます。



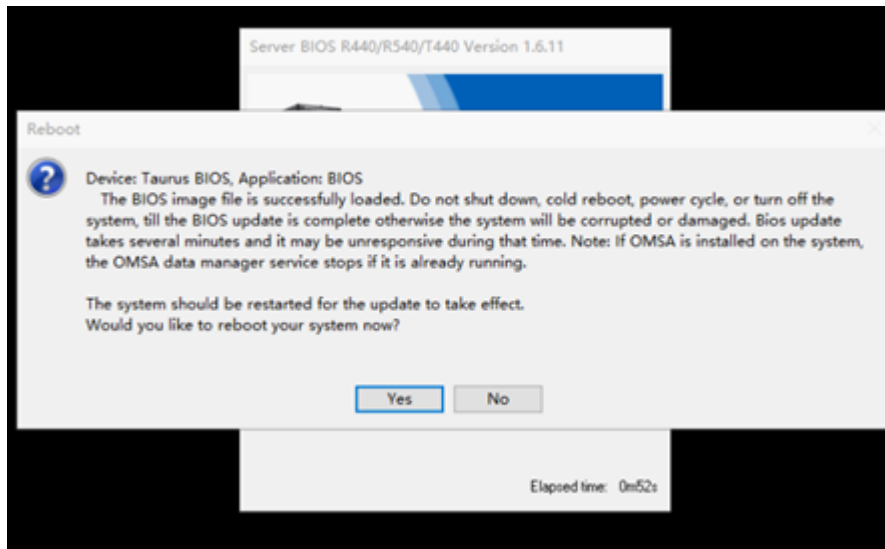
BIOS の更新されたパッケージのダウンロード

[Dell](#) の Web サイトから特定の Arcserve アプライアンス X シリーズ モデルの最新の BIOS ファームウェア パッケージをダウンロードするか、Arcserve サポートにお問い合わせください。

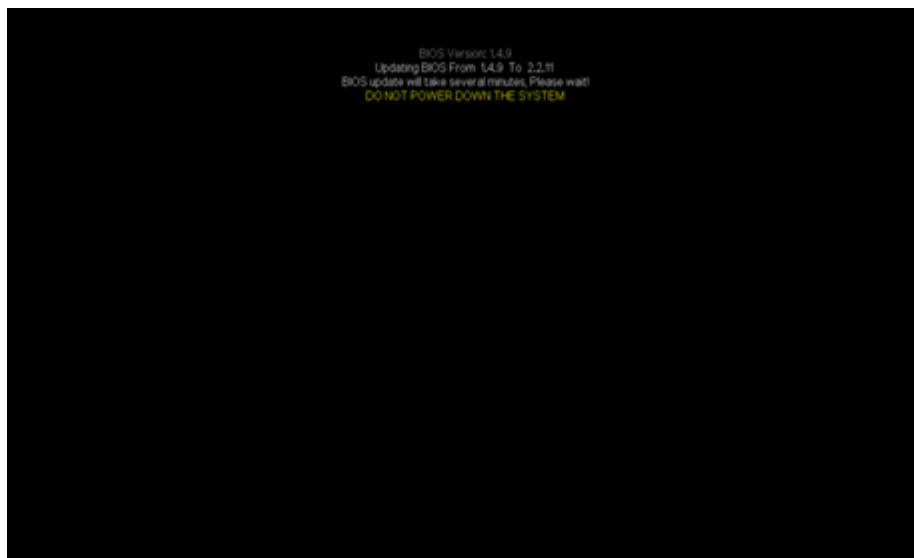
BIOS のアップグレード

以下の手順に従います。

1. アップグレード パッケージを Arcserve アプライアンス X シリーズのローカル ディスクにコピーします。
2. アップグレード パッケージを起動し、画面の指示に従ってアップグレードを完了します。
3. 更新を完了するには、システムを再起動します。



注：アップグレード プロセスを開始する前に、すべてのアプリケーションが閉じられていることを確認してください。



更新された BIOS の確認

以下の方法のいずれかを使用します。

- [システムログを使用して更新された BIOS を確認する](#)
- [iDRAC Web インターフェースまたは BIOS から更新された BIOS を確認する](#)

Arcserve アプライアンス X シリーズの iDRAC ファームウェアのアップグレード

このセクションでは、以下について説明しています。

iDRAC ファームウェア バージョンの表示

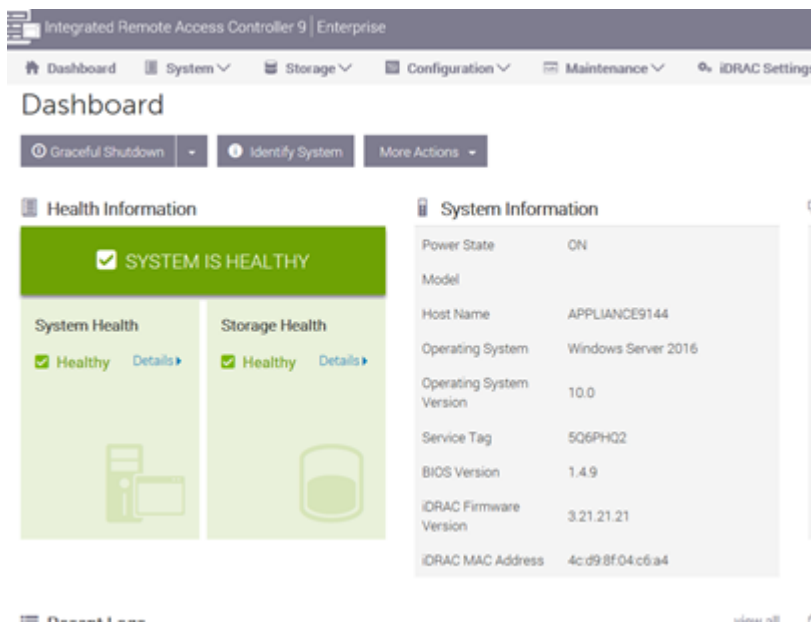
iDRAC ファームウェア バージョンを表示するには、以下の方法の方法のいずれかを使用します。

- [方法 1: iDRAC Web インターフェースから iDRAC ファームウェアのバージョンを表示する](#)
- [方法 2: BIOS Arcserve アプライアンス X シリーズから iDRAC ファームウェアバージョンを表示する](#)

方法 1: iDRAC Web インターフェースから iDRAC ファームウェアのバージョンを表示する

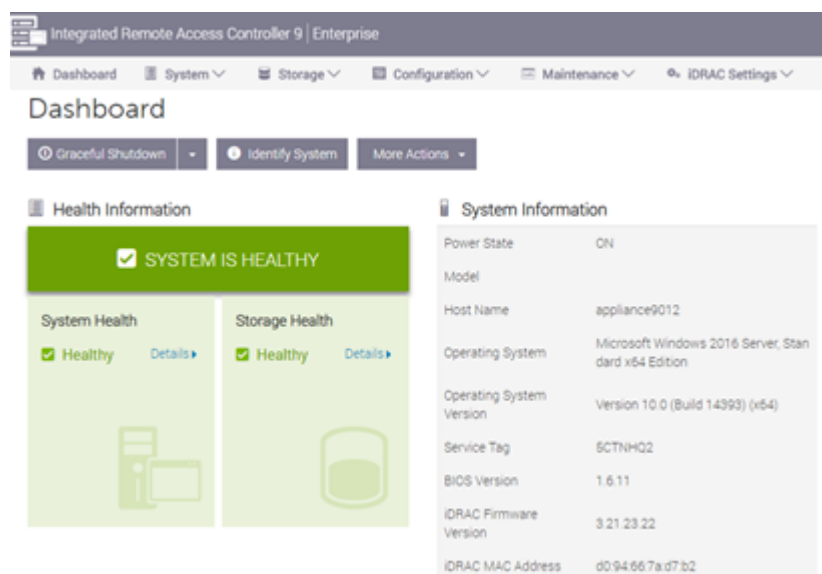
以下の手順に従います。

1. iDRAC Web インターフェースに移動します。
2. ログインするには、以下のように入力します。
 - ユーザ名: root
 - パスワード: ARCADMIN



iDRAC ダッシュボードには、iDRAC ファームウェア バージョンを含むシステム情

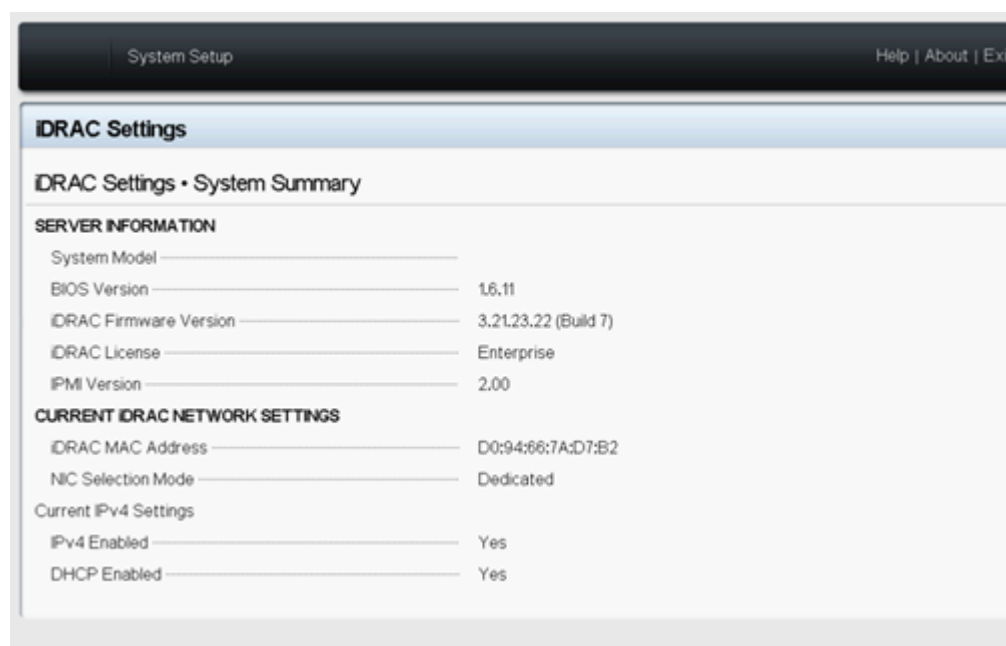
報が表示されます。



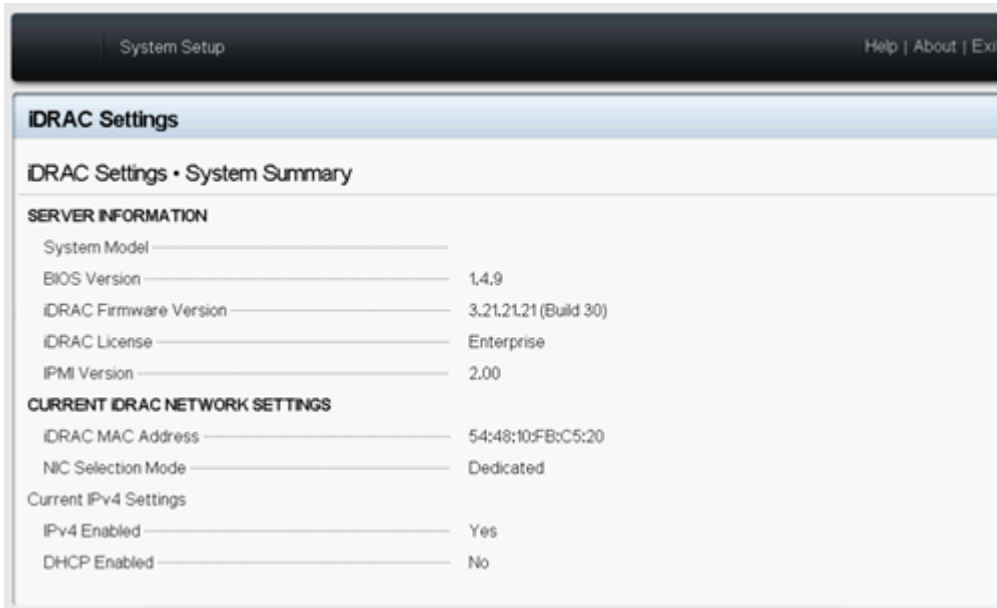
方法 2: BIOS Arcserve アプライアンス X シリーズから iDRAC ファームウェア バージョンを表示する

以下の手順に従います。

1. システムが起動したら、F11 キーを押してセットアップに入ります。
2. iDRAC バージョンを表示するには [System Setup]- [iDRAC Settings]または [System BIOS]に移動します。



このページにはファームウェアのバージョンが表示されます。



iDRAC の更新されたパッケージのダウンロード

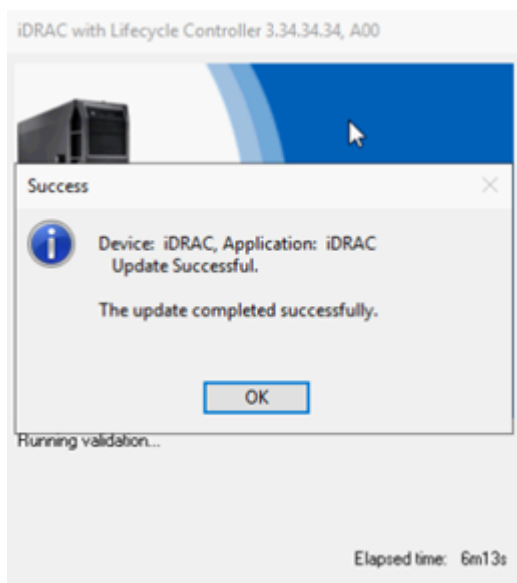
[Dell](#) の Web サイトから特定の Arcserve アプライアンス X シリーズ モデルの最新の iDRAC ファームウェア パッケージをダウンロードするか、Arcserve サポートにお問い合わせください。

iDRAC のアップグレード

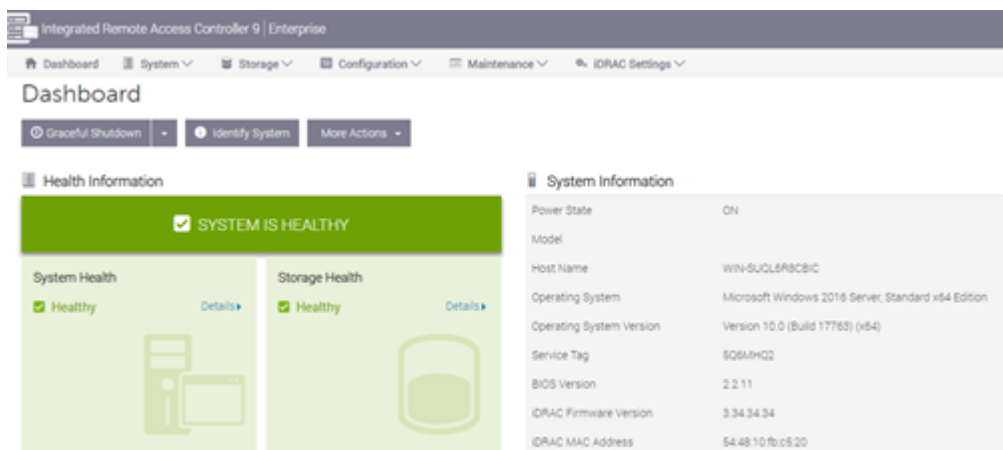
以下の手順に従います。

1. アップグレード パッケージを Arcserve アプライアンス X シリーズのローカル ディスクにコピーします。
2. アップグレード パッケージを起動し、画面の指示に従ってアップグレードを完了します。

注: アップグレード プロセスを開始する前に、すべてのアプリケーションが閉じられていることを確認してください。



3. アップグレード プロセス中、iDRAC と仮想コンソールが数分間切断されます。iDRAC にログインし、仮想コンソールを再起動します。これでアップグレードが完了しました。



更新された iDRAC の確認

以下の方法のいずれかを使用します。

- [システムログを使用して更新された iDRAC を確認する](#)
- [iDRAC Web インターフェースまたは BIOS から更新された iDRAC を確認する](#)

第13章: トラブルシューティング

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Linux バックアップ サーバにコンソールから接続できない	301
別のアプライアンスから Arcserve アプライアンスのバックアップを実行すると重複ノードがレポートされる	302
Linux バックアップ サーバがネットワーク内のノードと通信できない	303
Linux バックアップ サーバがネットワーク DNS サフィックスを取得できない	305
アプライアンスのデフォルトのタイムゾーン	306
ライセンスが利用可能な場合でもライセンスエラーが発生する	307
リモート管理対象の RPS タスクでレプリケートのリモート コンソールを追加中、Arcserve UDP コンソールにエラーが表示される	308
別のアプライアンスをモニタとして使用すると VSB タスクを実行できない	310

Linux バックアップ サーバにコンソールから接続できない

現象

Arcserve UDP コンソールから Linux バックアップ サーバに接続しようとする、接続に失敗して赤色のマークが表示されます。

解決策

Linux バックアップ サーバにコンソールから接続できない場合、接続のトラブルシューティングを行って問題を特定することができます。

接続の問題のトラブルシューティングを行う方法

1. Hyper-V マネージャを起動し、Linux バックアップ サーバの仮想マシンに接続してログインします。
2. 以下のコマンドを実行します。

```
service network restart
```

3. Linux バックアップ サーバに割り当てられている IP アドレスが 192.168.10.2 であることを確認します。確認するには、次のコマンドを実行します。

```
ifconfig
```

4. IP アドレスが 192.168.10.2 である場合は、Arcserve UDP コンソールに移動し、接続しようとしている Linux バックアップ サーバノードを更新します。
5. IP アドレスが 192.168.10.2 でない場合は、「DHCP Microsoft 管理コンソール (MMC) からのトラブルシューティング」の手順に従います。

DHCP Microsoft 管理コンソール (MMC) からのトラブルシューティング

重要: DHCP サーバサービスが、アプライアンス上で適切に実行されていることを確認します。

1. [サーバ マネージャ]- [ツール]- [DHCP] から DHCP MMC を起動します。
2. Linux サーバノード、IPv4、スコープを展開し、192.168.10.0 という名前のスコープがその下に存在することを確認します。
3. [アドレスのリース] を展開し、他のリースレコードの存在を削除します。
4. Linux バックアップ サーバにログインし、以下のコマンドを実行します。

```
service network restart
```

5. Arcserve UDP コンソールに移動し、接続しようとしている Linux バックアップ サーバノードを更新します。

Linux バックアップ サーバにコンソールから接続できるようになりました。

別のアプライアンスから Arcserve アプライアンス のバックアップを実行すると重複ノードがレポートされる

現象

アプライアンス A からアプライアンス B をバックアップすると、アクティビティ ログに以下の警告メッセージが表示されます。

「次のノードが重複しています: Appliance_B、Appliance_A。その結果、同じエージェント識別子を持ち、予期せぬ結果が生じる可能性があります。This duplicate node problem can be caused if the node was added using a different node name (such as the DNS name or IP address), or if some machines were set up by cloning from one to another." (次のノードが重複しています: Appliance_B、Appliance_A。その結果、これらのノードに同じエージェント識別子が指定され、予期しない結果が生じる可能性があります。異なるノード名 (DNS 名や IP アドレスなど) を使用してノードが追加された場合や、別のマシンのクローンを作成してマシンがセットアップされた場合に、この重複ノードの問題が発生する可能性があります。)

ケース 1: アプライアンス B が RPS としてアプライアンス A の UDP コンソールに追加されます。

例: アプライアンス B から、UDP ウィザードを使用してアプライアンスを設定し、[別のアプライアンスは、別の Arcserve UDP コンソールによって管理される Arcserve UDP 復旧ポイント サーバのインスタンスとして機能します]を選択できます。

解決策

1. UDP コンソールの [RPS] ペインからアプライアンス B のノード内のデータストアを停止します。
2. アプライアンス B にログインし、[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\CA\ARCserve Unified Data Protection\Engine] の下にあるノード ID のレジストリキーを削除します。
3. アプライアンス B のノードから Arcserve UDP エージェント Web サービスを再起動します。
4. アプライアンス B のノードから Arcserve UDP RPS データストアサービスを再起動します。
5. UDP コンソールから、[ノード]- [すべてのノード] ペインに移動して、アプライアンス B のノードを更新します。
6. [復旧ポイント サーバ] ペインに移動して、アプライアンス B のノードを更新します。

7. アプライアンス B の RPS に元のバックアップ先を設定して、既存のデータストアをインポートします。

ケース 2: アプライアンス B がエージェント ノードとしてのみ、アプライアンス A の UDP コンソールに追加されます。

たとえば、あるプランでは、アプライアンス A の UDP コンソール上にあるエージェントベースのバックアップタスクを使用してアプライアンス B を保護します。

1. アプライアンス B にログインし、[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Arcserve Unified Data Protection\Engine] の下にあるノード ID のレジストリキーを削除します。
2. アプライアンス B から Arcserve UDP エージェント サービスを再起動します。
3. UDP コンソールから、[ノード]- [すべてのノード] ペインに移動して、アプライアンス B からのノードを更新します。

Linux バックアップ サーバがネットワーク内のノードと通信できない

現象

Linux バックアップ サーバが、ネットワーク内のどのノードとも通信できません。

解決策

アプライアンスの Windows Server がネットワーク内のどのノードとも通信できない場合、Linux バックアップ サーバもどのノードとも通信できません。

以下の手順に従います。

1. アプライアンスの Windows Server からノードにアクセスできるかを確認します。
2. 以下の場所に移動して、ネットワークアダプタ LinuxBkpSvr が存在しているかを確認します。

[コントロール パネル]- [ネットワークとインターネット]- [ネットワーク接続]

3. LinuxBkpSvr が存在しない場合、以下の場所に移動し、フラグファイル adapterNameChanged.flag が存在するかを確認します。

```
C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance
```

存在する場合は、adapterNameChanged.flag ファイルを削除します。

4. 以下の場所に移動して、ルーティングとリモート アクセス管理を起動します。

[サーバ マネージャ]- [ツール]- [ルーティングとリモート アクセス]

5. 以下に示すように、すべての利用可能なネットワークインタフェースと LinuxBkpSvr が、NAT に追加されていることを確認します。

すべてのネットワークインタフェースと LinuxBkpSvr がすでに一覧内にある場合は、別の物理ネットワークインタフェースが異なるサブネットワークに接続されているかどうかを確認します。このアクションにより、Linux バックアップ サーバの通信問題が解決します。

すべてのネットワークインタフェースおよび LinuxBkpSvr が一覧に表示されたら、後続の手順に進みます。

6. 以下の場所で、ファイル `dhcpcdone.flag` を削除します。

```
C:\Program Files\Arcserve\Unified Data  
Protection\Engine\BIN\Appliance
```

7. 以下に示すように、コマンドラインにフォルダ `C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance` を入力し、`resetdhcp.ps1` を実行します。

```
C:\Program Files\Arcserve\Unified Data  
Protection\Engine\BIN\Appliance>powershell  
.\resetdhcp.ps1
```

スクリプトが正常に実行されると、Linux バックアップ サーバの通信問題が解決されます。

Linux バックアップ サーバがネットワーク DNS サフィックス を取得できない

アプライアンスサーバに静的 IP アドレスを設定した場合、ネットワークサービスを再起動した後に Linux バックアップ サーバがネットワーク DNS サフィックスを正しく取得できません。この問題によって、Linux バックアップ サーバと UDP コンソールの間の通信に問題が発生します。通信の問題により、この Linux バックアップ サーバを使用して Linux ノードを保護することができなくなります。

現象

Linux バックアップ サーバのステータスが、UDP コンソール上で切断状態のままになります。[ノードの更新]を実行しても Linux バックアップ サーバは正常に更新されず、黄色の警告アイコンは緑色に変化しません。この問題は、アプライアンスサーバに静的 IP アドレスを設定した場合に、Linux バックアップ サーバがネットワーク DNS サフィックスを正しく取得できないために発生します。

解決策

この問題を解決するには、Linux マシンの file/etc/resolv.conf を直接更新して正しい DNS サフィックスを追加します。

アプライアンスのデフォルトのタイムゾーン

現象

デフォルトのタイムゾーンが、最初にアプライアンスの電源をオンにしたときに選択した地域に関係なく、(UTC-08:00) 太平洋時間(米国およびカナダ)になります。

解決策

タイムゾーンを変更するには、[Arcserve Backup アプライアンス ウィザード]に移動し、[編集]をクリックして、[日付と時刻]を設定します。

ライセンスが利用可能な場合でもライセンスエラーが発生する

ライセンスがある場合でもアプライアンスで発生するライセンス関連のエラーの詳細については、[リンク](#)を参照してください。

リモート管理対象の RPS タスクでレプリケートのリモート コンソールを追加中、Arcserve UDP コンソールにエラーが表示される

Arcserve UDP アプライアンス v6.5 Update1 では、[リモートで管理される RPS へのレプリケート]タスクを追加し、別のアプライアンス マシンのホスト名/IP アドレスを復旧ポイント サーバ(RPS) として [リモート コンソール]フィールドに追加する場合、以下のエラーメッセージが Arcserve UDP コンソールに表示されます。

注: この問題は、Arcserve UDP v6.5 Update 3 以上のデフォルト バージョンを備える Arcserve アプライアンス では修正されます。

エラーメッセージ: リモート コンソールを選択してください

resources

Modify a Plan Agent-Based Windows Backup Plan Pause this plan Save Cancel Help

Task1: Backup: Agent-Based Windows ✔

Task2: Replicate to a remotely-managed RPS

+ Add a Task

Product Installation

Task Type Replicate to a remotely-managed RPS ▼ ⊕ Delete Task

Source Destination **Schedule**

Remote Console 10.10.255.255 (administrator) ❗ Add

Username administrator ❗ Please select a remote console.

Password

Port 8015

Protocol HTTP HTTPS

Enable Proxy:

Proxy Server [Empty Field]

Port [Empty Field]

Proxy server requires authentication

Username [Empty Field]

Password [Empty Field]

Connect

この問題は、ローカル コンソールとリモート コンソールで同じ GUID を使用することが原因で発生します。

リモートで管理される RPS タスクを別のアプライアンスでサポートするには、以下の手順を実行します。

1. 以下のレジストリパスからローカルアプライアンスの GUID を削除します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Arcserve\Unified Data
Protection\Management\Console\GUID
```

2. PowerShell で以下のコマンドを使用して、データベースから GUID を削除します。

```
$database = 'arcserveUDP'
$server = 'localhost\arcserve_app'
$sqlconn = New-Object System.Data.SqlClient.SqlConnection
$sqlconn.ConnectionString = "Data Source=$server;Initial
Catalog=$database;Integrated Security=SSPI;"
$sqlconn.Open()
$sqlcmd = New-Object System.Data.SqlClient.SqlCommand
$sqlcmd.Connection = $sqlconn
$sqlcmd.CommandText = "delete from as_edge_configuration where
ParamKey='ConsoleUuid'"
$sqlcmd.ExecuteNonQuery()
$sqlconn.Close()
```

3. ローカルアプライアンスマシン上の UDP 管理サービスを再起動します。
4. ローカルマシンの UDP コンソールで、以下の手順に従います。
 - a. [ノード]ビューで **すべてのノード** を選択します。
 - b. 右クリックして、**更新** を選択します。
 - c. **OK** をクリックし、すべてのノードを更新します。
5. [復旧ポイント サーバ]ビューですべての RPS ノードを選択し、右クリックして、**更新** を選択し、すべての RPS ノードを更新します。

2つのアプライアンスマシン間で、[リモートで管理される RPS へのレプリケート]が正常にサポートされます。

別のアプライアンスをモニタとして使用すると VSB タスクを実行できない

Arcserve アプライアンス v6.5 Update1 上で、VSB タスクを実行し、別のアプライアンスをモニタとして使用する場合、VSB タスクが失敗し、アクティビティ ログに以下のエラーメッセージが表示されます。

注: この問題は、Arcserve UDP v6.5 Update 3 以上のデフォルトバージョンを備える Arcserve アプライアンスでは修正されます。

エラーメッセージ: リモート サーバ [IP]、ポート = 4090 への接続に失敗しました。

The screenshot shows the Arcserve Unified Data Protection interface. The top navigation bar includes 'arcserve unified data protection', 'Messages (1)', 'administrator', and 'Help'. Below the navigation bar are tabs for 'dashboard', 'resources', 'jobs', 'reports', 'log', 'settings', and 'high availability'. The 'log' tab is active, displaying a table of activity logs. The table has columns for Severity, Time, SiteName, Node Name, Generated From, Job ID, Job Type, and Message. Two rows are highlighted with a red box, showing error messages: 'Failed to connect to remote server [10.57.21.10], port = 4090.' and 'Failed to connect to remote server [10.57.21.10], port = 4090.'

Severity	Time	SiteName	Node Name	Generated From	Job ID	Job Type	Message
✖	7/18/2017 3:04:20 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta...	The Virtual Standby job failed.
ℹ	7/18/2017 3:04:20 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta...	Synchronize source machine adapter information to Virtual Standby st
ℹ	7/18/2017 3:04:20 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta...	The Virtual Standby job copied data totaling 0 Bytes, the elapsed time
✖	7/18/2017 3:04:20 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta...	Failed to convert session S0000000001 to the host for VM [UDPVM_V
✖	7/18/2017 3:04:20 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta...	An unexpected error has occurred when attempting to convert session
✖	7/18/2017 3:04:20 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta...	Failed to connect to remote server [10.57.21.10], port = 4090.
✖	7/18/2017 3:02:40 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta...	Failed to connect to remote server [10.57.21.10], port = 4090.
ℹ	7/18/2017 3:01:28 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta...	Try VDDK advanced transport mode (SAN or HotAdd).
ℹ	7/18/2017 3:01:12 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta...	Upload meta data to VM [UDPVM_WIN-92KBNU8J439].
ℹ	7/18/2017 3:01:12 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta...	Begin to convert session S0000000001.
ℹ	7/18/2017 3:01:12 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta...	Virtual Standby job will convert session S0000000001.
ℹ	7/18/2017 3:01:04 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta...	VM was created. VM name is [UDPVM_WIN-92KBNU8J439].
ℹ	7/18/2017 3:00:49 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta...	The source machine is [10.57.27.33], the backup destination is [X:\Arc
ℹ	7/18/2017 3:00:48 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta...	971de742d347] on Recovery Point Server [vsb2], and the data store r
ℹ	7/18/2017 3:00:48 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta...	The monitor server is [10.57.21.10] and is used as a proxy for data tra
ℹ	7/18/2017 3:00:48 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta...	Start a Virtual Standby job with destination type VMware ESX Server,
ℹ	7/18/2017 3:00:48 AM	Local Site	10.10.255.255	vsb2	3	Virtual Sta...	Virtual Standby job started.

この問題は、モニタ アプライアンスと Arcserve UDP RPS アプライアンス マシンの両方に同じ GUID が存在することが原因で発生します。

VSB タスクをサポートするには、以下の手順を実行します。

1. コマンド ラインで以下のコマンドを使用し、Arcserve UDP RPS アプライアンス上のすべての UDP サービスを停止します。

```
C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN>
cmdutil.exe /stopall
```

2. 以下のレジストリパスを使用して、ローカル アプライアンスから GUID を削除します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\GUID

3. コマンドラインで以下のコマンドを使用し、Arcserve UDP RPS アプライアンス上のすべての UDP サービスを起動します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN> cmdutil.exe /startall

4. ローカルマシンの UDP コンソールから、以下の手順を実行します。
 - a. [プラン]ビューで [すべてのプラン]を選択します。
 - b. 右クリックし、[今すぐ展開]を選択します。
 - c. [OK]をクリックして、すべてのプランを展開します。

仮想スタンバイタスクが実行できるようになりました。

第14章: ベスト プラクティスの適用

このセクションには以下のトピックが含まれます。

ネットワーク構成に関する推奨事項	313
PowerShell コマンドレットによる Windows Defender のベストプラクティス	316
プリインストールされた Linux バックアップ サーバを外部ネットワークに設定する	316
Sophos によって保護されている場合にファクトリリセット イメージを置き換えるためのベストプラクティス	317
ボリュームをまたぐデデュプリケーション データストアを作成するためのベストプラクティス	326

ネットワーク構成に関する推奨事項

- 複数のネットワーク インターフェースを実稼働環境で接続する場合は、各ネットワーク アダプタが異なるサブ ネットワークに接続されていることを確認します。
- 保護する実稼働環境で Linux ノードが利用できない場合は、アプライアンス上の VM Linux-BackupSvr、DHCP サーバ サービスおよび RRAS を無効化することをお勧めします。

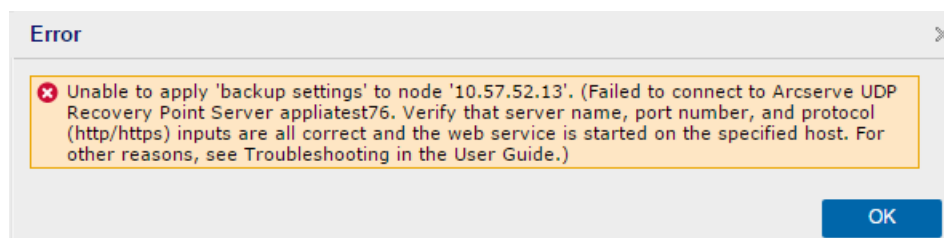
詳細については、「[DHCP サーバを無効にする方法](#)」を参照してください。

- アプライアンスとエージェント ノードが共に同一 サブ ネットワーク上でオンラインの状態にあり、複数のネットワーク インターフェースがアプライアンス内の同一 サブ ネットワークに接続されている場合、アプライアンスとエージェント ノード間で接続の問題が発生します。

現象

アプライアンスとエージェント ノードが共に同一 サブ ネットワーク上でオンラインの状態にある場合、以下の事象が発生することがあります。

- ◆ Arcserve UDP コンソールで、エージェント ノードにプランを展開すると、以下のエラー メッセージが表示されます。



- ◆ 以下のようにエージェント ノードのバックアップ ジョブが失敗します。



- ◆ アプライアンスからエージェント ノードに ping を送信し、次のようにエージェント ノードが接続されているかどうかを確認します。

```
C:\Windows\system32>ping 10.57.52.13
Pinging 10.57.52.13 with 32 bytes of data:
Reply from 10.57.52.13: bytes=32 time<1ms TTL=127
Reply from 10.57.52.13: bytes=32 time=1ms TTL=127
Reply from 10.57.52.13: bytes=32 time<1ms TTL=127
Reply from 10.57.52.13: bytes=32 time<1ms TTL=127
```

- ◆ エージェント ノードから ping アプライアンス ホスト名を実施し、アプライアンスは以下のように接続されていません。

```
C:\Users\Administrator>ping appliatest76
Pinging appliatest76 [10.57.52.47] with 32 bytes of data:
Request timed out.
Request timed out.
Request timed out.
Request timed out.

Ping statistics for 10.57.52.47:
    Packets: Sent = 4, Received = 0, Lost = 4 (100% loss),
```

解決策

アプライアンスとエージェント ノードの間の接続の問題を解決するには、以下の手順のいずれかを実行します。

- ◆ 実稼働環境で Linux ノードが利用できない場合、アプライアンス上の DHCP サーバサービスおよび RRAS サービスを停止し、問題が解決されるかどうかを確認します。

詳細については、「[DHCP サーバを無効にする方法](#)」を参照してください。

- ◆ アプライアンスおよびエージェント ノードで、以下の手順を実行します。

アプライアンスで実行する手順

1. DOS コマンド プロンプトから `ipconfig/all` を実行し、アプライアンス上で利用可能な IPv4 アドレスを取得します。
2. DOS コマンド プロンプトから `Route Print` を実行し、IPv4 ルートテーブルを取得し、以下のように、アプライアンス上で利用可能なすべての IPv4 アドレスの順番のリストを記録します。

```
IPv4 Route Table
=====
Active Routes:
Network Destination        Netmask          Gateway          Interface        Metric
-----
0.0.0.0                    0.0.0.0         10.57.52.1      10.57.52.46      10
0.0.0.0                    0.0.0.0         10.57.52.1      10.57.52.35      10
0.0.0.0                    0.0.0.0         10.57.52.1      10.57.52.45      10
0.0.0.0                    0.0.0.0         10.57.52.1      10.57.52.47      10
10.57.52.0                 255.255.255.0   On-link         10.57.52.46      266
10.57.52.0                 255.255.255.0   On-link         10.57.52.35      266
10.57.52.0                 255.255.255.0   On-link         10.57.52.45      266
```

エージェント ノードで実行する手順

1. DOS コマンド プロンプトから、次のように、エージェント ノードに接続しているアプライアンスの最初の IPv4 を取得するため、上記の順序に従って、アプライアンスの利用可能な各 IPv4 アドレスに ping を送信してみます。

```
C:\Users\Administrator>ping 10.57.52.46  
  
Pinging 10.57.52.46 with 32 bytes of data:  
Reply from 10.57.52.46: bytes=32 time<1ms TTL=128  
Reply from 10.57.52.46: bytes=32 time<1ms TTL=128  
Reply from 10.57.52.46: bytes=32 time<1ms TTL=128  
Reply from 10.57.52.46: bytes=32 time<1ms TTL=128
```

2. ファイル `C:\Windows\System32\drivers\etc\hosts` を編集し、上記で取得した IPv4 アプライアンス ホスト名 ペアのレコードを追加して、ファイルを保存します。

PowerShell コマンドレットによる Windows Defender のベストプラクティス

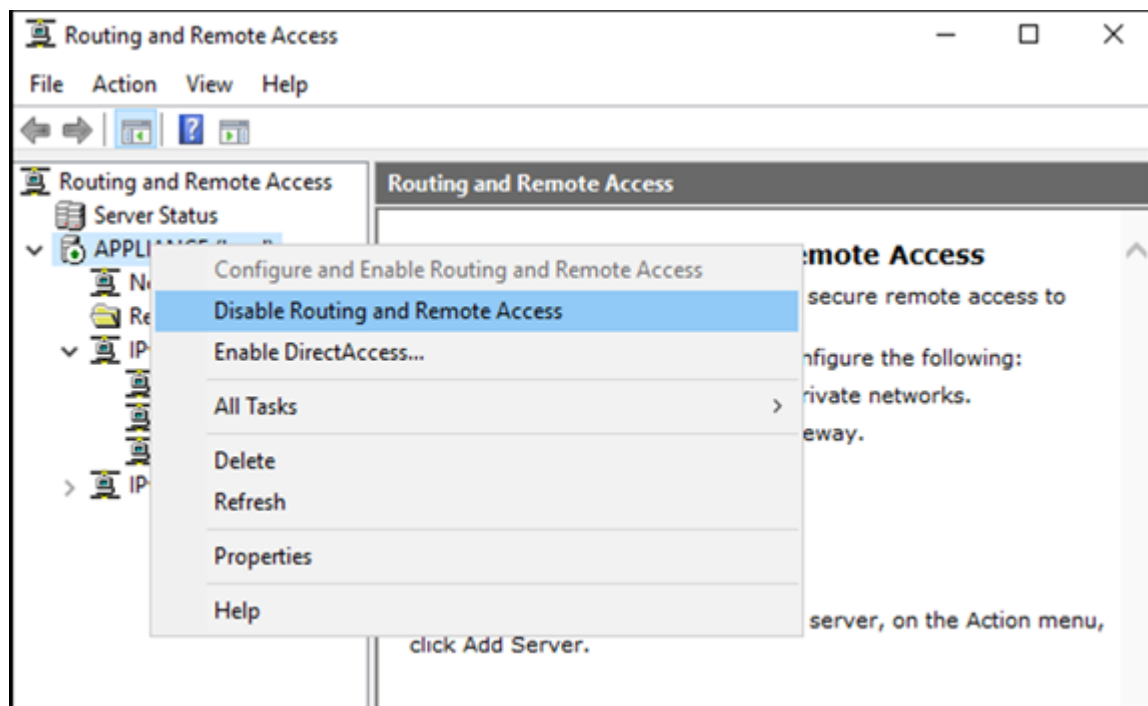
Defender コマンドレットは、以下のコマンドを使用して取得することができます。

- `PS C:\> (Get-MpPreference).ExclusionPath`
Defender の除外パスを取得します。
- `PS C:\> (Get-MpPreference).ExclusionProcess`
Defender の除外プロセスを取得します。
- `PS C:\> Add-MpPreference -ExclusionPath "full_path_of_the_folder_or_file"`
除外リストにフォルダまたはファイルを除外します。
- `PS C:\> Add-MpPreference -ExclusionProcess "full_path_of_executable_programs"`
プロセスによって開かれているファイルを除外します。
- `PS C:\> Remove-MpPreference -ExclusionPath "full_path_of_the_folder"`
除外リストからフォルダを削除します。

プリインストールされた Linux バックアップ サーバを外部ネットワークに設定する

以下の手順に従います。

1. DHCP サーバを無効化します。詳細については、「[DHCP サーバを無効にする方法](#)」を参照してください。
2. RRAS を無効化するには、[レーティングとリモート アクセス]を開き、[レーティングとリモート アクセスの無効化]をクリックします。



3. Linux バックアップ サーバ ネットワークを外部 ネットワークに設定するには、以下の手順に従います。
 - a. **Hyper-V** マネージャを開きます。
 - b. 新しい外部仮想ネットワークスイッチを作成します。
 - c. 新しく作成した外部仮想ネットワークスイッチを使用するように Linux バックアップ サーバ VM ネットワークアダプタの設定を変更します。
 - d. Linux バックアップ サーバのネットワーク設定を確認し、外部仮想ネットワークスイッチを介して IP アドレスと DNS が取得されていることを確認します。
 - e. 元の Linux バックアップ サーバを UDP コンソールから削除します。
 - f. 以下の情報を使用して、Linux バックアップ サーバを UDP コンソールに再度追加します。
 - ホスト名: Linux-BackupSvr
 - ポート: 8014

Sophos によって保護されている場合にファクトリリセット イメージを置き換えるためのベスト プラクティス

Sophos を Arcserve アプライアンス上でアクティブ化して実行すると、デフォルトでは、アプライアンス イメージ設定ユーティリティを使用してファクトリリセット イメージを置き換えることはできません。それ以外の場合は、以下の図に示すように、SetImage.exe の実行は失敗します。

```
PS C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\bin\Appliance> .\SetImage.exe -applianceImage X:\appliance.wim
Start to check appliance image, this may need about 30 minutes, please wait...
Mounting the old appliance image, please wait...
Unmounting the old appliance image, please wait...
Failed to unmount the appliance image, please contact Arcserve Technical Support for assistance.
```

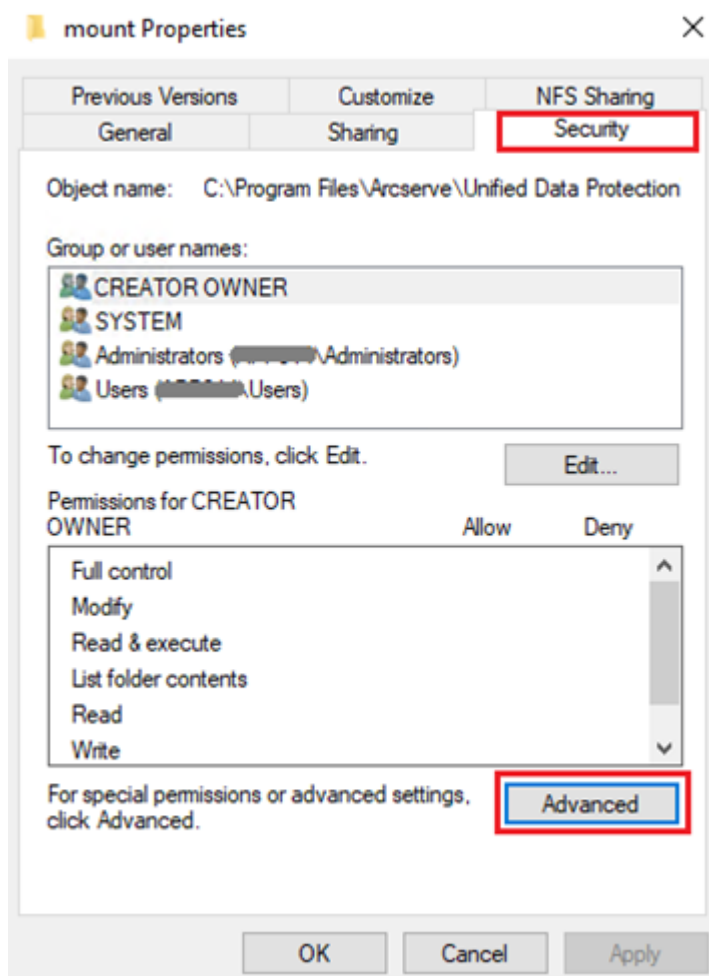
Sophos が Arcserve アプライアンス上で実行されている場合、SetImage.exe コマンドを実行してファクトリリセット イメージを置き換える前に、イメージがすでにマウントされているかどうかを確認します。

図に示すように、以下のプロンプトが表示されます：サブディレクトリまたはファイル `C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN\Appliance\mount` がすでに存在します。

```
PS C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\bin\Appliance> .\SetImage.exe -applianceImage X:\appliance.wim
Start to check appliance image, this may need about 30 minutes, please wait...
Mounting the old appliance image, please wait...
A subdirectory or file C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN\Appliance\mount already exists.
Failed to mount the old appliance image. Please run this tool again.
If mounting fails again, please contact Arcserve Technical Support for assistance.
```

イメージのマウントを解除するには、以下の手順に従います。

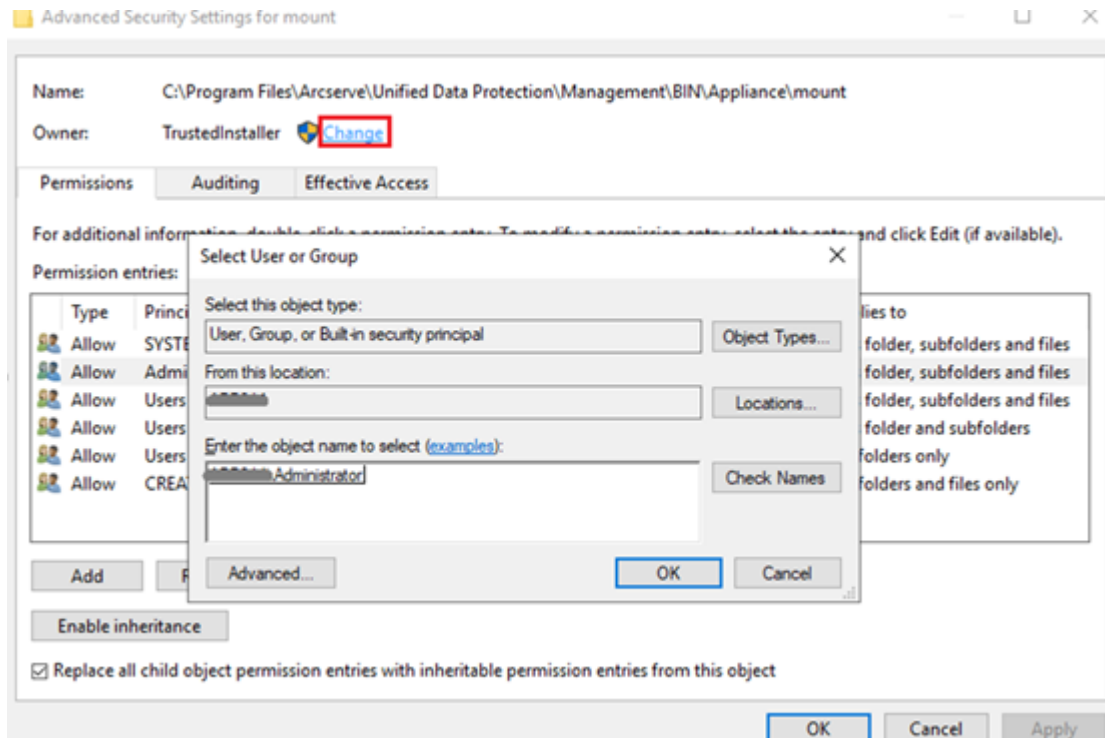
1. フォルダを見つけるには、Windows エクスプローラを開き、`C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN\Appliance\mount` に移動します。フォルダを右クリックし、[プロパティ]- [セキュリティ]タブ - [詳細設定]の順にクリックします。



2. マウント フォルダの所有者をローカル管理者に変更するには、**変更** リンクをクリックします。

フォルダ内のサブフォルダを制御し、サブフォルダの権限を親フォルダの設定に置き換えるには、**セキュリティの詳細設定** ページで以下のオプションのチェック ボックスをオンにします。

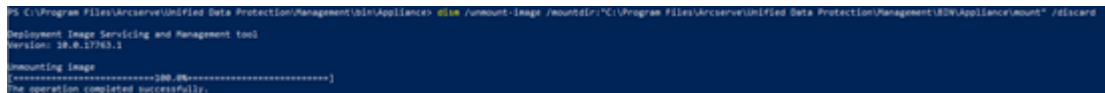
- ◆ サブコンテナとオブジェクトの所有権を置き換える
- ◆ すべての子オブジェクトの権限エントリを、このオブジェクトから継承可能な権限エントリに置き換えます。



すべての変更を適用します。マウント フォルダ、サブフォルダ、およびファイルについては、所有者がローカル管理者に変更されていることを確認します。

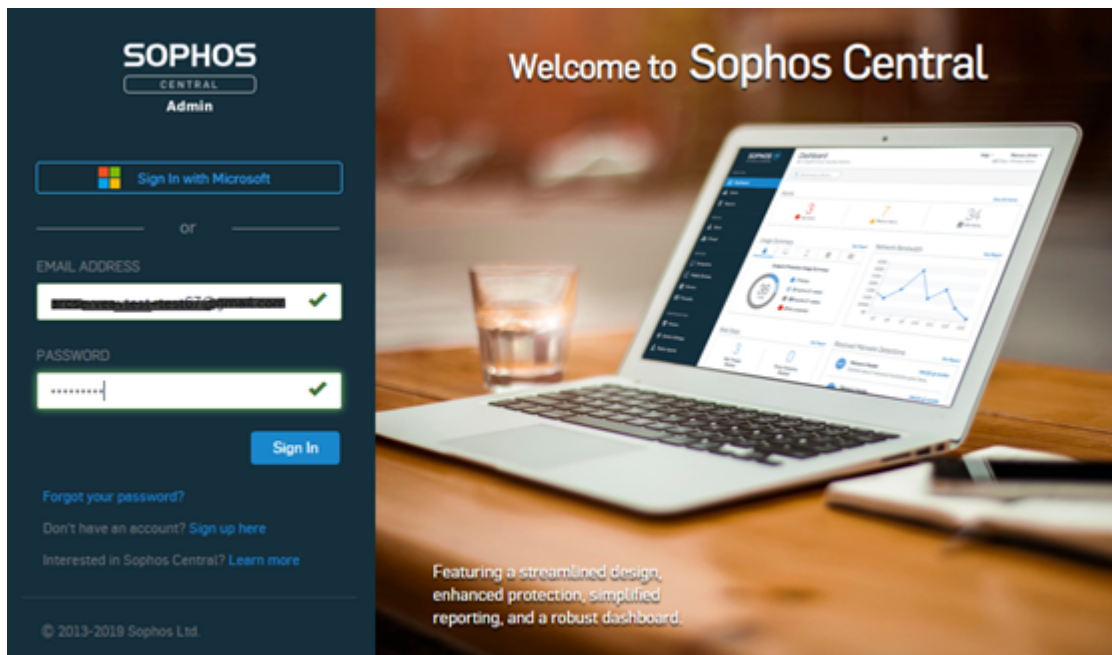
3. イメージのマウントを解除するには、コマンド プロンプトを使用して以下のコマンドを実行します。

```
C:\>DISM /unmount-image /mountdir:"C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN\Appliance\mount" /discard
```

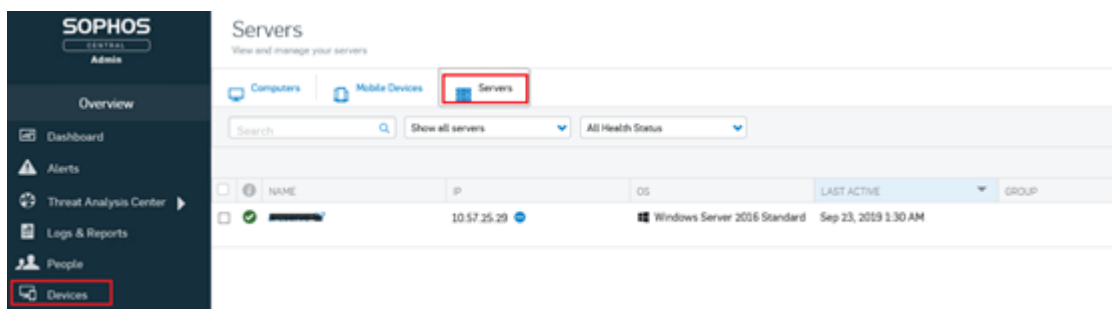


Sophos が Arcserve アプライアンス上で実行されている場合に SetImage.exe コマンドを実行してファクトリリセット イメージを置き換えるには、以下の手順に従います。

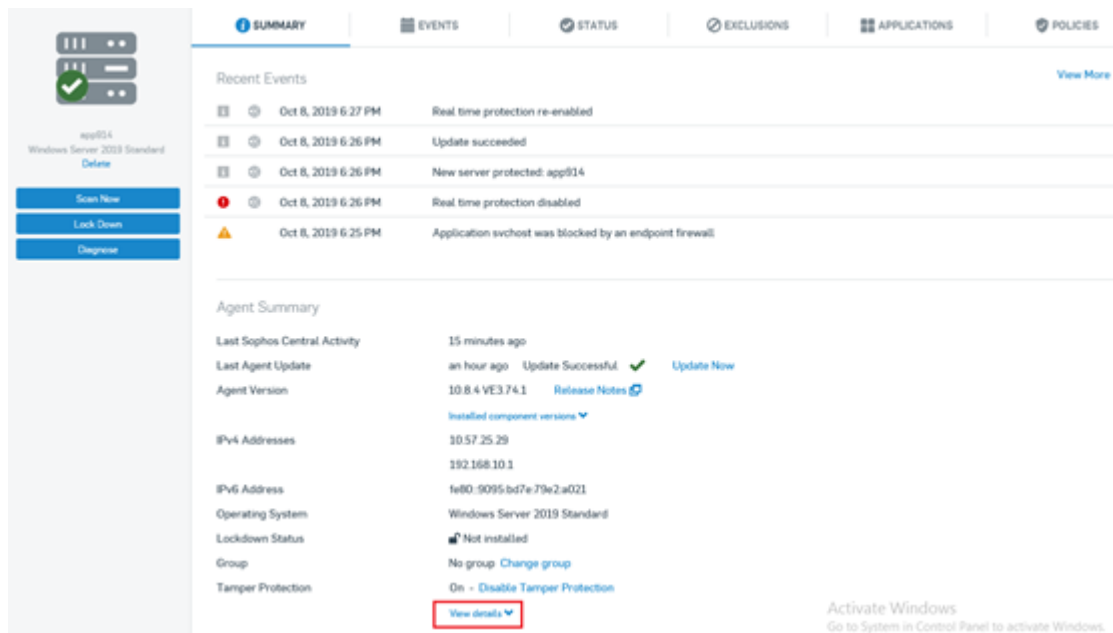
1. 管理者として Arcserve アプライアンスシステムにログインします。メールアドレスとパスワードを使用して、Sophos Central Admin ページ (<https://cloud.sophos.com/manage/>) にアクセスします。



2. [Devices]- [Servers]に移動し、Arcserve アプライアンスのサーバ名をクリックします。



3. [SUMMARY]タブの [amper Protection]フィールドで、[View details]をクリックします。



4. [Show Password] のチェック ボックスをオンにします。テキスト フィールドに表示されるパスワードをメモします。

Tamper Protection On - Disable Tamper Protection
Hide details ^

Tamper Protection Password Details

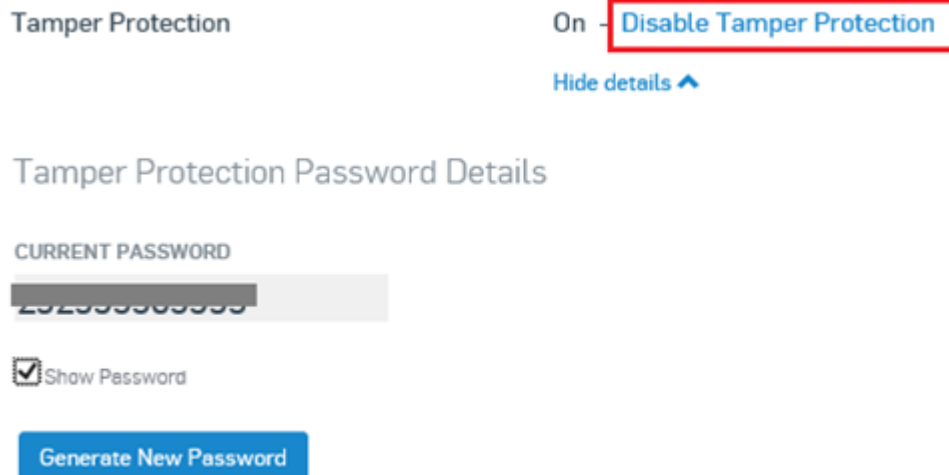
CURRENT PASSWORD

XXXXXXXXXXXX

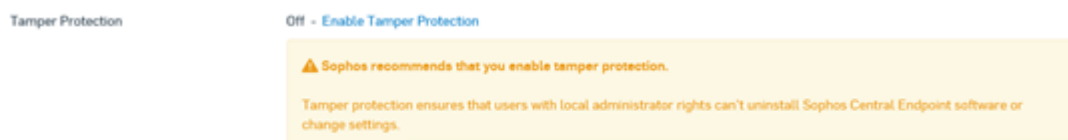
Show Password

Generate New Password

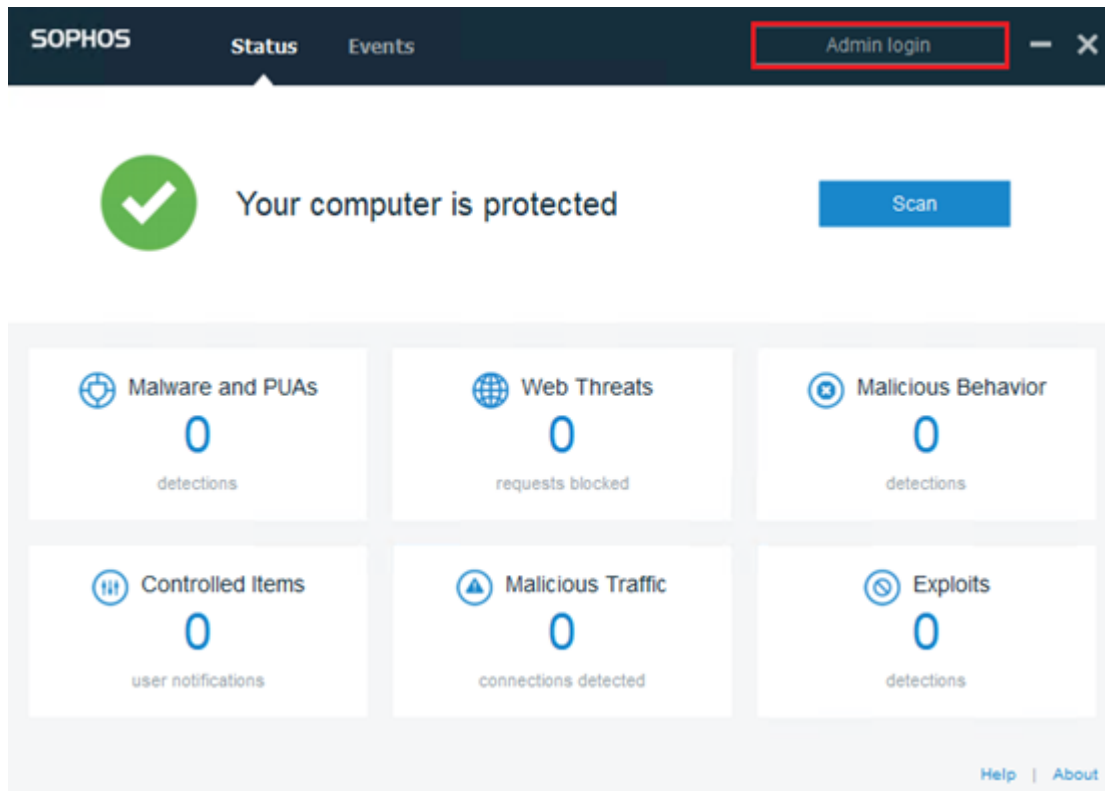
5. [Disable Tamper Protection] をクリックします。



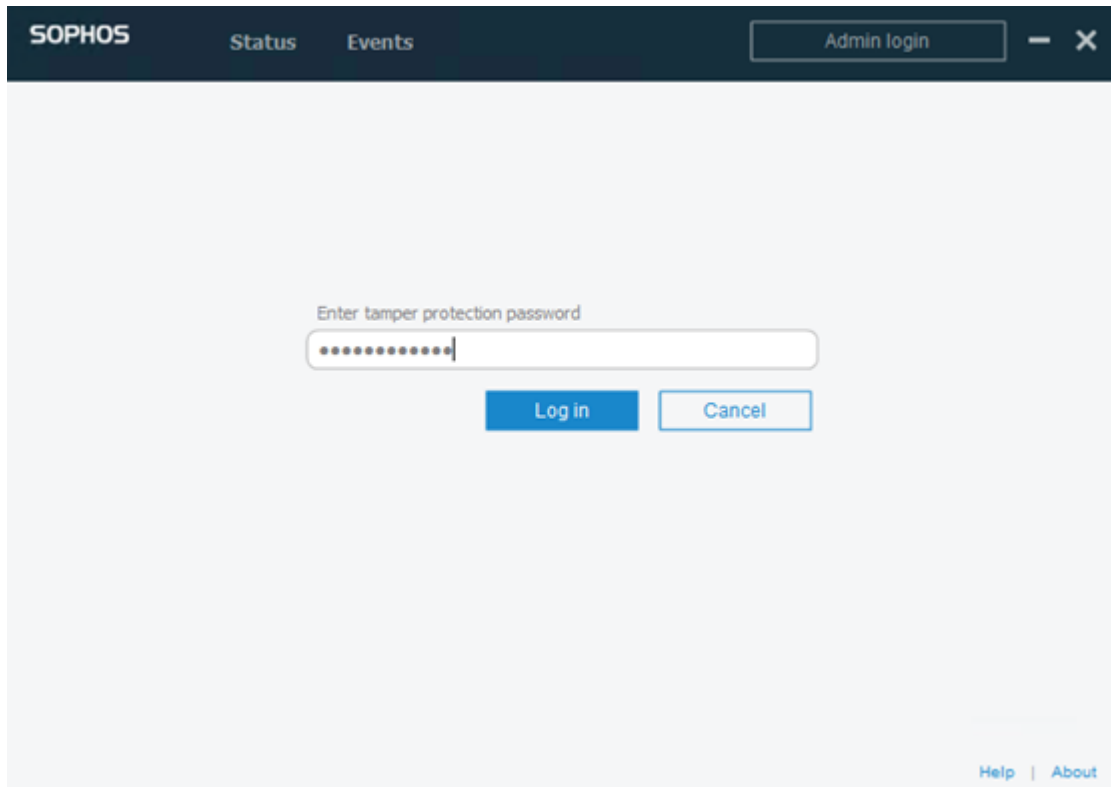
Tamper Protection がオフになります。



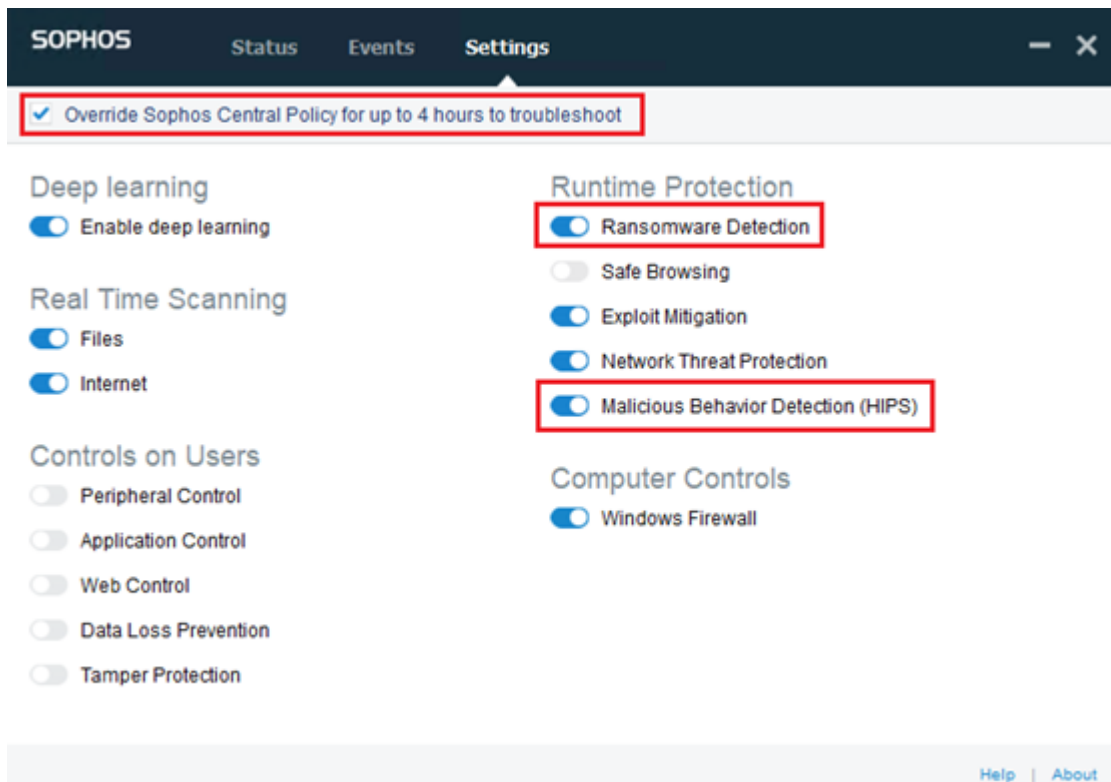
6. Sophos エンドポイントを起動し、[Admin Login]をクリックします。



7. 手順 4 でメモした Tamper Protection のパスワードを入力します。



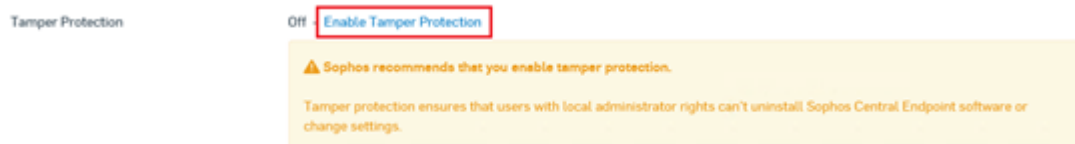
8. [Settings] タブで、[Override Sophos Central Policy for up to 4 hours to troubleshoot] チェック ボックスをオンにし、[Ransomware Detection] および [Malicious Behavior Detection (HIPS)] オプションを無効にします。



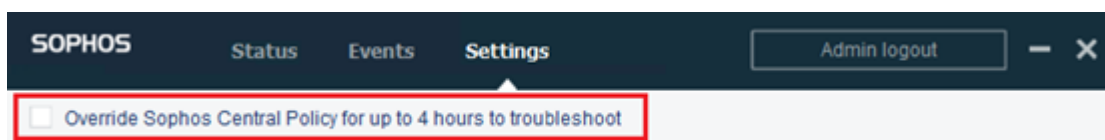
9. ファクトリリセット イメージを置き換えるには、SetImage.exe を実行します。SetImage.exe が正常に実行されます。

SetImage.exe の実行成功後に Sophos のデフォルト設定を復元するには、以下の手順に従います。

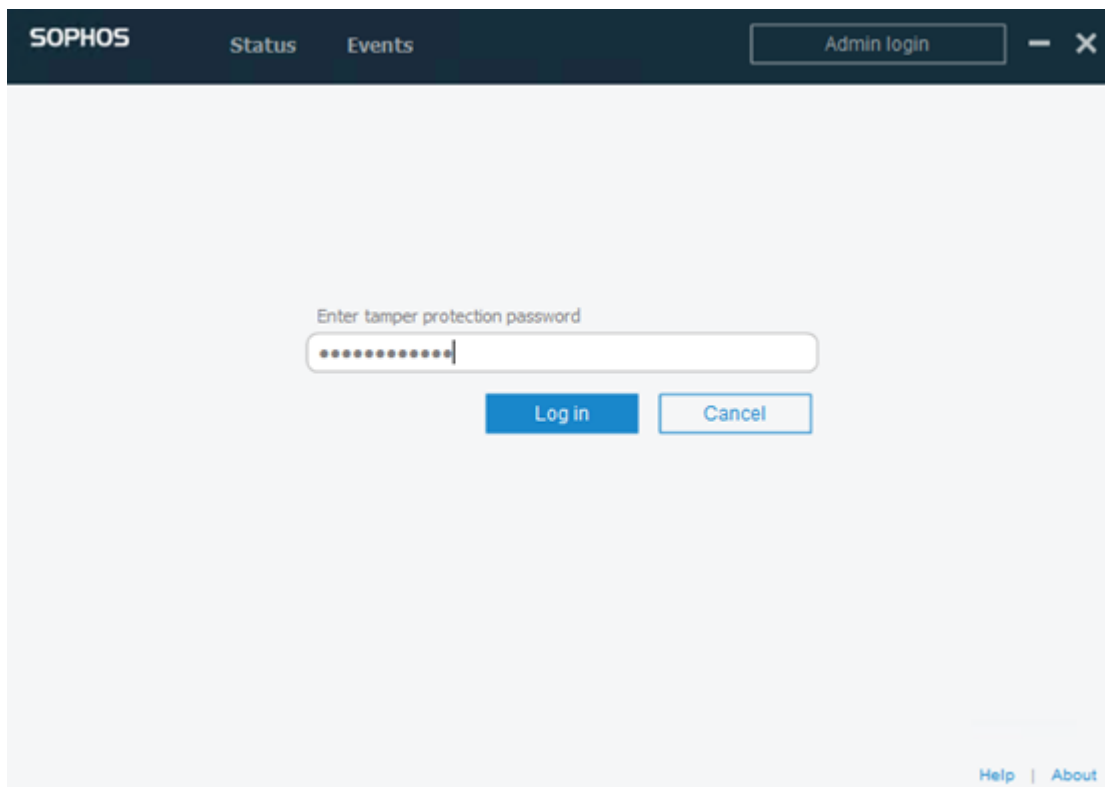
1. Sophos Central Admin で Tamper Protection を有効化するには、**[Enable Tamper Protection]**をクリックします。



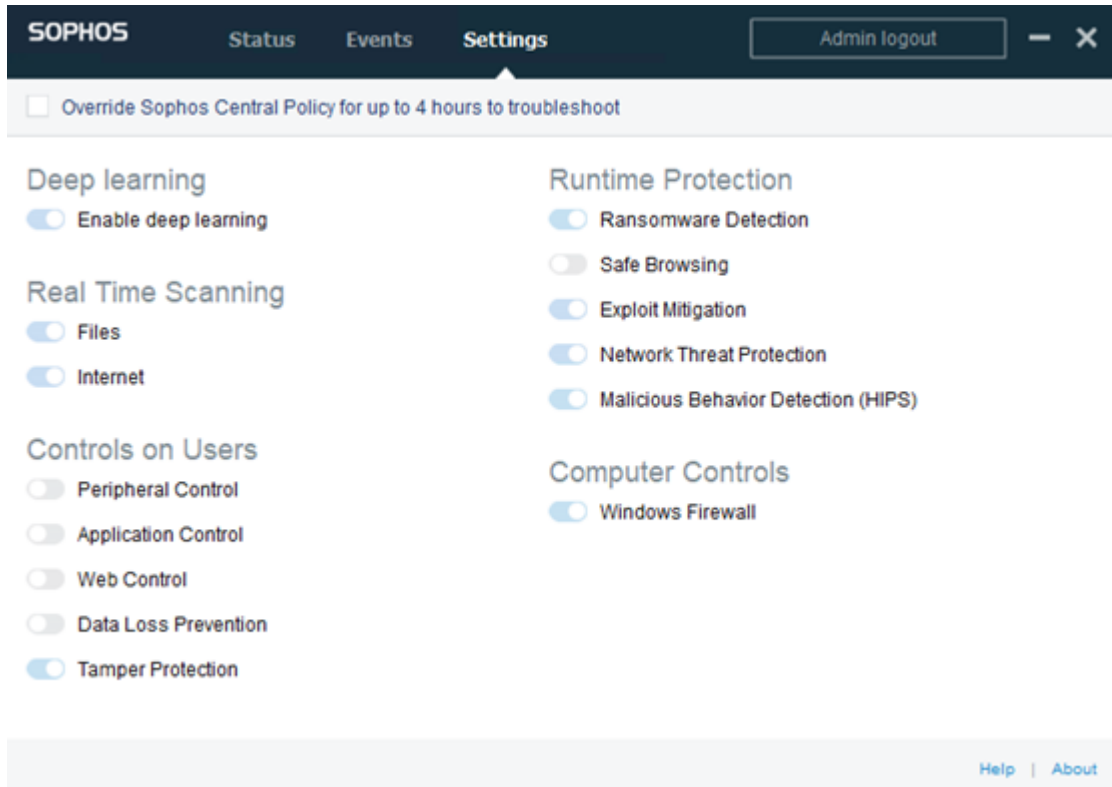
2. **[Override Sophos Central Policy for up to 4 hours to troubleshoot]** チェック ボックスをオフにします。



3. Sophos 設定 のステータスを確認するには、数分待ってから、Tamper Protection のパスワードを使用して Sophos エンドポイントにログインします。



これで、Sophos 設定 がデフォルト 設定 に復元されました。



ボリュームをまたぐデデュプリケーション データ ストアを作成するためのベスト プラクティス

コマンド ライン ツールである `as_gddmgr.exe` を使用すると、ボリュームをまたぐデータパスをさらに追加して、既存のデデュプリケーション データ ストアのストレージ容量を拡張できます。

ボリュームをまたぐデデュプリケーション データ ストアを作成するには、以下の手順を実行します。

1. Arcserve UDP コンソール ユーザ インターフェイスにログインし、拡張データパスなしでデデュプリケーション データ ストアを作成します。詳細については、「[データ ストアの追加](#)」を参照してください。
2. データ ストアを停止します。詳細については、「[データ ストアの停止](#)」を参照してください。
3. コマンド プロンプトを開き、以下のコマンドを入力して、データ ストアの現在のパス構成を表示します。

```
as_gddmgr.exe -DataPath Display <データストア名>
```

以下のサンプル データ ストアには、X:\volume 上のプライマリ データ パスが 1 つ含まれています。

```
C:\Users\Administrator>C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\bin\as_gddmgr.exe -DataPath Display appliancestest_data_store
Successfully load data store configuration information.

Volume capacity    Used space        Free space
-----
Primary data path  : X:\Arcserve\data_store\data\
                   59685 GB         2 GB             59683 GB
```

4. デデュプリケーション データストアのストレージ容量を拡張するには、以下のコマンドを入力します。

```
as_gddmgr.exe -DataPath Add <data store name> -NewDataPath <new data folder>
```

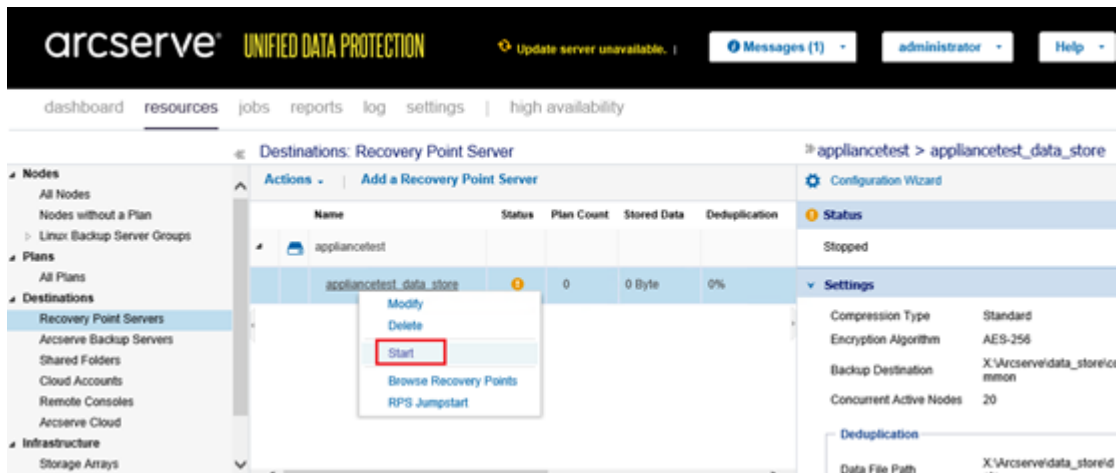
注: プライマリパスとすべての拡張パスが同じボリューム上にないことを確認してください。

以下のサンプルデータストアには、X:\volume 上の拡張データパスが1つ含まれています。

```
C:\Users\Administrator>C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\bin\as_gddmgr.exe -DataPath Add appliancestest_data_store -NewDataPath M:\Arcserve\data_store\data1
Successfully load data store configuration information.
Successfully added new expanded data path for the data store.
The data store has 1 expanded data path(s) now:

Volume capacity    Used space        Free space
-----
Primary data path  : X:\Arcserve\data_store\data\
                   59685 GB         2 GB             59683 GB
Expanded data path1: M:\Arcserve\data_store\data1
                   14678 GB         98 GB            14580 GB
Total              74363 GB         102 GB           74191 GB
```

5. 必要に応じて手順 4 を繰り返します。
6. Arcserve UDP コンソール ユーザ インターフェイスに戻り、データストアを起動します。詳細については、「[データストアの起動](#)」を参照してください。



第15章: 使用条件

この製品の一部には、サードパーティのソフトウェアプロバイダによって開発されたソフトウェアが含まれています。以下のセクションに、このサードパーティソフトウェアに関する情報を示します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[PuTTY](#)

PuTTY

この製品に含まれている「PuTTY」コンポーネントの詳細を以下に示します。

コンポーネント名	PuTTY
コンポーネントベンダ	Simon Tatham によって最初に開発されました。
コンポーネントバージョン	0.64
リーガルコメント	http://www.chiark.greenend.org.uk/~sgtatham/putty/licence.html
プロジェクト名	Appliance Rhodium
コンポーネントタイプ	オープンソース
ソースコードURL	http://the.earth.li/~sgtatham/putty/0.64/
必要なプラットフォーム	Windows 2012 R2、Windows 2016、Windows 2019
コンポーネントURL	http://the.earth.li/~sgtatham/putty/0.64/x86/
コンポーネントバージョン	http://the.earth.li/~sgtatham/putty/0.64/x86/

URL	
説明	アプライアンスマシン上で、putty.exeを使用してLinuxバックアップサーバと通信し、システムロケールとUDP Linux ロケールを変更します。
機能	アプライアンス
ライセンステキスト	<p>http://www.chiark.greenend.org.uk/~sgtatham/putty/licence.html</p> <p>PuTTYの著作権はSimon Tathamが有しています(1997-2019)。</p> <p>部分著作権 Robert de Bath、Joris van Rantwijk、Delian Delchev、Andreas Schultz、Jeroen Massar、Wez Furlong、Nicolas Barry、Justin Bradford、Ben Harris、Malcolm Smith、Ahmad Khalifa、Markus Kuhn、Colin Watson、Christopher Staite、Lorenz Diener、Christian Brabandt、Jeff Smith、Pavel Kryukov、Maxim Kuznetsov、Svyatoslav Kuzmich、Nico Williams、Viktor Dukhovni、およびCORE SDI S.A。</p> <p>このソフトウェアおよび関連する文書ファイル(以下「ソフトウェア」)を入手したすべての人は、このソフトウェアを制限なしに使用することが無償で許諾されています。これには、ソフトウェアの使用、複製、変更、結合、発行、配布、サブライセンスおよび販売についての制限なしの権利が含まれます。また、このソフトウェアを提供する相手に対してそのような行為を許可することも許諾されています。この許諾は次の条件を前提としています。</p> <p>上記の著作権に関する通知およびこの許諾通知は、ソフトウェアの複製物および実質的な部分のすべてに含めてください。</p> <p>本ソフトウェアは「現状のまま」で、明示であるか暗黙であるかを問わず、何らの保証もなく提供されます。ここでいう保証とは、商品性、特定の目的への適合性、および権利非侵害についての保証も含みますが、それに限定されるものではありません。著作権者は、契約行為、不法行為、またはそれ以外であろうと、ソフトウェアに起因または関連し、あるいはソフトウェアの使用またはその他の扱いによって生じる一切の請求、損害、その他の義務について何らの責任も負わないものとします。</p>
著作権テキスト	<p>http://www.chiark.greenend.org.uk/~sgtatham/putty/licence.html</p> <p>PuTTYの著作権はSimon Tathamが有しています(1997-2019)。</p> <p>部分著作権 Robert de Bath、Joris van Rantwijk、Delian Delchev、Andreas Schultz、Jeroen Massar、Wez Furlong、Nicolas Barry、Justin Bradford、Ben Harris、Malcolm Smith、Ahmad Khalifa、Markus Kuhn、Colin Watson、Christopher Staite、Lorenz Diener、Christian Brabandt、Jeff Smith、Pavel Kryukov、Maxim Kuznetsov、Svyatoslav Kuzmich、Nico Williams、Viktor Dukhovni、およびCORE SDI S.A。</p> <p>このソフトウェアおよび関連する文書ファイル(以下「ソフトウェア」)を入手したすべての人は、このソフトウェアを制限なしに使用することが無償で許諾されています。これには、ソフトウェアの使用、複製、変更、結合、発行、配布、サブライセンスおよび販売についての制限なしの権利が含まれます。また、このソフトウェアを提供する相手に対してそのような行為を許可することも許諾されています。この許諾は次の条件を前提としています。</p> <p>上記の著作権に関する通知およびこの許諾通知は、ソフトウェアの複製物および実質的な部分のすべてに含めてください。</p>

	<p>本ソフトウェアは「現状のまま」で、明示であるか暗黙であるかを問わず、何らの保証もなく提供されます。ここでいう保証とは、商品性、特定の目的への適合性、および権利非侵害についての保証も含みますが、それに限定されるものではありません。著作権者は、契約行為、不法行為、またはそれ以外であろうと、ソフトウェアに起因または関連し、あるいはソフトウェアの使用またはその他の扱いによって生じる一切の請求、損害、その他の義務について何らの責任も負わないものとします。</p>
使用目的	<p>アプライアンスマシン上で、putty.exeを使用してLinuxバックアップサーバと通信し、システムロケールとUDP Linux ロケールを変更します。</p>
必要な変更	<p>x</p>